

武蔵村山市子どもの未来応援プラン策定懇談会設置要綱

平成 31 年 4 月 25 日

武蔵村山市訓令（乙）第 47 号

（設置）

第 1 条 子どもの貧困対策の推進に関する法律（平成 25 年法律第 64 号）の趣旨を踏まえ、武蔵村山市における子どもの貧困対策についての計画である（仮称）武蔵村山市子どもの未来応援プラン（次条において「子どもの未来応援プラン」という。）を地域の実情及び市民の意見を反映して策定するため、武蔵村山市子どもの未来応援プラン策定懇談会（以下「懇談会」という。）を置く。

（所掌事務）

第 2 条 懇談会は、子どもの未来応援プランの素案の作成に関し必要な事項を検討審議し、その結果を市長に報告する。

（組織）

第 3 条 懇談会は、次に掲げるところにより市長が委嘱する委員 11 人をもって組織する。

- (1) 学識経験者 3 人
- (2) 教育施設関係者 2 人
- (3) 社会福祉関係者 4 人
- (4) 公募による市民 2 人

（座長及び副座長）

第 4 条 懇談会に、座長及び副座長 1 人を置き、委員の互選により選任する。

2 座長は、懇談会を代表し、会務を総理する。

3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき、又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第 5 条 懇談会の会議は、座長が招集する。

2 懇談会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

（任期）

第 6 条 委員の任期は、第 2 条の規定による報告の終了をもって満了する。

（庶務）

第 7 条 懇談会の庶務は、健康福祉部地域福祉課において処理する。

（委任）

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、座長が懇談会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成 31 年 4 月 25 日から施行する。

●武蔵村山市子どもの未来応援プラン策定懇談会委員名簿

(敬称略)

区 分	氏 名	備 考
学 識 経 験 者	木 村 容 子	日本社会事業大学
	宮 崎 ますみ	武蔵村山病院
	榎 本 昭	弁護士
教育施設関係者	押 本 純 樹	武蔵村山市立第一小学校
	榎 戸 千代子	武蔵村山市立第五中学校
社会福祉関係者	大 谷 恵美子	武蔵村山市民生・児童委員協議会
	武 内 まゆみ	武蔵村山市社会福祉協議会
	江 郷 勝 哉	社会福祉法人大橋育成会あゆみ保育園
	草 間 教 子	特定非営利活動法人子育て未来ネットこどもと
市 民 公 募	田 中 和 典	
	小 林 充 子	

●武蔵村山市子どもの未来応援プラン策定懇談会事務局

区 分	職 名	氏 名
健 康 福 祉 部 地 域 福 祉 課	健康福祉部長	佐 野 和 実
	地域福祉課長	神 山 幸 男
	地域福祉課係長	佐 藤 真 言
	地域福祉課主事	東 出 真 実

**武蔵村山市 生活実態調査
報告書**

**平成31年3月
武蔵村山市**

目次

結果の概要

調査の概要	1
1 生活困窮の状況	2
2 子どもの学び	3
3 子どもの日常生活	5
4 子どもの健康と自己肯定感	6
5 保護者の状況	7
6 制度・サービスの利用	8

第1部 調査の概要

1 調査の目的・対象者・方法等	9
(1) 調査の目的	9
(2) 調査対象者	9
(3) 調査方法	9
(4) 調査時期	9
2 有効回答数（有効回答率）	9
3 集計結果の表示方法	10
4 回答者の基本属性（性別・年齢・世帯タイプ）	11
(1) 小学5年生	11
(2) 中学2年生	12
5 「生活困難」について	13
(1) 「生活困難」について	13
(2) 本調査における「生活困難」の取り扱いについて	15
(3) 生活困難層の割合	16

第2部 生活困窮の状況

1 家計の状況	17
(1) 食品を買えなかった経験	17
(2) 衣類を買えなかった経験	18
(3) 公共料金等の滞納経験	19
(4) 物品の所有状況	26
(5) 主観的暮らし向き	28
(6) 家計の収支状況	29
2 子どもの生活水準（所有物と体験）	30
(1) 子どもの所有物の欠如	30
(2) 子どもへの支出	44
(3) 子どもとの体験（海水浴、博物館等）	52

3	子どもの食と栄養	57
	(1) 朝食の摂取状況	57
	(2) 栄養群の摂取状況	58
4	住宅の状況	64
	(1) 住宅の種類	64
	(2) 居住用の部屋数	65
	(3) 住居費	66

第3部 子どもの学び

1	学校の成績についての主観的評価	68
	(1) 成績の主観的評価	68
	(2) 得意教科	69
	(3) 学校生活の楽しみ	71
2	授業の理解度・わからなくなってきた時期	81
	(1) 授業の理解度	81
	(2) 授業がわからなくなった時期	82
4	学校外での学習の状況	84
	(1) 勉強がわからない時に教えてもらう人	84
	(2) 家庭用学習教材	86
	(3) 通塾（又は家庭教師）状況	88
	(2) 学校の授業以外での勉強時間	89
5	学習環境の欠如の状況	90
6	補習教室への参加状況・参加しない理由	94
	(1) 補習教室の参加状況	94
	(2) 水泳プログラムの参加状況	97
7	学習関連の支援プログラムの利用意向	100
	(1) 勉強ができる場所の利用意向	100
	(2) 学校外での無料の学習支援	101

第4部 子どもの生活・友人関係

1	放課後・休日の過ごし方	102
	(1) 平日の放課後の過ごし方	102
	(2) 休日の過ごし方	113
	(3) 一番ほっとできる居場所	115
	(4) 中学生のクラブ活動	117
	(5) 放課後子ども教室	118
	(6) 家事分担・家族の世話	119
	(7) 運動	121
	(8) 読書	122
2	夕方以降の留守番と母親の就労時間	123

(1) 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験	123
(2) 父母の平日日中以外の就労	124
3 友人関係・孤立	128
(1) 友人との会話頻度	128
(2) 親との会話頻度	129
(3) 孤立感	130
4 いじめ・不登校の悩み	133
(1) いじめられた経験	133
(2) 学校に行きたくないと思った経験	134
(3) 学校を休んだ経験	135
5 居場所支援・相談事業の利用意向	136
(1) (家以外で) 平日の放課後から夜にかけての居場所	136
(2) 休日の居場所	137
(3) 夕ごはんをみんなで食べることができる場所	138
(4) (学校以外で) なんでも相談できる場所	139

第5部 子どもの健康と自己肯定感

1 健康	140
(1) 健康状態	140
(2) 医療の受診抑制	143
(3) 予防接種の未接種状況	145
2 自己肯定感	151
(1) 自己肯定感	151

第6部 保護者の状況

1 保護者の就労の状況	159
(1) 父母の就労状況	159
(2) 共働きの状況	163
2 保護者の健康状態と精神的ストレス	165
(1) 保護者の健康状態	165
(2) 保護者の抑うつ傾向	166
3 親子の時間	167
(1) 親子での過ごし方	167
(2) 将来についての会話	176
4 相談相手	177

第7部 制度・サービスの利用

1 子ども本人の支援サービス利用意向	178
(1) 子ども本人のサービス利用意向	178
2 情報の受け取り方法	184

(1) 情報の受け取り方法	184
3 支援サービスの利用状況・認知状況・利用意向	188
(1) 支援サービスの利用状況	188
(3) 保護者の支援サービス利用意向	196
4 相談窓口の利用状況・認知状況	198
(1) 相談窓口の利用状況	198

第8部 主な意見

1 小学5年生の保護者	206
2 中学2年生の保護者	208
3 小学5年生	209
4 中学2年生	210

第9部 ヒアリング調査結果

1 調査の目的	211
2 対象団体	211
3 ヒアリング結果	212
(1) むさしむらやま子ども劇場	212
(2) いつひよファミリー・育はぐ（はぐはぐ）	213
(3) 子育て未来ネットこどもと	215
(4) クローバー	216
(5) 学校サポートセンター	219

結果の概要

調査の概要

- (1) 調査対象 市内在住で公立学校に通う小学5年生及び中学2年生の子ども本人とその保護者
- (2) 調査対象数 1,489 世帯
- (3) 調査方法 学校を通じ配付・回収
- (4) 有効回答数 子ども 1,192 票（有効回答率 80.1%）
保護者 1,185 票（有効回答率 79.6%）
- (5) 調査期間 平成 30 年 10 月 2 日から 10 月 15 日まで

【本調査における「生活状態」の取り扱いについて】

本調査では、子どもの貧困状態を世帯の所得額だけでなく家庭環境全体で把握すべきであると考え、次の3つの要素に基づいて以下のように分類した。

① 低所得

等価世帯所得^{※1}が、厚生労働省「平成 29 年国民生活基礎調査」から算出される基準^{※2}未満の世帯^{※3}

※1 世帯所得（公的年金など社会保障給付を含めた世帯所得）を世帯人数の平方根で割って調整した所得

※2 厚生労働省「平成 29 年国民生活基礎調査」（所得は平成 28 年値）の世帯所得の中央値（442 万円）を、平均世帯人数（2.47 人）の平方根で除した値の 50%である 140.6 万円

※3 低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」で公表されている「子どもの貧困率」（13.9%）と比較できるものではない。

② 家計の逼迫

経済的な理由で、公共料金や家賃の滞納、食料・衣類を買えなかった経験など7項目のうち、1つ以上該当

③ 子どもの体験や所有物の欠如

子どもの体験や所有物などの 15 項目のうち、経済的な理由で欠如している項目が3つ以上該当

生活困難層	困窮層 + 周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

(※詳細は P9 参照)

1 生活困窮の状況

(1) 家計の状況

金銭的な理由で、食料や衣類の購入、公共料金の支払いができなかった割合は、困窮層で高い

① 過去1年の食料や衣類の購入、公共料金の支払い状況

小学5年生、中学2年生の約15%の世帯で、過去1年間に金銭的な理由で食料が買えなかった経験があり、約2割で衣類が買えなかった経験がある。また、約3～5%の世帯において公共料金（電話、電気、ガス、水道）の滞納経験がある。これらの経験の割合は困窮層で特に高く、食料では約7～8割、衣類では約8割、公共料金では約25～45%である。

(2) 子どもの生活水準（所有物と体験）

子どもの所有物や海水浴・スポーツ観戦などの体験の有無は、生活困難度により差がある

① 所有物の状況

小学5年生、中学2年生が「欲しいが、持っていない」とした物品は、「携帯音楽プレーヤー」「携帯電話、スマートフォン」「子ども部屋」、「(自宅で)インターネットにつながるパソコン」が上位であった。

② 子どもへの支出

保護者が「経済的にできない」子どものための支出は「習いごと」、「学習塾(または家庭教師)」、「1年に1回くらいの家族旅行」であり、約1～2割の世帯がこれに該当する。

特に、「習いごと」、「1年に1回くらいの家族旅行」では年齢の高い子どもをもつ保護者ほど、支出できないとする割合が高い。

③ 子どもの体験

小学5年生と中学2年生の保護者に、過去1年間において、海水浴、博物館、キャンプ、スポーツ観戦、遊園地などといったさまざまな体験や施設に子どもと行くことがあったかを聞いたところ、「金銭的な理由」で体験が「ない」としたのは、小学5年生では約3～6%、中学2年生では約4～7%である。「時間的な制約」で体験が「ない」としたのは、小学5年生では約6～12%、中学2年生では約11～19%である。困窮層では小学5年生保護者の約31～44%、中学2年生保護者の約23～33%が「金銭的な理由」によってこれらの体験を子どもにさせることができないとしている。

(3) 子どもの食と栄養

食事の回数や栄養群の摂取状況は、生活困難度により差がある

① 朝食の摂取状況

中学2年生の1.5%が朝食を「いつも食べない」、6.1%が「食べないほうが多い(週1、2日)」。困窮層で「いつも食べない」は小学5年生が3.5%、中学2年生が4.3%、「食べないほうが多い(週1、2日)」は小学5年生で15.6%、中学2年生で14.9%である。

② 栄養群の摂取状況

小学5年生、中学2年生とも6割以上が給食以外に野菜を毎日食べるが、「1週間に2~3日」以下の子どもも約15~16%存在する。中学2年生の困窮層では、約3割が「1週間に2~3日」以下である。「肉か魚」についても同様に「1週間に2~3日」以下の子どもが存在する。「くだもの」については、給食以外にまったく「食べない」子どもが小学5年生で6.2%、中学2年生では6.1%である。

(4) 住宅の状況

居室の数は約8割が「4室以上」である

① 居住用の室数

住居の部屋数では「4室以上」(玄関・風呂等を含まない)が約8割であるが、約2%は「2室以下」である。

2 子どもの学び

(1) 授業の理解度

授業がわからないと感じる子どもは、一般層に比べ周辺層に多い

① 授業の理解度

小学5年生の72.6%が学校の授業を「いつもわかる」「だいたいわかる」と答えているものの、22.7%は「あまりわからない」「わからないときの方が多い」「ほとんどわからない」と回答している。中学2年生ではこの割合が39.4%である。周辺層で割合は高くなり、小学5年生では約4割、中学2年生では約6割となっている。

また、小学5年生の授業がわからない子どもの50.9%が、小学3年生までにわからなくなったと回答し、中学2年生の授業がわからない子どもの48.1%が、中学1年生のころにわからなくなったと回答している。

(2) 学校外での学習状況

学習塾に通っている（または家庭教師に来てもらっている）子どもは、一般層に比べ困窮層で少ない

① 通塾状況

学習塾に通っている（または家庭教師に来てもらっている）子どもは小学5年生で28.2%、中学2年生で45.6%いる。この割合は困窮層ほど低くなり、困窮層の小学5年生で12.5%、中学2年生で29.7%となる

(3) 学習環境

中学2年生の自宅で勉強場所がない子どもは、一般層に比べ困窮層に多い

① 学習環境の欠如の状況

「インターネットにつながるパソコン」がない子どもは、小学5年生で48.7%、中学2年生で40.4%、「自分だけの本」は小学5年生で30.1%、中学2年生で22.5%である。困窮層で「インターネットにつながるパソコン」がない子どもは、小学5年生で68.8%、中学2年51.1%、小学5年生では「自分専用の勉強机」がない子どもが約5割いる。

小学5年生、中学2年生の約6%が「自宅で宿題(勉強)をすることができる場所」が「ない/ほしい」としている。困窮層では、この割合は小学5年生で6.3%、中学2年生で14.9%である。小学5年生の約2~3割、中学2年生の約4割が「家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」を「使ってみたい」としている。

(4) 補習教室への参加状況

公立小中学校で行われる補習教室への参加率は、一般層に比べ小学5年生の困窮層が高い

① 補習教室への参加状況・参加しない理由

公立小中学校で行われる補習教室については、小学5年生、中学2年生の約2~3割が「いつも」又は「時々」参加している。小学5年生の困窮層の子どもは、一般層に比べ参加率が高い。

補習教室に参加しない理由は、小学5年生で「学校でやっていないから」が最も多く、中学2年生では「興味がないから」が最も多い。

3 子どもの日常生活

(1) 放課後の過ごし方

中学2年生の約6割がクラブ活動に参加している。生活困難度による差はない

① 放課後の過ごし方

平日の放課後に過ごす場所について、過ごす頻度が「週に3～4日」以上の割合をみると、小学5年生では「自分の家」が最も多く68.9%、次いで「公園」が21.0%、「塾や習い事」が17.2%である。中学2年生では「学校（部活など）」が最も多く61.8%、次いで「自分の家」が51.4%、「スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）」が9.6%である。

(2) 友人関係

放課後一人で過ごすことが多い子どもは、小学5年生、中学2年生で約1割

① 友人関係と孤立

小学5年生では9.5%、中学2年生で12.0%は、平日の放課後に「一人で過ごす」ことが多い。

② いじめ

いじめられたことが「よくあった」「時々あった」と回答した小学5年生は困窮層で多く31.3%であった。

(3) 居場所事業等の利用意向について

居場所事業への利用意向は、年齢層が高いほど関心が高く、一般層に比べ困窮層で高い

① 居場所事業の利用意向

居場所事業については、中学2年生の約3割が、「(家以外で) 平日の放課後に夜まで安心して過ごすことができる場所」「(家以外で) 休日にいることができる場所」を「使ってみたい」としている。生活困難度別には、潜在ニーズはどの層においても高くなっているが、中学2年生の困窮層は一般層と比べて「使ったみたい」「興味がある」とする子どもの割合がより高く、居場所事業が年齢層が高い困窮層のニーズに対応していることがうかがえる。

夜遅くまで子どもだけで過ごした経験のある小学5年生は約8%である。就労している小学5年生の母親の6.5%が早朝（5～8時）、6.0%が夜勤（20～22時）、39.5%が土曜出勤、27.0%が日曜・祝日出勤の仕事がある。小学5年生の約4割、中学2年生の約6割が「(家以外で) 平日の放課後に夜まで安心して過ごすことができる場所」を「使ったみたい」「興味がある」としている。

②「夕ごはんをみんなで食べることができる場所」の利用意向

小学5年生、中学2年生とも約4～6割の子どもが「家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」について「使ったみたい」「興味がある」としている。この割合は周辺層で高い。

4 子どもの健康と自己肯定感

(1) 健康・医療

自分の健康状態が良くないと感じている子どもや、医療機関の受診抑制を経験したことがある子どもは、困窮層ほど多い

① 子どもの健康状態

子どもの主観的健康状態及び保護者からみた子どもの健康状態は、困窮層ほど「よい」「まあよい」の割合は低い。むし歯が「4本以上」ある子どもは小学5年生の困窮層で6.3%、中学2年生の周辺層で8.9%となっている。

② 医療機関の受診抑制

小学5年生、中学2年生とも約1～2割の保護者が過去1年間に、子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがある」としている。この割合は困窮層ほど高くなっている。

受診抑制の理由は、いずれの層も「様子改善」や「多忙」が多くなっているが、中学2年生の周辺層10.0%が「自己負担金を支払うことができないと思ったため」としている。

小学5年生、中学2年生の任意接種であるインフルエンザ、おたふくかぜ、水ぼうそうの未接種率は4～7割となっている。未接種率は、困窮層、一般層で高い。

(2) 自己肯定感

一般層に比べ困窮層の子どもは、孤独を感じる割合が高い

① 自己肯定感

自己肯定感について8項目を聞いたところ、小学5年生、中学2年生とも「不安に感じることはないと思う」「孤独を感じることはない」について、困窮層では一般層より否定的な回答（「(そう) 思わない」）を選択する割合が高くなっている。

また、「自分のことが好きだ」について、小学5年生の困窮層の40.6%が「(そう) 思わない」としている。

5 保護者の状況

(1) 保護者の就労状況

小学5年生では、一般層に比べ困窮層の保護者に正規職員の割合が少ない

① 父親の就労状態

父親の就労状況は正規社員が最も多く、約7～8割となっている。この割合は小学5年生と中学2年生の困窮層ほど低くなり、困窮層の小学5年生の父親では61.1%、中学2年生の父親では67.9%となっている。

② 母親の就労状況

母親の就労状況は非正規社員が最も多く、約6～7割となっている。生活困難度別に母親の正規社員の割合をみると、小学5年生では、困窮層が12.9%、一般層が18.8%、中学2年生では、周辺層が13.0%、一般層が20.7%と6ポイントほど差が出ている。

③ 共働きの状況

共働きの状況は、「一人が正規、一人が非正規・自営・自由業」の割合が最も高く、小学5年生、中学2年生ともふたり親世帯の約5割となっている。また、ふたり親世帯でも正規社員の保護者がいない世帯が小学5年生で18.1%、中学2年生で21.2%となっている。

(2) 保護者の健康状態と精神的ストレス

一般層に比べ困窮層の保護者は、主観的健康状態が悪く、抑うつ傾向にある割合が高い

①保護者の健康状態

小学5年生、中学2年生の約9割の保護者は、自分の健康状態について「よい」「まあよい」「ふつう」と答えている。この割合は困窮層ほど低くなり、小学5年生で81.3%、中学2年生で73.0%となっている。

②保護者の抑うつ傾向

「気分・不安障害相当」(K6スケールにて10点以上)と見られる保護者は、小学5年生、中学2年生とも約1割となっている。この割合は困窮層ほど高くなり、困窮層の小学5年生の保護者は約3割、中学2年生の保護者は約4割となる。

(3) 相談相手

保護者の約1割は、困ったときに相談する相手がおらず、この割合は中学2年生の困窮層で高い

①保護者の相談相手

小学5年生の保護者の6.7%、中学2年生の保護者の7.1%が困ったときに相談する相手について「いない」と回答しており、この割合は中学2年生の困窮層で22.9%と高くなっている。

6 制度・サービスの利用

(1) 子ども本人の支援サービス利用意向

子どもの利用意向が最も高い支援サービスは、「家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」

① 支援サービスへの子どもの利用意向

子どもが利用意向のある支援サービスは、「家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」について、「使ってみたい」「興味がある」の割合が高く、約 5～6 割となっている。また小学 5 年生に比べ中学 2 年生の子どもの方が、各種支援サービスの利用意向が高い傾向にある。

学校外の学習支援の潜在ニーズについて、「大学生のボランティアなどが、勉強を無料でみてくれる場所」では、子どもの約 4～5 割が「使ってみたい」「興味がある」と回答している。また、保護者の約 3～4 割が「学校以外が実施する学習支援」に対して「興味がある」と回答している。

(2) 情報の受け取り方法

子どもに関する施策の情報の受け取り方法は、「学校からのお便り」が最も多く、困窮層ほど行政機関からの情報取得方法が利用されていない

① 施策情報の受け取り方法

子どもに関する施策の情報の受け取り方法については、「学校からのお便り（紙のもの）」が最も多く、約 7～9 割となっている。また、行政経由の情報取得方法である「行政機関の広報誌」「行政機関のホームページ」について、一般層よりも困窮層の利用率が低い。

(3) 支援サービス利用状況・認知状況・利用意向

保護者の利用関心が最も高い支援サービスは、「学校が実施する補講」

① 支援サービスの利用状況・認知状況

小学 5 年生と中学 2 年生では「子育て短期支援事業（ショートステイ）」「子ども食堂（子どもカフェ）」「フードバンクによる食料支援」について、知らないため利用されていない割合（非認知による不利用率）が高く、約 3 割となっている。また、困窮層は一般層に比べ、各支援サービスについて非認知による不利用率が高い傾向にある。

② 支援サービスへの保護者の利用意向

保護者が利用意向のある支援サービスは、小学 5 年生、中学 2 年生とも「学校が実施する補講」が最も高く、次いで「学校以外が実施する学習支援」、「居場所事業（小学高学年も利用できる児童館や児童クラブ、中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所など）」と続いている。

第1部 調査の概要

1 調査の目的・対象者・方法等

(1) 調査の目的

本調査は、子どもの生活状況や子どもとの関わり、家庭の状況などをうかがい、本市の子どもを取り巻く現状や取り組むべき課題を把握し、今後の計画策定の基礎資料とするため、実施したものである。

(2) 調査対象者

市内在住で公立学校に通う小学5年生及び中学2年生の子ども本人とその保護者。

	子ども票	保護者票
小学5年生	800票	800票
中学2年生	689票	689票

(3) 調査方法

調査票は「小学生票」、「中学生票」（以下「子ども票」という。）と「小学生保護者票」、「中学生保護者票」（以下「保護者票」という。）で構成され、学校を通じて配付、子どもと保護者がそれぞれ無記名で記入の上、子ども票用、保護者票用の個別封筒に入れ封をしたのち、世帯用の封筒に入れる。世帯用の封筒は学校を通じて回収した。

(4) 調査時期

平成30年10月2日～10月15日

2 有効回答数（有効回答率）

		子ども票	保護者票	うち親子マッチングできた票数
小学5年生	有効回答数	650票	646票	639票
	回答率	81.3%	80.8%	80.0%
中学2年生	有効回答数	542票	539票	536票
	回答率	78.7%	78.2%	77.8%

3 集計結果の表示方法

- 本報告書では、子ども票、保護者票の設問をテーマごとに分類し、集計結果を掲載している。
- 生活困難度を判定するための設問で無回答のため、判定不能としたものがある。そのため、困窮層、周辺層、一般層の合計は全体数と同数ではない。
- 生活困難度判定の方法は、東京都が実施した手法に準拠しているが、各要素の判定基準については公表されていないため、類似の基準で判定している。
- 世帯タイプは保護者票の子どもと父親、母親それぞれの同居状況から判別している。そのため、各制度や公的統計の定義とは必ずしも一致しない。
- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 百分率による集計では、回答者数（該当設問においては該当者数）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記する。このため、すべての割合の合計が100%にならないことがある。
- 複数回答（2つ以上選ぶ問）の設問では、すべての割合の合計が100%を超えることがある。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果又は、回答者が皆無であることを表す。
- 設問文を一部省略して表記している場合がある。
- 小学生票・中学生票で表現が異なる子どもの設問文は、並記又は中学生票の表記を採用している。
- グラフ及び文章中で選択肢を一部省略している場合がある。
- クロス集計グラフでは、見やすさを優先し「0.0」の数値表示を省略しているものがある。
- 保護者票のクロス集計グラフでは、グラフ横軸の幅を確保する理由から「小学5年生保護者」を「小5保護者」、「中学2年生保護者」を「中2保護者」と略して表記している。

4 回答者の基本属性（性別・年齢・世帯タイプ）

（１）小学5年生

小学5年生の回答者属性は以下のとおりである。子どもの性別は「男子」が45.8%、「女子」が50.3%となっている。回答した保護者は「母親」が87.6%、「父親」が9.9%、平均年齢は41.6歳となっている。世帯タイプは「ふたり親（二世帯）」が77.1%、「ふたり親（三世帯）」が8.5%、「ひとり親（二世帯）」が10.5%、「ひとり親（三世帯）」が2.3%となっている。「日本国籍」を持つ母親は96.7%、父親は94.4%、「日本以外」の国籍を持つ母親は3.1%、父親は2.0%となっている。

①子どもの性別

男子	女子	答えたくない	無回答	合計
298	327	4	21	650
45.8%	50.3%	0.6%	3.2%	100%

②保護者(回答者)と子どもの続柄

父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	その他	施設職員	無回答	合計
64	566	1	1	0	0	1	13	646
9.9%	87.6%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	2.0%	100%

③保護者(回答者)の年齢

39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	合計
202	385	34	3	22	646
31.3%	59.6%	5.3%	0.5%	3.4%	100%
平均値	最小値	最大値			
41.6	30	68			

④世帯タイプ

ふたり親		ひとり親		親がいない世帯	施設	無回答	合計
二世帯	三世帯	二世帯	三世帯				
498	55	68	15	1	1	8	646
77.1%	8.5%	10.5%	2.3%	0.2%	0.2%	1.2%	100%

⑤両親の国籍

	日本	日本以外	無回答	合計
父親	610	13	23	646
	94.4%	2.0%	3.6%	100%
母親	625	20	1	646
	96.7%	3.1%	0.2%	100%

(2) 中学2年生

中学2年生の回答者属性は以下のとおりである。子どもの性別は「男子」が45.8%、「女子」が47.0%となっている。回答した保護者は「母親」が87.8%、「父親」が10.2%、平均年齢は43.3歳となっている。世帯タイプは「ふたり親（二世帯）」が71.8%、「ふたり親（三世帯）」が7.8%、「ひとり親（二世帯）」が15.4%、「ひとり親（三世帯）」が3.9%となっている。「日本国籍」を持つ母親は94.8%、父親は95.0%、「日本以外」の国籍を持つ母親は3.3%、父親は2.0%となっている。

①子どもの性別

男子	女子	答えたくない	無回答	合計
248	255	21	18	542
45.8%	47.0%	3.9%	3.3%	100%

②保護者(回答者)と子どもの続柄

父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	その他	施設職員	無回答	合計
55	473	0	1	1	0	0	9	539
10.2%	87.8%	0.0%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	1.7%	100%

③保護者(回答者)の年齢

39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	合計
104	355	50	2	28	539
19.3%	65.9%	9.3%	0.4%	5.2%	100%
平均値	最小値	最大値			
43.3	15	71			

④世帯タイプ

ふたり親		ひとり親		親がいない世帯	施設	無回答	合計
二世帯	三世帯	二世帯	三世帯				
387	42	83	21	1	0	5	539
71.8%	7.8%	15.4%	3.9%	0.2%	0.0%	0.9%	100%

⑤両親の国籍

	日本	日本以外	無回答	合計
父親	512	11	16	539
	95.0%	2.0%	3.0%	100%
母親	511	18	10	539
	94.8%	3.3%	1.9%	100%

5 「生活困難」について

(1) 「生活困難」について

本報告では、子どもの生活における「生活困難」を、3つの要素から分類する。

- ① 低所得
- ② 家計の逼迫（ひっぱく）
- ③ 子どもの体験や所有物の欠如

「① 低所得」は、先進諸国の貧困の測定に最も一般的に用いられ、厚生労働省も用いている指標だが、本調査は自記式の質問紙調査であるため、把握できる世帯所得の精緻度が限られている。そこで、所得データを補完するために「② 家計の逼迫（ひっぱく）」と「③ 子どもの体験や所有物の欠如」に用いられている物質的はく奪指標を用いている。

物質的はく奪指標は、所得データによる貧困率と一緒に用いることで、貧困の測定の精緻化が可能であることが欧州連合などを始め国内外の研究より判明している。以下にそれぞれの詳細な定義を示す。

① 低所得

「低所得」は、世帯所得（勤労収入、事業収入等＋社会保障給付）を、世帯人数の平方根で割り算した値（＝等価世帯所得）が、厚生労働省「平成29年国民生活基礎調査」から算出される基準¹未満の世帯と定義する。なお、低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」にて公表されている「子どもの貧困率」（13.9%）と比較はできない。

② 家計の逼迫（ひっぱく）

「家計の逼迫（ひっぱく）」は、経済的な制約を子どもに課し、生活水準を低下させるだけでなく、親の心理的なゆとりや、心身的健康状態の悪化を通して子どもに悪影響をもたらす可能性があると言われている。そこで、家計の逼迫を、家計の中で大きな比重を占め、これらの欠乏により、基本的な生活水準を保つことが難しいと考えられる公共料金や食料・衣類の費用が捻出できない状況と定義する。具体的には、保護者票において過去1年間に、経済的な理由で電話、電気、ガス、水道、家賃などの料金の滞納があったか、また、過去1年間に「家族が必要とする食料が買えなかった経験」、「家族が必要とする衣類が買えなかった経験」があったかの7つの項目のうち1つ以上が該当する場合は「家計の逼迫（ひっぱく）」があると定義する。

¹ 基準：厚生労働省「平成29年国民生活基礎調査」（所得は平成28年値）の世帯所得の中央値（442万円）を、平均世帯人数（2.47人）の平方根で除した値の50%である140.6万円。

③ 子どもの体験や所有物の欠如

前記①と②は、世帯全体の生活困難を表すが、子ども自身の生活困難を表す指標として、「子どもの体験や所有物の欠如」を用いる。ここで用いられる子どもの体験や所有物とは、日本社会において、大多数の子どもが一般的に享受していると考えられる経験や物品である。

具体的には、保護者票において、過去1年間、「海水浴に行く」、「博物館・科学館・美術館などに行く」、「キャンプやバーベキューに行く」、「スポーツ観戦や劇場に行く」、「遊園地やテーマパークに行く」ことが「経済的にできない」、「毎月お小遣いを渡す」、「毎年新しい洋服・靴を買う」、「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」、「お誕生日のお祝いをする」、「1年に1回くらい家族旅行に行く」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」ことが「経済的にできない」、又は「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」が「経済的理由のために世帯にない」（全15項目）である。

これらの項目のうち3つ以上が該当している場合に、「子どもの体験や所有物の欠如」の状態にあると定義する。

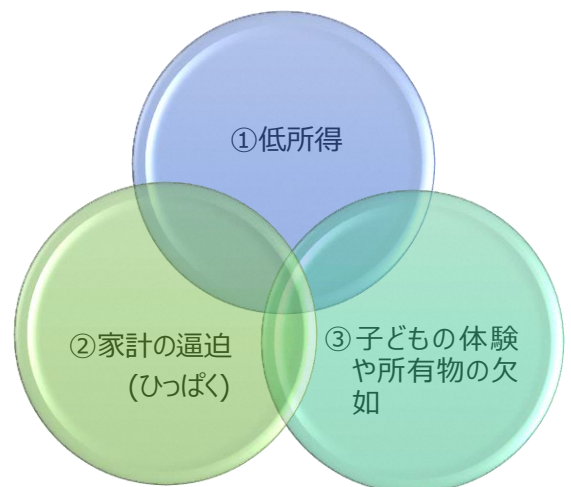
(2) 本調査における「生活困難」の取り扱いについて

●本調査では、「生活困難層」等を以下の3つの要素に基づいて分類した。

①低所得	③子どもの体験や所有物の欠如
<p>等価世帯所得が厚生労働省「平成29年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯</p> <p><低所得基準> 世帯所得の中央値 442 万円 ÷ √平均世帯人数 (2.47 人) × 50% = 140.6 万円</p>	<p>子どもの体験や所有物などに関する次の15項目のうち、<u>経済的な理由</u>で、欠如している項目が3つ以上該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 海水浴に行く 2 博物館・科学館・美術館などに行く 3 キャンプやバーベキューに行く 4 スポーツ観戦や劇場に行く 5 遊園地やテーマパークに行く 6 毎月お小遣いを渡す 7 毎年新しい洋服・靴を買う 8 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる 9 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう) 10 お誕生日のお祝いをする 11 1年に1回くらい家族旅行に行く 12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 13 子どもの年齢に合った本 14 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ 15 子どもが自宅で宿題をすることができる場所
②家計の逼迫	
<p><u>経済的な理由</u>で、公共料金や家賃を支払えなかった経験や食料・衣類を買えなかった経験などの7項目のうち、1つ以上に該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 電話料金 2 電気料金 3 ガス料金 4 水道料金 5 家賃 6 家族が必要とする食料が買えなかった 7 家族が必要とする衣類が買えなかった 	

◆生活困難層（困窮層・周辺層）、一般層

生活困難層	困窮層 + 周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない



(3) 生活困難層の割合

「低所得」や「家計の逼迫（ひっぱく）」、「子どもの体験や所有物の欠如」のうち2つ以上に該当し、困窮層にあると思われる家庭は小学5年生で7.7%、中学2年生で13.3%、いずれか1つに該当する周辺層の家庭は小学5年生で12.9%、中学2年生で15.5%となっている。

(生活困難層の内訳)

区 分	小学5年生	中学2年生
(サンプル数)	418	362
生活困難層	20.6%	28.8%
困窮層	7.7%	13.3%
周辺層	12.9%	15.5%
一般層	79.4%	71.3%

※サンプル数とは、生活困難度が判定できた数。

※端数処理の関係で、合計が100%とならない場合がある。

(世帯タイプ別生活困難層の内訳)

区 分	年 齢 層	ふたり親 (二世帯)	ふたり親 (三世帯)	ひとり親 (二世帯)	ひとり親 (三世帯)	
(サンプル数)	小学5年生	498	55	68	15	
	中学2年生	387	42	83	21	
生活 困 難 層	困窮層	小学5年生	4.9%	5.7%	29.3%	10.0%
		中学2年生	9.9%	7.4%	29.1%	25.0%
	周辺層	小学5年生	11.0%	8.6%	29.3%	20.0%
		中学2年生	9.5%	18.5%	34.5%	43.8%
一般層	小学5年生	84.1%	85.7%	41.5%	70.0%	
	中学2年生	80.6%	74.1%	36.4%	31.3%	

※サンプル数とは、生活困難度が判定できた数。

※端数処理の関係で、合計が100%とならない場合がある。

第2部 生活困窮の状況

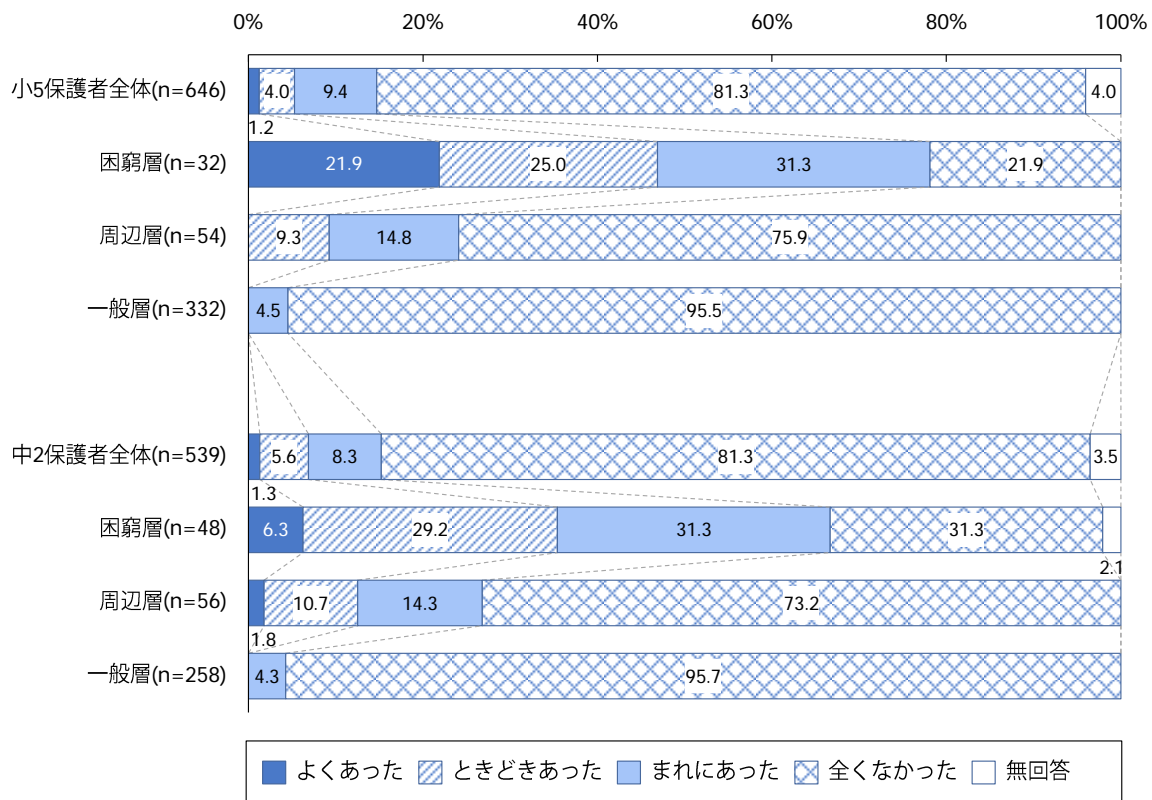
1 家計の状況

(1) 食品を買えなかった経験

過去1年間に食料が買えなかったことについて、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた『あった』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で78.2%、周辺層で24.1%、一般層で4.5%、中学2年生の困窮層で66.8%、周辺層で26.8%、一般層で4.3%となっている。

「全くなかった」は、小学5年生、中学2年生ともに一般層で約95%と、困難度、周辺層に比べて非常に高くなっている。

問29 過去1年買えなかった経験/食料

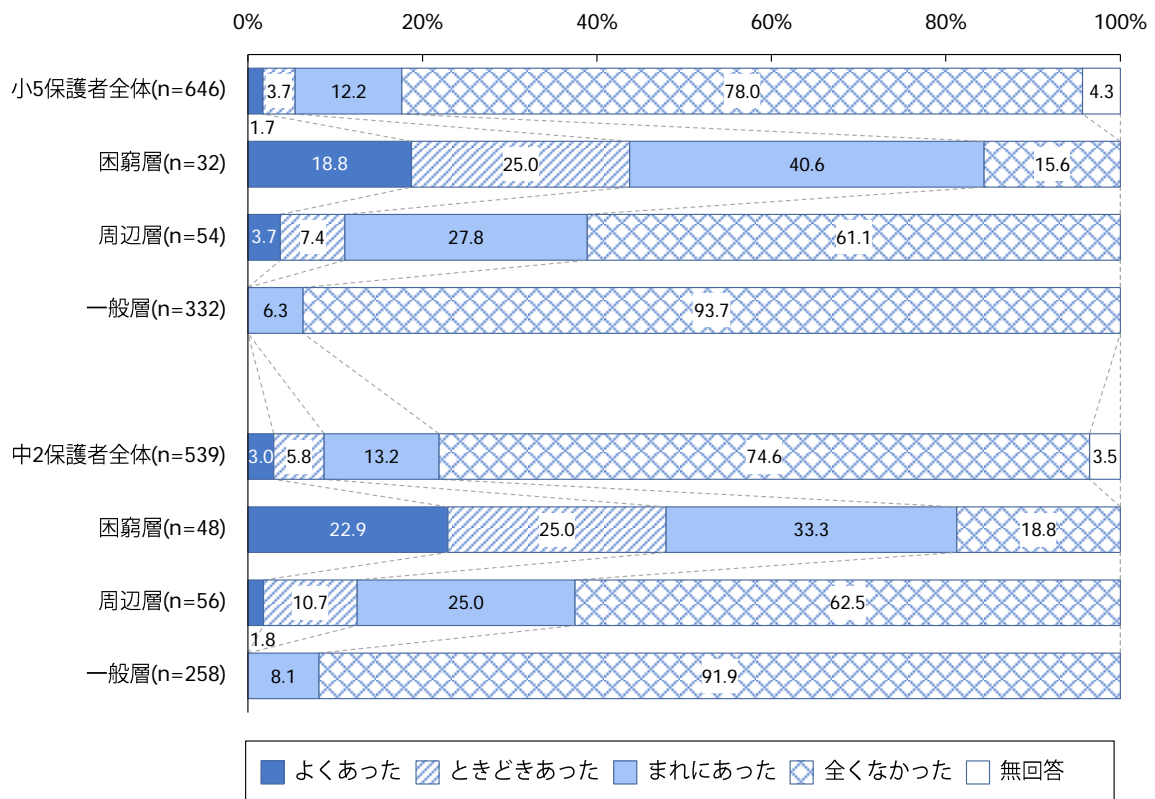


(2) 衣類を買えなかった経験

過去1年間に衣類が買えなかったことについて、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた『あった』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で84.4%、周辺層で38.9%、一般層で6.3%、中学2年生の困窮層で81.2%、周辺層で37.5%、一般層で8.1%となっている。

「全くなかった」は、小学5年生、中学2年生ともに一般層で90%を超え、困窮層、周辺層に比べて非常に高くなっている。

問 30 過去1年買えなかった経験／衣類



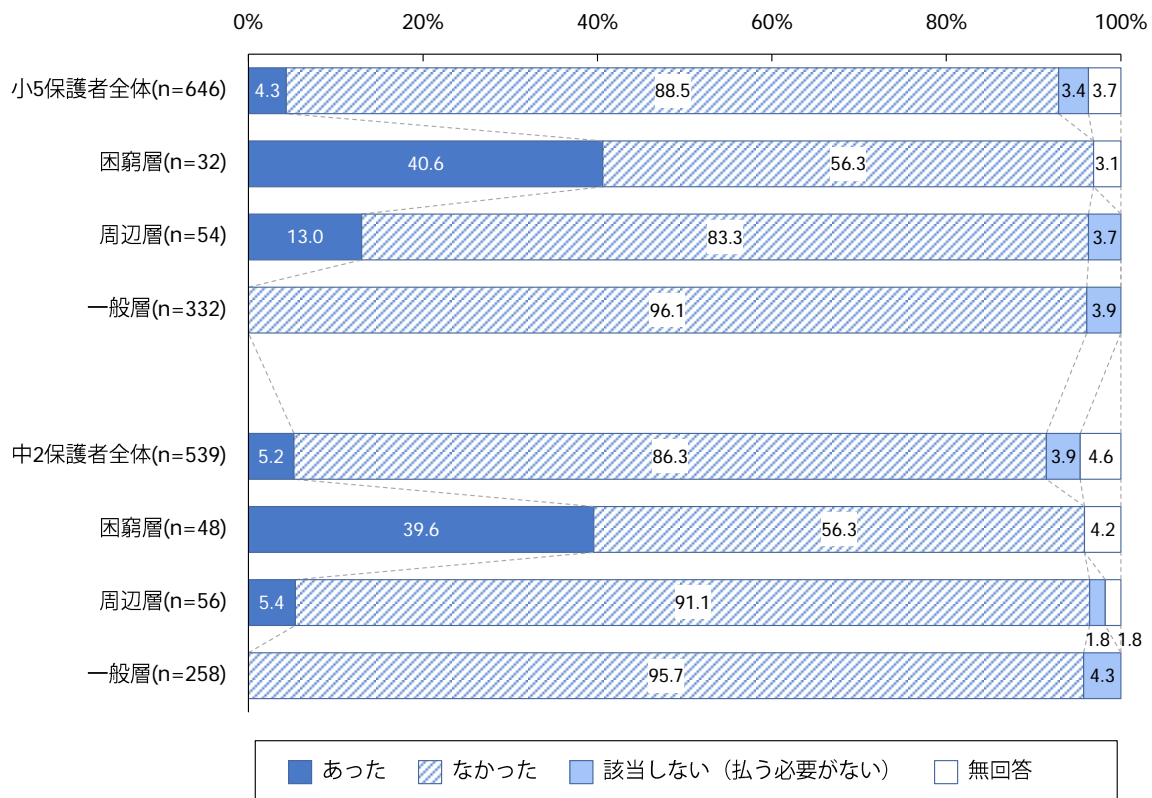
(3) 公共料金等の滞納経験

A 電話料金

過去1年間の電話料金の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で40.6%、周辺層で13.0%、中学2年生の困窮層で39.6%、周辺層で5.4%となっている。

「あった」は、小学5年生、中学2年生とも一般層では回答はなかった。

問 31 過去1年支払えなかった経験/A 電話料金

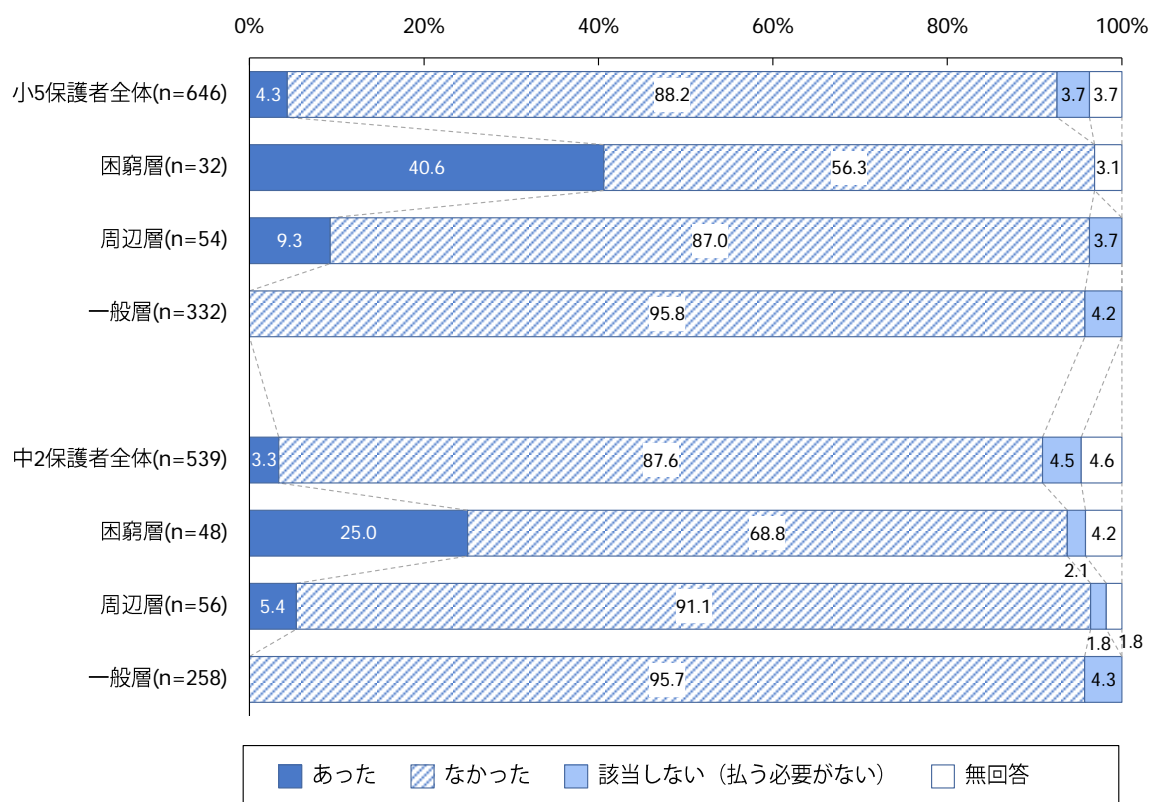


B 電気料金

過去1年間の電気料金の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で40.6%、周辺層で9.3%、中学2年生の困窮層で25.0%、周辺層で5.4%となっている。

「あった」は、小学5年生、中学2年生とも、一般層では回答はなかった。

問31 過去1年支払えなかった経験/B 電気料金

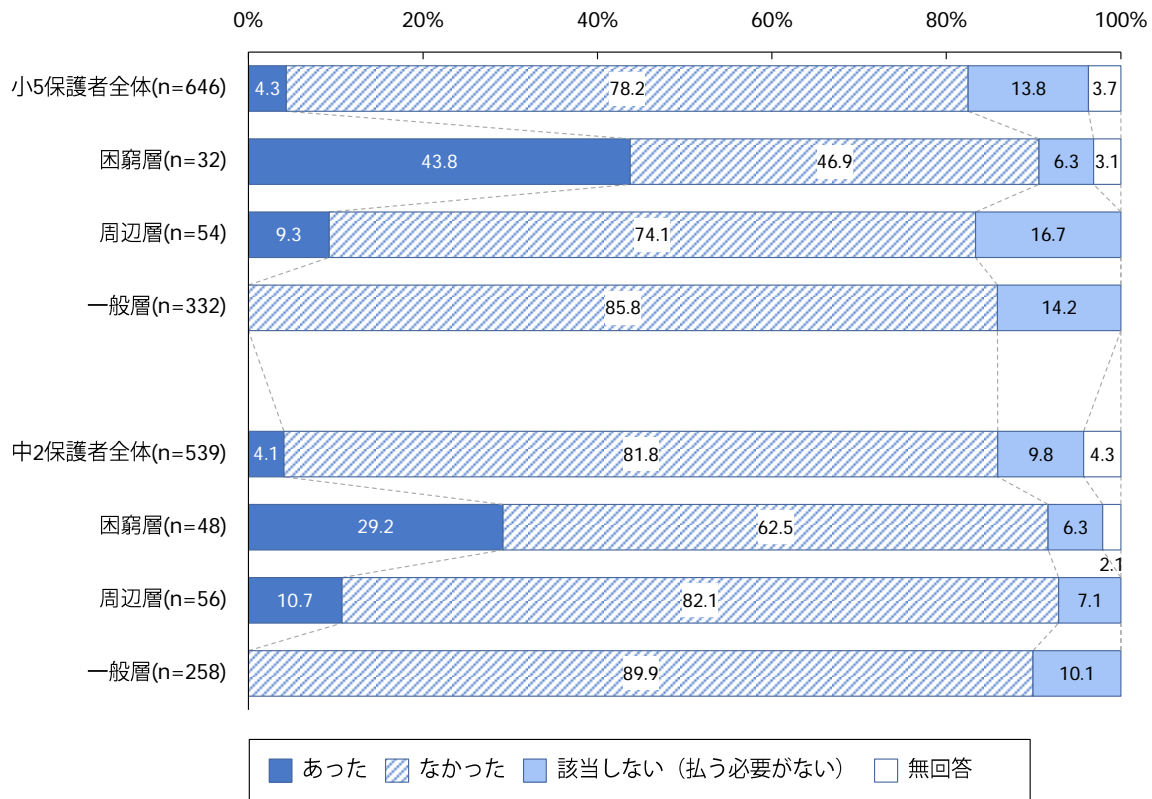


C ガス料金

過去1年間のガス料金の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で43.8%、周辺層で9.3%、中学2年生の困窮層で29.2%、周辺層で10.7%となっている。

「あった」は、小学5年生、中学2年生とも、一般層では回答はなかった。

問 31 過去1年支払えなかった経験/C ガス料金

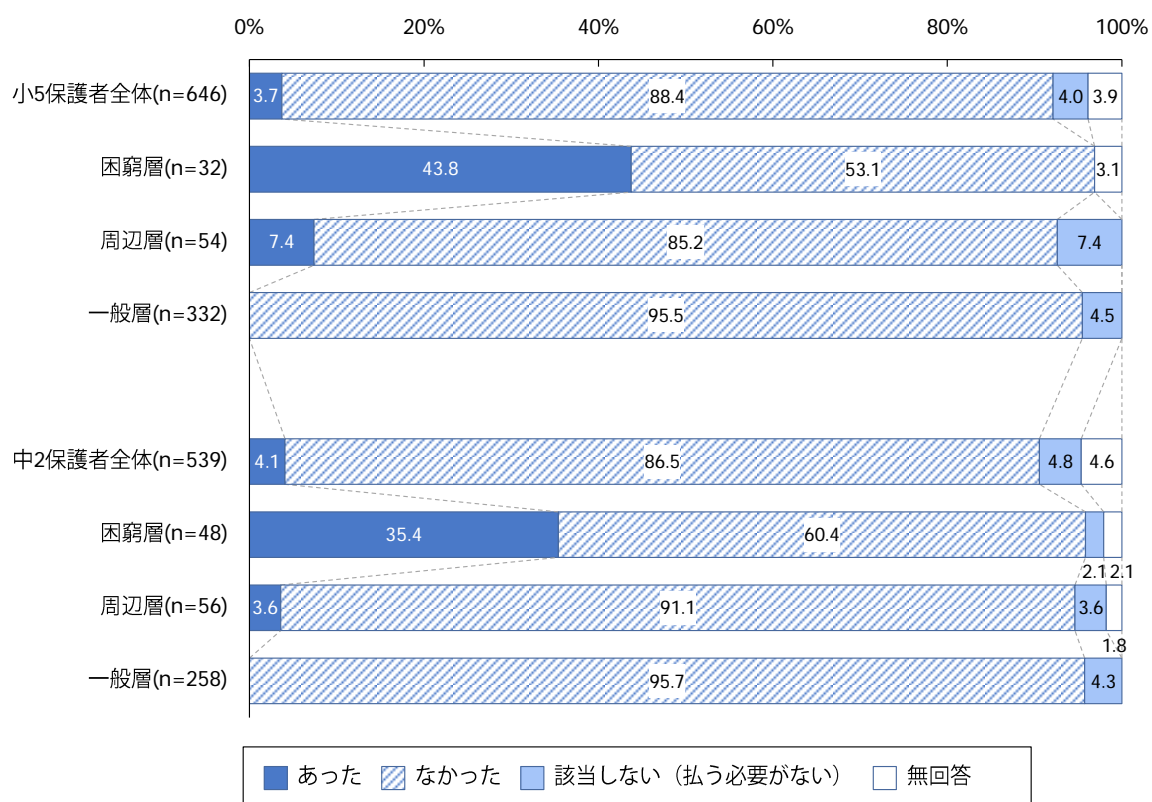


D 水道料金

過去1年間の水道料金の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で43.8%、周辺層で7.4%、中学2年生の困窮層で35.4%、周辺層で3.6%となっている。

「あった」は、小学5年生、中学2年生とも、一般層では回答はなかった。

問 31 過去1年支払えなかった経験/D 水道料金



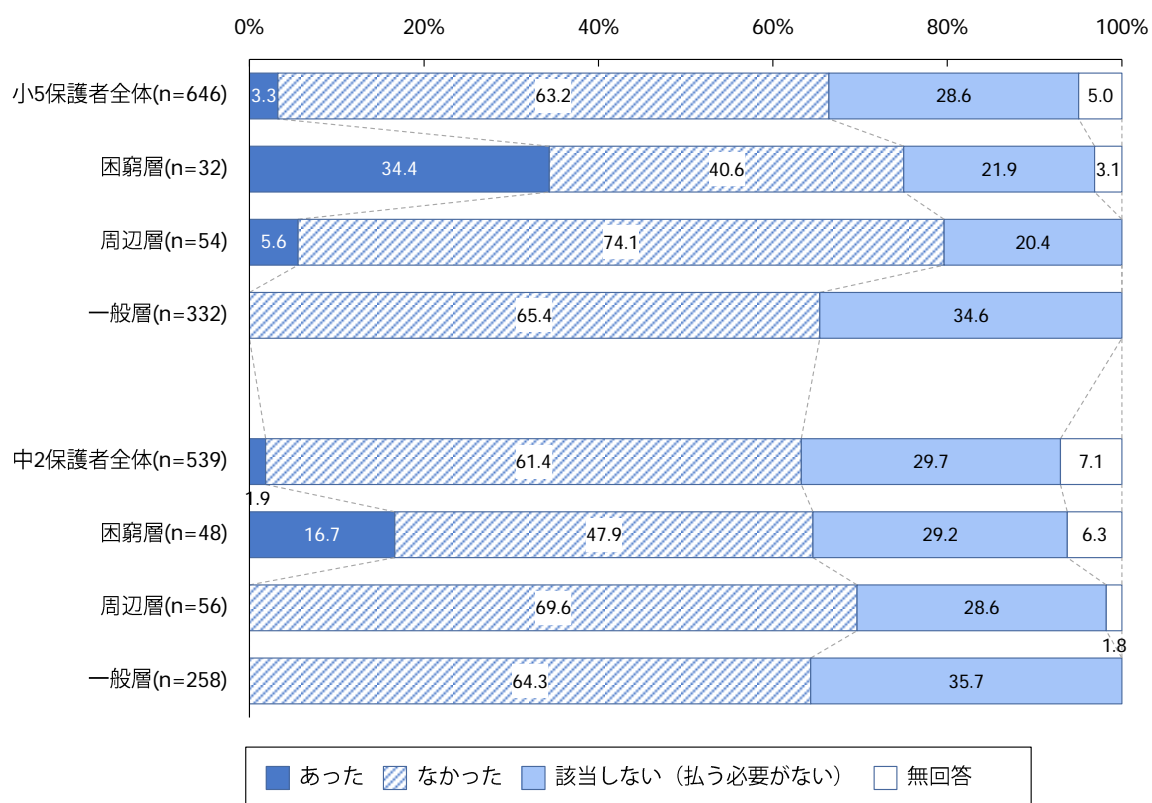
E 家賃

過去1年間の家賃の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で34.4%、周辺層で5.6%、中学2年生の困窮層で16.7%となっている。

各層とも約2割～3割は「該当しない（払う必要がない）」となっている。

「あった」は、小学5年生の一般層、中学2年生の周辺層、一般層では回答はなかった。

問 31 過去1年支払えなかった経験/E 家賃

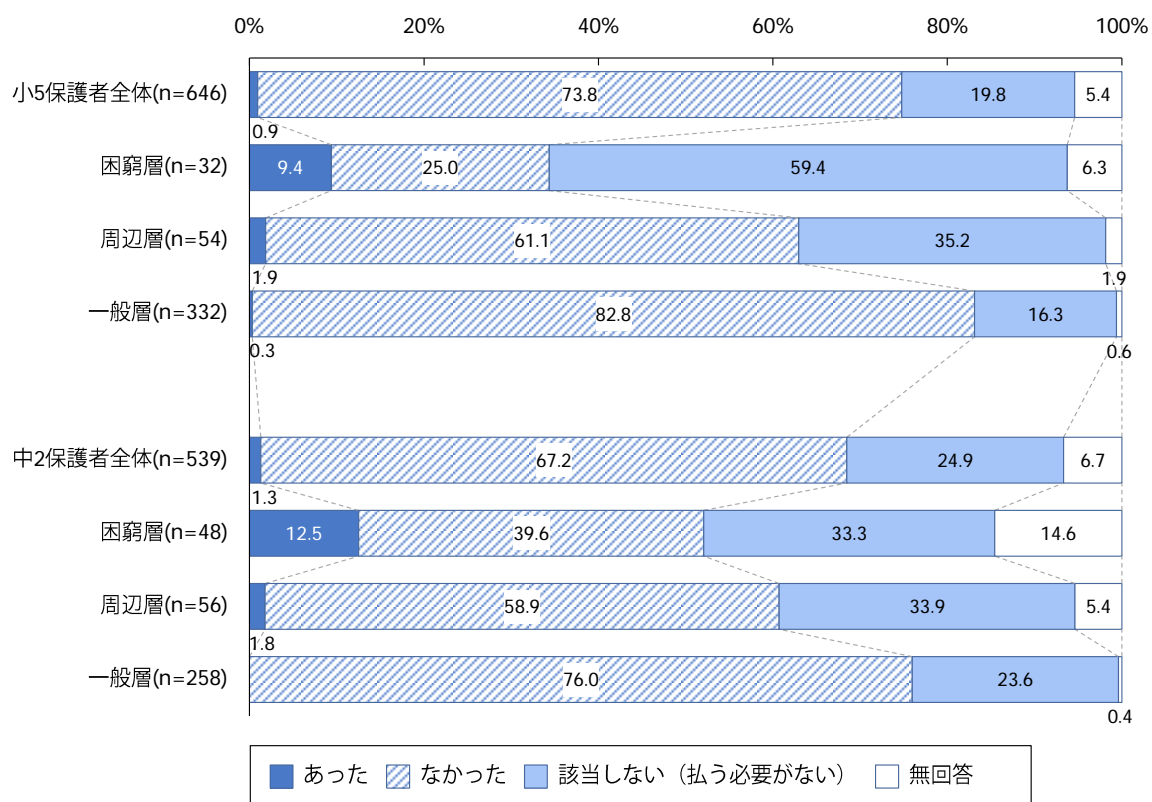


F 住宅ローン

過去1年間の住宅ローンの滞納経験について、「該当しない（払う必要がない）」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で59.4%、周辺層で35.2%、一般層で16.3%、中学2年生の困窮層で33.3%、周辺層で33.9%、一般層で23.6%となっており、小学5年生の困窮層で非常に高くなっている。

「あった」は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ9.4%、12.5%と、周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問31 過去1年支払えなかった経験/F 住宅ローン

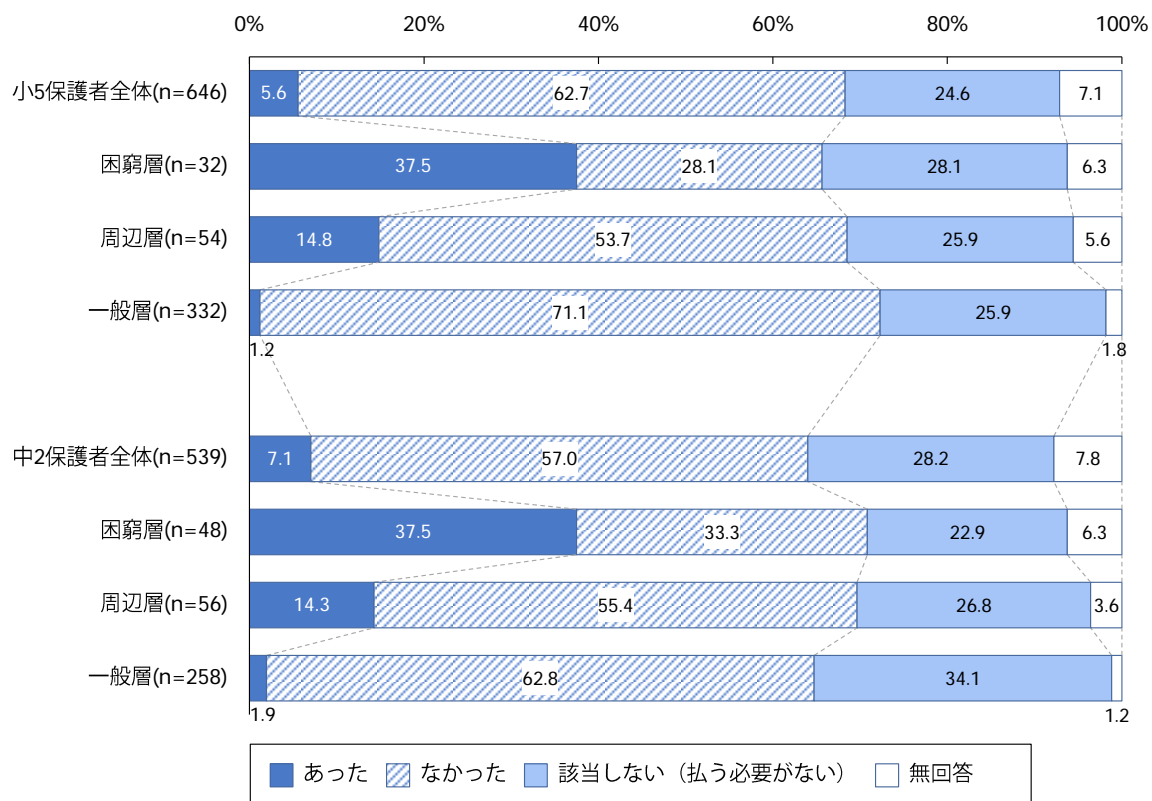


G その他の債務

過去1年間のその他の債務の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で37.5%、周辺層で14.8%、一般層で1.2%、中学2年生の困窮層で37.5%、周辺層で14.3%、一般層で1.9%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

いずれの層も約2割～3割は「該当しない（払う必要がない）」となっている。

問 31 過去1年支払えなかった経験/G その他の債務

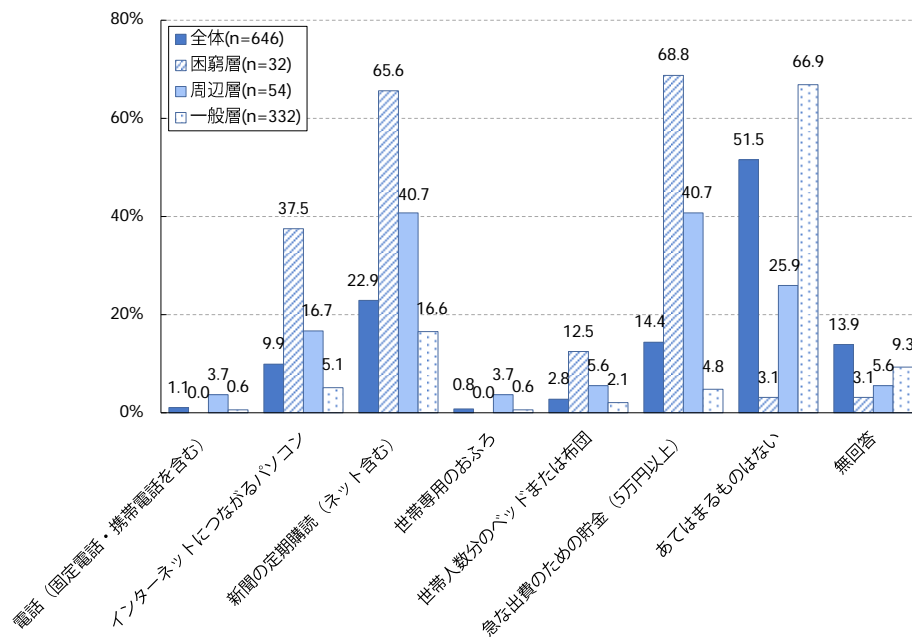
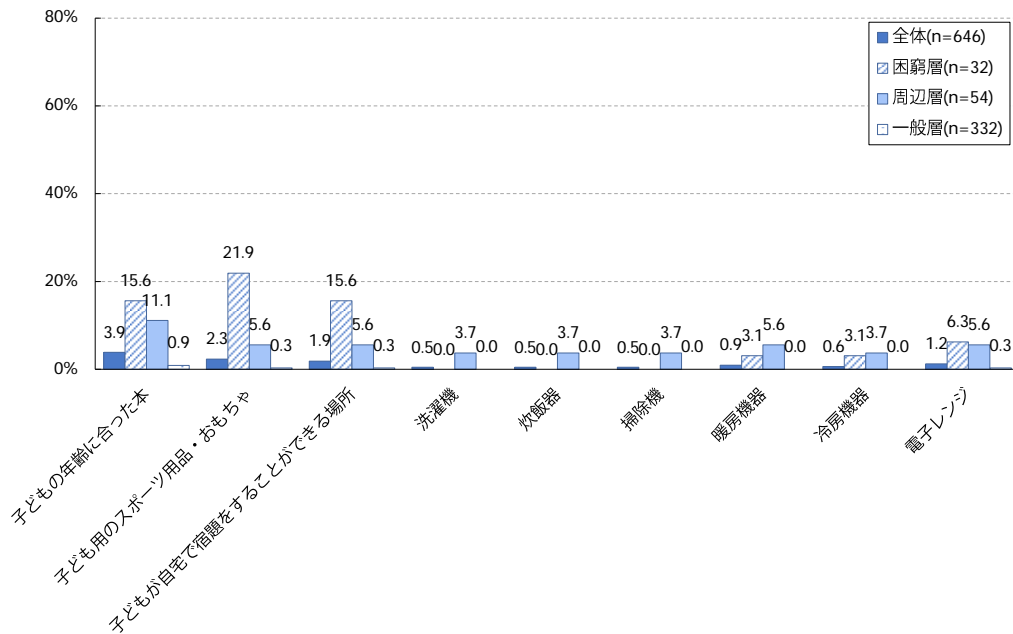


(4) 物品の所有状況

物品の所有状況（経済的理由のために世帯にないもの）について、小学5年生の困窮層の状況をみると、周辺層、一般層に比べて10ポイント以上の差で「ない」割合が高いのは、「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」「インターネットにつながるパソコン」「新聞の定期購読（ネット含む）」「急な出費のための貯金（5万円以上）」となっている。

問 34 経済的理由のために世帯にないもの

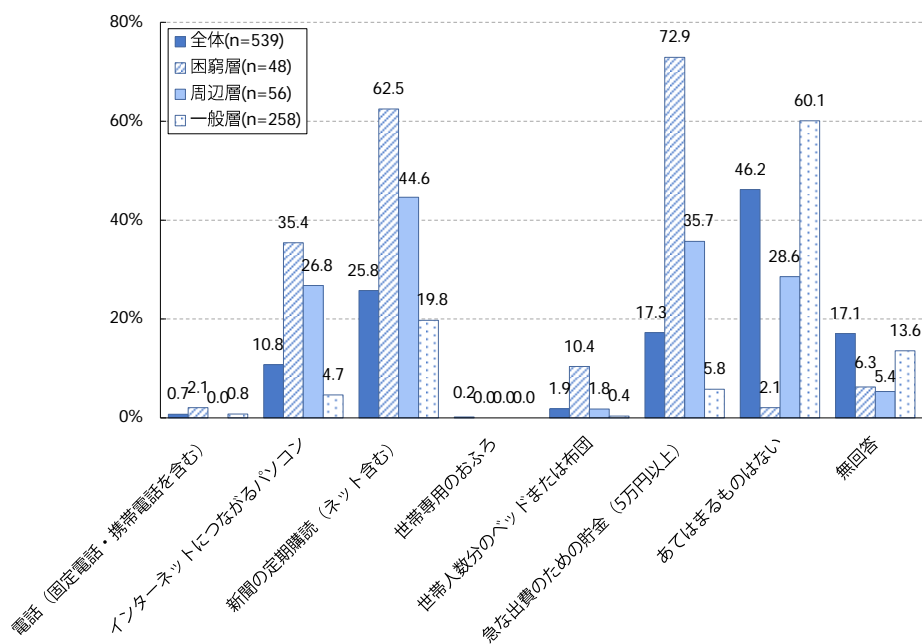
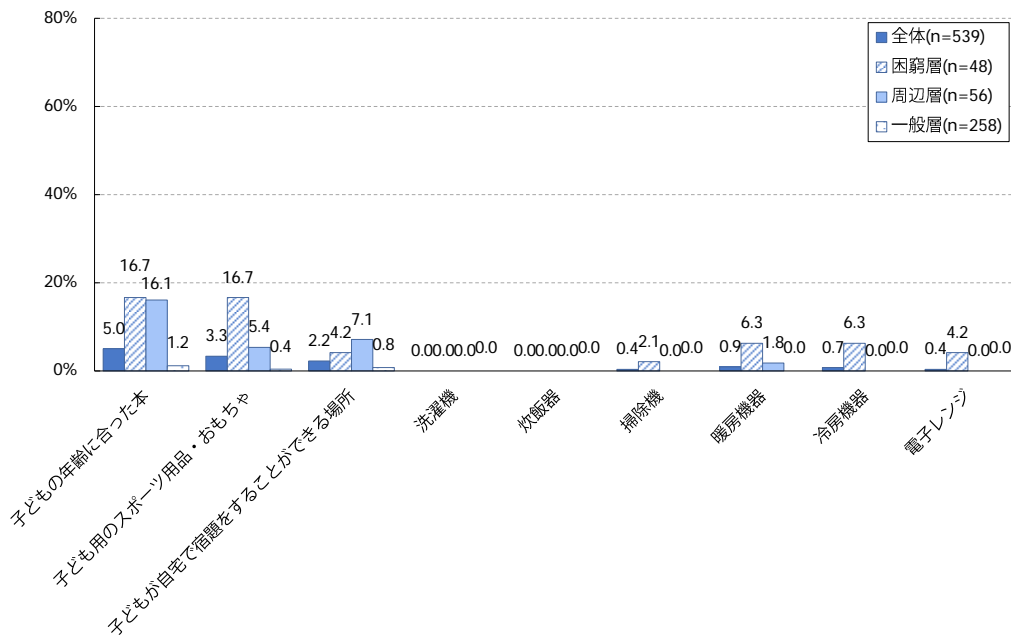
小学5年生



物品の所有状況（経済的理由のために世帯にないもの）について、中学2年生の困窮層の状況をみると、周辺層、一般層に比べて10ポイント以上の差で「ない」割合が高いのは、「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「新聞の定期購読（ネット含む）」「急な出費のための貯金（5万円以上）」となっている。

問 34 経済的理由のために世帯にないもの

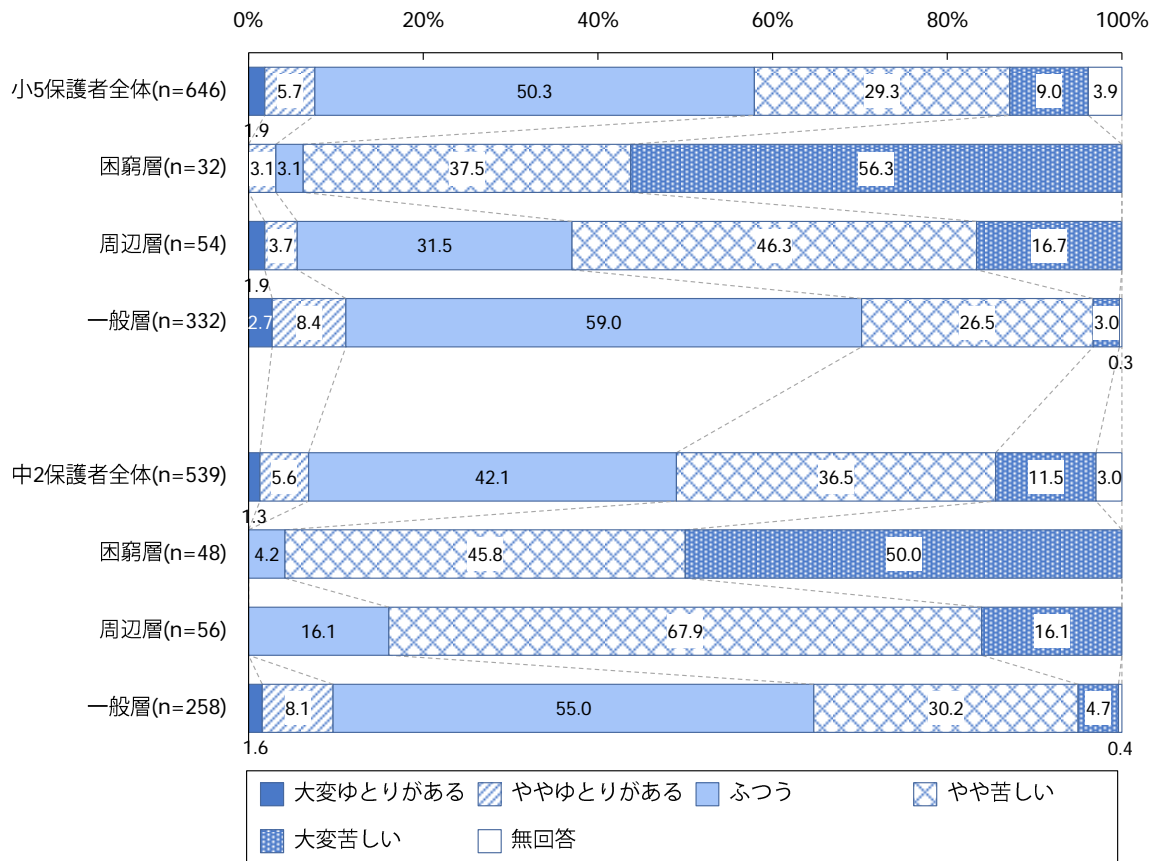
中学2年生



(5) 主観的暮らし向き

現在の暮らしの向きについて、「やや苦しい」「大変苦しい」を合わせた『苦しい』と回答した全体の割合は、小学5年生では38.3%、中学2年生では48.0%となっている。また、小学5年生の困窮層で93.8%、周辺層で63.0%、中学2年生の困窮層で95.8%、周辺層で84.0%と一般層に比べて非常に高くなっている。

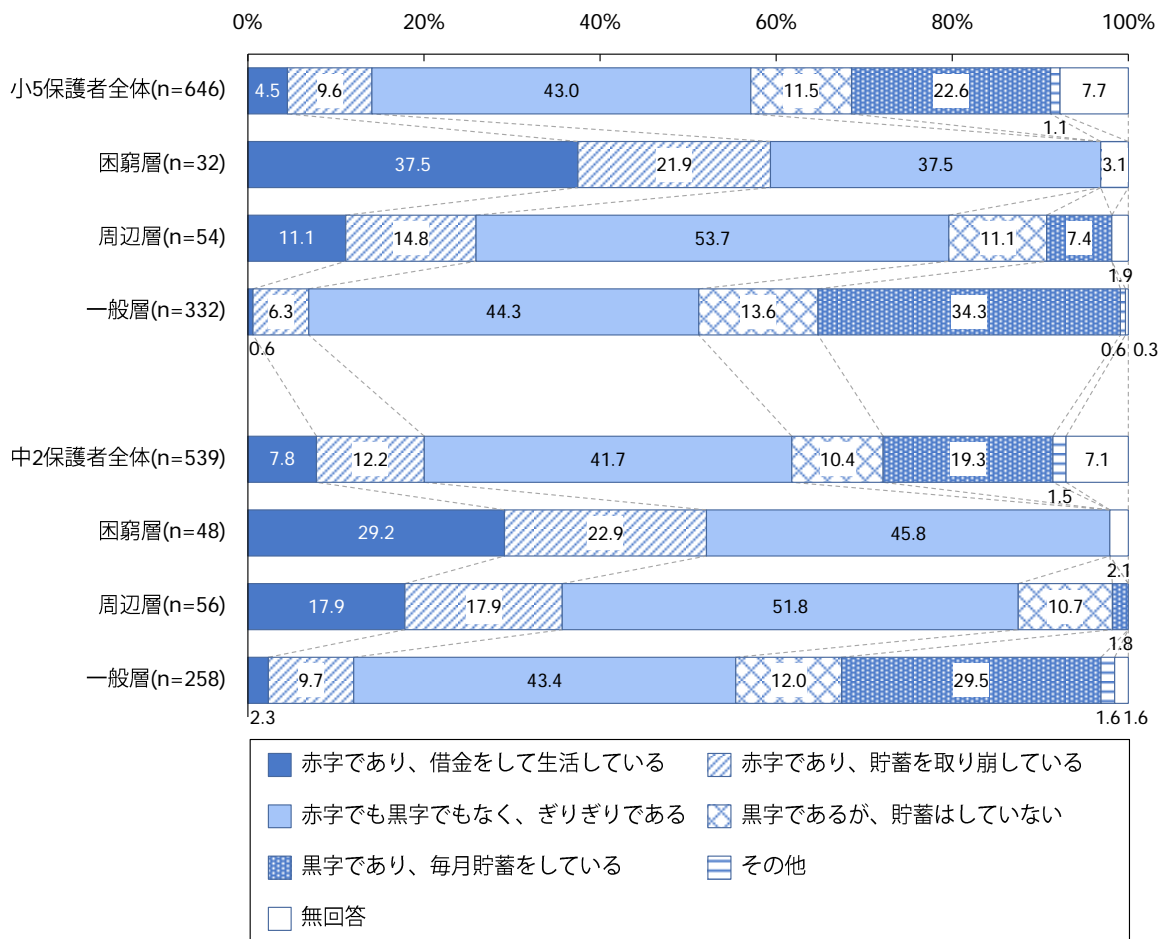
問 27 現在の暮らしの状況



(6) 家計の収支状況

家計の収支状況について、「赤字であり、借金をして生活している」「赤字であり、貯蓄を取り崩している」を合わせた『赤字である』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で59.4%、周辺層で25.9%、一般層で6.9%、中学2年生の困窮層で52.1%、周辺層で35.8%、一般層で12.0%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で非常に高くなっている。

問 28 家計の収支状況



2 子どもの生活水準（所有物と体験）

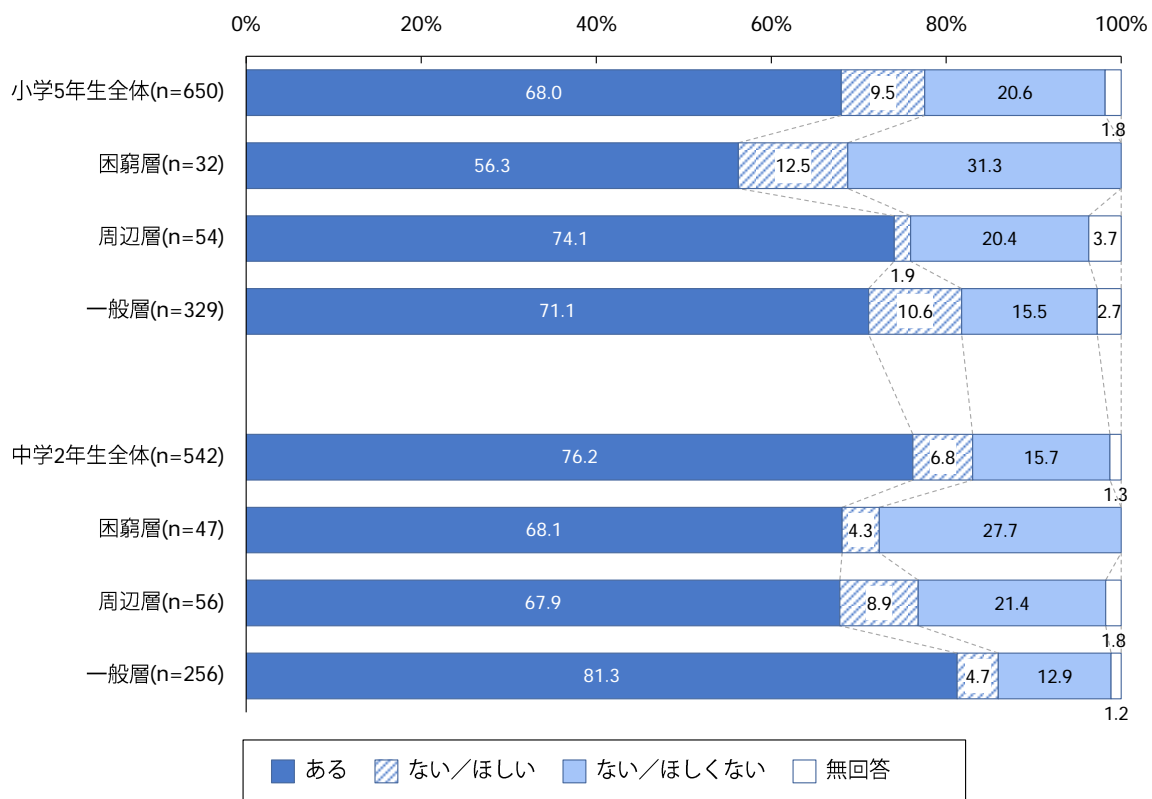
（1）子どもの所有物の欠如

A 自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）

自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で12.5%、周辺層で1.9%、一般層で10.6%、中学2年生の困窮層で4.3%、周辺層で8.9%、一般層で4.7%となっている。

「ある」は、小学5年生、中学2年生ともに約7割以上となっているが、小学5年生の困窮層は56.3%と低くなっている。

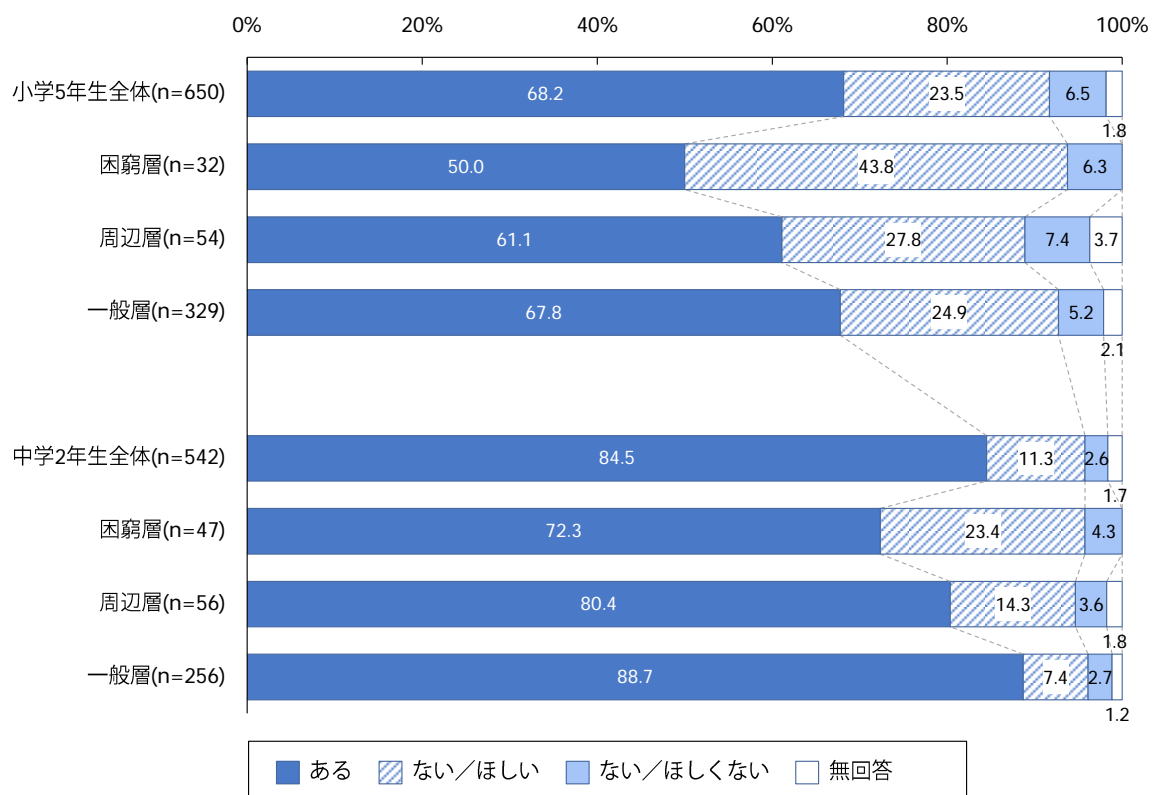
問3 使うことができるもの/A 自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）



B 子ども部屋（兄弟姉妹と使っている場合もふくむ）

子ども部屋（兄弟姉妹と使っている場合もふくむ）について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で43.8%、周辺層で27.8%、一般層で24.9%、中学2年生の困窮層で23.4%、周辺層で14.3%、一般層で7.4%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

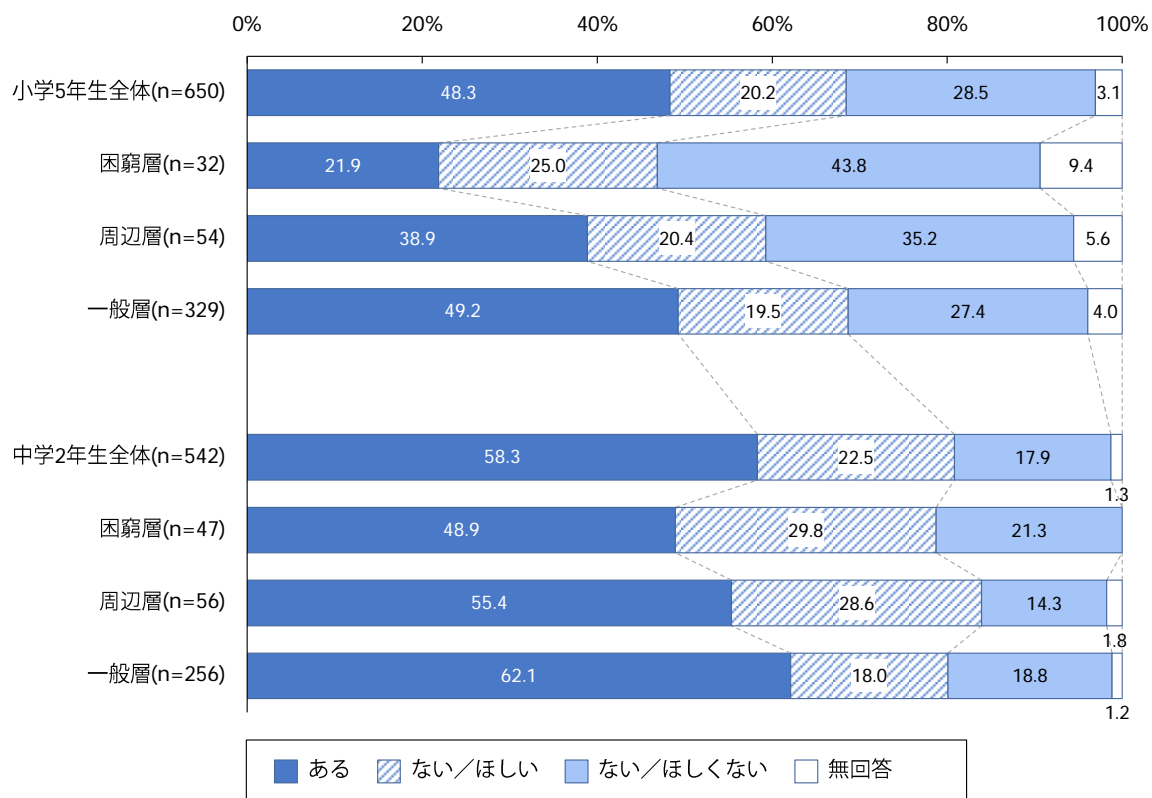
問3 使うことができるもの/B 子ども部屋（兄弟姉妹と使っている場合もふくむ）



C (自宅で) インターネットにつながるパソコン

(自宅で) インターネットにつながるパソコンについて、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で25.0%、周辺層で20.4%、一般層で19.5%、中学2年生の困窮層で29.8%、周辺層で28.6%、一般層で18.0%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

問3 使うことができるもの/C (自宅で) インターネットにつながるパソコン

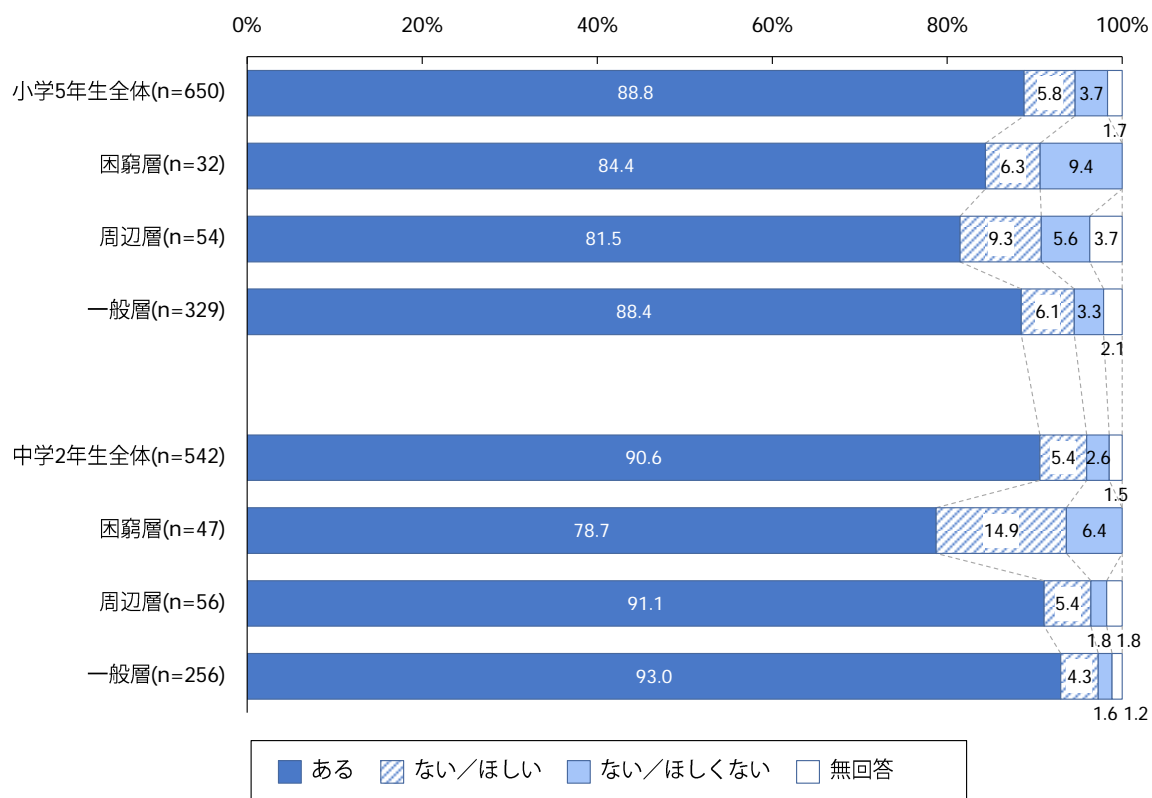


D 自宅で宿題をすることができる場所

自宅で宿題をすることができる場所について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で84.4%、周辺層で81.5%、一般層で88.4%、中学2年生の困窮層で78.7%、周辺層で91.1%、一般層で93.0%となっている。

「ない/ほしい」は、中学2年生の困窮層で14.9%と高くなっている。

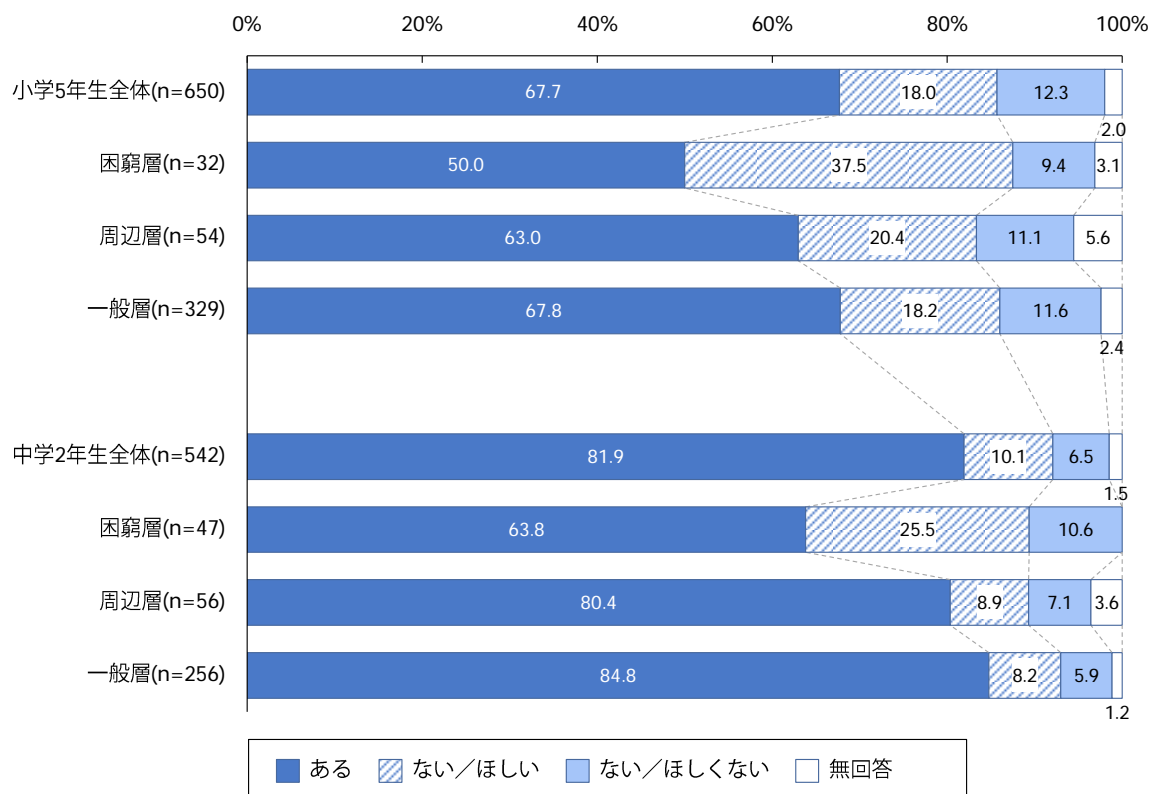
問3 使うことができるもの/D 自宅で宿題をすることができる場所



E 自分専用の勉強机

自分専用の勉強机について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で50.0%、周辺層で63.0%、一般層で67.8%、中学2年生の困窮層で63.8%、周辺層で80.4%、一般層で84.8%となっている。一方、「ない/ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で37.5%、周辺層で20.4%、一般層で18.2%、中学2年生の困窮層で25.5%、周辺層で8.9%、一般層で8.2%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

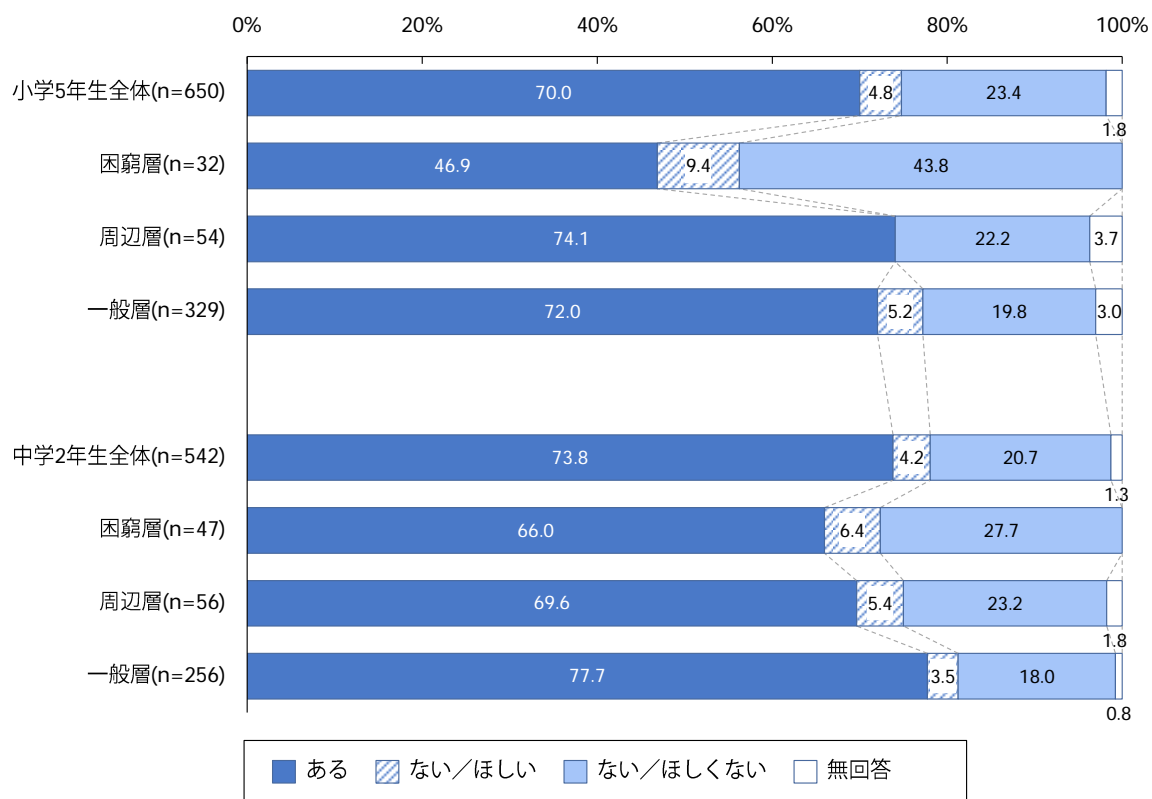
問3 使うことができるもの/E 自分専用の勉強机



F スポーツ用品（野球のグローブや、サッカーボールなど）

スポーツ用品（野球のグローブや、サッカーボールなど）について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で46.9%、周辺層で74.1%、一般層で72.0%、中学2年生の困窮層で66.0%、周辺層で69.6%、一般層で77.7%となっており、小学5年生の困窮層で特に低くなっている。

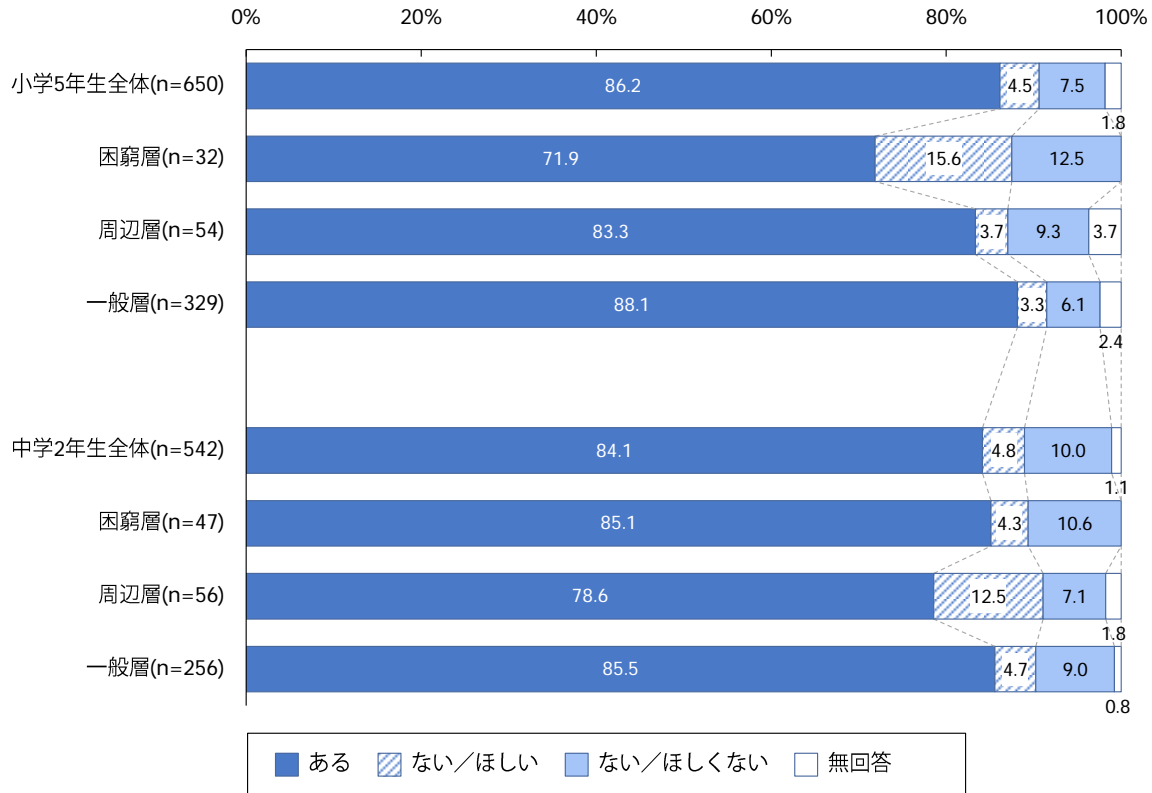
問3 使うことができるもの/F スポーツ用品（野球のグローブや、サッカーボールなど）



G ゲーム機

ゲーム機について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で15.6%、周辺層で3.7%、一般層で3.3%、中学2年生の困窮層で4.3%、周辺層で12.5%、一般層で4.7%となっており、小学5年生の困窮層、中学2年生の周辺層で高くなっている。

問3 使うことができるもの/G ゲーム機

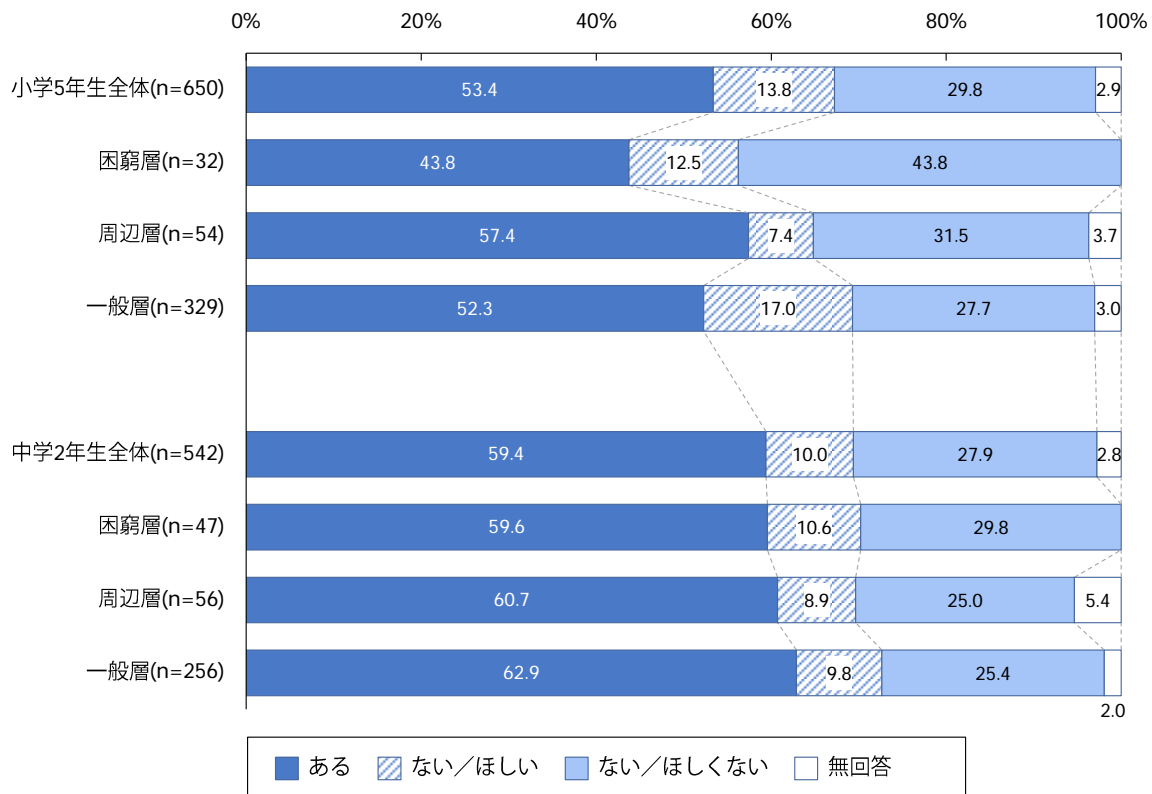


H たいていの友だちが持っているおもちゃ

たいていの友だちが持っているおもちゃについて、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で12.5%、周辺層で7.4%、一般層で17.0%、中学2年生の困窮層で10.6%、周辺層で8.9%、一般層で9.8%となっている。

小学5年生の困窮層で「ある」が43.8%と低くなっているが、「ない／ほしい」は一般層の方が17.0%と困窮層の12.5%より高くなっている。また困窮層では「ない／ほしくない」も43.8%となっており、必ずしも必要とはしていないことがうかがえる。

問3 使うことができるもの/H たいていの友だちが持っているおもちゃ

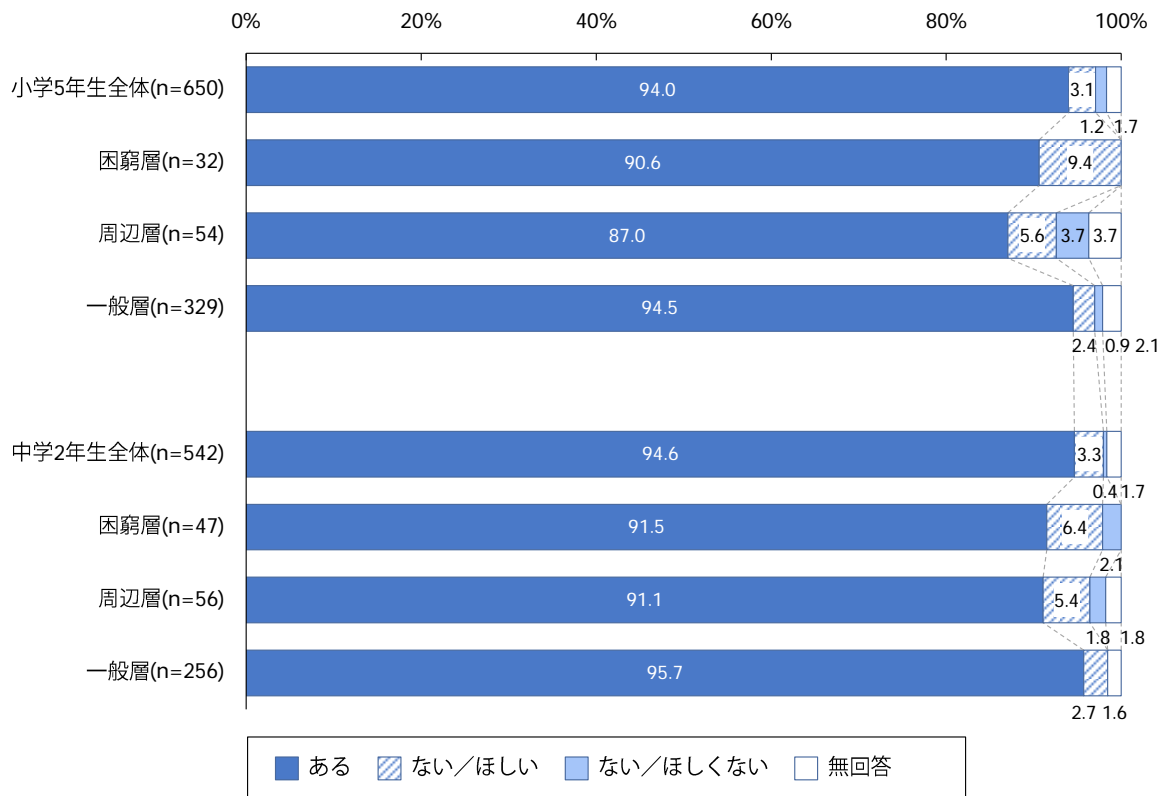


Ⅰ 自転車

自転車について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で90.6%、周辺層で87.0%、一般層で94.5%、中学2年生の困窮層で91.5%、周辺層で91.1%、一般層で95.7%となっている。

「ない／ほしい」は、小学5年生の困窮層で9.4%とやや高くなっている。

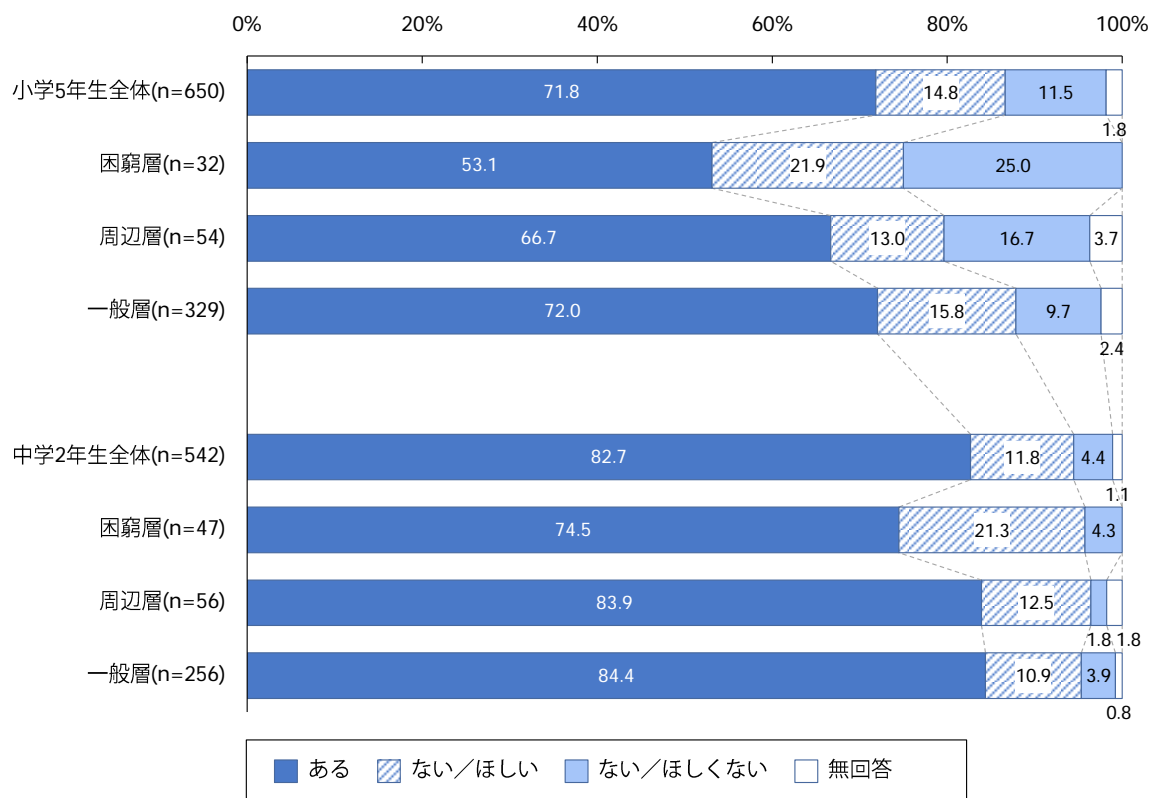
問3 使うことができるもの/Ⅰ 自転車



Ｊ おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい

おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかいについて、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で21.9%、周辺層で13.0%、一般層で15.8%、中学2年生の困窮層で21.3%、周辺層で12.5%、困窮層で10.9%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

問3 使うことができるもの/Ｊ おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい

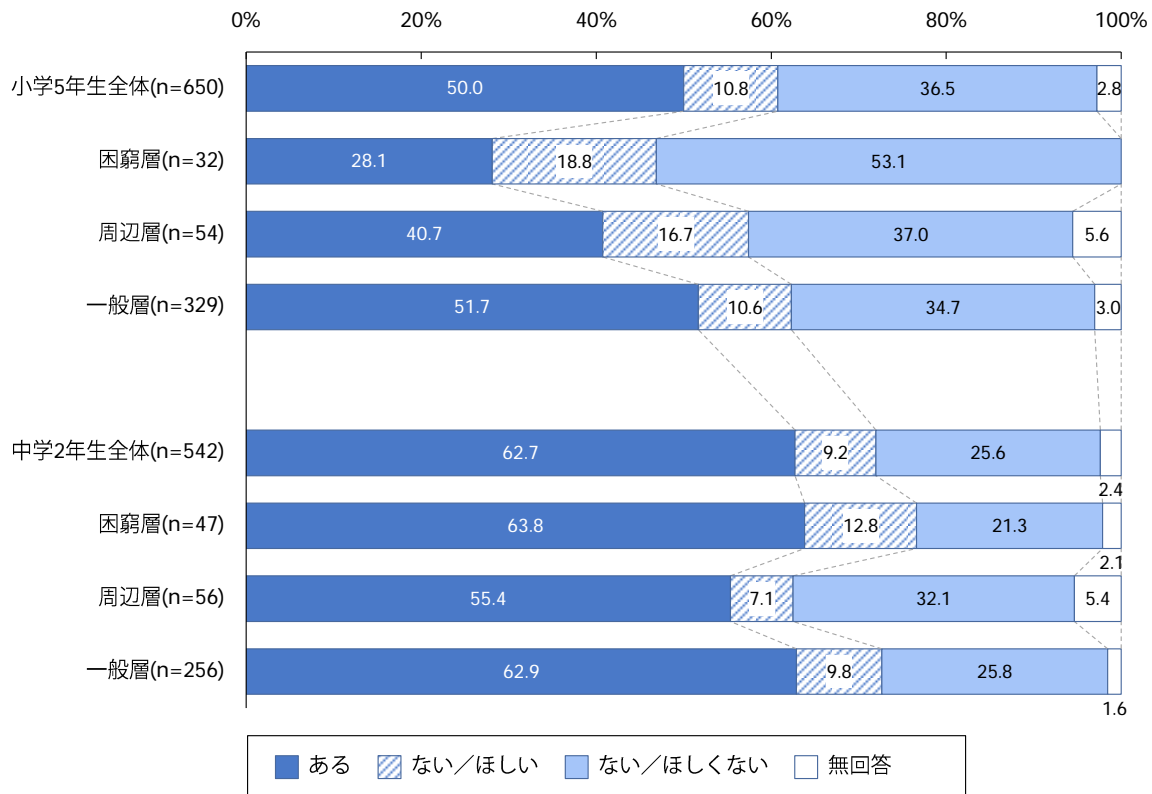


K 友だちが着ているのと同じような服

友だちが着ているのと同じような服について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で28.1%、周辺層で40.7%、一般層で51.7%、中学2年生の困窮層で63.8%、周辺層で55.4%、一般層で62.9%となっている。

「ない／ほしくない」は、小学5年生の困窮層で53.1%となっており、必ずしも必要とはしていないことがうかがえる。

問3 使うことができるもの/K 友だちが着ているのと同じような服

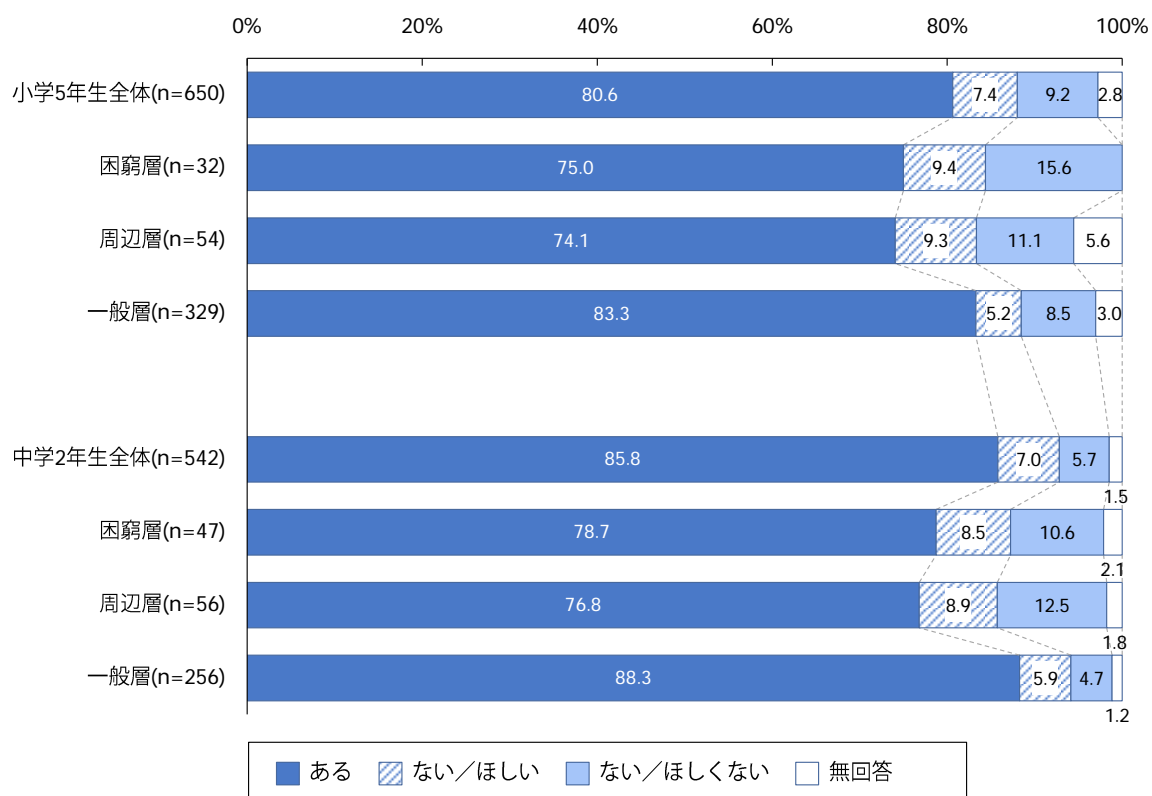


L 2足以上のサイズのあった靴

2足以上のサイズのあった靴について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で75.0%、周辺層で74.1%、一般層で83.3%、中学2年生の困窮層で78.7%、周辺層で76.8%、一般層で88.3%となっており、小学5年生、中学2年生ともに一般層で高くなっている。

「ない／ほしい」は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層、周辺層でやや高くなっている。

問3 使うことができるもの/L 2足以上のサイズのあった靴

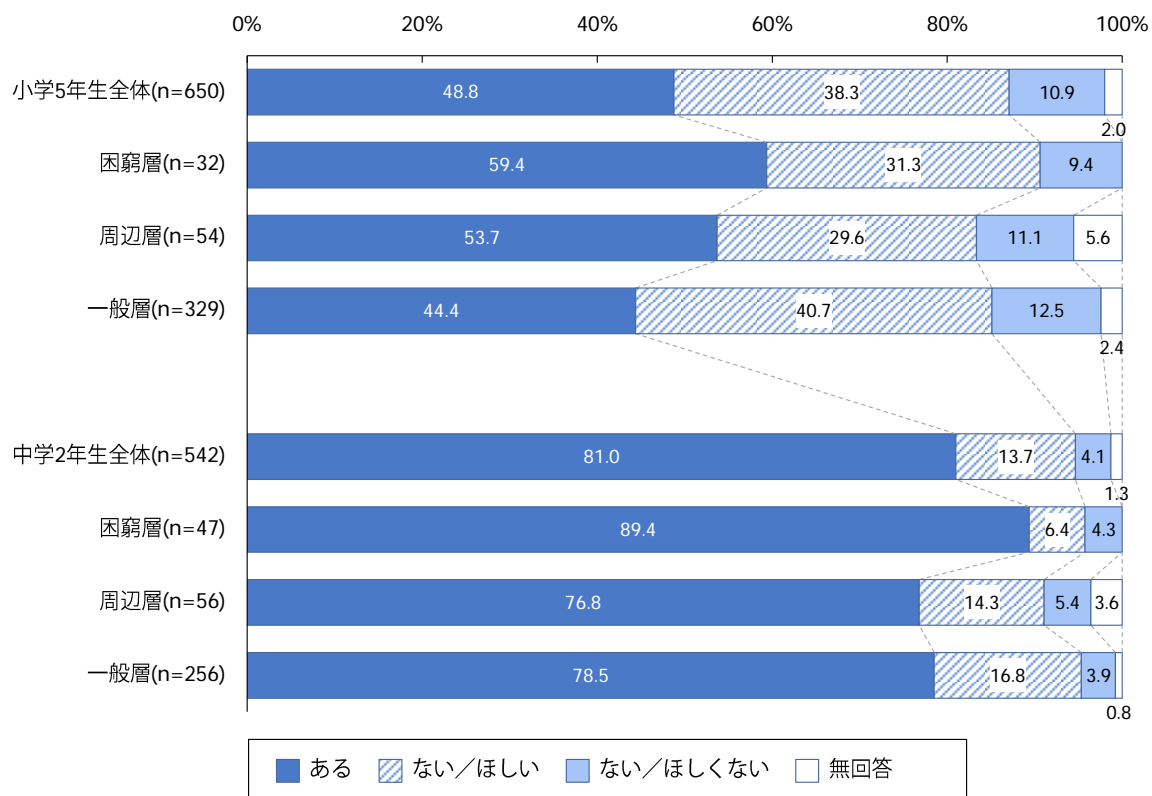


M 携帯電話、スマートフォン

携帯電話、スマートフォンについて、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で59.4%、周辺層で53.7%、一般層で44.4%、中学2年生の困窮層で89.4%、周辺層で76.8%、一般層で78.5%となっている。

「ない／ほしい」は、小学5年生、中学2年生ともに一般層でそれぞれ40.7%、16.8%と高くなっている。

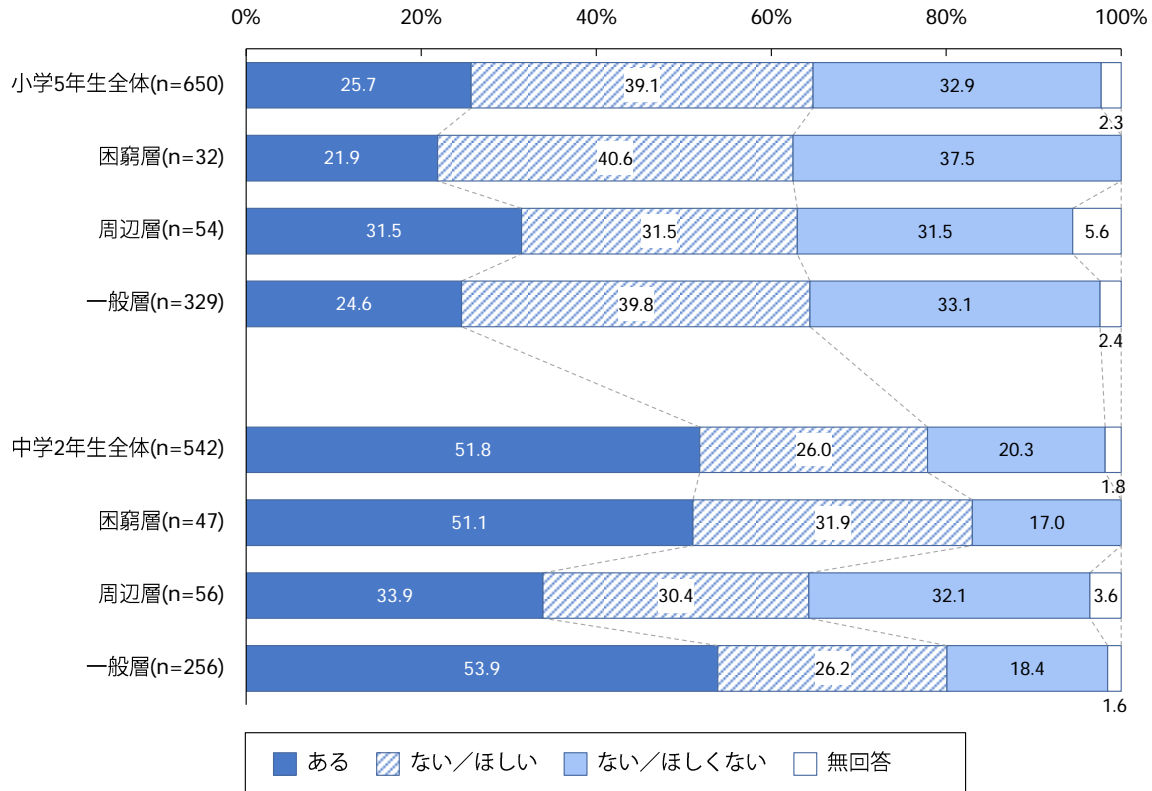
問3 使うことができるもの/M 携帯電話、スマートフォン



N 携帯音楽プレーヤーなど

携帯音楽プレーヤーなどについて、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で21.9%、周辺層で31.5%、一般層で24.6%、中学2年生の困窮層で51.1%、周辺層で33.9%、一般層で53.9%となっており、小学5年生では周辺層で高く、中学2年生では低くなっている。

問3 使うことができるもの/N 携帯音楽プレーヤーなど

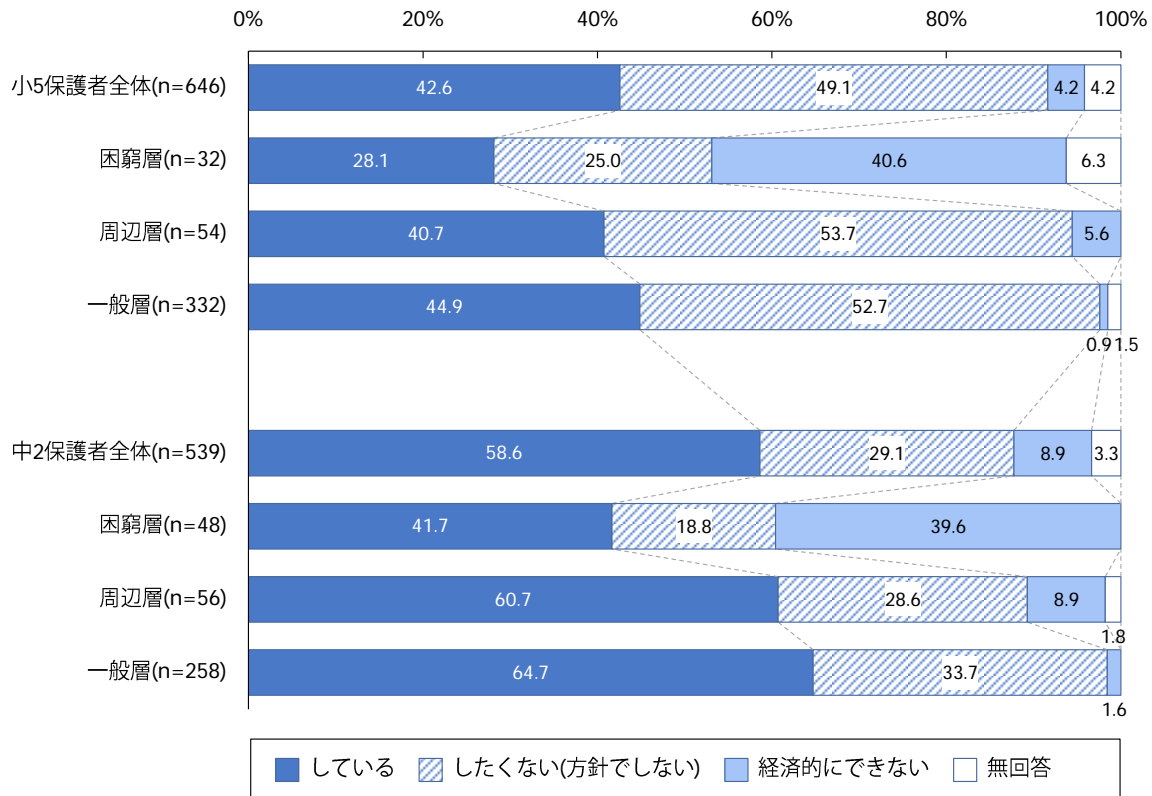


(2) 子どもへの支出

A 毎月お小遣いを渡す

毎月お小遣いを渡すことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で40.6%、周辺層で5.6%、一般層で0.9%、中学2年生の困窮層で39.6%、周辺層で8.9%、一般層で1.6%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困難層で非常に高くなっている。

問 33 子どもにしていること/A 毎月お小遣いを渡す

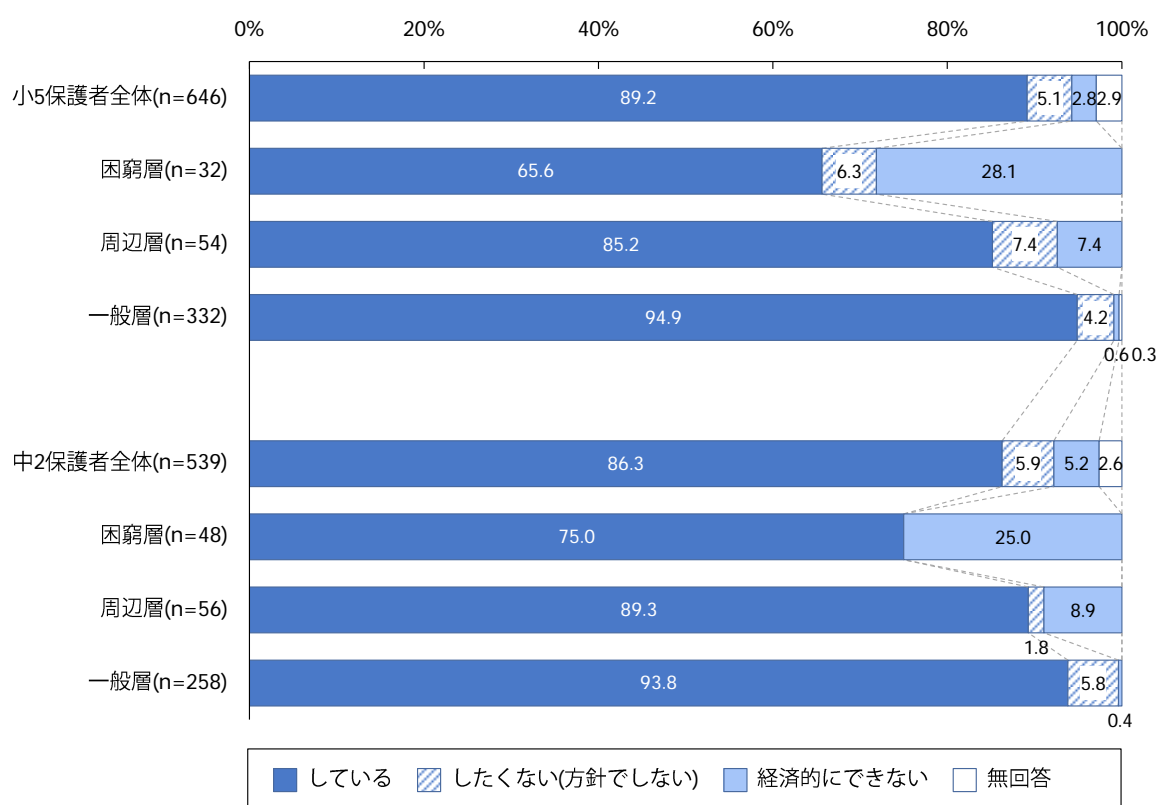


B 毎年新しい洋服・靴を買う

毎年新しい洋服・靴を買うことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で28.1%、周辺層で7.4%、一般層で0.6%、中学2年生の困窮層で25.0%、周辺層で8.9%、一般層で0.4%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

「している」は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ65.6%、75.0%と周辺層、一般層に比べて低くなっている。

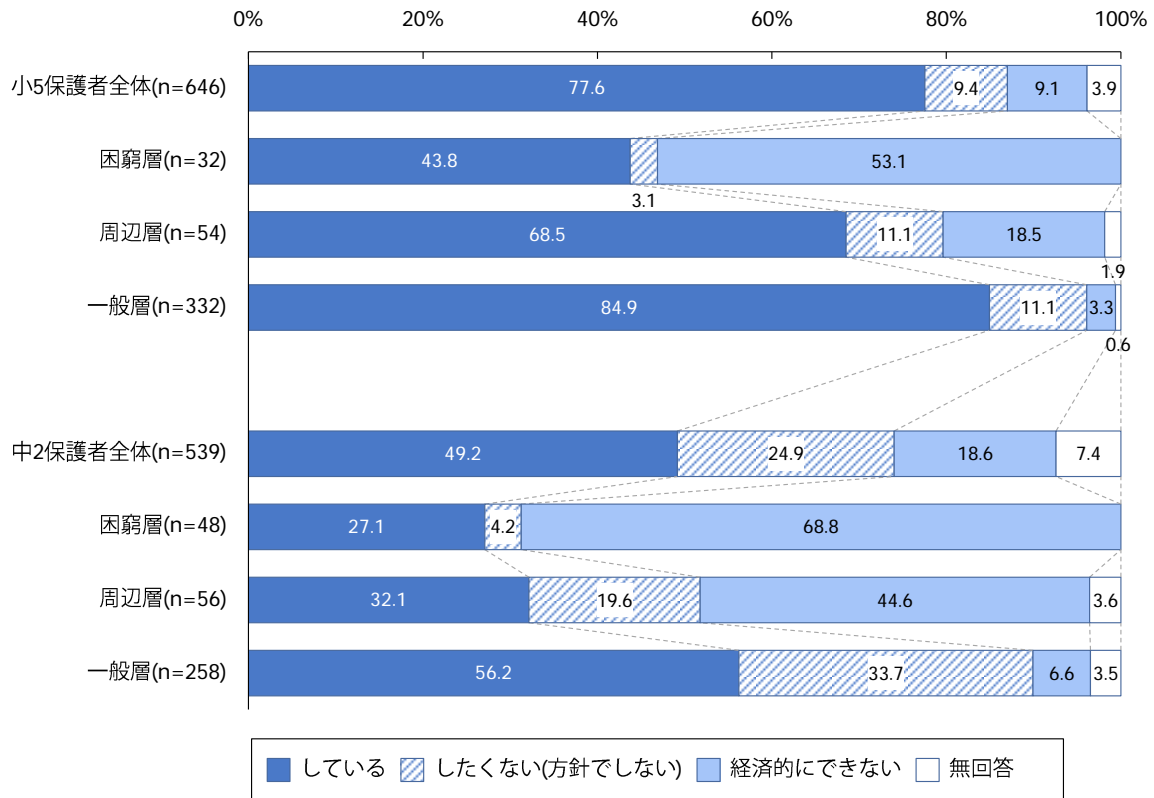
問 33 子どもにしていること/B 毎年新しい洋服・靴を買う



C 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる

習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせることについて、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で53.1%、周辺層で18.5%、一般層で3.3%、中学2年生の困窮層で68.8%、周辺層で44.6%、一般層で6.6%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で非常に高くなっている。

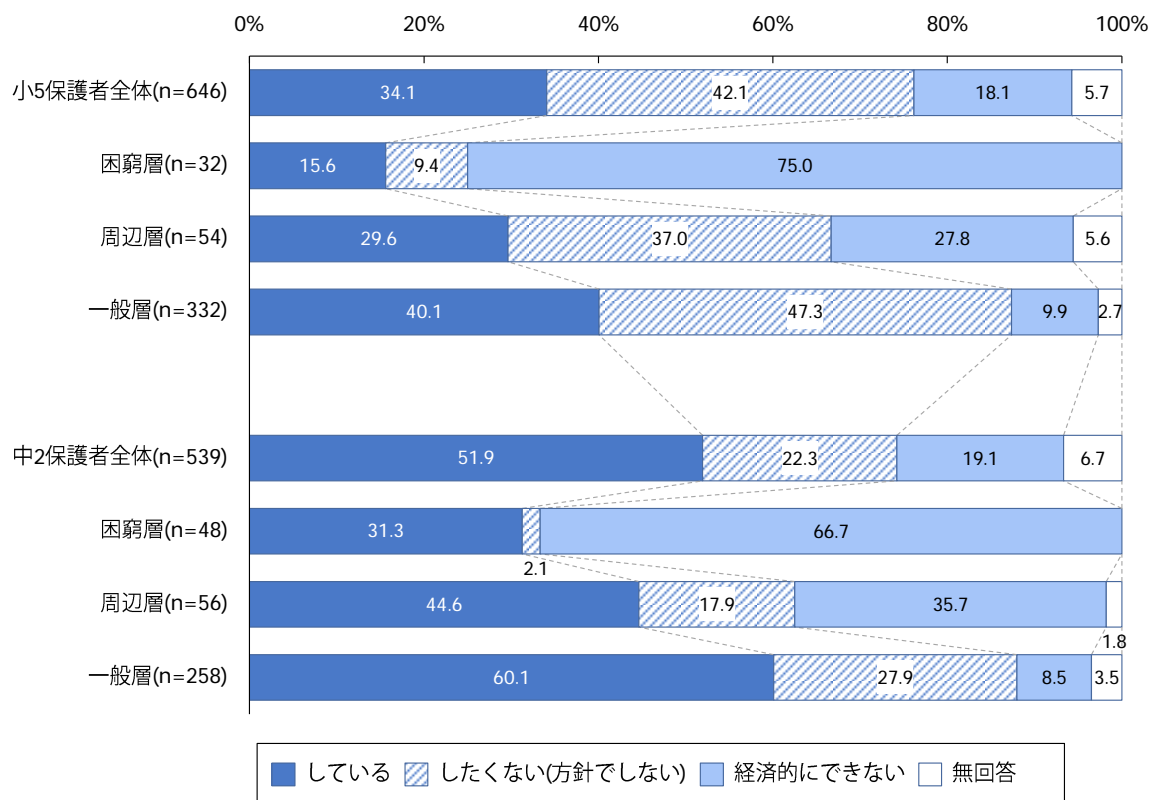
問 33 子どもにしていること/C 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる



D 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）

学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）ことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で75.0%、周辺層で27.8%、一般層で9.9%、中学2年生の困窮層で66.7%、周辺層で35.7%、一般層で8.5%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で非常に高くなっている。

問 33 子どもにしていること/D 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）

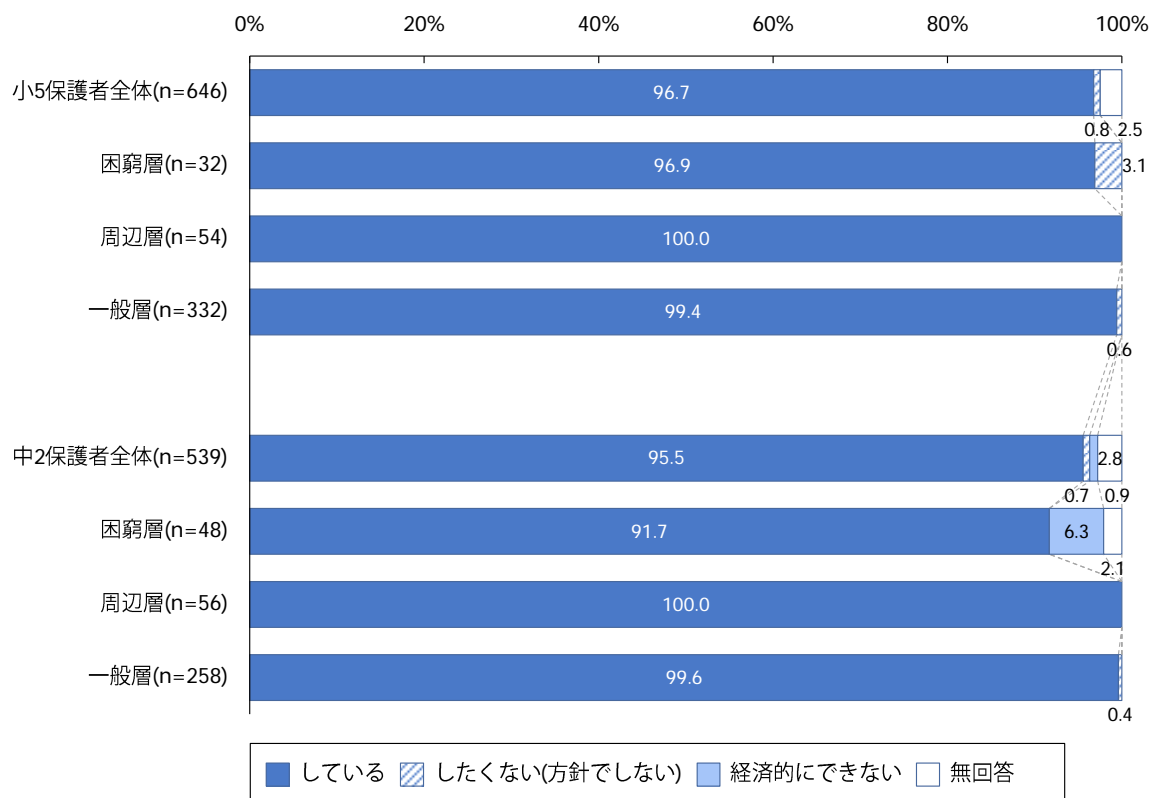


E お誕生日のお祝いをする

お誕生日のお祝いをするについては、「している」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で96.9%、周辺層で100.0%、一般層で99.4%、中学2年生の困窮層で91.7%、周辺層で100.0%、一般層で99.6%となっている。

「経済的にできない」は、中学2年生の困窮層で6.3%と周辺層、一般層に比べてやや高くなっている。

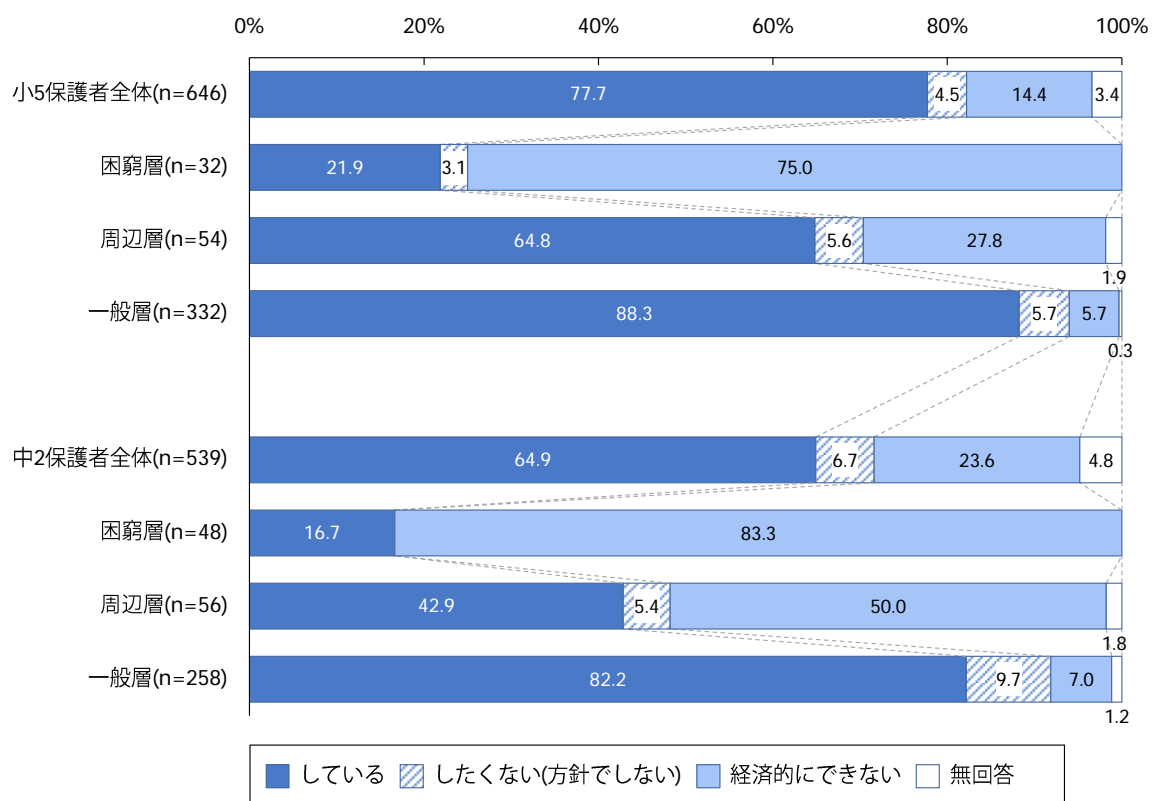
問 33 子どもにしていること/E お誕生日のお祝いをする



F 1年に1回くらい家族旅行に行く

1年に1回くらい家族旅行に行くことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で75.0%、周辺層で27.8%、一般層で5.7%、中学2年生の困窮層で83.3%、周辺層で50.0%、一般層で7.0%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で非常に高くなっている。

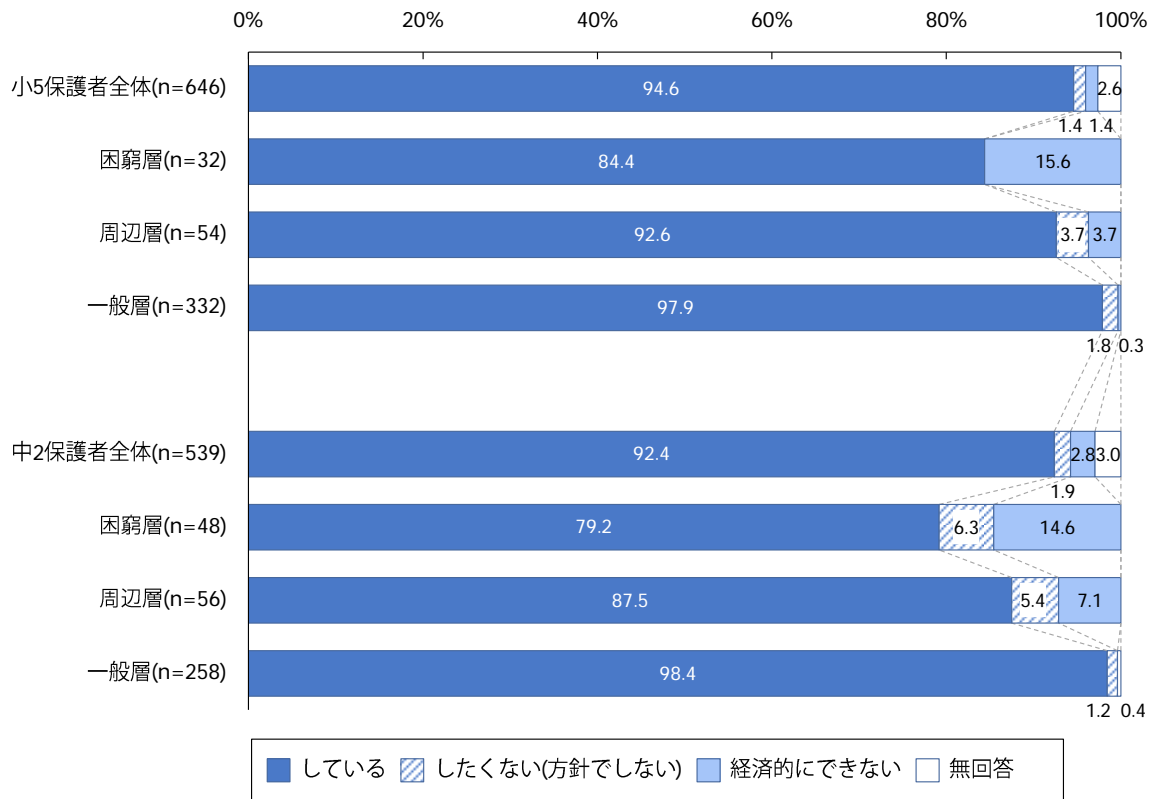
問 33 子どもにしていること/F 1年に1回くらい家族旅行に行く



G クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

クリスマスプレゼントや正月のお年玉をあげるについて、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で15.6%、周辺層で3.7%、一般層で0.3%、中学2年生の困窮層で14.6%、周辺層で7.1%、一般層で0.0%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

問 33 子どもにしていること/G クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

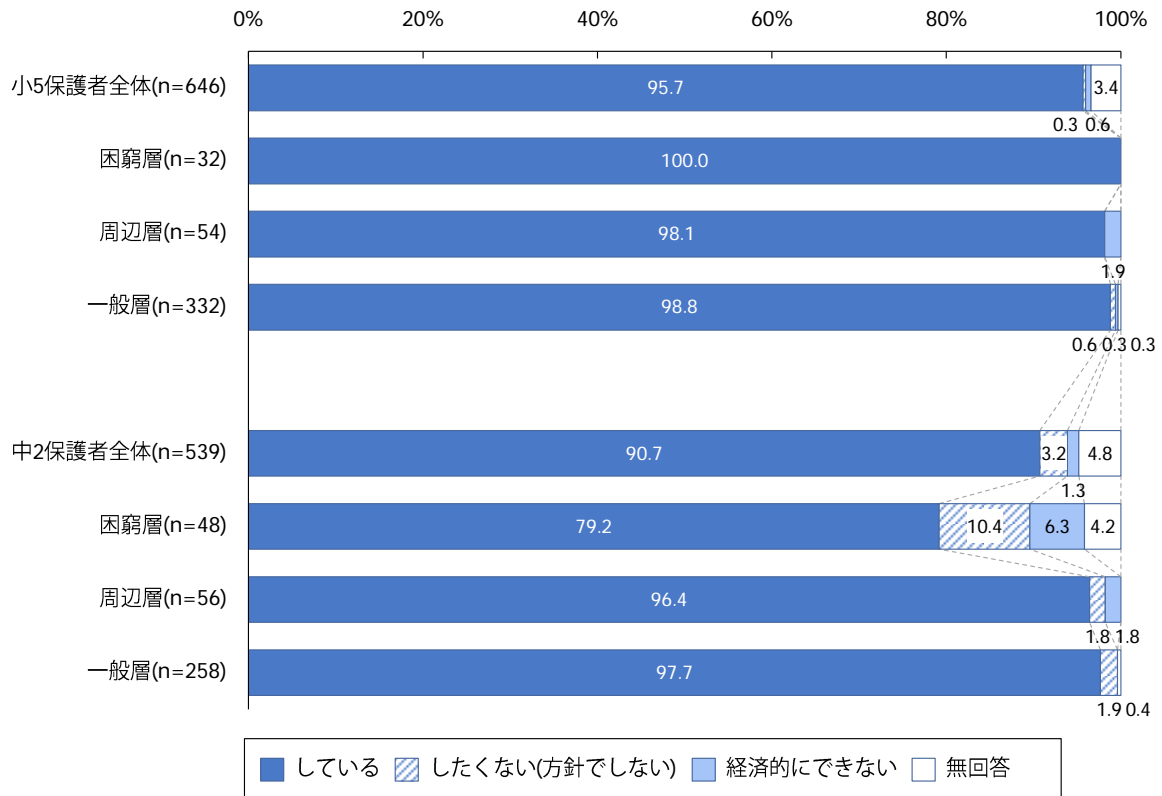


H 子どもの学校行事などへ親が参加する

子どもの学校行事などへ親が参加することについて、「している」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で100.0%、周辺層で98.1%、一般層で98.8%、中学2年生の困窮層で79.2%、周辺層で96.4%、一般層で97.7%となっている。

「したくない(方針でしない)」「経済的にできない」は、中学2年生の困窮層でそれぞれ10.4%、6.3%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 33 子どもにしていること/H 子どもの学校行事などへ親が参加する

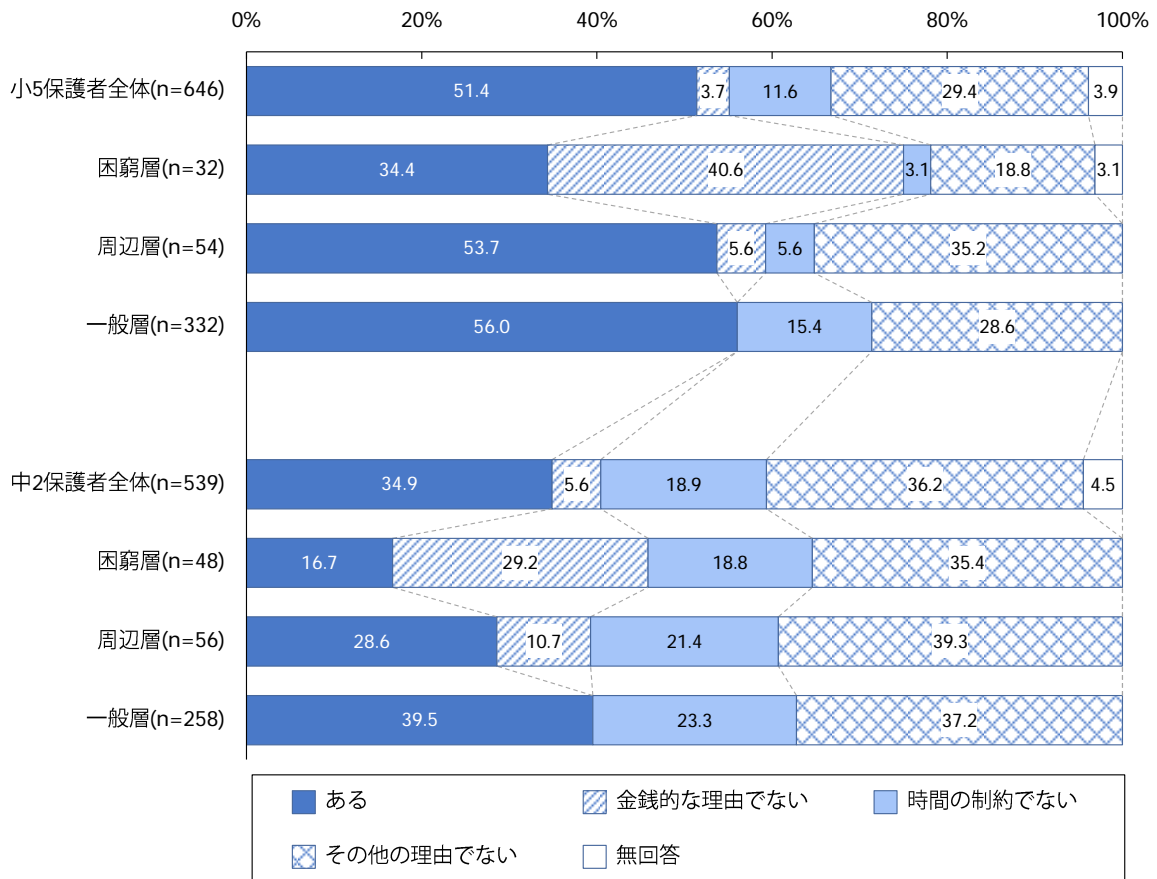


(3) 子どもとの体験（海水浴、博物館等）

A 海水浴に行く

海水浴に行くことについて、「金銭的な理由でない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で40.6%、周辺層で5.6%、一般層で0.0%、中学2年生の困窮層で29.2%、周辺層で10.7%、一般層で0.0%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で非常に高くなっている。

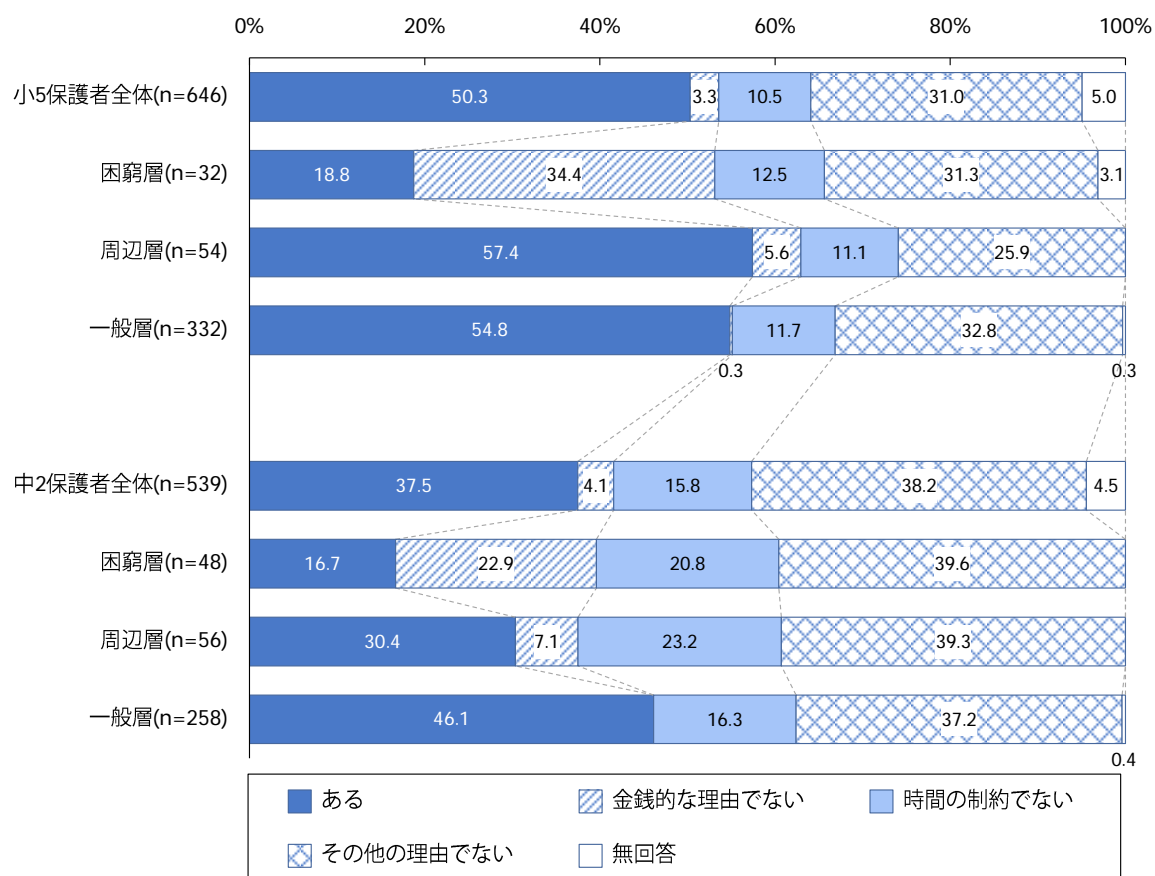
問 25 子どもとの体験/A 海水浴に行く



B 博物館・科学館・美術館などに行く

博物館・科学館・美術館などに行くことについて、「金銭的な理由でない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で34.4%、周辺層で5.6%、一般層で0.3%、中学2年生の困窮層で22.9%、周辺層で7.1%、一般層で0.0%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で非常に高くなっている。

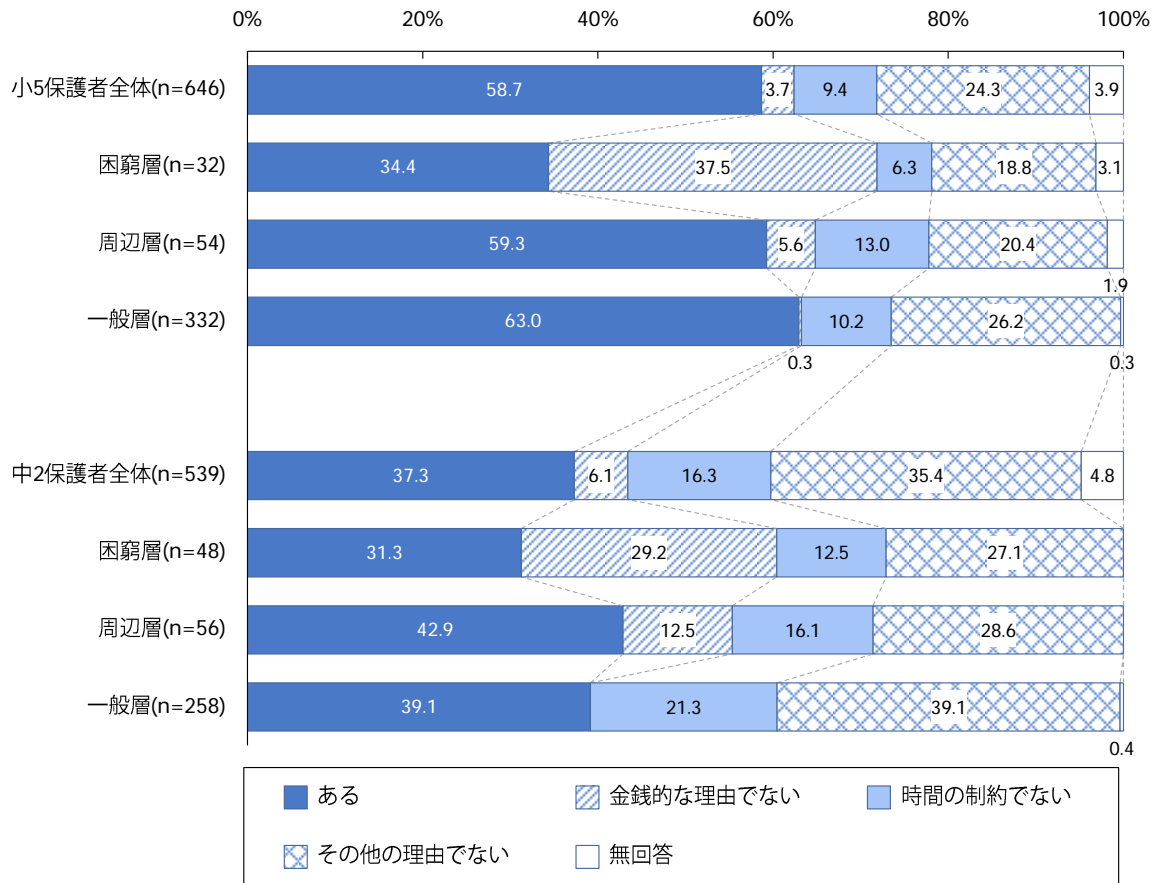
問 25 子どもとの体験/B 博物館・科学館・美術館などに行く



C キャンプやバーベキューに行く

キャンプやバーベキューに行くことについて、「金銭的な理由でない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で37.5%、周辺層で5.6%、一般層で0.3%、中学2年生の困窮層で29.2%、周辺層で12.5%、一般層で0.0%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で非常に高くなっている。

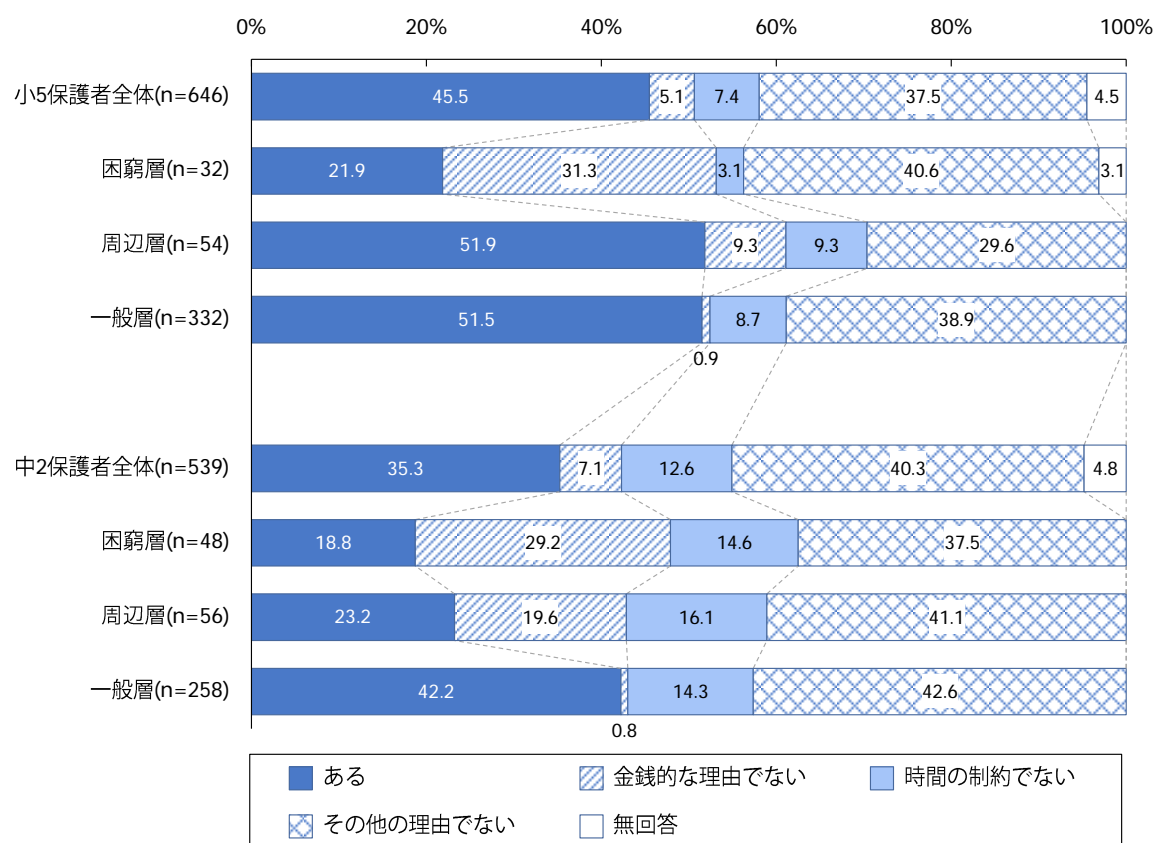
問 25 子どもとの体験/C キャンプやバーベキューに行く



D スポーツ観戦や劇場に行く

スポーツ観戦や劇場に行くことについて、「金銭的な理由でない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で31.3%、周辺層で9.3%、一般層で0.9%、中学2年生の困窮層で29.2%、周辺層で19.6%、一般層で0.8%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で非常に高くなっている。

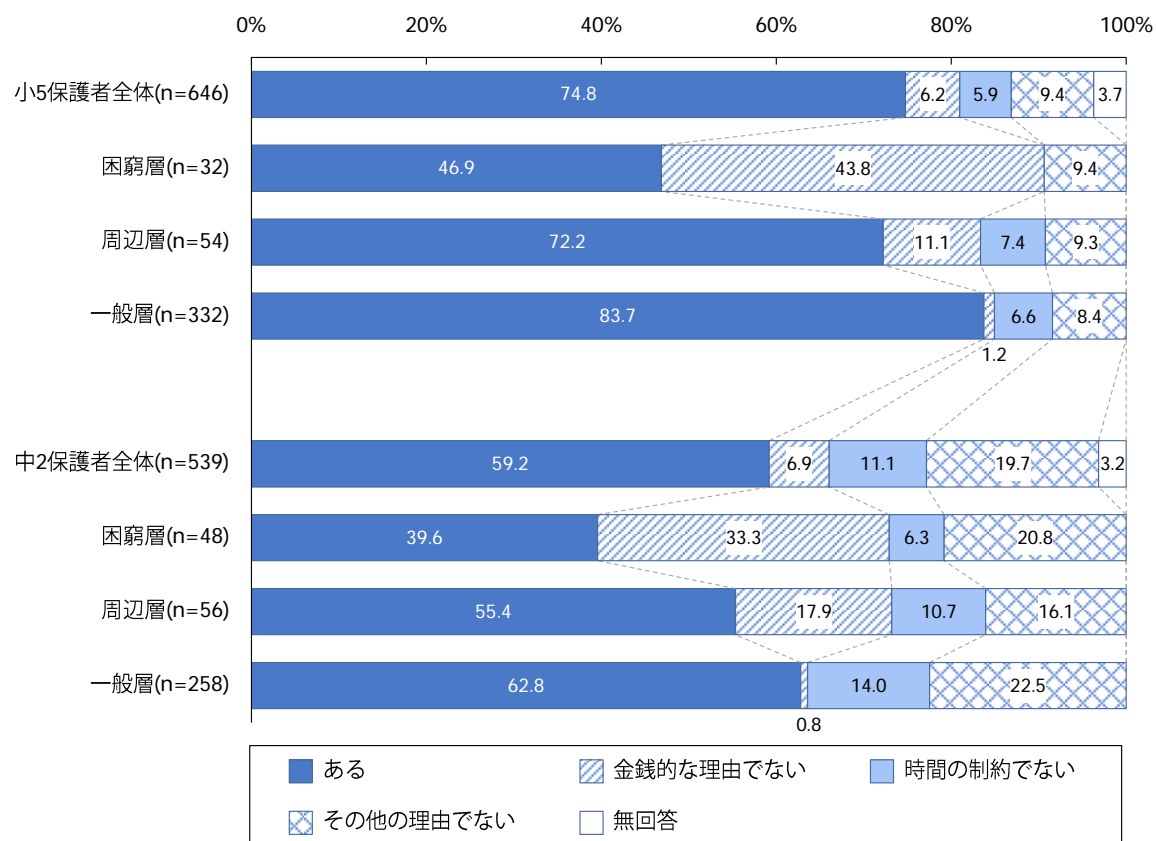
問 25 子どもとの体験/D スポーツ観戦や劇場に行く



E 遊園地やテーマパークに行く

遊園地やテーマパークに行くことについて、「金銭的な理由でない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で43.8%、周辺層で11.1%、一般層で1.2%、中学2年生の困窮層で33.3%、周辺層で17.9%、一般層で0.8%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で非常に高くなっている。

問 25 子どもとの体験/E 遊園地やテーマパークに行く

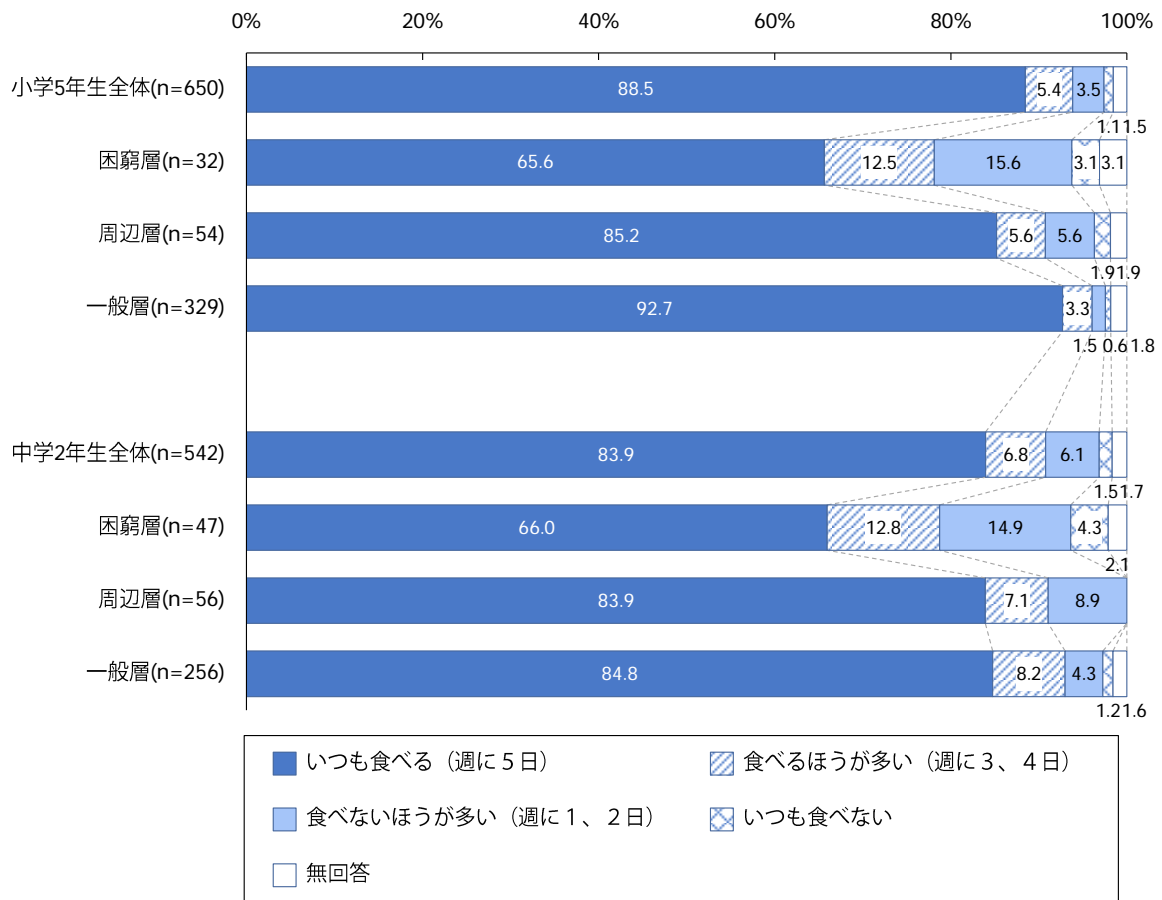


3 子どもの食と栄養

(1) 朝食の摂取状況

子どもの平日（学校に行く日）に朝食を食べる頻度について、「食べないほうが多い（週に1、2日）」と「いつも食べない」を合わせた『食べない』割合は、小学5年生の困窮層で18.7%、周辺層で7.5%、一般層で2.1%、中学2年生の困窮層で19.2%、周辺層で8.9%、一般層で5.5%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

問 17 平日（学校に行く日）に朝食を食べる頻度

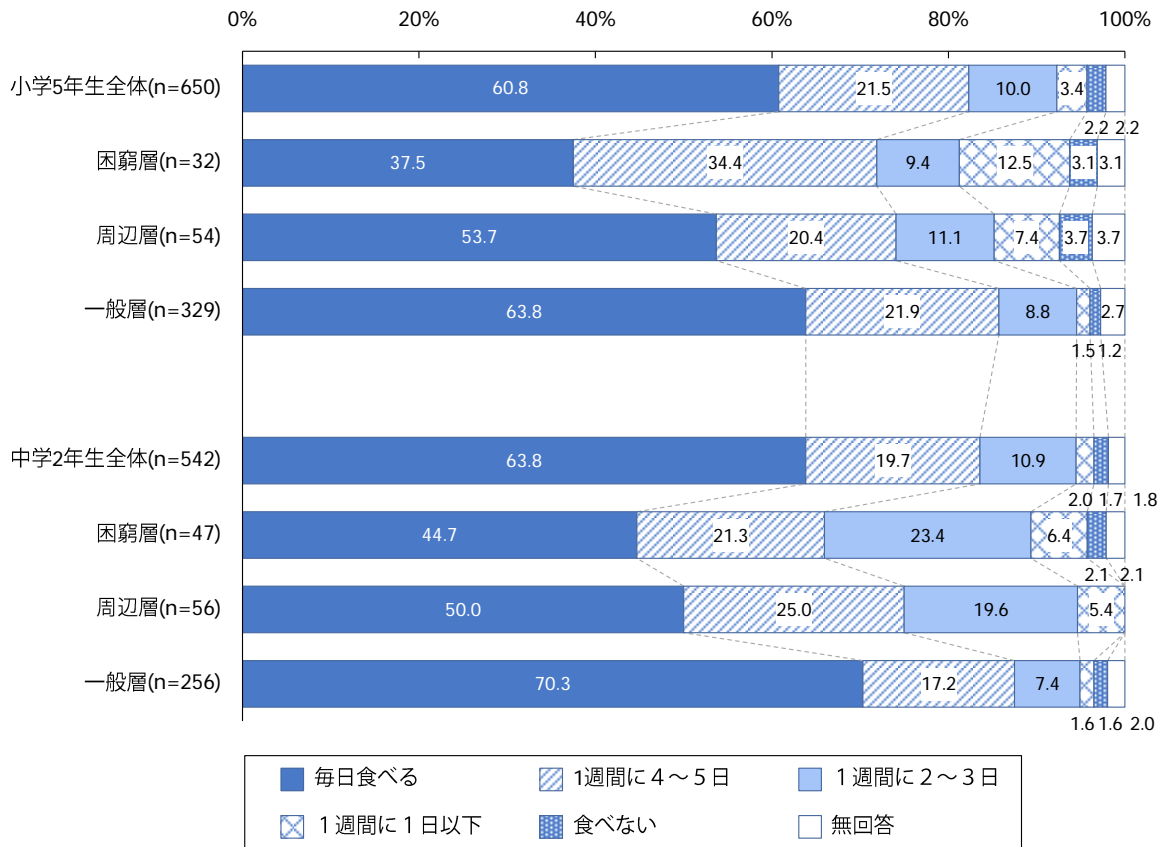


(2) 栄養群の摂取状況

①野菜

野菜の摂取状況について、「毎日食べる」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で37.5%、周辺層で53.7%、一般層で63.8%、中学2年生の困窮層で44.7%、周辺層で50.0%、一般層で70.3%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

問 20 摂食頻度/A 野菜

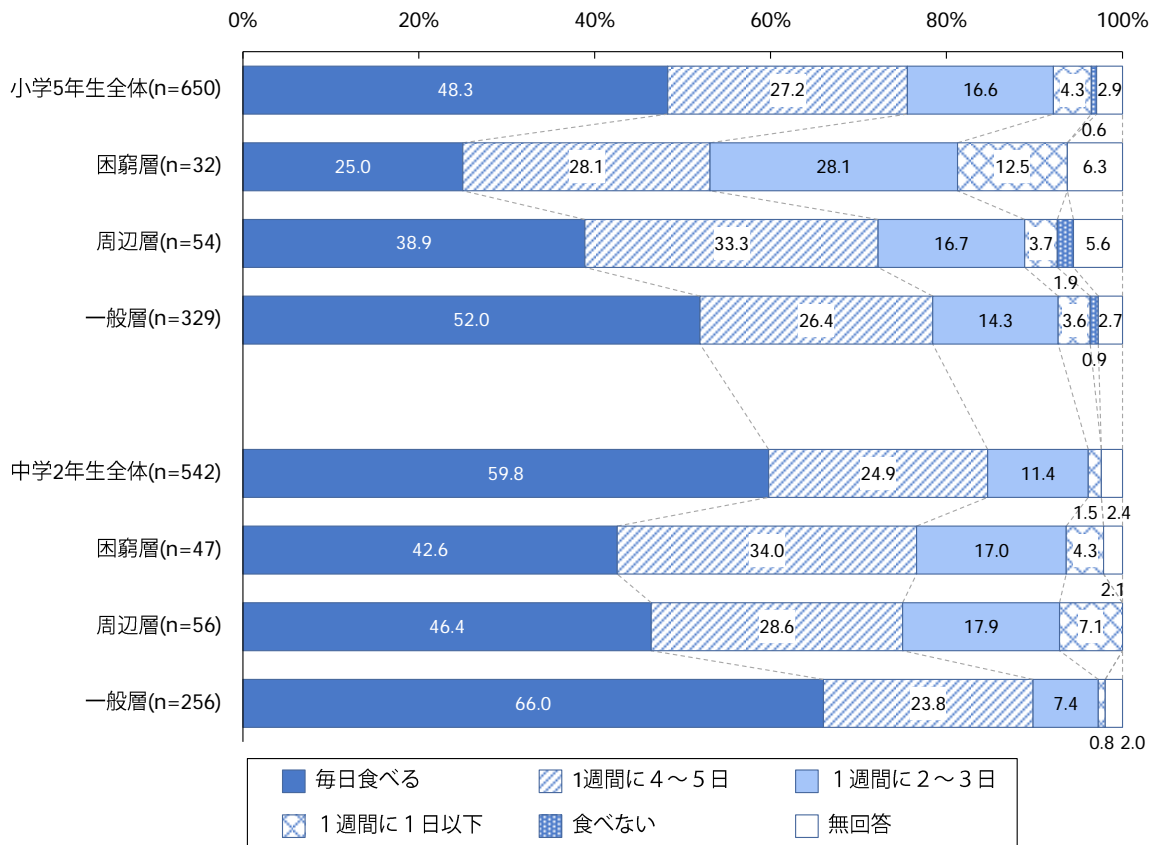


②肉か魚

肉か魚の摂取状況について、「毎日食べる」と「1週間に4～5日」を合わせた『ほぼ食べる』割合は、小学5年生の困窮層で53.1%、周辺層で72.2%、一般層で78.4%、中学2年生の困窮層で76.6%、周辺層で75.0%、一般層で89.8%となっており、小学5年生の困窮層で低くなっている。

「1週間に1日以下」は、小学5年生の困窮層で高くなっている。

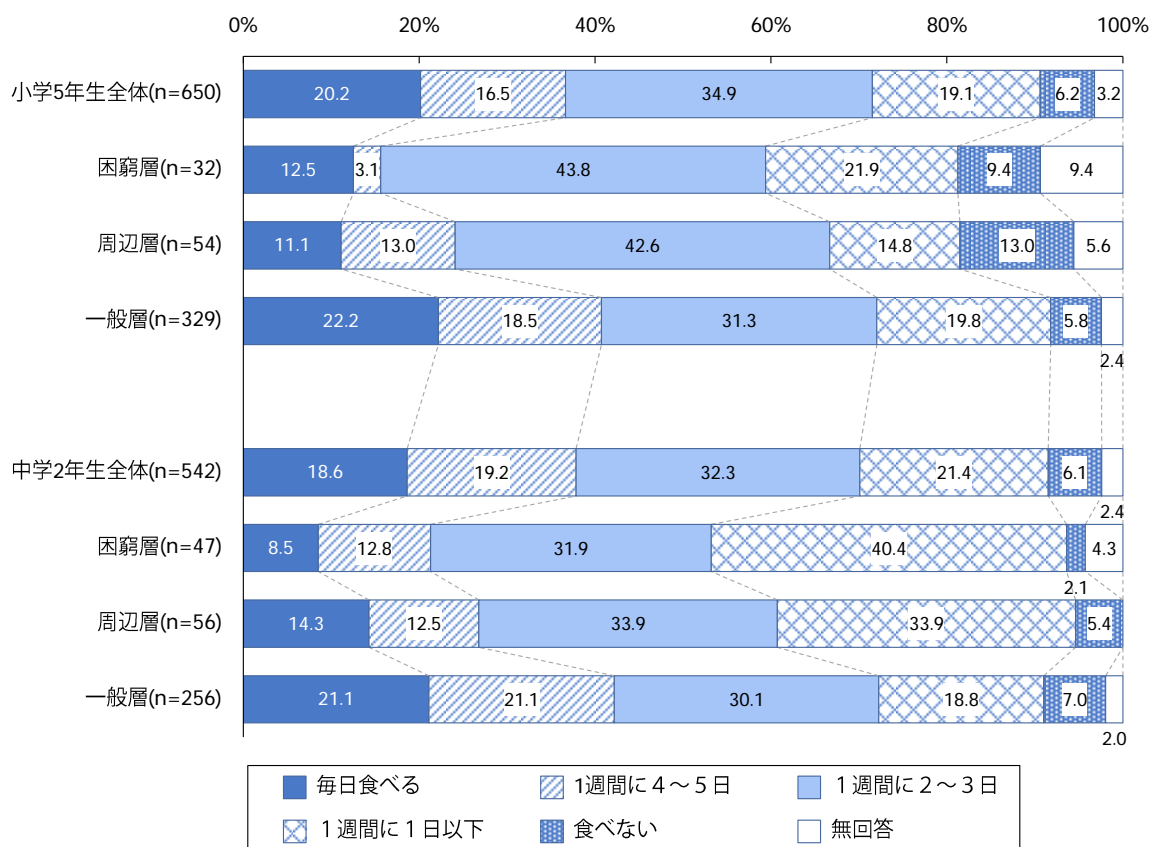
問 20 摂食頻度/C 肉か魚



③くだもの

くだものの摂取状況について、「1週間に1日以下」と「食べない」を合わせた『ほぼ食べない』割合は、小学5年生の困窮層で31.3%、周辺層で27.8%、一般層で25.6%、中学2年生の困窮層で42.5%、周辺層で39.3%、一般層で25.8%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でやや高くなっている。

問 20 摂食頻度/B くだもの

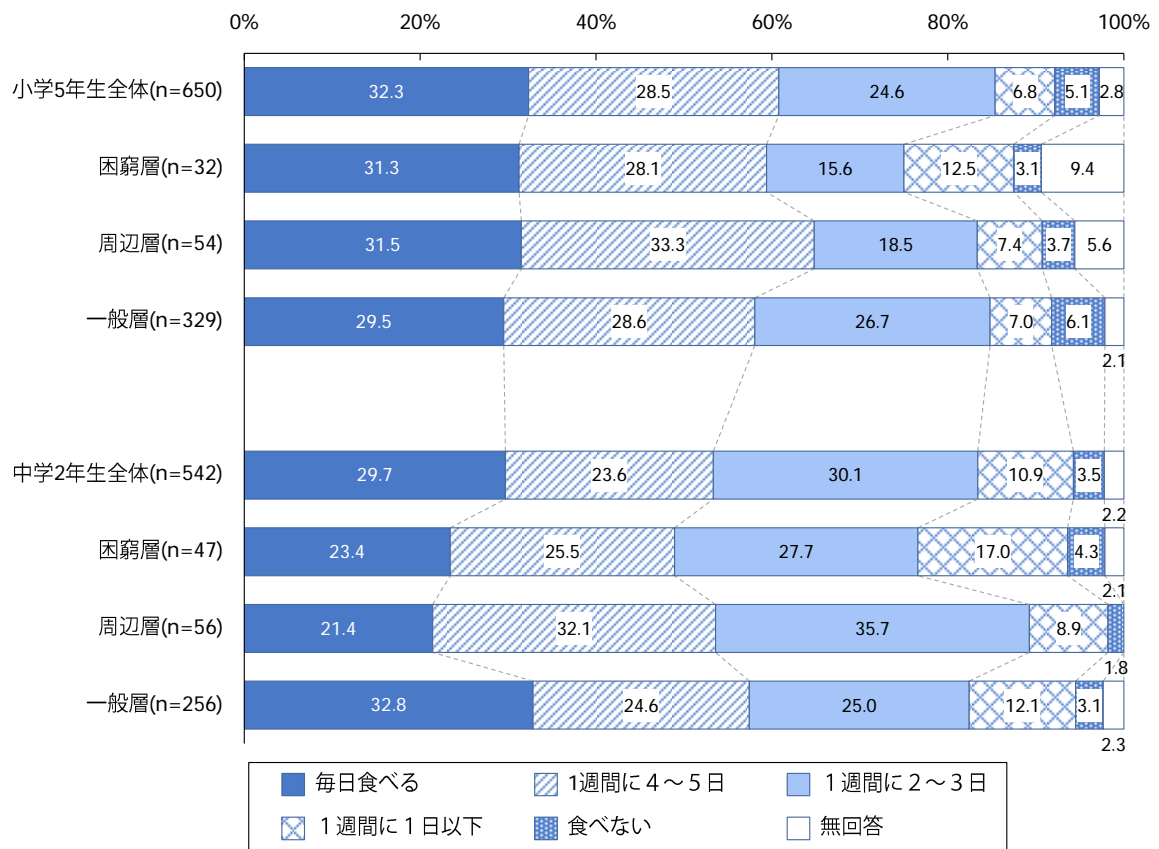


④お菓子

お菓子の摂取状況について、「毎日食べる」と「1週間に4～5日」を合わせた『ほぼ食べる』割合は、小学5年生の困窮層で59.4%、周辺層で64.8%、一般層で58.1%、中学2年生の困窮層で48.9%、周辺層で53.5%、一般層で57.4%となっている。

「1週間に1日以下」と「食べない」を合わせた『ほぼ食べない』割合は、小学5年生の困窮層で15.6%、周辺層で11.1%、一般層で13.1%、中学2年生の困窮層で21.3%、周辺層で11.0%、一般層で15.2%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でやや高くなっている。

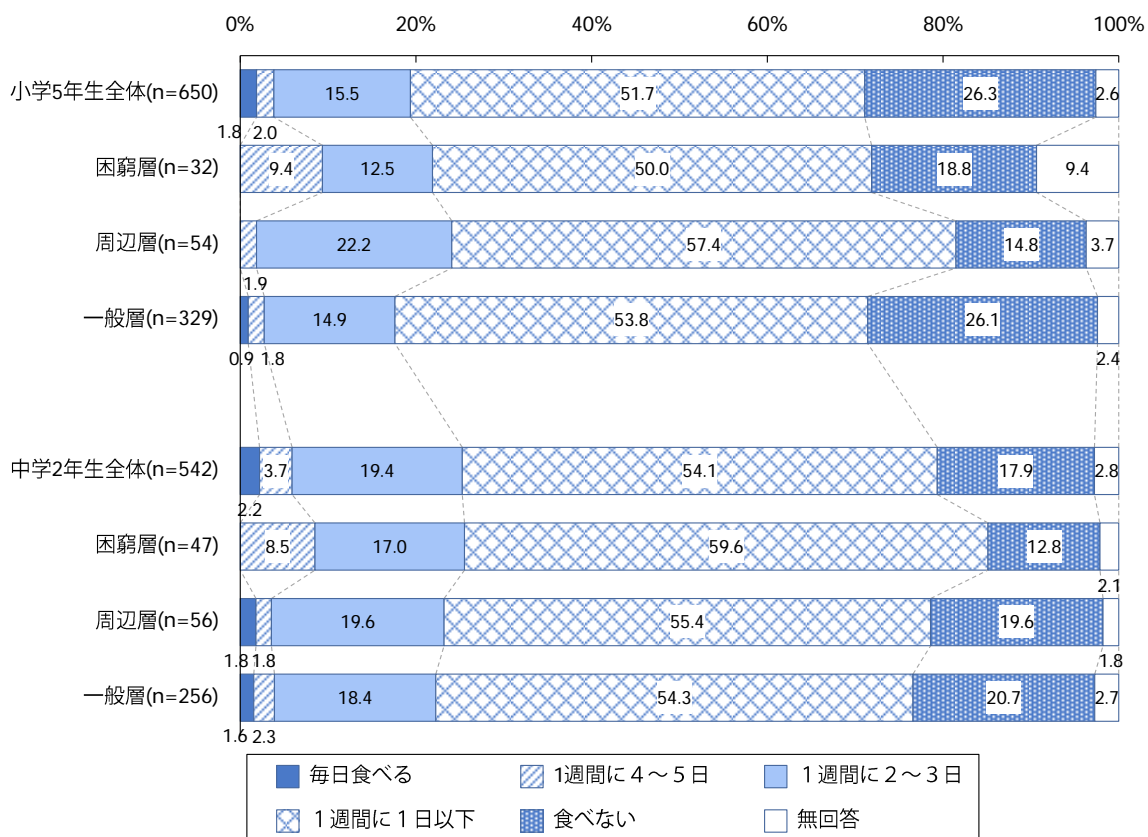
問 20 摂食頻度/F お菓子



⑤カップめん・インスタントめん・コンビニのおにぎり・お弁当 カップめん・インスタントめん

カップめん・インスタントめんの摂取状況について、「毎日食べる」と「1週間に4～5日」を合わせた『ほぼ食べる』割合は、小学5年生の困窮層で9.4%、周辺層で1.9%、一般層で2.7%、中学2年生の困窮層で8.5%、周辺層で3.6%、一般層で3.9%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

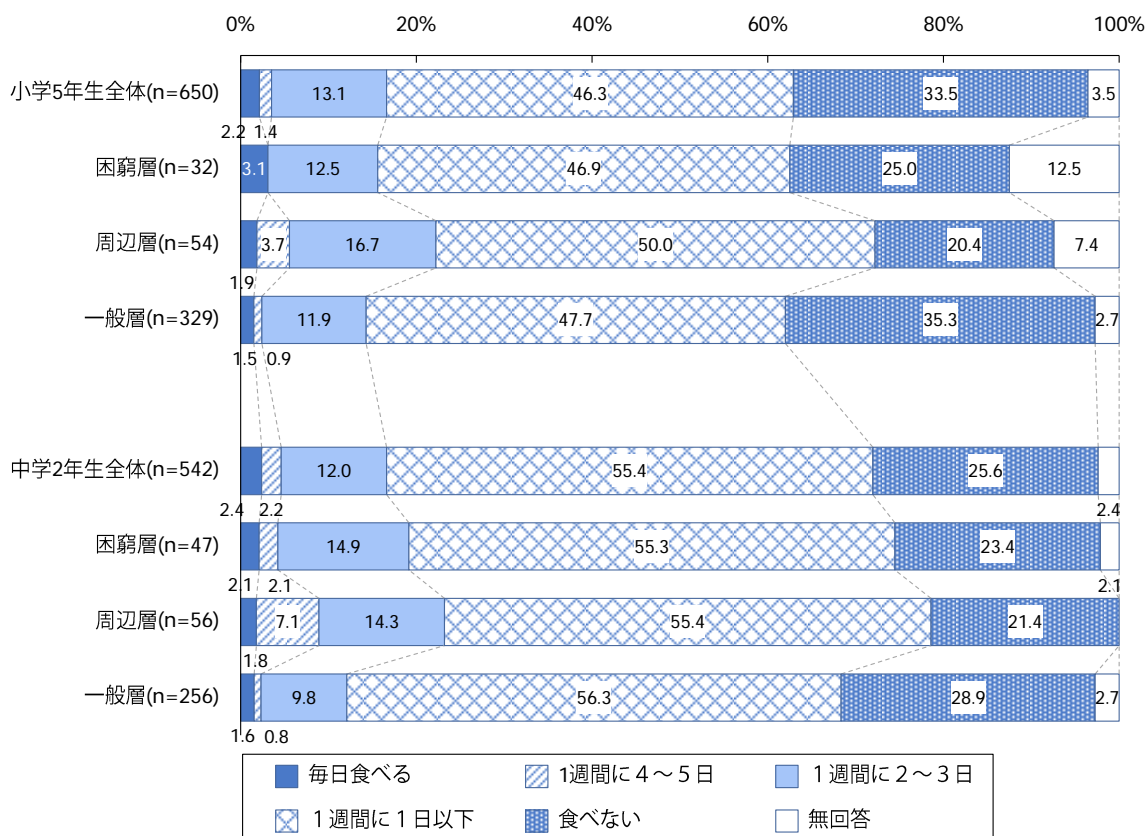
問 20 摂食頻度/D カップめん・インスタントめん



コンビニのおにぎり・お弁当

コンビニのおにぎり・お弁当の摂取状況について、「毎日食べる」と「1週間に4～5日」を合わせた『ほぼ食べる』割合は、小学5年生の困窮層で3.1%、周辺層で5.6%、一般層で2.4%、中学2年生の困窮層で4.2%、周辺層で8.9%、一般層で2.4%となっており、小学5年生、中学2年生ともに周辺層でやや高くなっている。

問 20 摂食頻度/E コンビニのおにぎり・お弁当



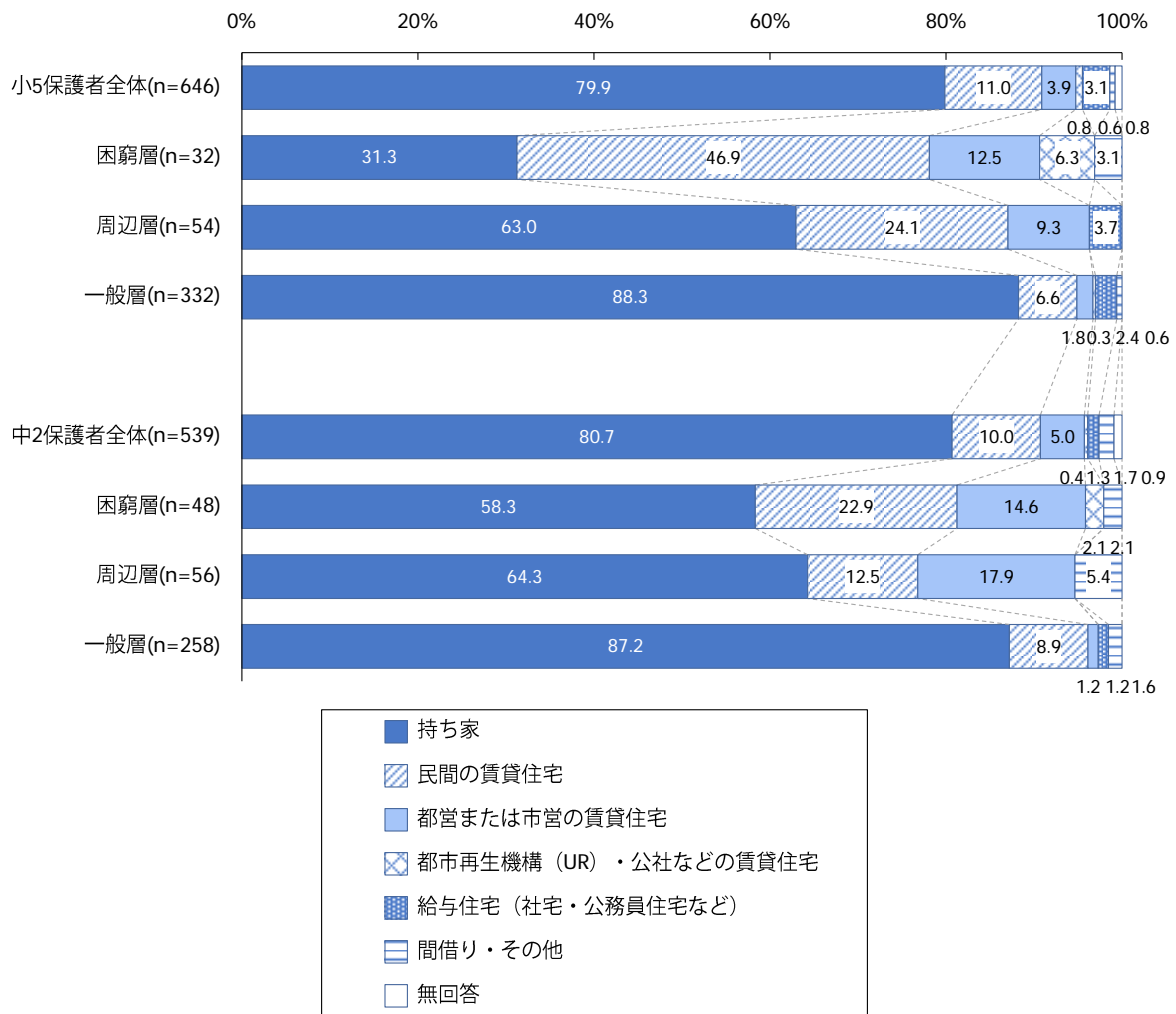
4 住宅の状況

(1) 住宅の種類

住宅の種類について、「持ち家」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で31.3%、周辺層で63.0%、一般層で88.3%、中学2年生の困窮層で58.3%、周辺層で64.3%、一般層で87.2%となっており、小学校5年生、中学2年生ともに、困窮層で低くなっている。

「民間の賃貸住宅」は、小学校5年生、中学2年生ともに、困窮層でそれぞれ46.9%、22.9%と高くなっている。

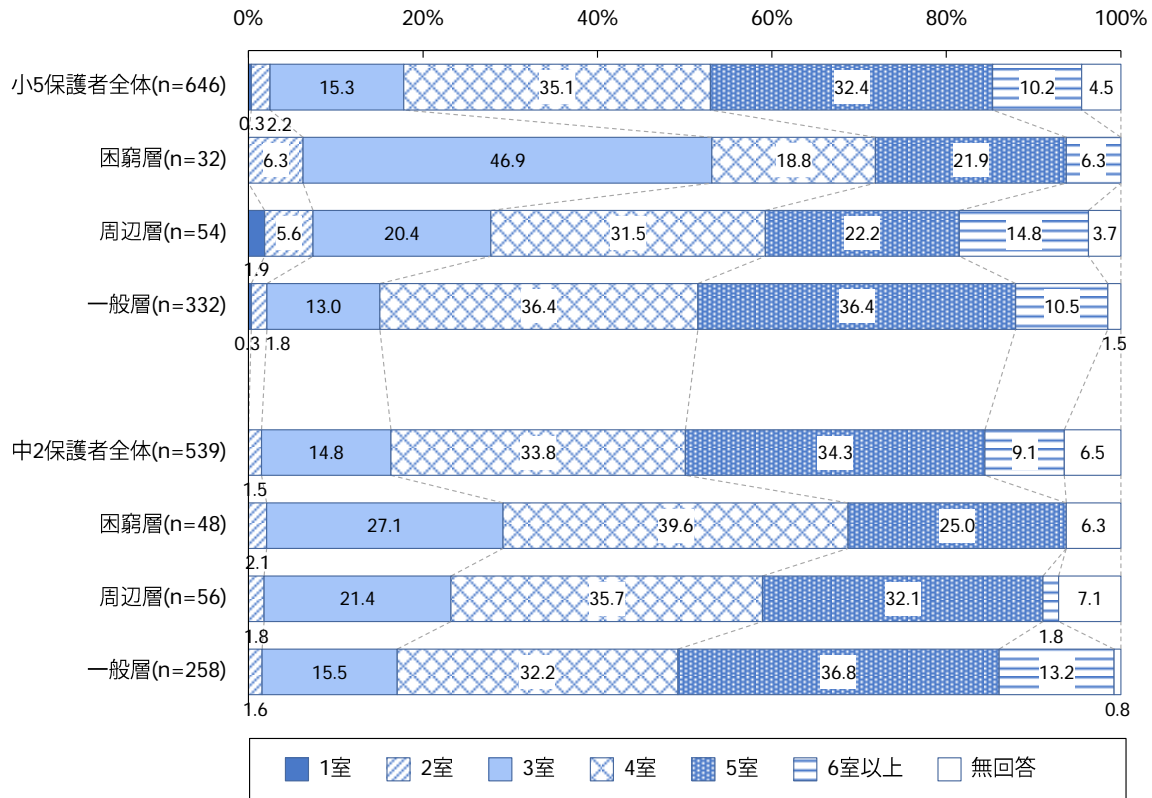
問9 住居形態



(2) 居住用の部屋数

玄関や風呂などを含めない居住用の部屋数について、小学5年生の困窮層では「3室」が46.9%、周辺層では「4室」が31.5%、一般層では「4室」「5室」がともに36.4%と最も高くなっている。中学2年生では困窮層、周辺層ともに「4室」がそれぞれ39.6%、35.7%、一般層で「5室」が36.8%と最も高くなっている。

問9-1 居住用の部屋数

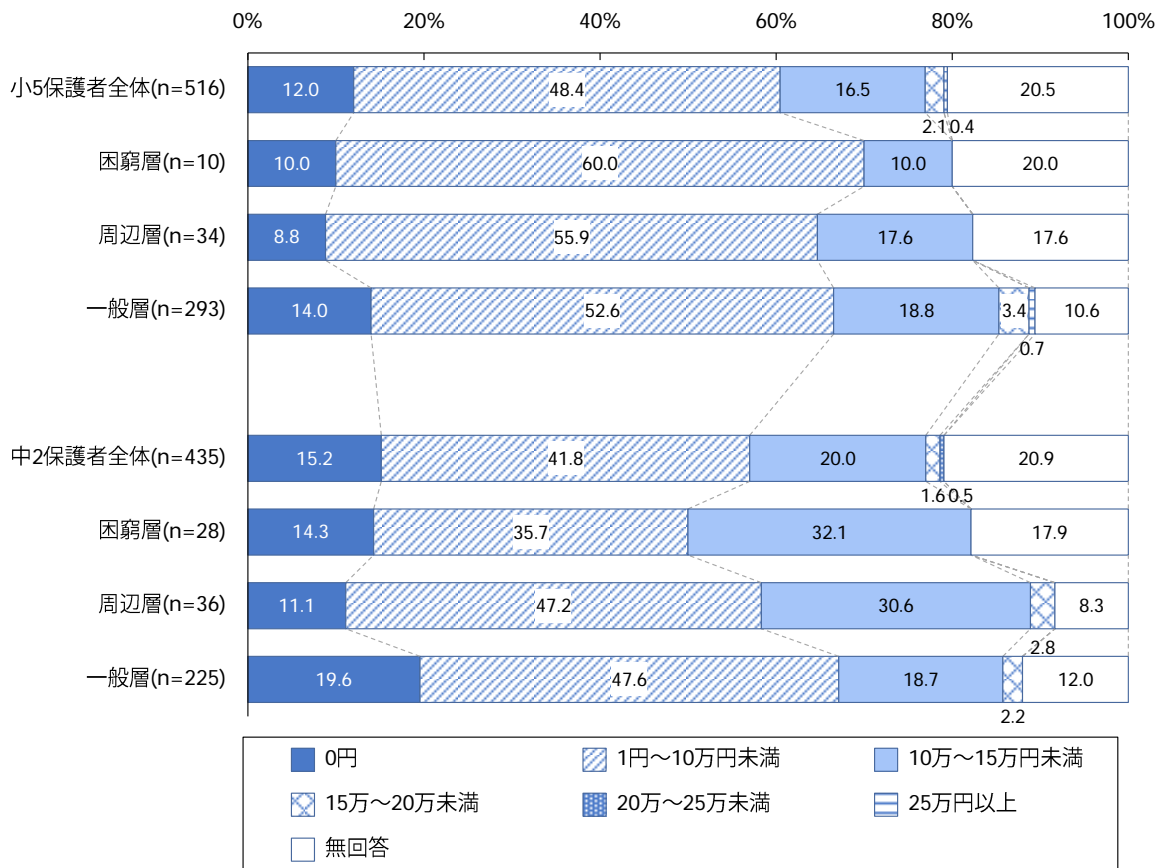


(3) 住居費

①持ち家の住居費（住宅ローン）

持ち家の1か月あたりの住宅ローン返済額について、「1円～10万円未満」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で60.0%、周辺層で55.9%、一般層で52.6%、中学2年生の困窮層で35.7%、周辺層で47.2%、一般層で47.6%となっており、各層とも最も高くなっている。

問9-2 A 持ち家【1か月あたりの住宅ローン返済額】

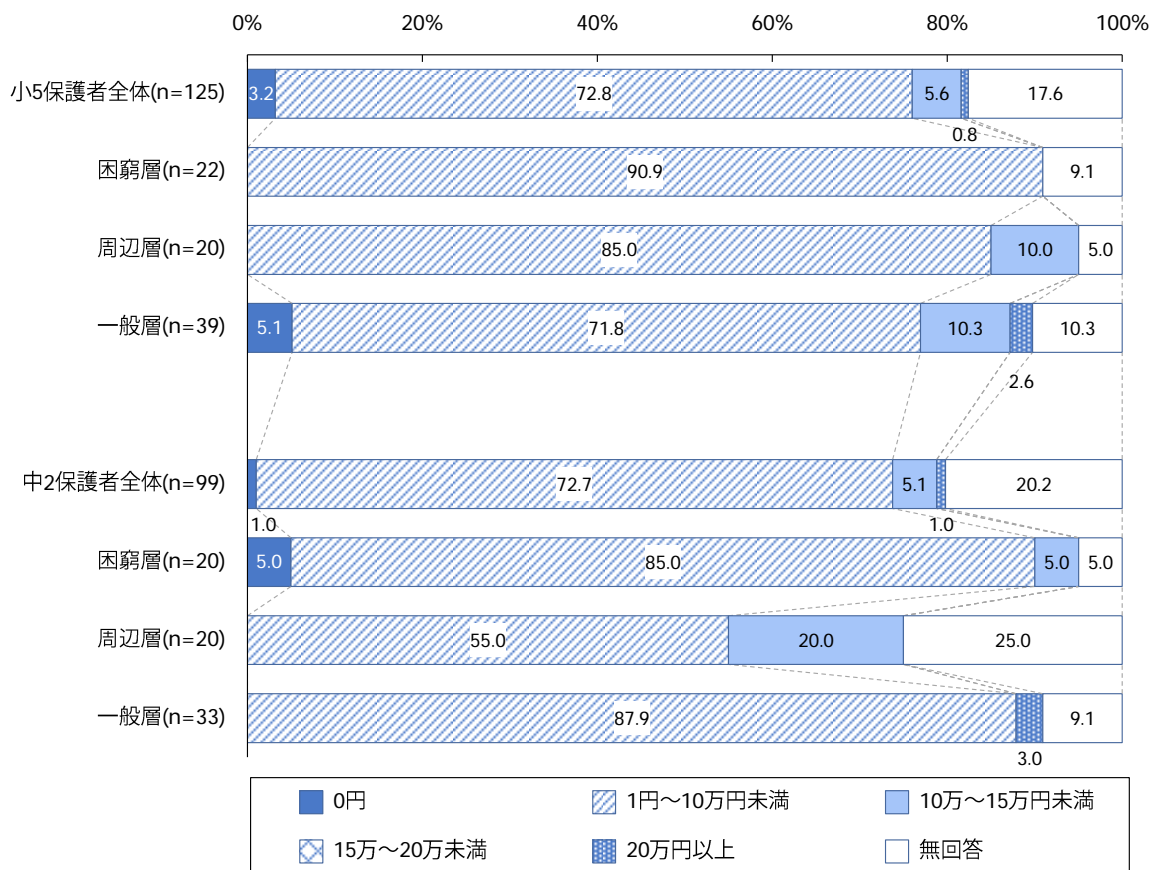


②賃貸住宅の住居費（家賃・間代）

賃貸住宅の家賃・間代について、「1円～10万円未満」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で90.9%、周辺層で85.0%、一般層で71.8%、中学2年生の困窮層で85.0%、周辺層で55.0%、一般層で87.9%となっており、各層とも最も高くなっている。

「10万～15万円未満」は、中学2年生の周辺層で困窮層、一般層に比べて高くなっている。

問9-2 B 賃貸住宅【家賃・間代】



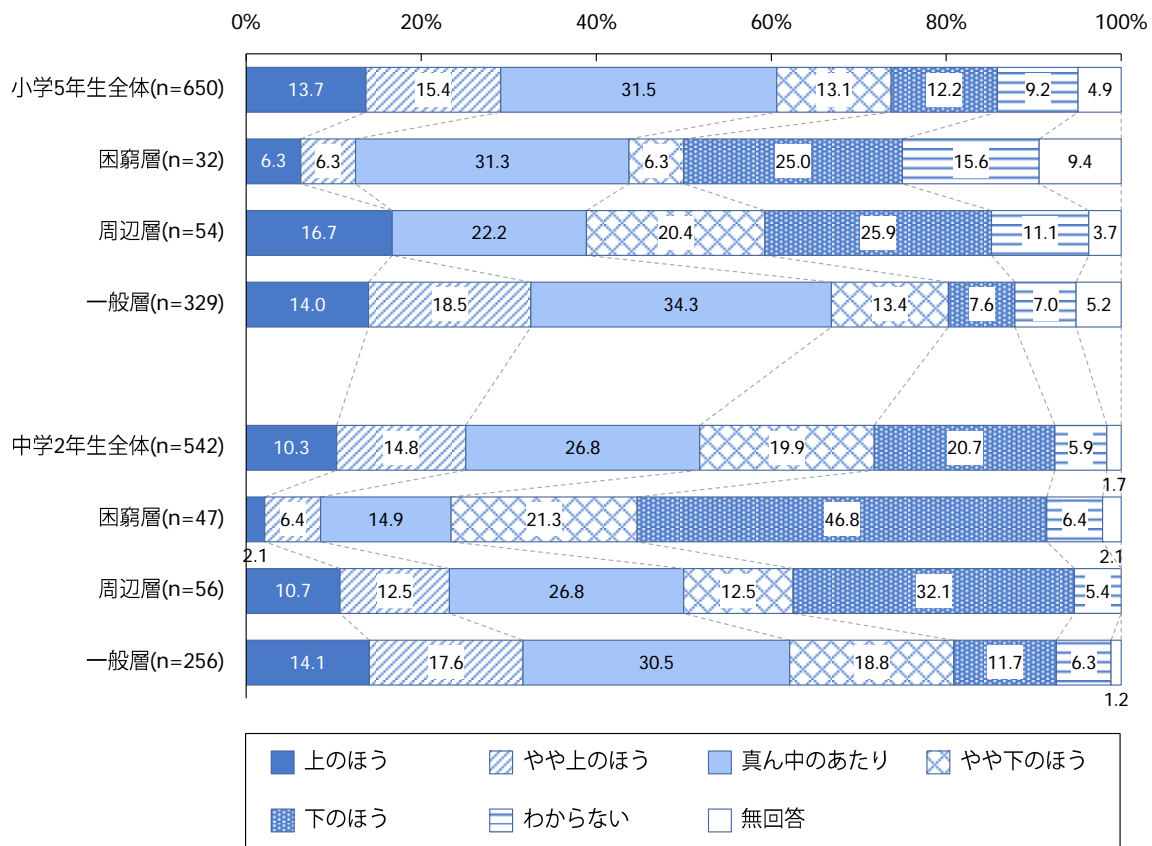
第3部 子どもの学び

1 学校の成績についての主観的評価

(1) 成績の主観的評価

子どもが自分の成績をどのように評価しているかについて、「上のほう」と「やや上のほう」を合わせて『上のほう』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で12.6%、周辺層で16.7%、一般層で32.5%、中学2年生の困窮層で8.5%、周辺層で23.2%、一般層で31.7%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

問 26 クラスの中での成績評価

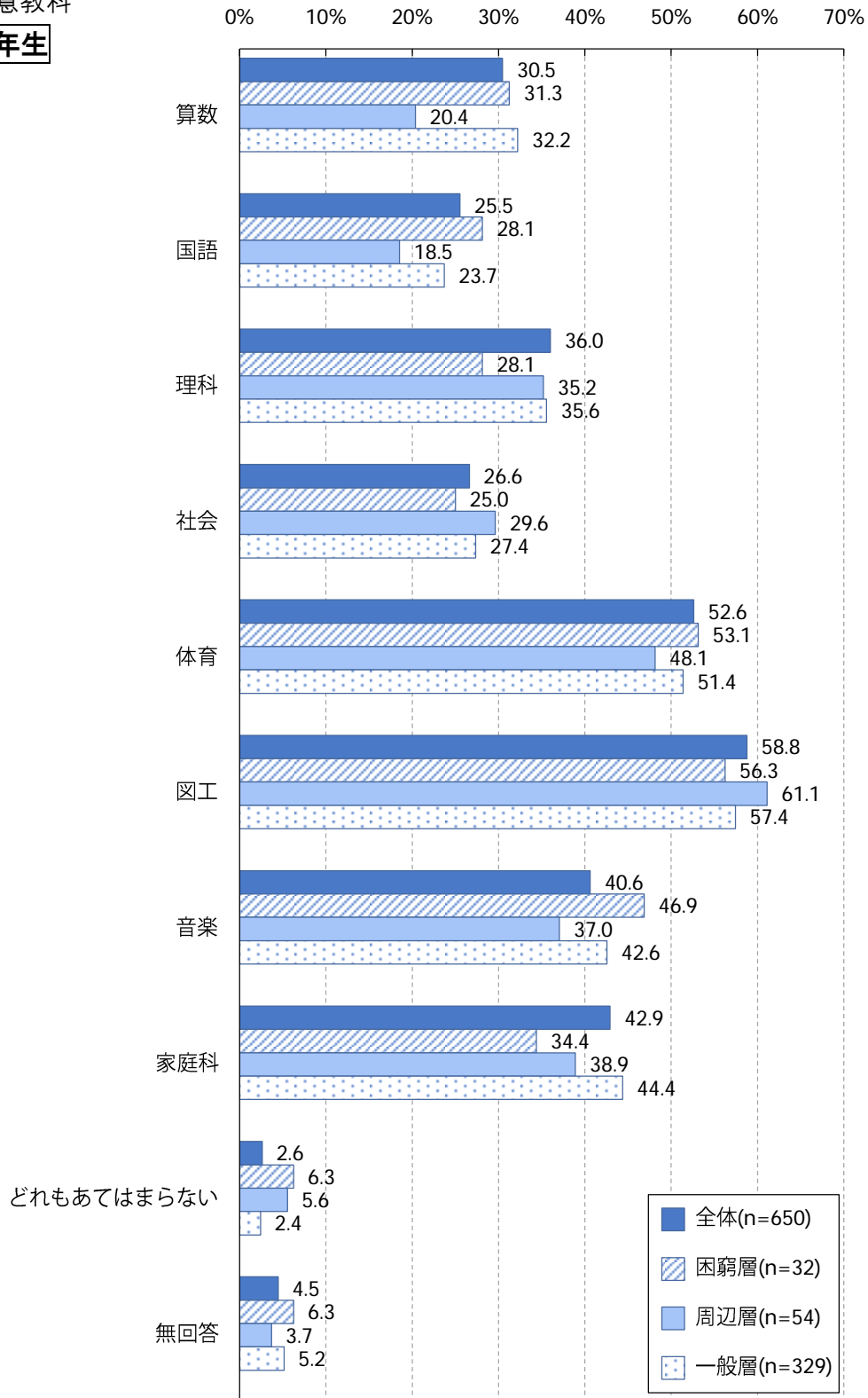


(2) 得意教科

小学5年生の得意教科について、全体では「図工」が58.8%と最も高く、次いで「体育」が52.6%、「家庭科」が42.9%、「音楽」が40.6%となっている。

問 27 得意教科

小学5年生

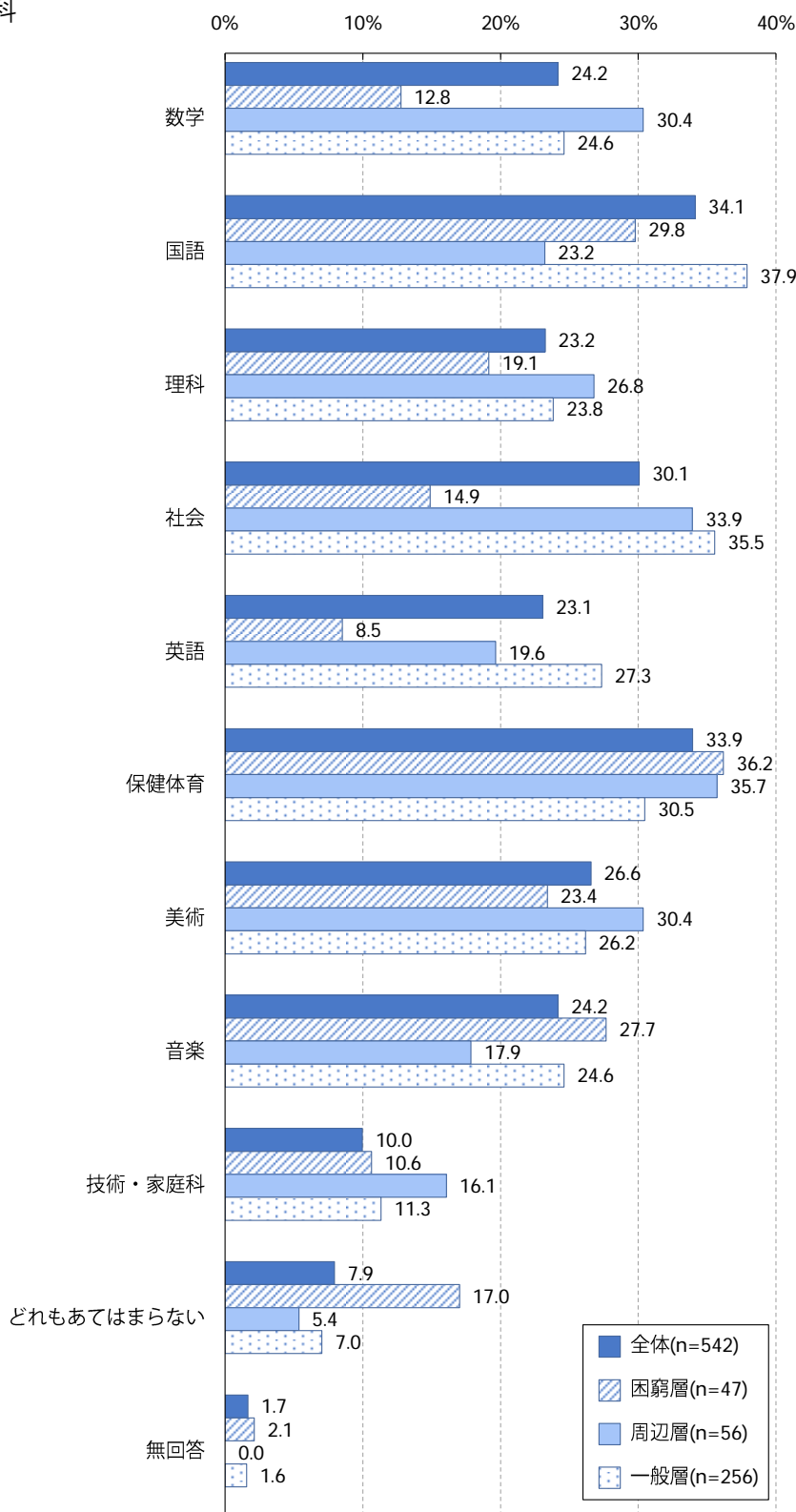


中学2年生の得意教科について、全体では「国語」が34.1%と最も高く、次いで「保健体育」が33.9%、「社会」が30.1%となっている。

「数学」「国語」「理科」「社会」「英語」の主要5教科では、一般層で困窮層、周辺層に比べて高くなっている。

問 27 得意教科

中学2年生



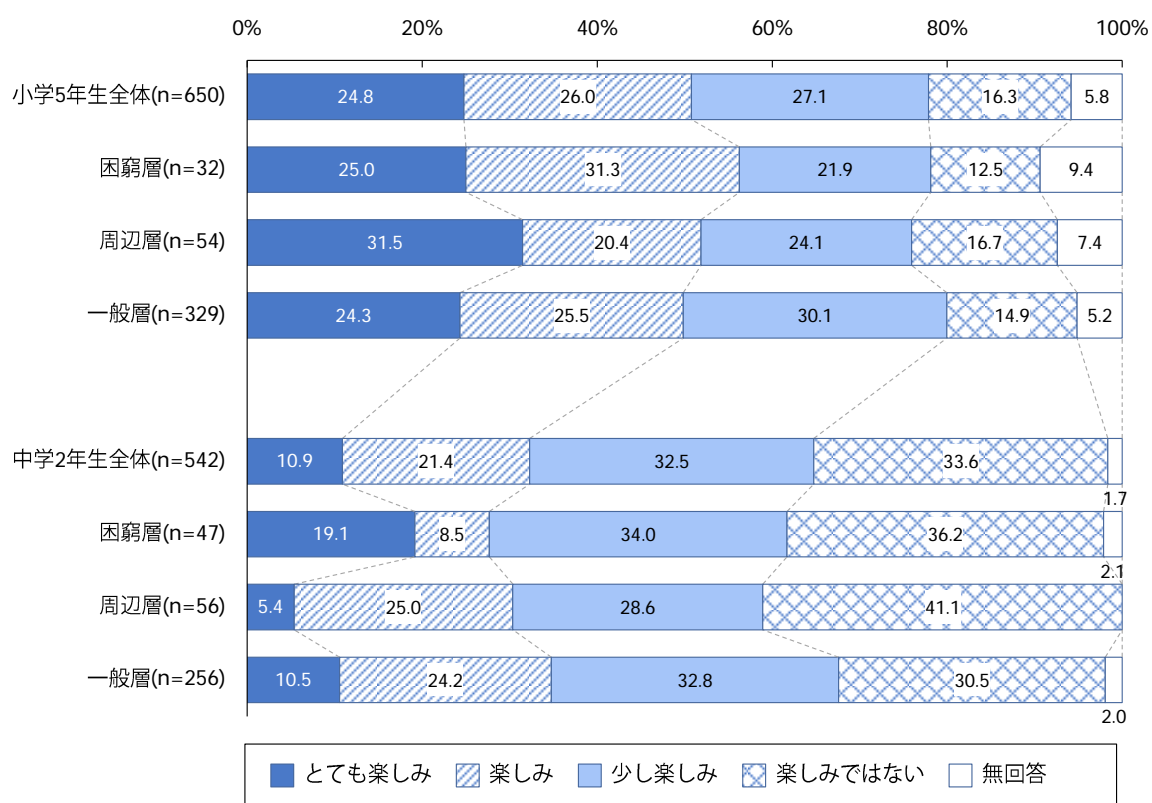
(3) 学校生活の楽しみ

A 学校の授業（体育/保健体育・音楽・図工/美術・家庭科/技術・家庭科以外）

体育/保健体育・音楽・図工/美術・家庭科/技術・家庭科以外の学校の授業について、「とても楽しみ」と「楽しみ」を合わせた『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で56.3%、周辺層で51.9%、一般層で49.8%、中学2年生の困窮層で27.6%、周辺層で30.4%、一般層で34.7%となっており、小学5年生の困窮層で高く、中学2年生は一般層で高くなっている。

『楽しみ』は、全体的に小学5年生の方が中学2年生よりも高くなっている。

問 23 学校生活の楽しみ/A 学校の授業（体育/保健体育・音楽・図工/美術・家庭科/技術・家庭科以外）

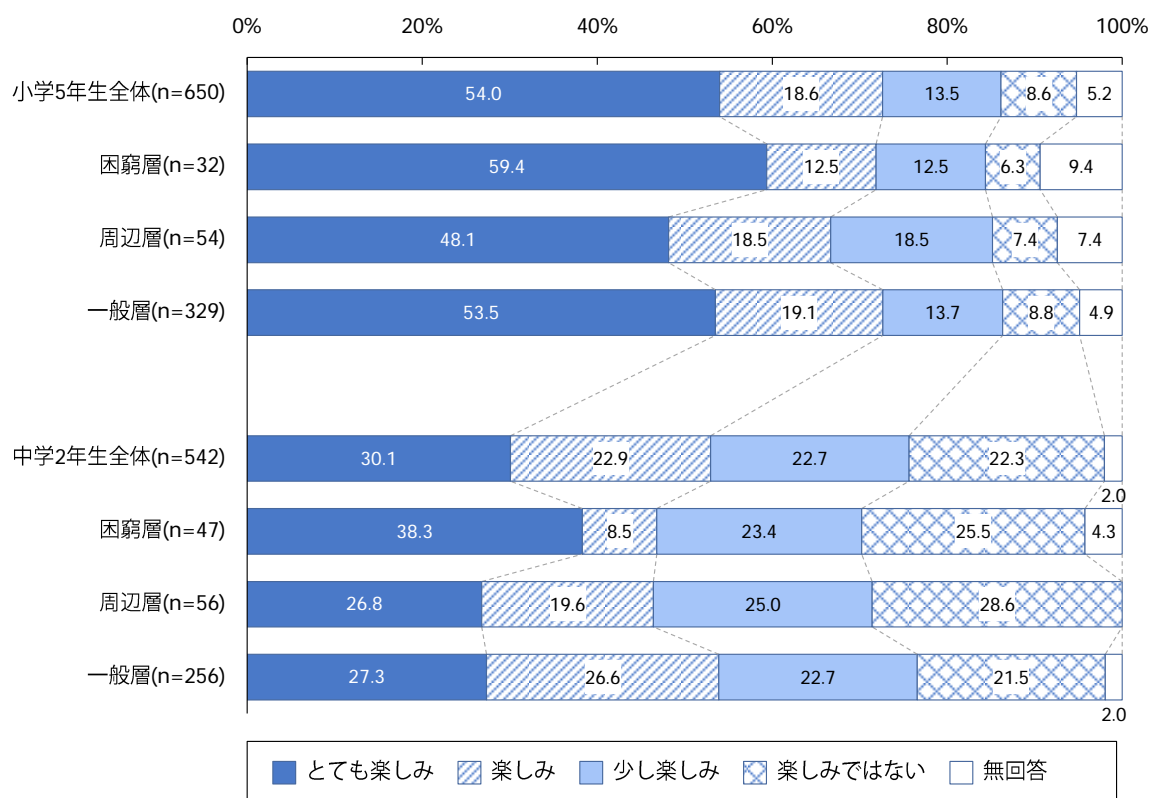


B 体育/保健体育

体育／保健体育について、「とても楽しみ」と「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で71.9%、周辺層で66.6%、一般層で72.6%、中学2年生の困窮層で46.8%、周辺層で46.4%、一般層で53.9%となっている。

『楽しみ』は、全体的に小学5年生の方が中学2年生よりも高くなっている。

問 23 学校生活の楽しみ/B 体育/保健体育

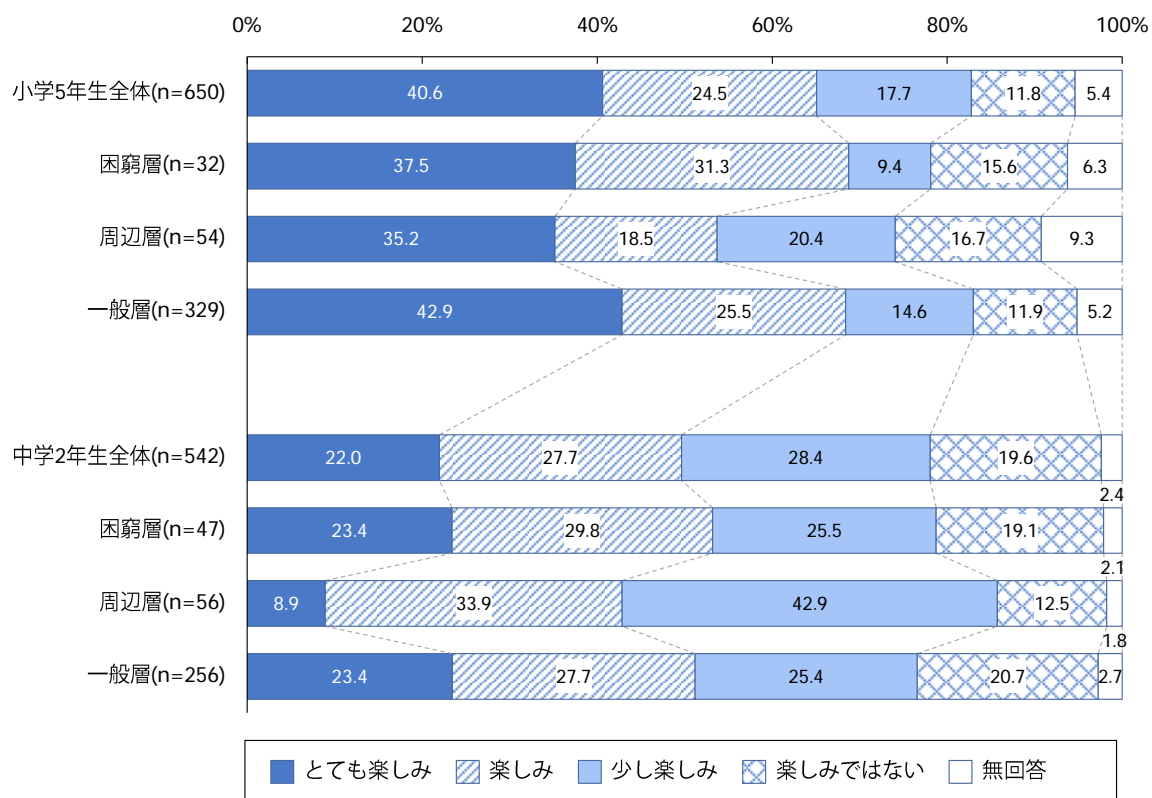


C 音楽

音楽について、「とても楽しみ」と「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で68.8%、周辺層で53.7%、一般層で68.4%、中学2年生の困窮層で53.2%、周辺層で42.8%、一般層で51.1%となっている。

『楽しみ』は、全体的に小学5年生の方が中学2年生よりも高くなっている。

問 23 学校生活の楽しみ/C 音楽

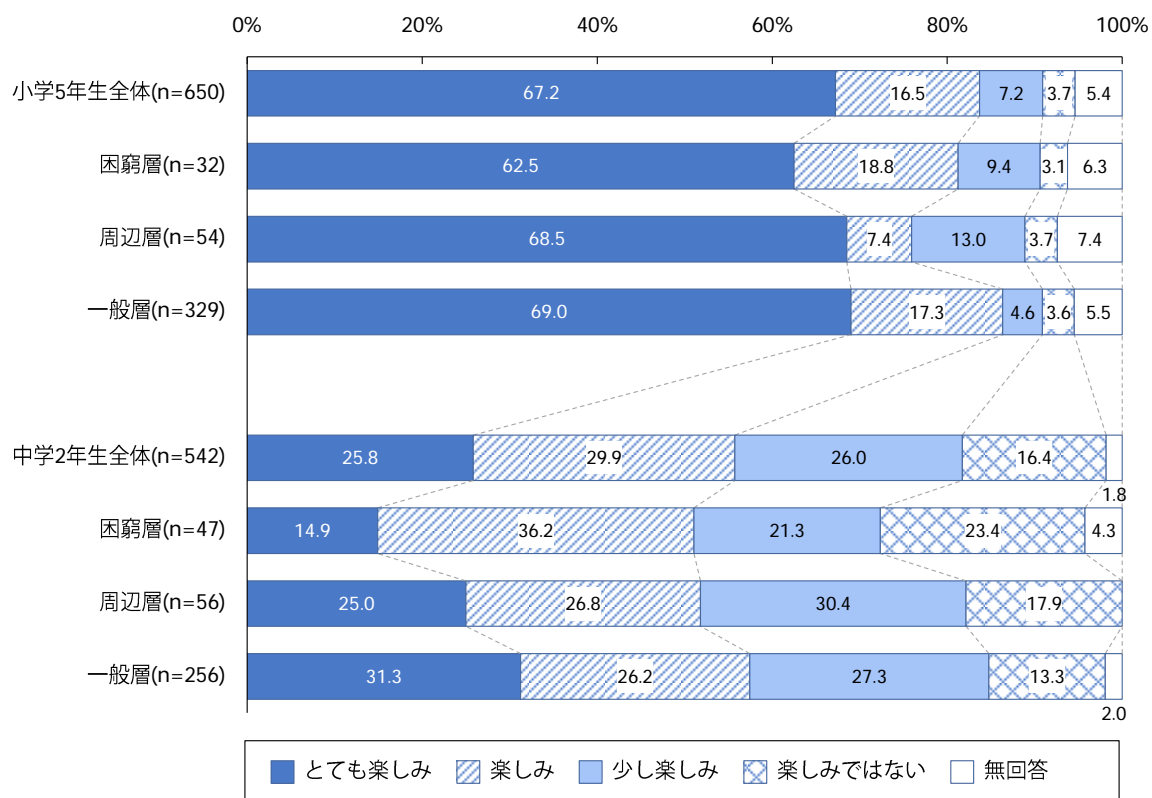


D 図工/美術

図工/美術について、「とても楽しみ」と「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で81.3%、周辺層で75.9%、一般層で86.3%、中学2年生の困窮層で51.1%、周辺層で51.8%、一般層で57.5%となっている。

『楽しみ』は、全体的に小学5年生の方が中学2年生よりも高くなっている。

問 23 学校生活の楽しみ/D 図工/美術

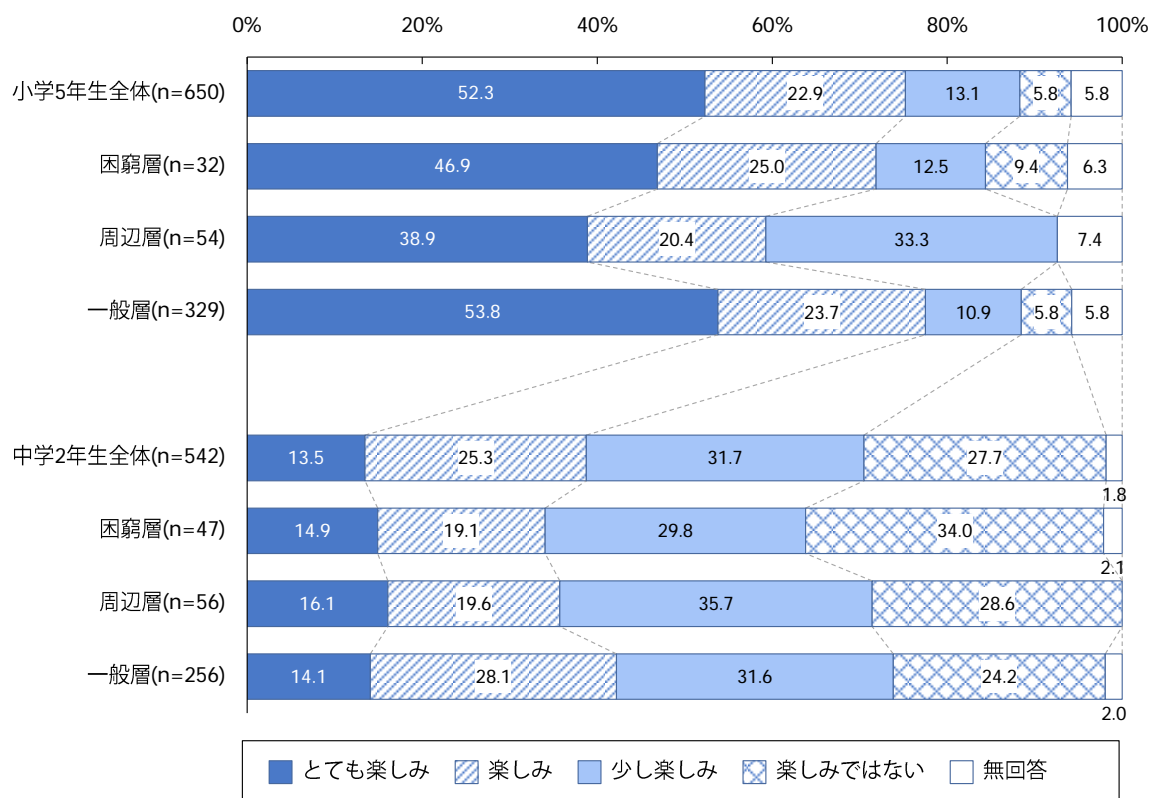


E 家庭科/技術・家庭科

家庭科/技術・家庭科について、「とても楽しみ」と「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で71.9%、周辺層で59.3%、一般層で77.5%、中学2年生の困窮層で34.0%、周辺層で35.7%、一般層で42.2%となっている。

『楽しみ』は、全体的に小学5年生の方が中学2年生よりも高くなっている。

問 23 学校生活の楽しみ/E 家庭科/技術・家庭科



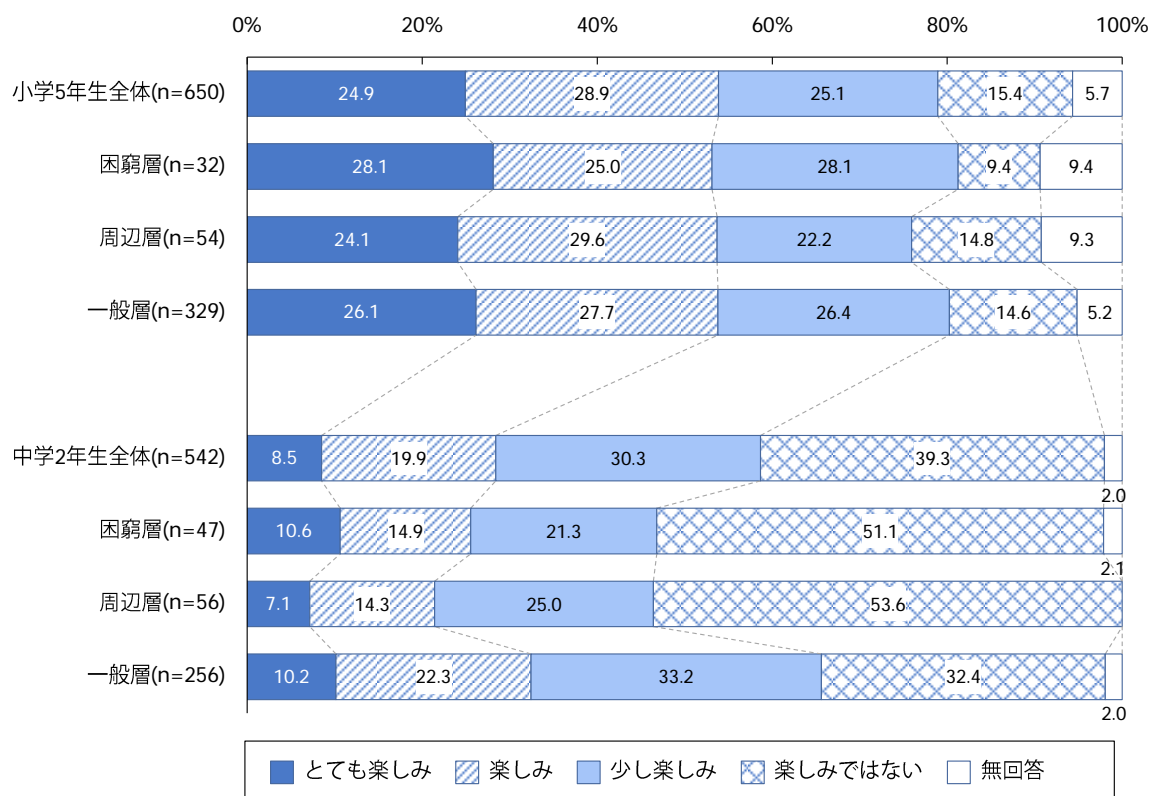
F 先生に会うこと

先生に会うことについて、「とても楽しみ」と「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で53.1%、周辺層で53.7%、一般層で53.8%、中学2年生の困窮層で25.5%、周辺層で21.4%、一般層で32.5%となっている。

『楽しみ』は、全体的に小学5年生の方が中学2年生よりも高くなっている。

「楽しみではない」は、中学2年生の困窮層、周辺層が高くなっている。

問 23 学校生活の楽しみ/F 先生に会うこと

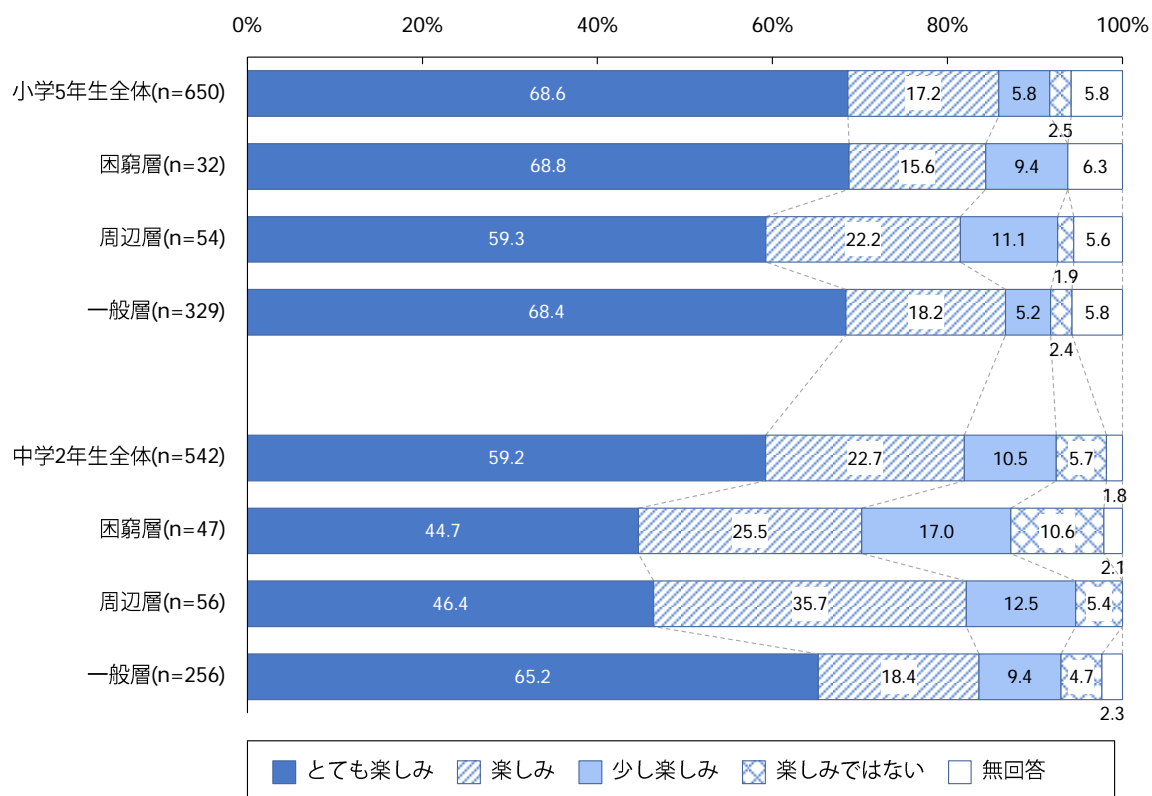


G 学校の友だちに会うこと

学校の友だちに会うことについて、「とても楽しみ」と「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で84.4%、周辺層で81.5%、一般層で86.6%、中学2年生の困窮層で70.2%、周辺層で82.1%、一般層で83.6%となっている。

「楽しみではない」は、中学2年生の困窮層が10.6%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 23 学校生活の楽しみ/G 学校の友だちに会うこと

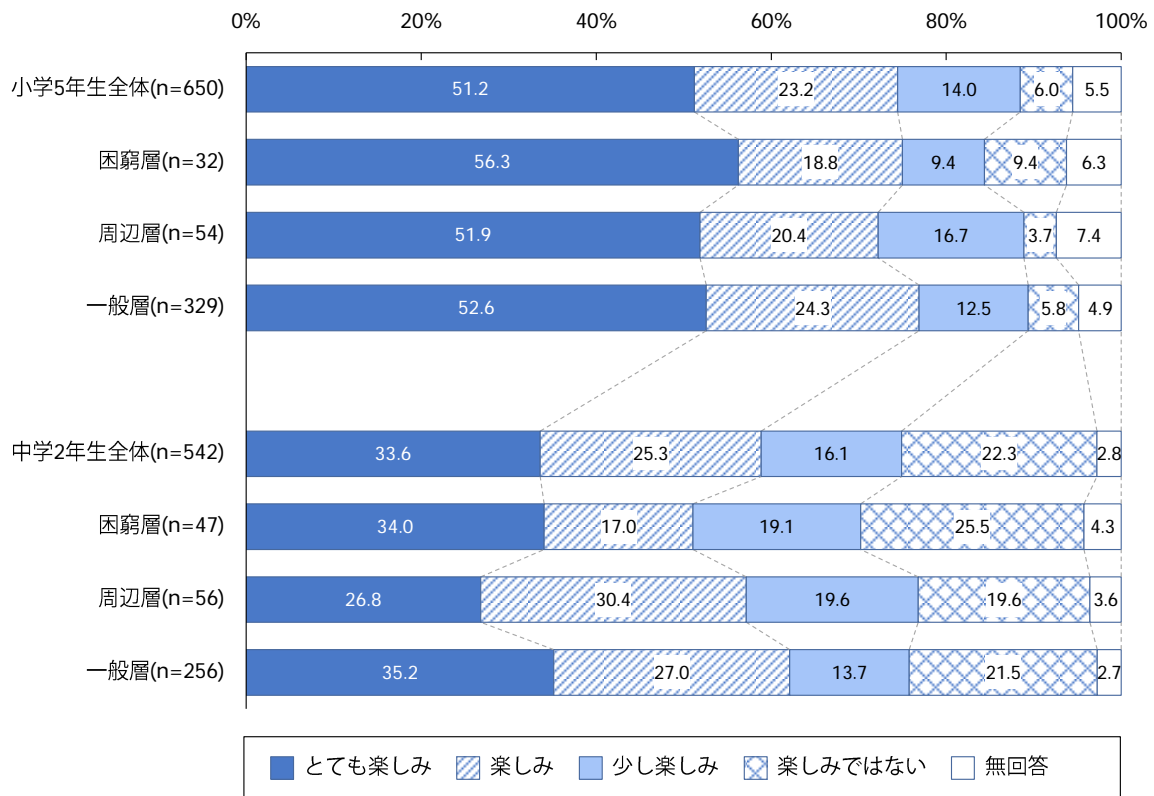


H 学校のクラブ活動

学校のクラブ活動について、「とても楽しみ」と「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で75.1%、周辺層で72.3%、一般層で76.9%、中学2年生の困窮層で51.0%、周辺層で57.2%、一般層で62.2%となっている。

『楽しみ』は、全体的に小学5年生の方が中学2年生よりも高くなっている。

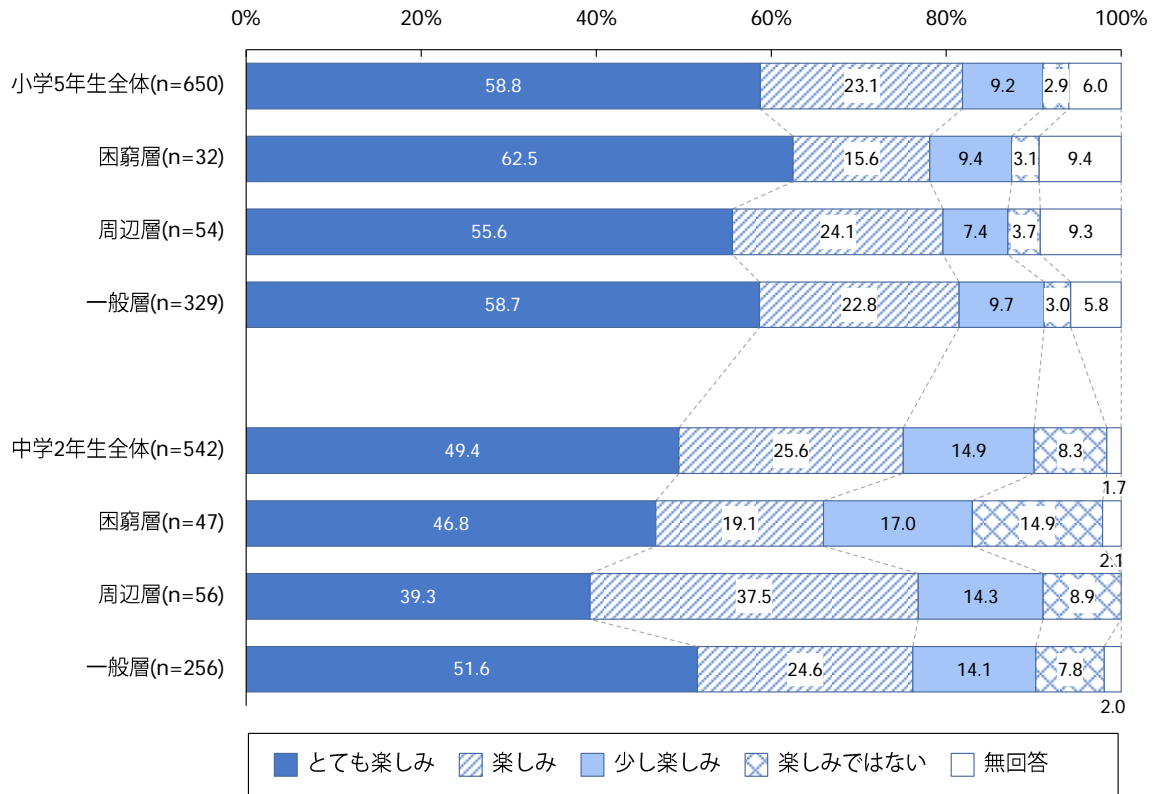
問 23 学校生活の楽しみ/H 学校のクラブ活動



I 学校の休み時間

学校の休み時間について、「とても楽しみ」と「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、困窮層で78.1%、周辺層で79.7%、一般層で81.5%、中学2年生の困窮層で65.9%、周辺層で76.8%、一般層で76.2%となっている。

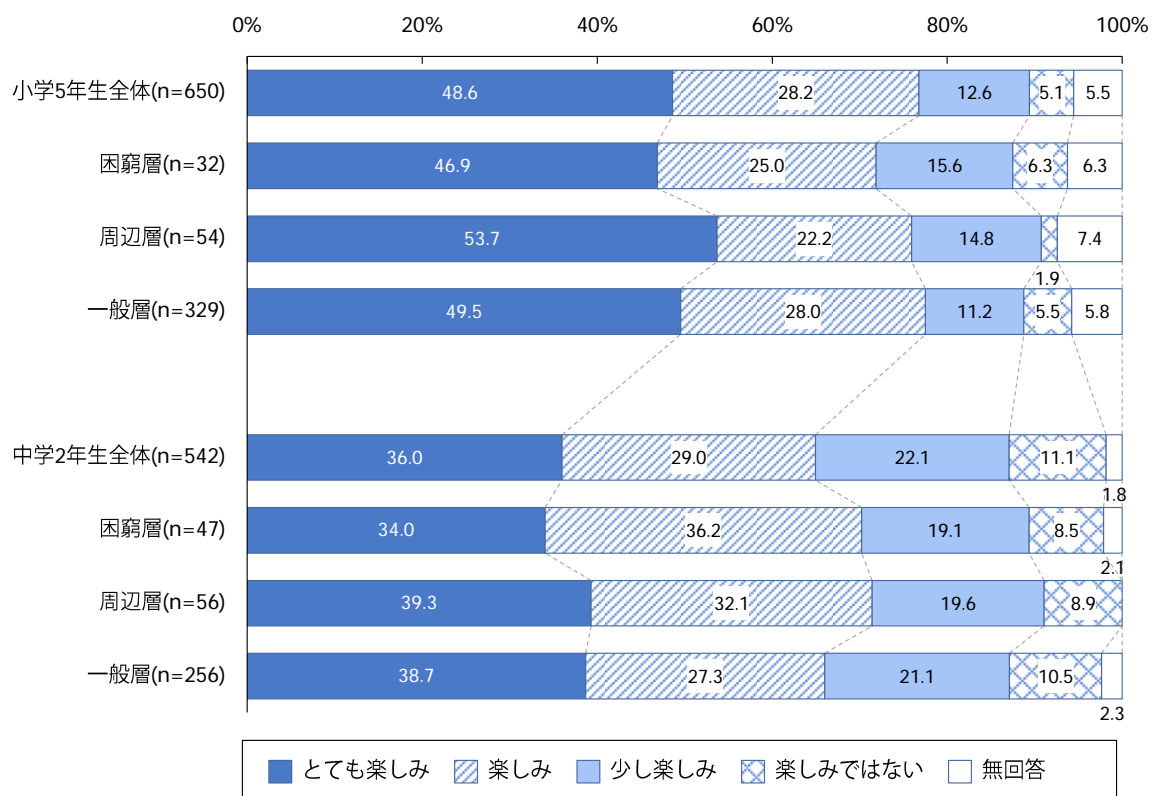
問 23 学校生活の楽しみ / I 学校の休み時間



J 学校の給食

学校の給食について、「とても楽しみ」と「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、困窮層で71.9%、周辺層で75.9%、一般層で77.5%、中学2年生の困窮層で70.2%、周辺層で71.4%、一般層で66.0%となっている。

問 23 学校生活の楽しみ/J 学校の給食

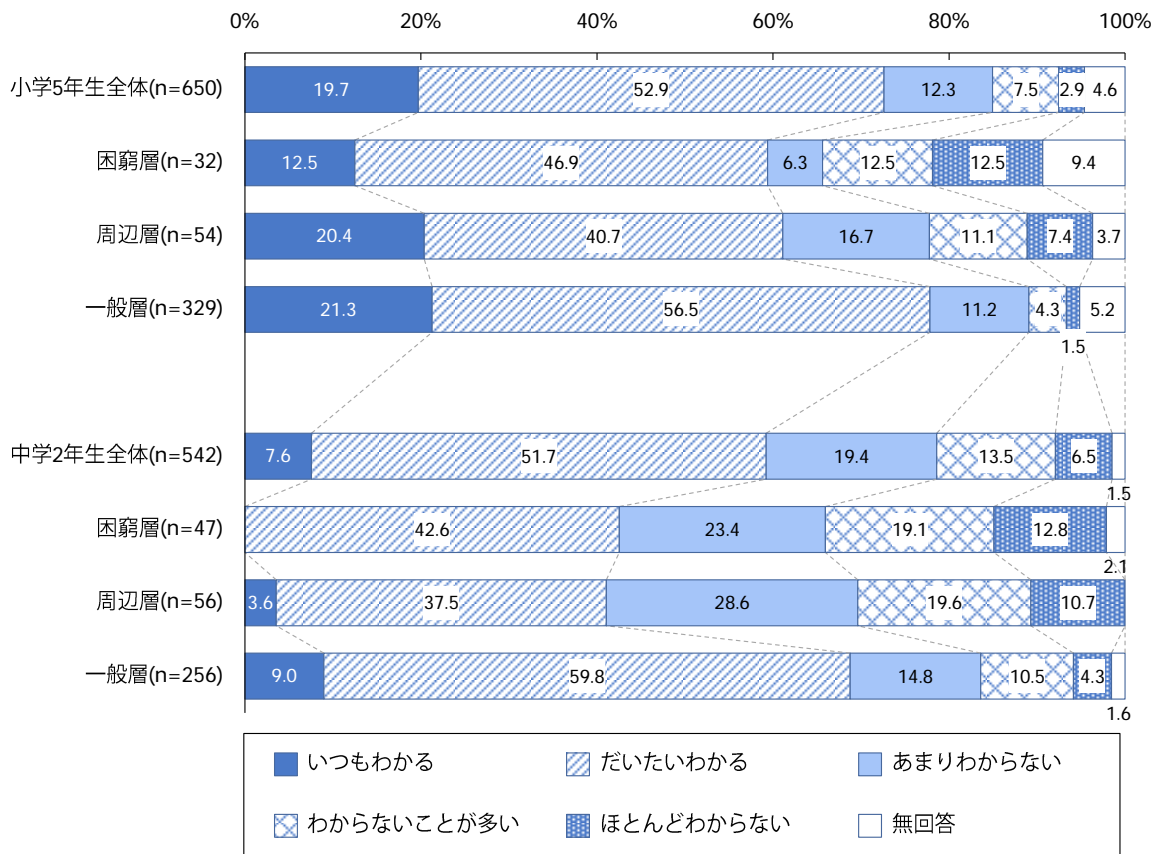


2 授業の理解度・わからなくなってきた時期

(1) 授業の理解度

子どもの平日の学校の授業の理解度について、「わからないことが多い」「ほとんどわからない」を合わせた『わからない』の割合は、小学5年生の困窮層で25.0%、周辺層で18.5%、一般層で5.8%、中学2年生の困窮層で31.9%、周辺層で30.3%、一般層で14.8%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

問 24 学校の授業の理解度



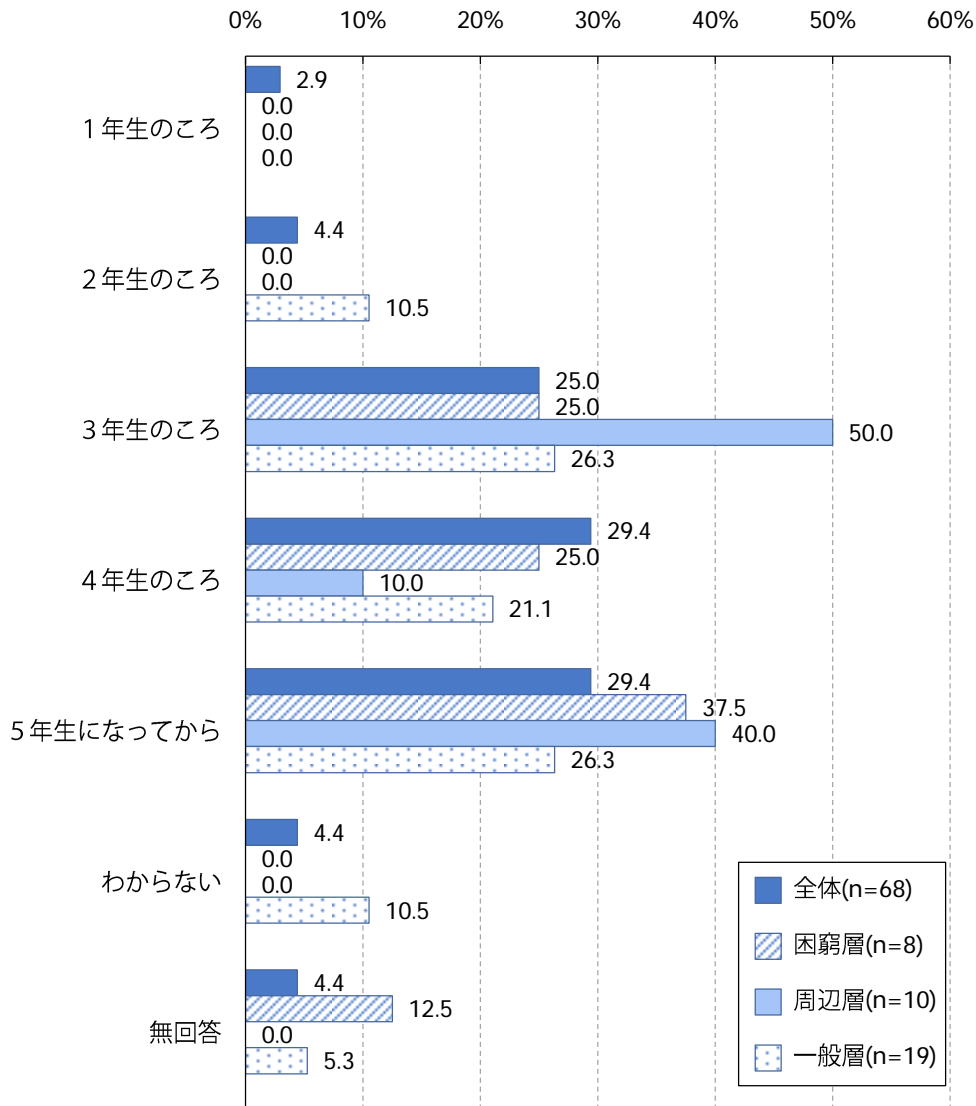
(2) 授業がわからなくなった時期

小学5年生の授業がわからなくなった時期について、全体では「4年生のころ」「5年生になってから」と回答した割合は、ともに29.4%と最も高くなっている。

困窮層では「5年生になってから」が37.5%、周辺層では「3年生のころ」が50.0%、一般層では「3年生のころ」「5年生になってから」がともに26.3%と最も高くなっている。

問 24-1 授業がわからなくなった時期

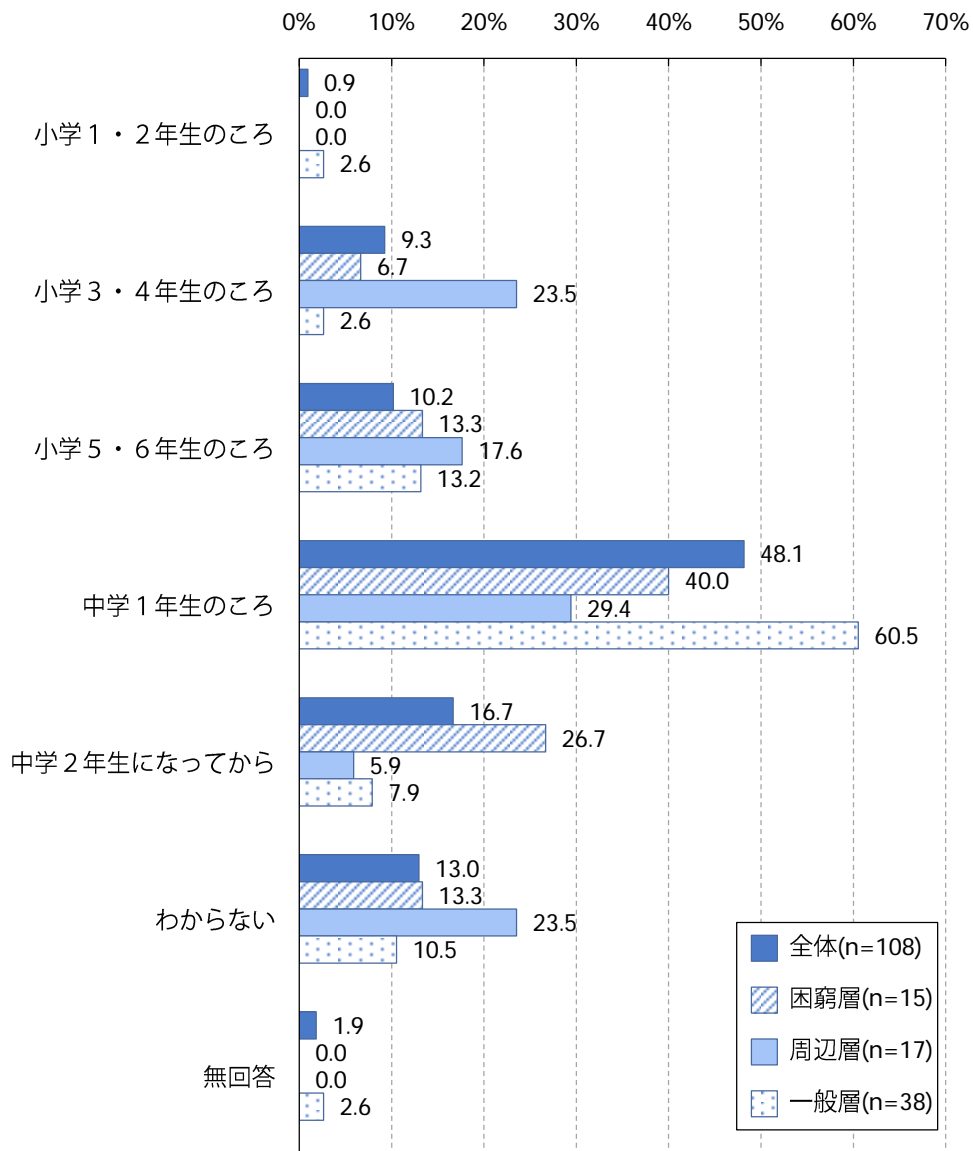
小学5年生



中学2年生の授業がわからなくなった時期について、全体では「中学1年生のころ」と回答した割合は、48.1%と最も高くなっている。困窮層、周辺層、一般層ともに「中学1年生のころ」が最も高く、それぞれ40.0%、29.4%、60.5%と最も高くなっている。

問 24-1 授業がわからなくなった時期

中学2年生



4 学校外での学習の状況

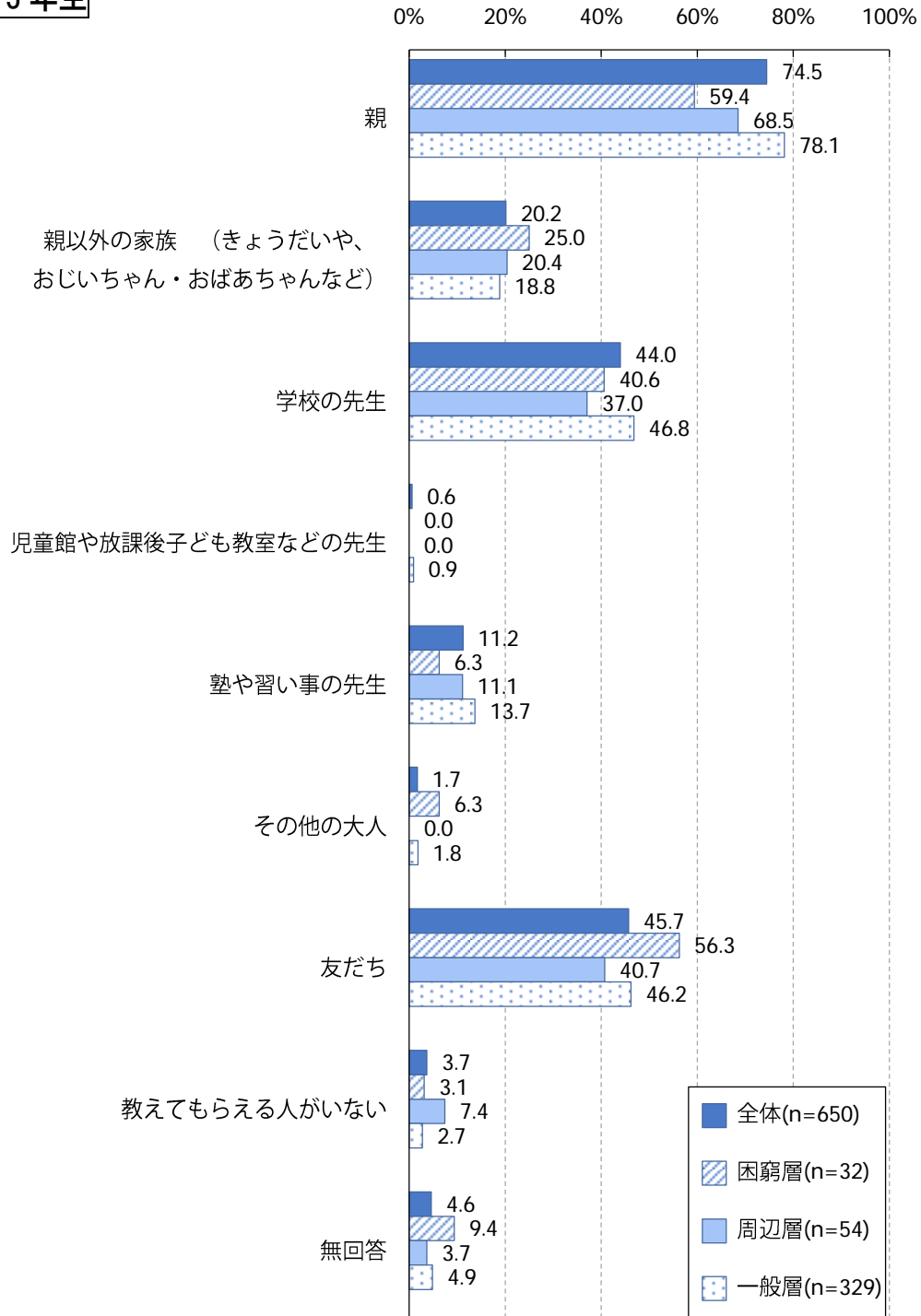
(1) 勉強がわからない時に教えてもらう人

小学5年生の勉強がわからない時に教えてくれる人について、「親」と回答した割合は、困窮層で59.4%、周辺層で68.5%、一般層で78.1%となっている。

困窮層では、「友だち」が56.3%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 25 勉強を教えてもらう人

小学5年生

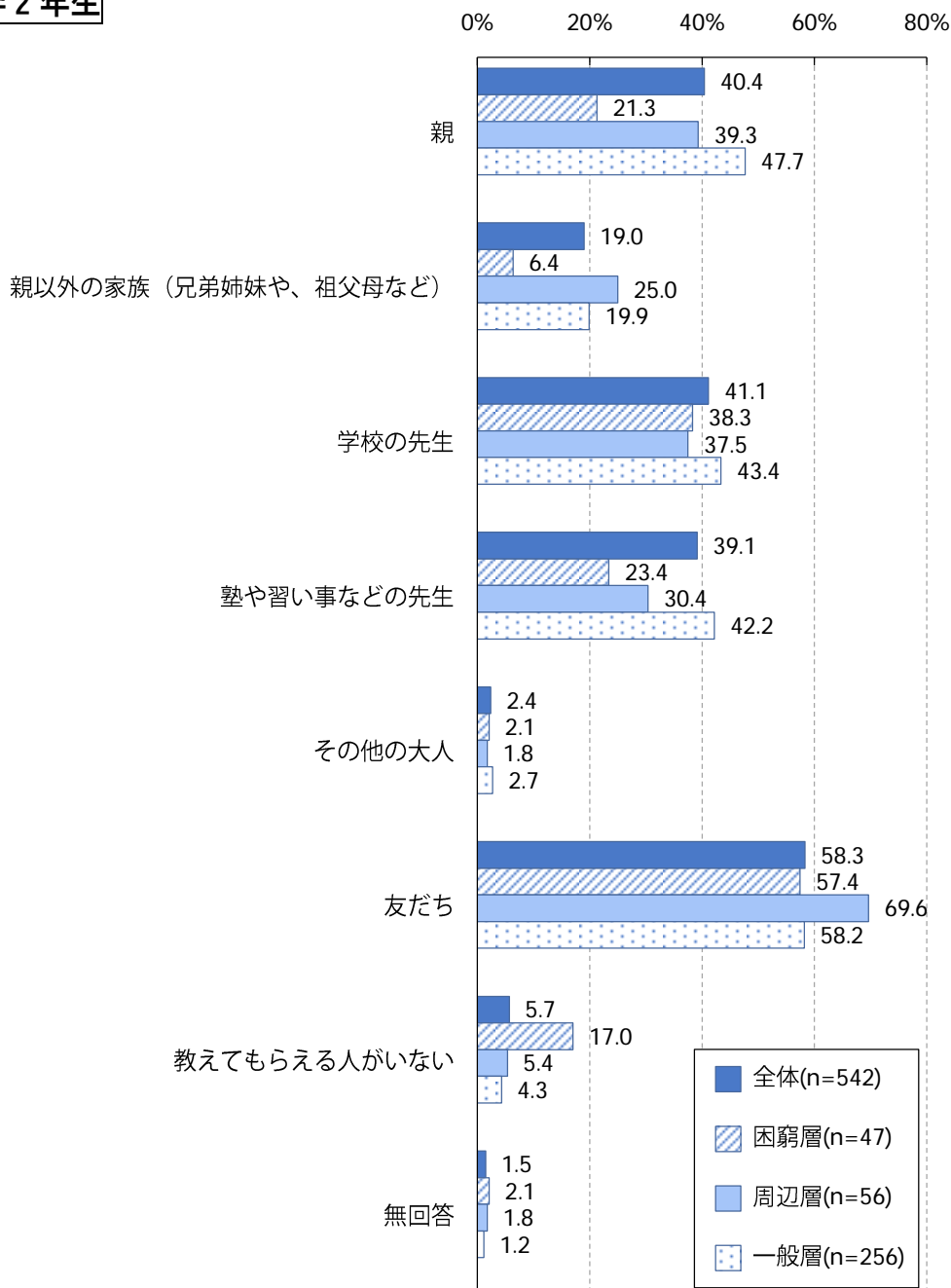


中学2年生の勉強がわからない時に教えてくれる人について、「友だち」と回答した割合は、困窮層で57.4%、周辺層で69.6%、一般層で58.2%と最も高くなっている。

困窮層では、「教えてもらえる人がいない」が17.0%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 25 勉強を教えてもらう人

中学2年生



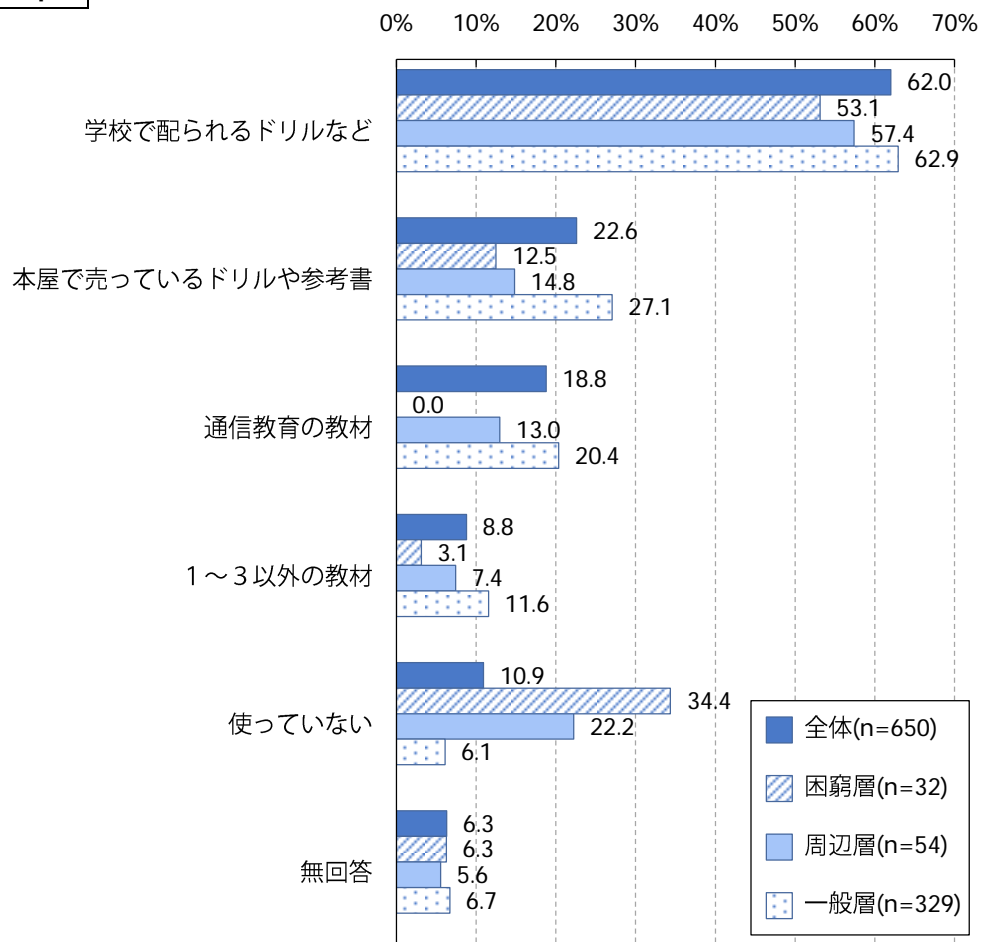
(2) 家庭用学習教材

小学5年生の自宅での使用教材について、「学校で配られるドリルなど」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で53.1%、周辺層で57.4%、一般層で62.9%と最も高くなっている。

困窮層では、「使っていない」が34.4%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 30 自宅での使用教材

小学5年生



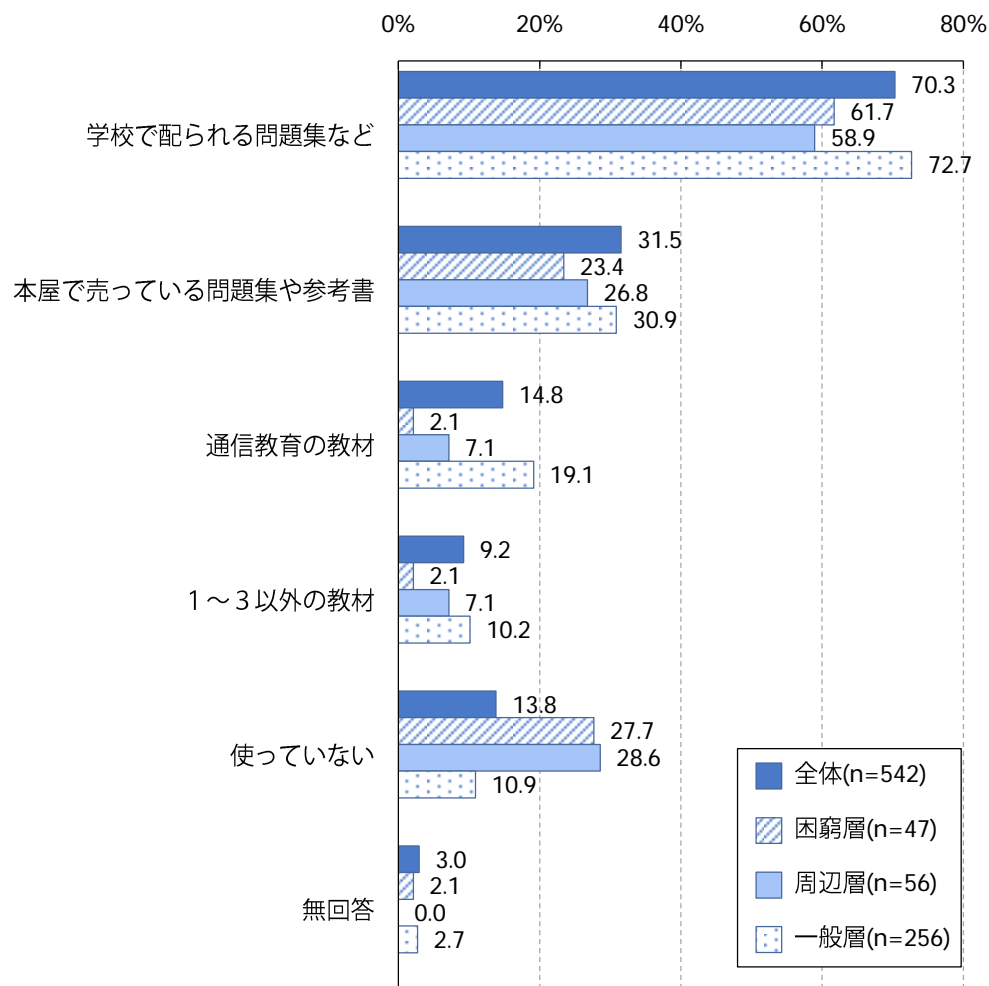
中学2年生の自宅での使用教材について、「学校で配られる問題集など」と回答した割合は、中学2年生の困窮層で61.7%、周辺層で58.9%、一般層で72.7%と最も高くなっている。

困窮層、周辺層では、「使っていない」がそれぞれ27.7%、28.6%と一般層に比べて高くなっている。

一般層では、「通信教育の教材」が19.1%と高くなっている。

問 30 自宅での使用教材

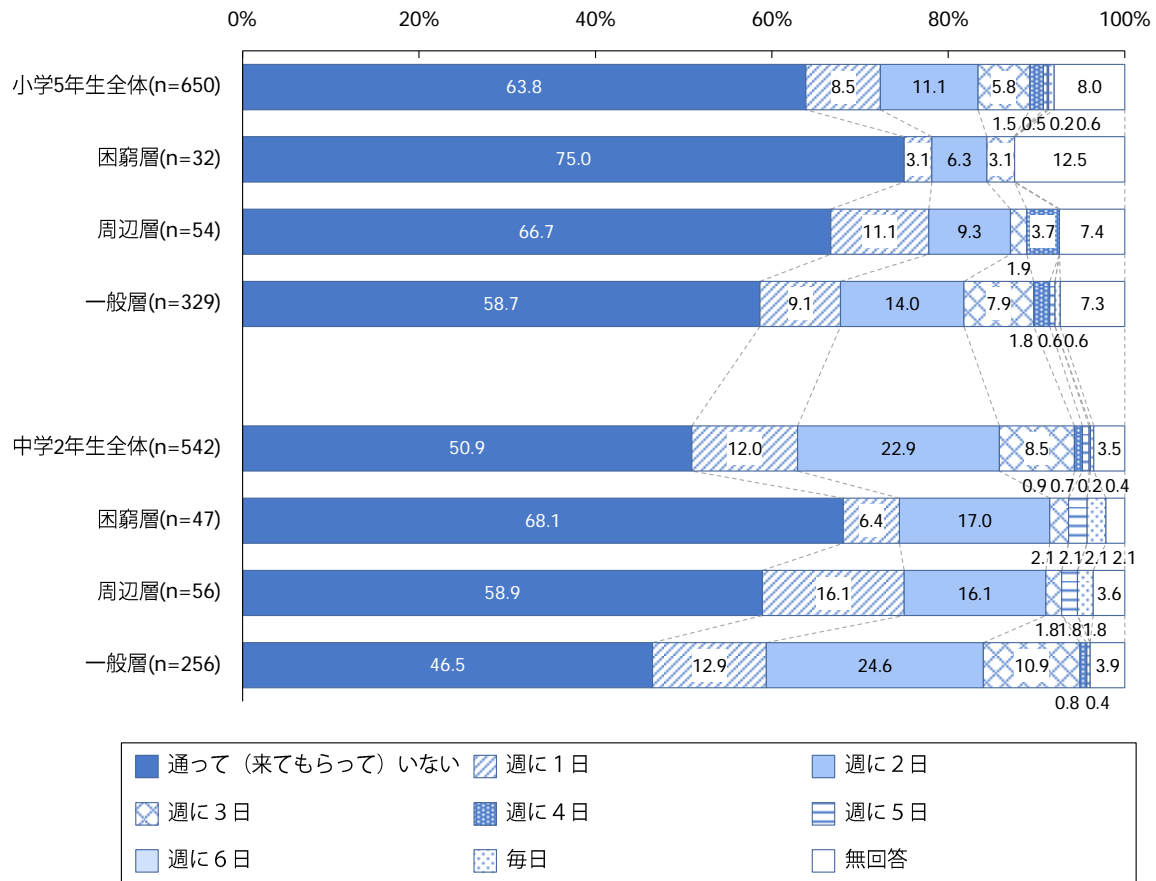
中学2年生



(3) 通塾（又は家庭教師）状況

学習塾・家庭教師の日数について、「通って（来てもらって）いない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で75.0%、周辺層で66.7%、一般層で58.7%、中学2年生の困窮層で68.1%、周辺層で58.9%、一般層で46.5%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

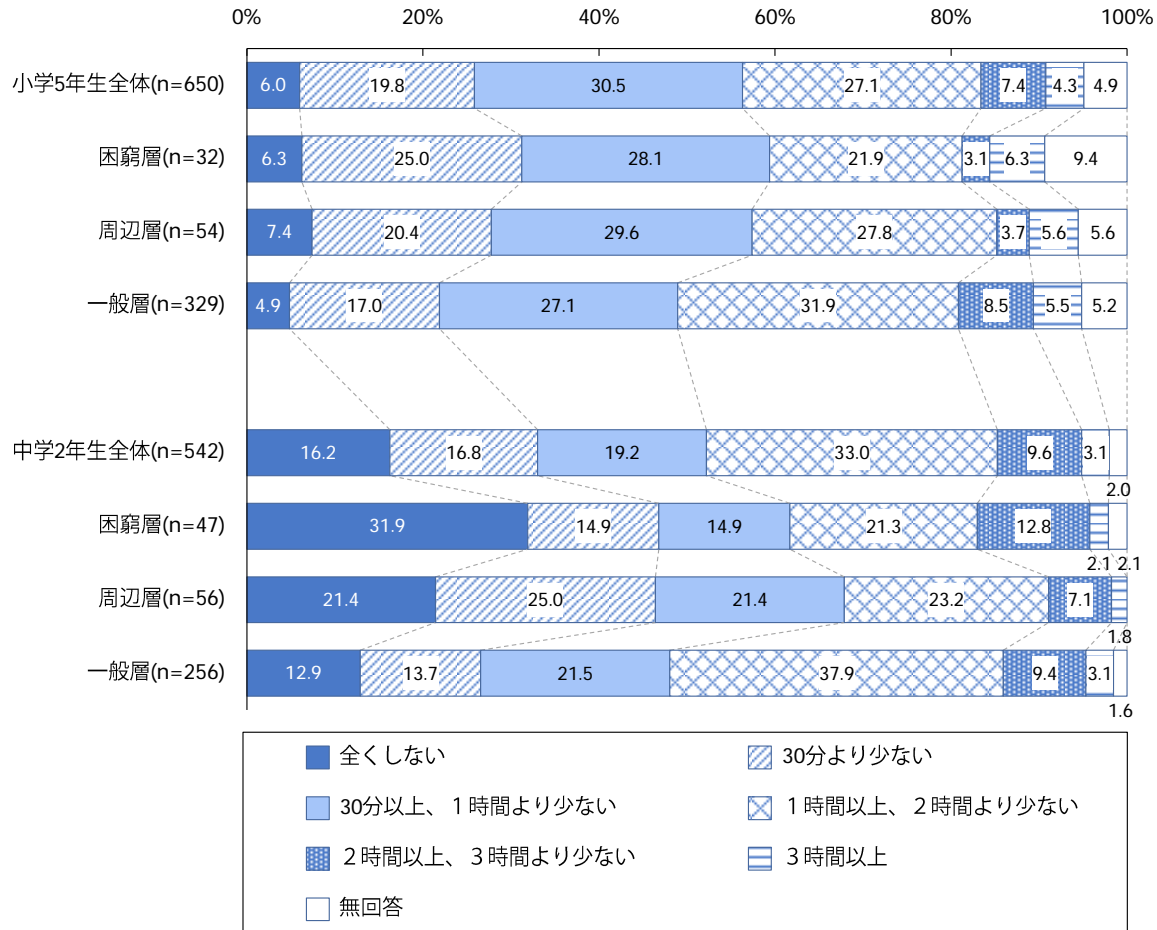
問 29 学習塾や家庭教師の日数



(2) 学校の授業以外での勉強時間

学校の授業以外での勉強時間について、「全くしない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で6.3%、周辺層で7.4%、一般層で4.9%、中学2年生の困窮層で31.9%、周辺層で21.4%、一般層で12.9%となっており、中学2年生の困窮層で高くなっている。

問 28 学校の授業以外での勉強時間

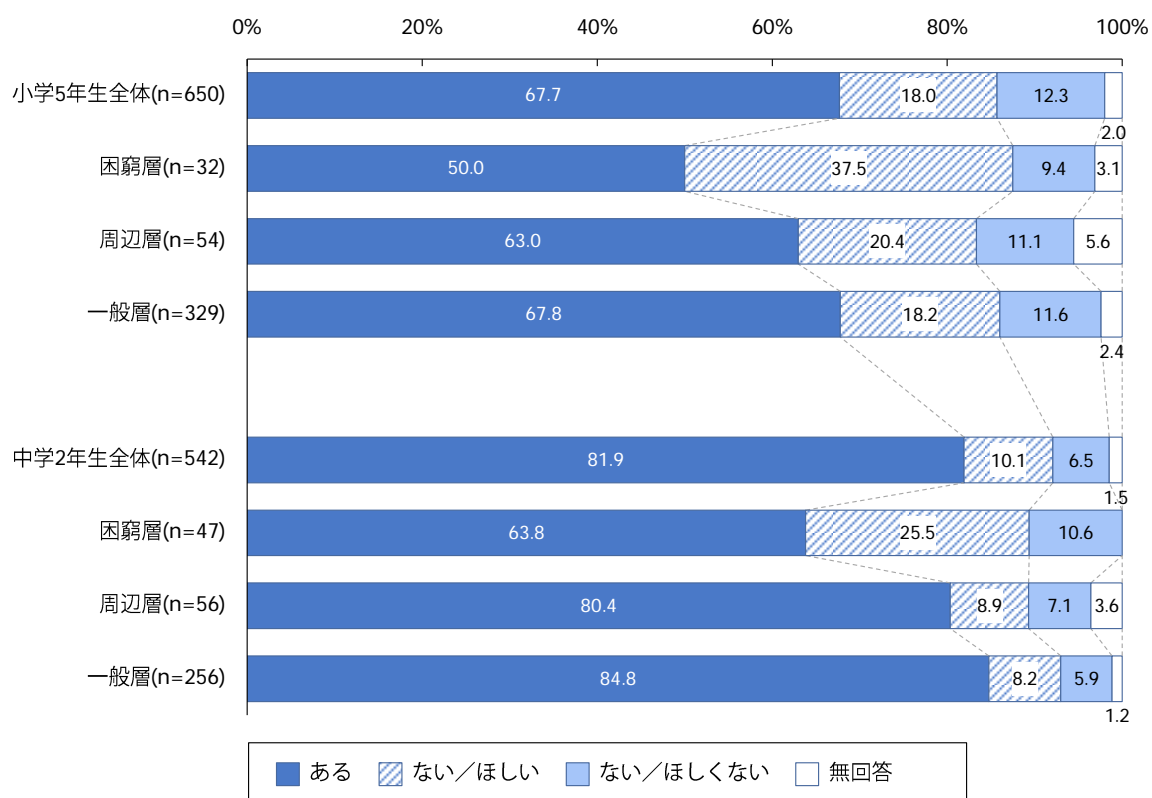


5 学習環境の欠如の状況

E 自分専用の勉強机（再掲）

自分専用の勉強机について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で50.0%、周辺層で63.0%、一般層で67.8%、中学2年生の困窮層で63.8%、周辺層で80.4%、一般層で84.8%となっている。一方、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で37.5%、周辺層で20.4%、一般層で18.2%、中学2年生の困窮層で25.5%、周辺層で8.9%、一般層で8.2%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

問3 使うことができるもの/E 自分専用の勉強机

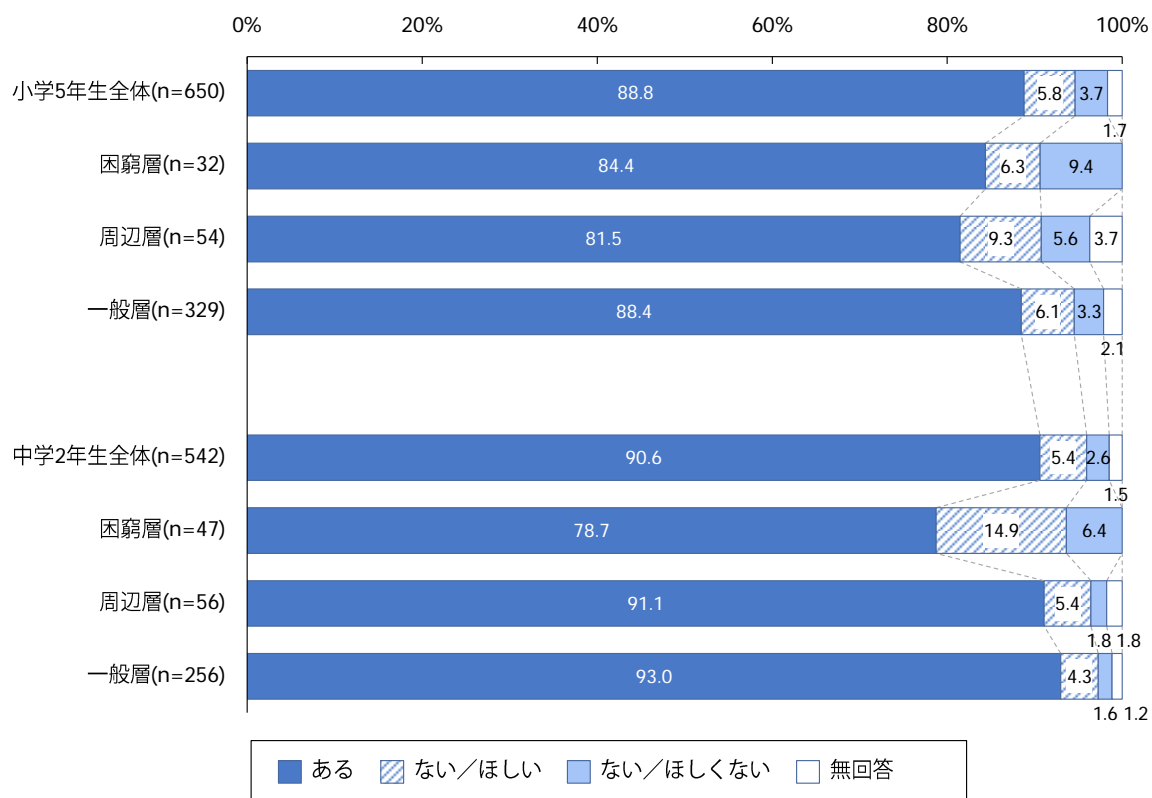


D 自宅で宿題をすることができる場所（再掲）

自宅で宿題をすることができる場所について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で84.4%、周辺層で81.5%、一般層で88.4%、中学2年生の困窮層で78.7%、周辺層で91.1%、一般層で93.0%となっている。

「ない／ほしい」は、中学2年生の困窮層で14.9%と高くなっている。

問3 使うことができるもの/D 自宅で宿題をすることができる場所

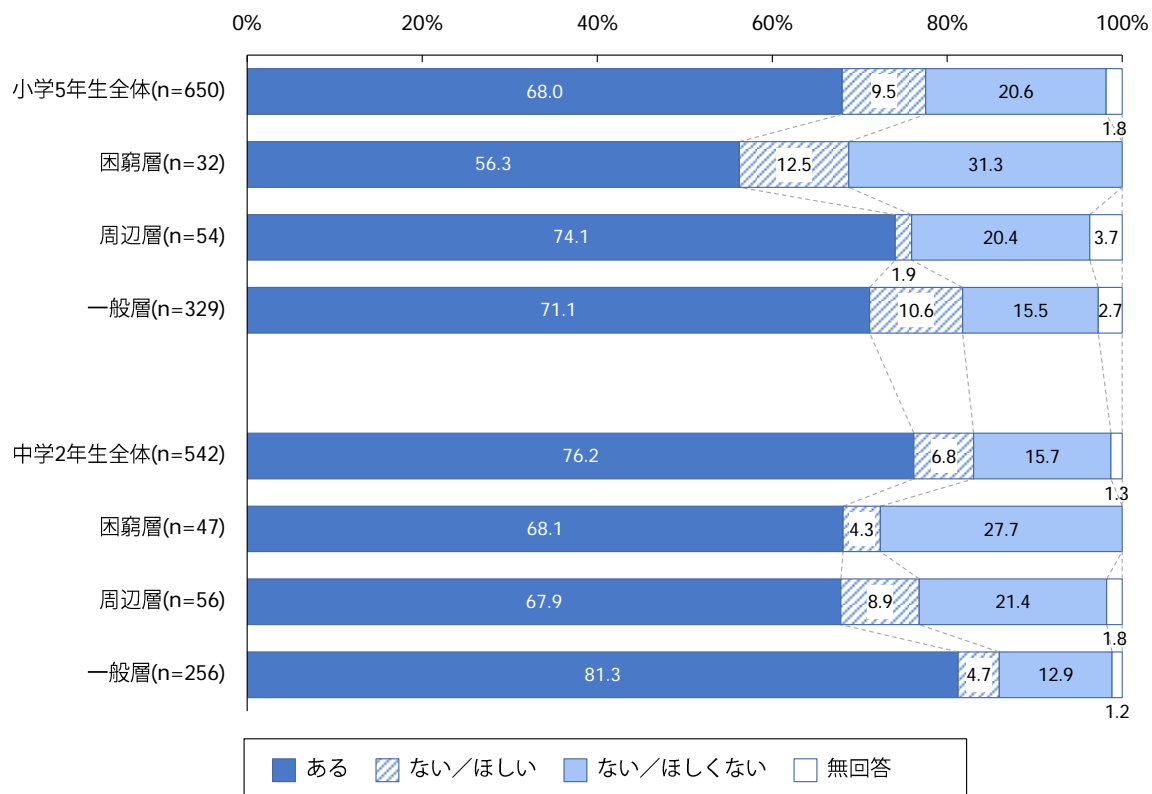


A 自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）（再掲）

自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で12.5%、周辺層で1.9%、一般層で10.6%、中学2年生の困窮層で4.3%、周辺層で8.9%、一般層で4.7%となっている。

「ある」は、小学5年生、中学2年生ともに約7割以上となっているが、小学5年生の困窮層は56.3%と低くなっている。

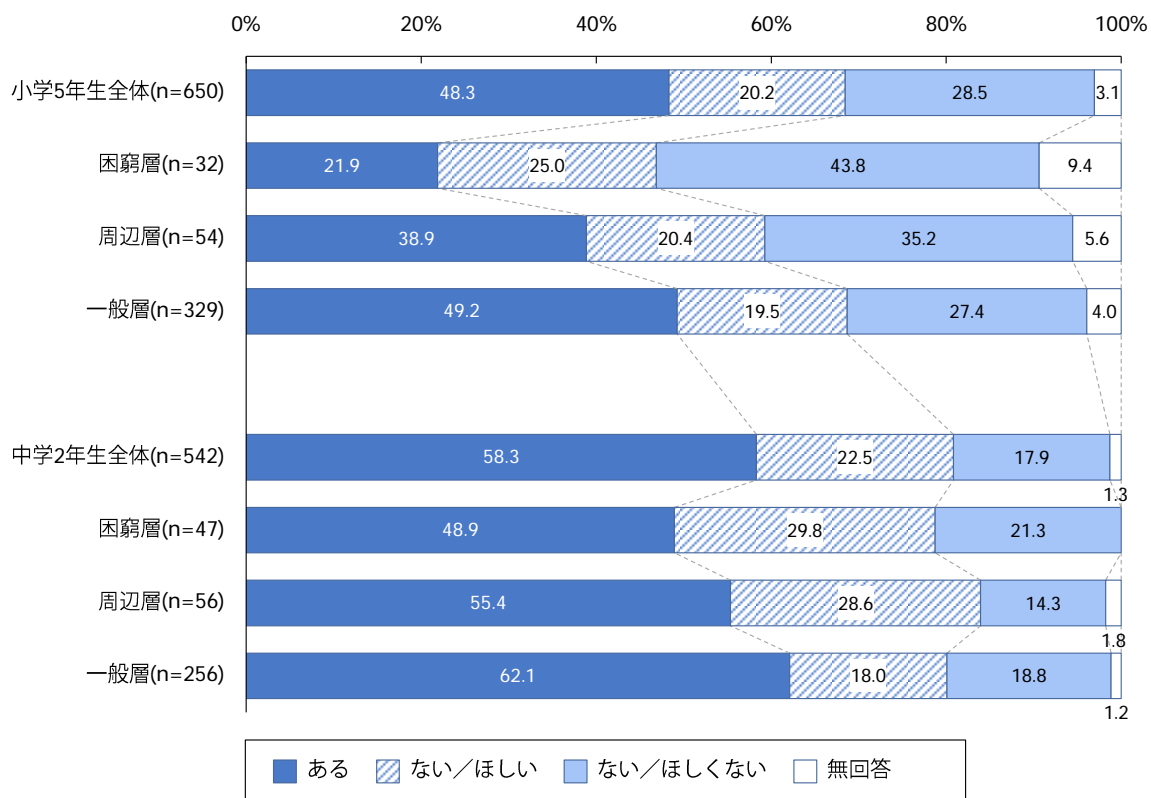
問3 使うことができるもの/A 自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）



C (自宅で) インターネットにつながるパソコン (再掲)

(自宅で) インターネットにつながるパソコンについて、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で25.0%、周辺層で20.4%、一般層で19.5%、中学2年生の困窮層で29.8%、周辺層で28.6%、一般層で18.0%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

問3 使うことができるもの/C (自宅で) インターネットにつながるパソコン



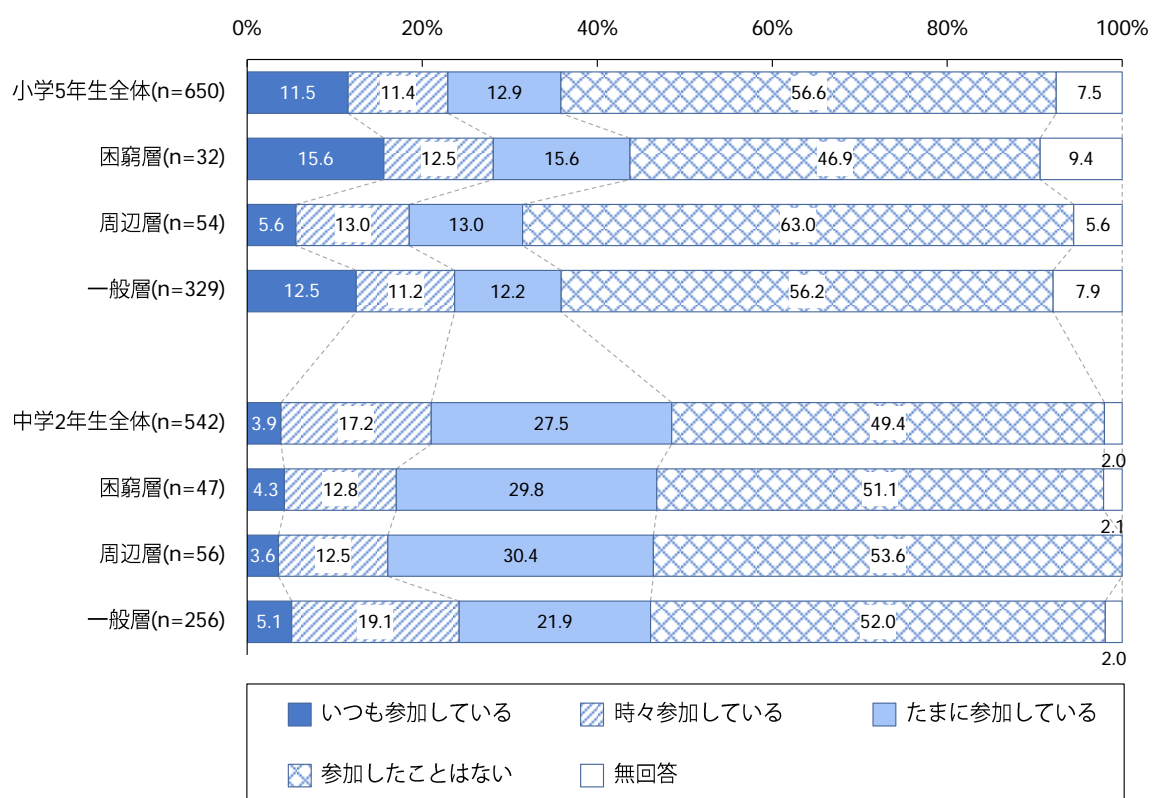
6 補習教室への参加状況・参加しない理由

(1) 補習教室の参加状況

学校の補習教室の参加状況について、「いつも参加している」「時々参加している」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で28.1%、周辺層で18.6%、一般層で23.7%、中学2年生の困窮層で17.1%、周辺層で16.1%、一般層で24.2%となっており、小学5年生の困窮層で高くなっている。

「参加したことはない」は、小学5年生の困窮層で46.9%と周辺層、一般層に比べて低くなっている。

問 31 学校の補習教室の参加状況



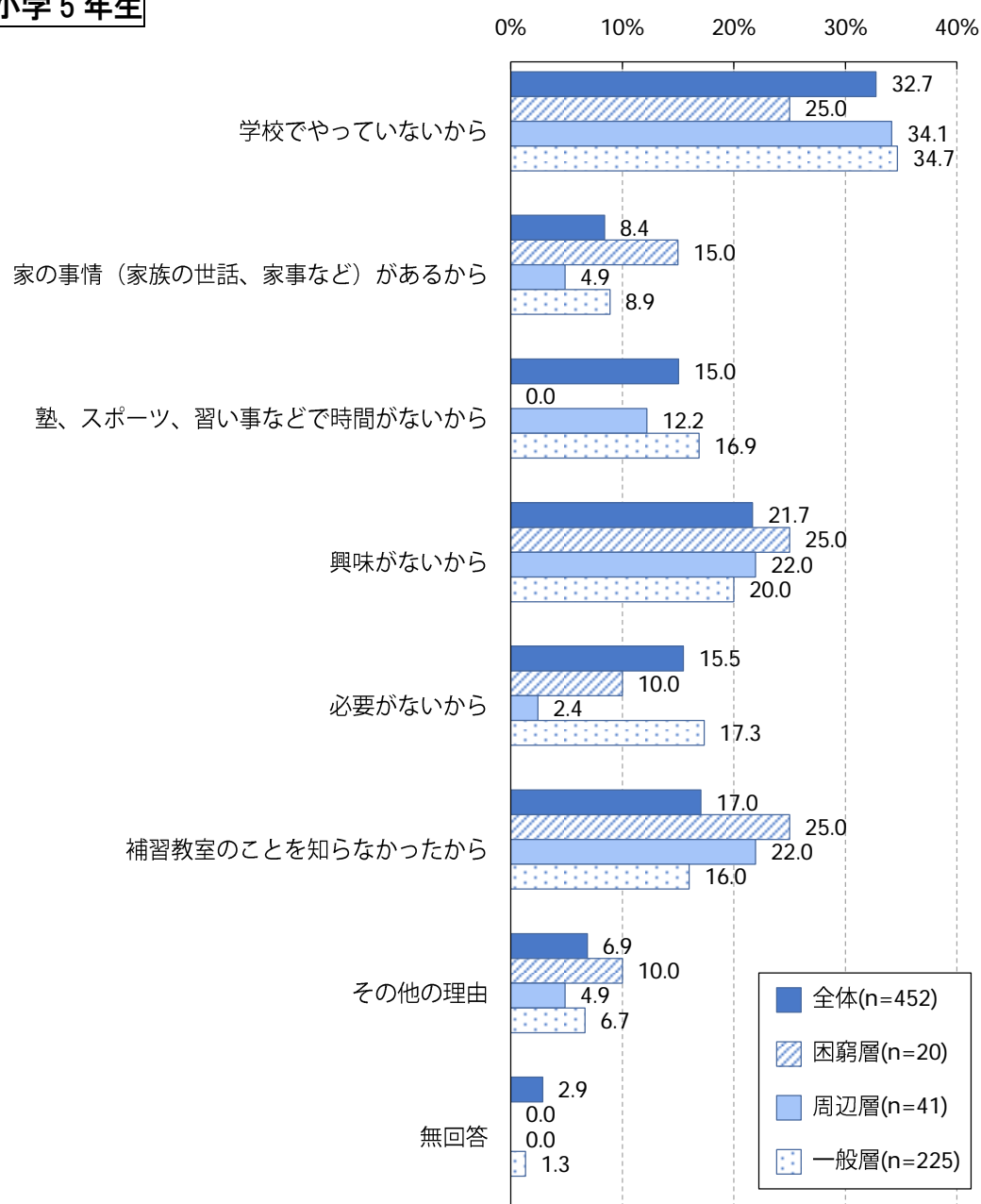
参加していない理由

小学5年生の学校の補習教室にあまり参加しない理由について、全体では「学校でやっていないから」が32.7%と最も高く、次いで「興味がないから」が21.7%、「補習教室のことを知らなかったから」が17.0%となっており、「学校でやっていないから」は困窮層で低くなっている。一方、「興味がないから」は困窮層で高くなっている。

「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」は、困窮層で15.0%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 31-1 学校の補習教室にあまり参加しない理由

小学5年生

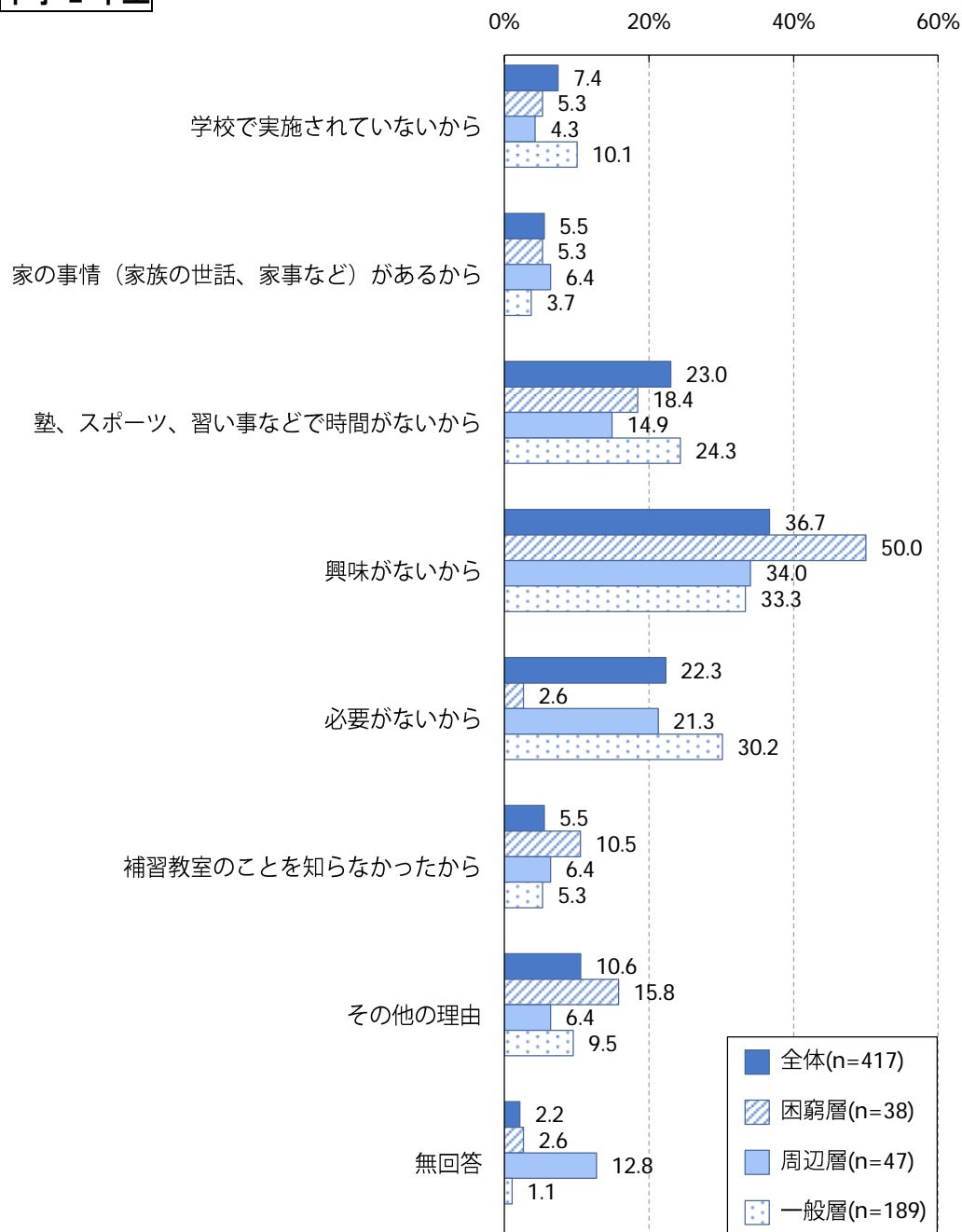


中学2年生の学校の補習教室にあまり参加しない理由について、全体では「興味がないから」が36.7%と最も高く、次いで「塾・スポーツ、習い事などで時間がないから」が23.0%、「必要はないから」が22.3%となっており、「興味がないから」は、困窮層で高くなっている。また、「必要はないから」は、一般層で高くなっている。

「補習教室のことを知らなかったから」は、困窮層で10.5%と周辺層、一般層に比べてやや高くなっている。

問 31-1 学校の補習教室にあまり参加しない理由

中学2年生



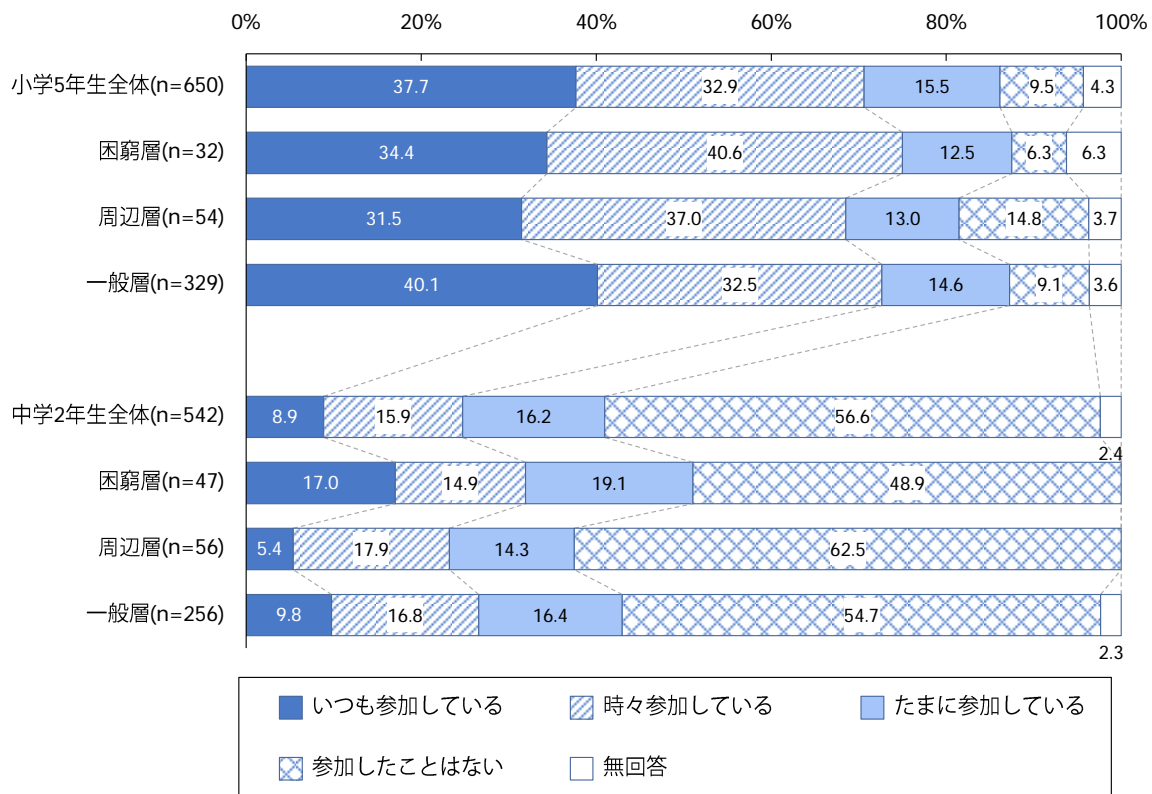
(2) 水泳プログラムの参加状況

夏休みの水泳教室や夏休みの体験教室などの参加状況について、「いつも参加している」「時々参加している」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で75.0%、周辺層で68.5%、一般層で72.6%、中学2年生の困窮層で31.9%、周辺層で23.3%、一般層で26.6%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でやや高くなっている。

「参加したことはない」は、中学2年生の困窮層で48.9%と周辺層、一般層に比べて低くなっている。

中学2年生では、「参加したことはない」は全体で56.6%と高くなっている。

問 32 夏休みの水泳教室や夏休みの体験教室などの参加状況



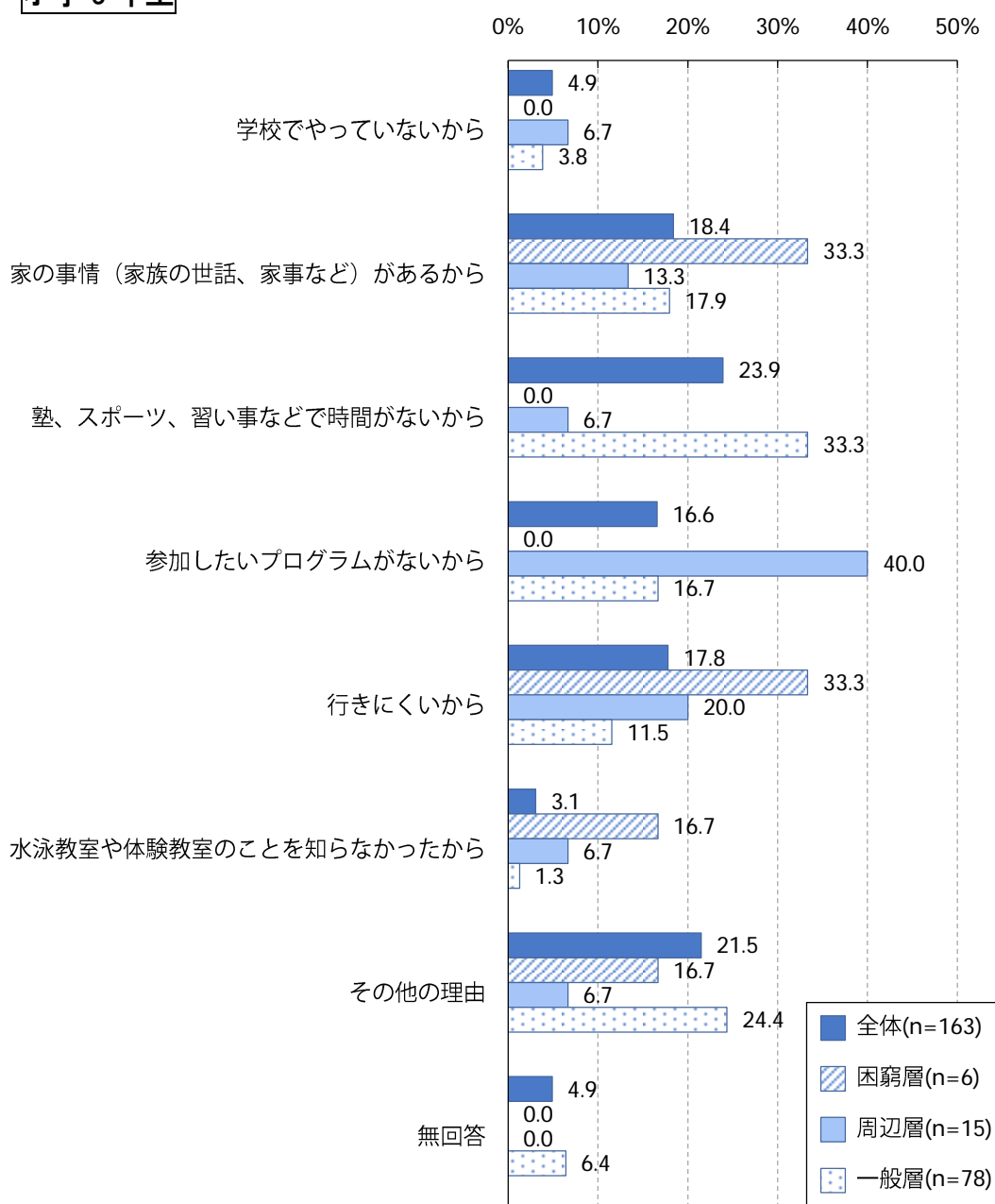
参加していない理由

小学5年生の夏休みの水泳教室や夏休みの体験教室などに参加しない理由について、全体では「塾・スポーツ、習い事などで時間がないから」が36.7%と最も高く、次いで「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」が18.4%、「行きにくいから」が17.8%、「参加したいプログラムがないから」が16.6%となっており、「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」「行きにくいから」は、困窮層で高くなっている。

「塾・スポーツ、習い事などで時間がないから」は、一般層で33.3%と困窮層、周辺層に比べて高くなっている。

問 32-1 夏休みの水泳教室や夏休みの体験教室などに参加しない理由

小学5年生

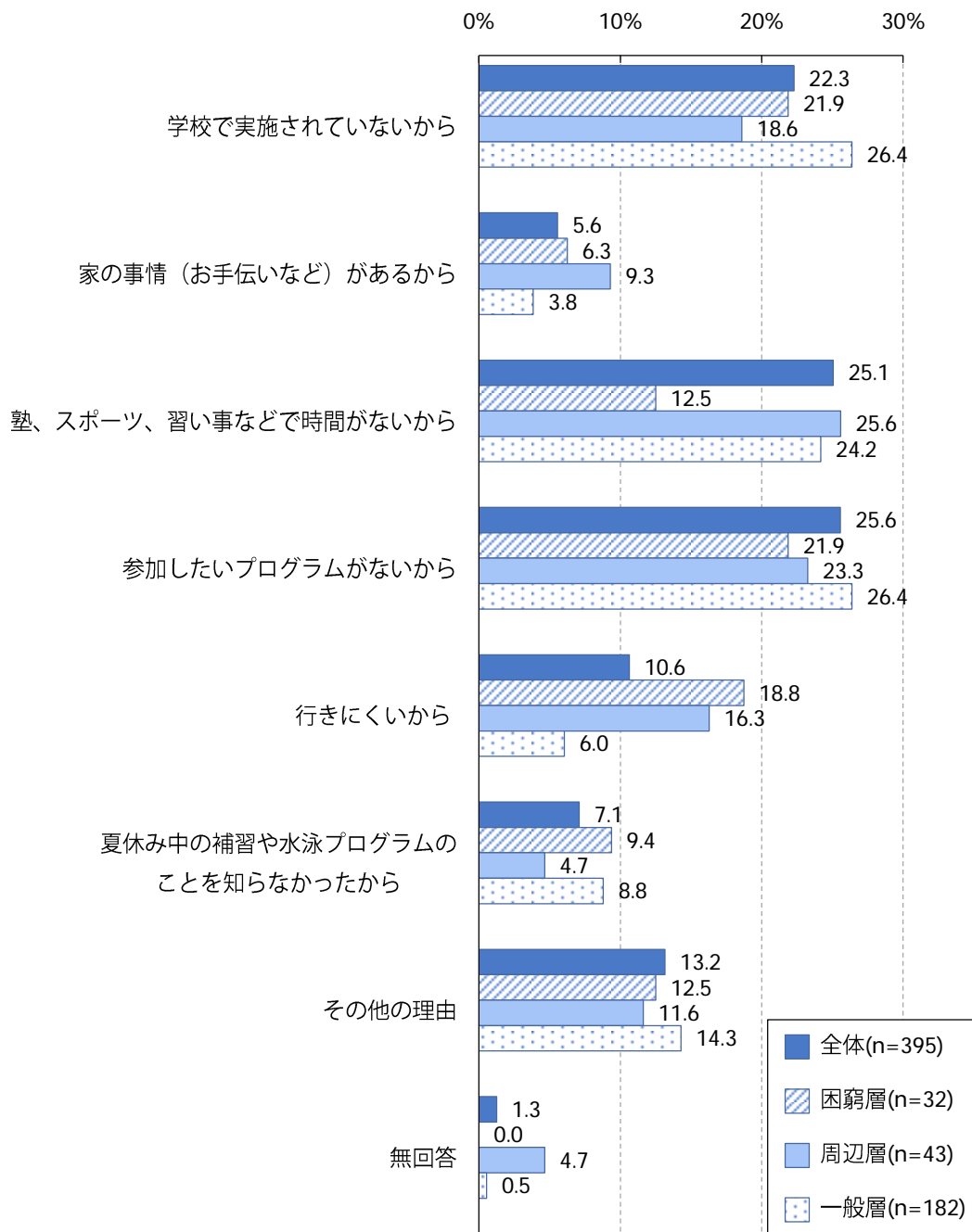


中学2年生の夏休みの水泳教室や夏休みの体験教室などに参加しない理由について、全体では「参加したいプログラムがないから」が25.6%と最も高く、次いで「塾・スポーツ、習い事などで時間がないから」が25.1%、「学校で実施されていないから」が22.3%となっている。

「塾・スポーツ、習い事などで時間がないから」は、困窮層で12.5%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 32-1 夏休み中の補習や水泳プログラムに参加しない理由

中学2年生



7 学習関連の支援プログラムの利用意向

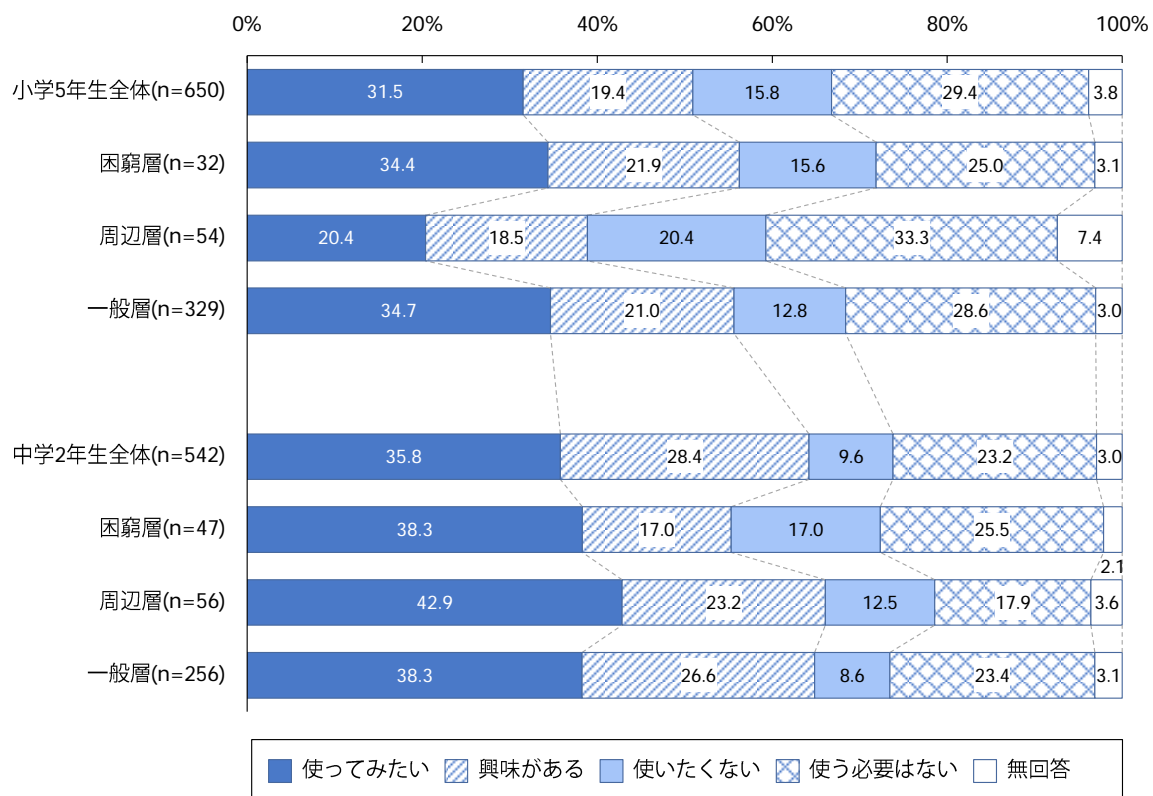
(1) 勉強ができる場所の利用意向

D 家で勉強できないとき、静かに勉強できる場所

家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所について、「使ってみたい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で34.4%、周辺層で20.4%、一般層で34.7%、中学2年生の困窮層で38.3%、周辺層で42.9%、一般層で38.3%となっており、小学5年生の周辺層で低くなっている。

「興味がある」、「使う必要はない」は、小学5年生、中学2年生の各層とも約2~3割となっている。

問 35 利用希望/D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所

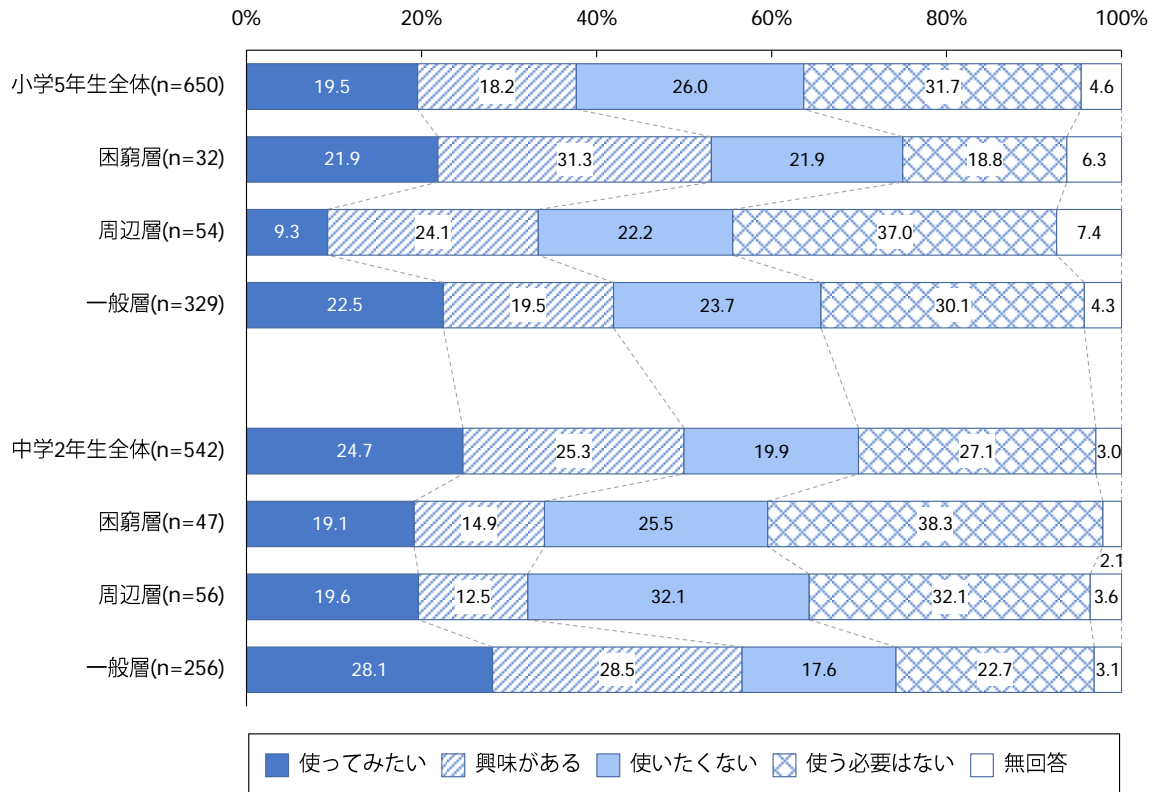


(2) 学校外での無料の学習支援

E 大学生ボランティアが、勉強を無料でみてくれる場所

大学生ボランティアが、勉強を無料でみてくれる場所について、「使ってみたい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で21.9%、周辺層で9.3%、一般層で22.5%、中学2年生の困窮層で19.1%、周辺層で19.6%、一般層で28.1%となっており、小学5年生の周辺層で低くなっている。また、小学5年生、中学2年生ともに一般層で高くなっている。

問 35 利用希望/E 大学生ボランティアが、勉強を無料でみてくれる場所



第4部 子どもの生活・友人関係

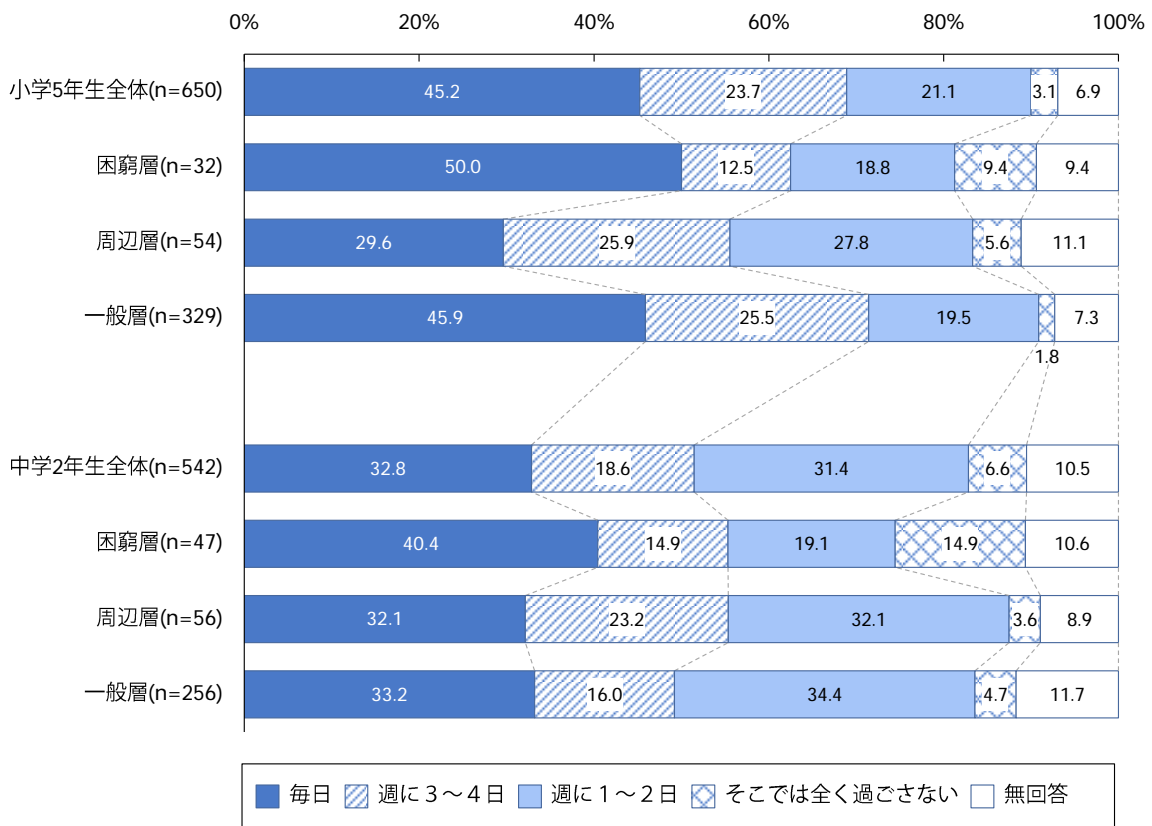
1 放課後・休日の過ごし方

(1) 平日の放課後の過ごし方

A 自分の家

平日の放課後を「自分の家」で過ごす頻度について、「毎日」と「週に3～4日」を合わせた『ほぼ毎日』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で62.5%、周辺層で55.5%、一般層で71.4%、中学2年生の困窮層、周辺層でともに55.3%、一般層で49.2%となっている。

問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/A 自分の家

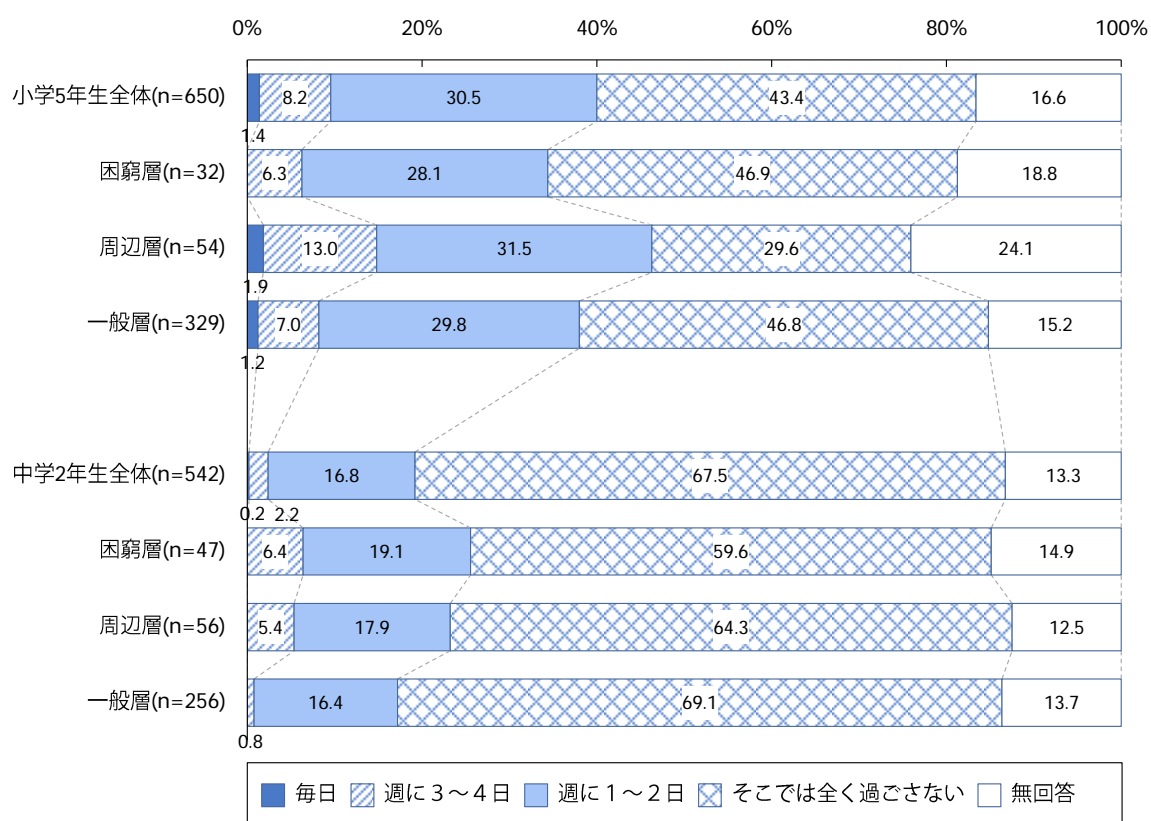


B 友だちの家

平日の放課後を「友だちの家」で過ごす頻度について、「そこでは全く過ごさない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で46.9%、周辺層で29.6%、一般層で46.8%、中学2年生の困窮層で59.6%、周辺層で64.3%、一般層で69.1%となっており、中学2年生で高くなっている。

「毎日」「週に3～4日」は、小学5年生の周辺層で14.9%と困窮層、一般層に比べて高くなっている。

問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/B 友だちの家

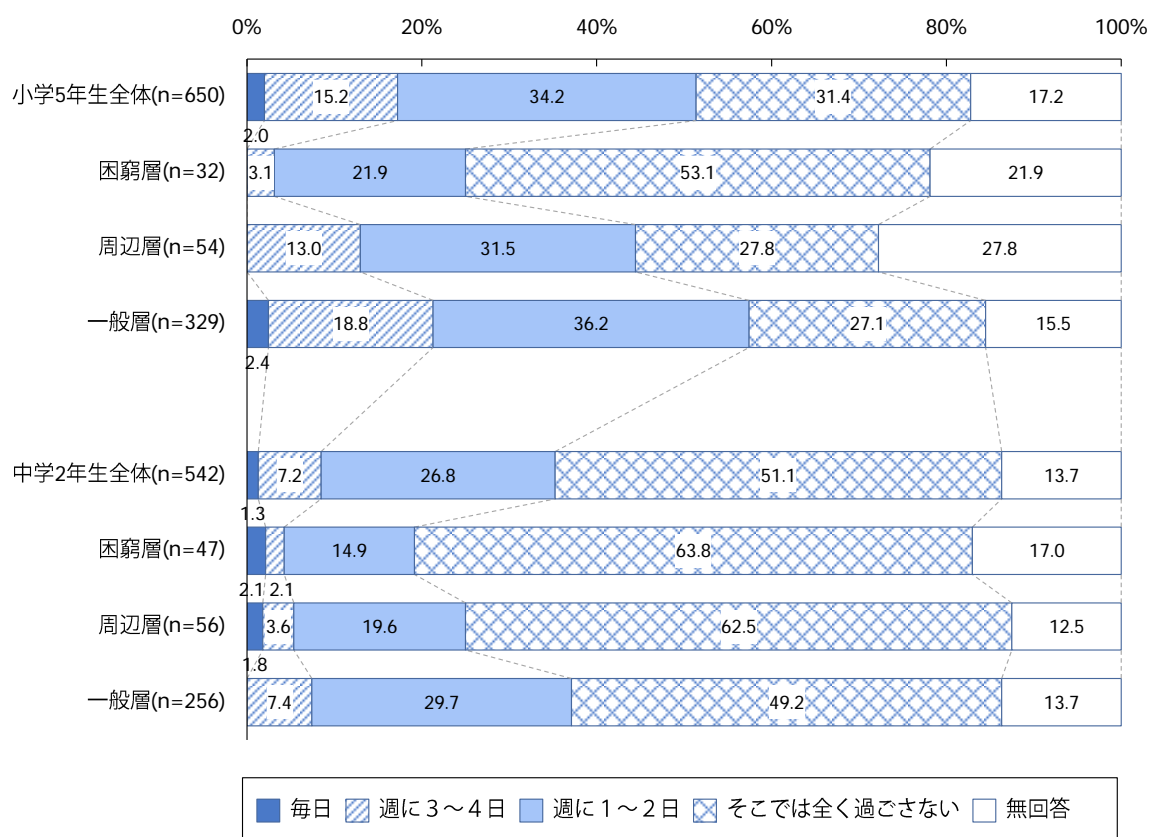


C 塾や習い事

平日の放課後を「塾や習い事」で過ごす頻度について、「毎日」と「週に3～4日」を合わせた『ほぼ毎日』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で3.1%、周辺層で13.0%、一般層で21.2%、中学2年生の困窮層で4.2%、周辺層で5.4%、一般層で7.4%となっており、小学5年生の一般層で高くなっている。

「そこでは全く過ごさない」は、小学5年生の困窮層、中学2年生の各層で約5～6割と高くなっている。

問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/C 塾や習い事

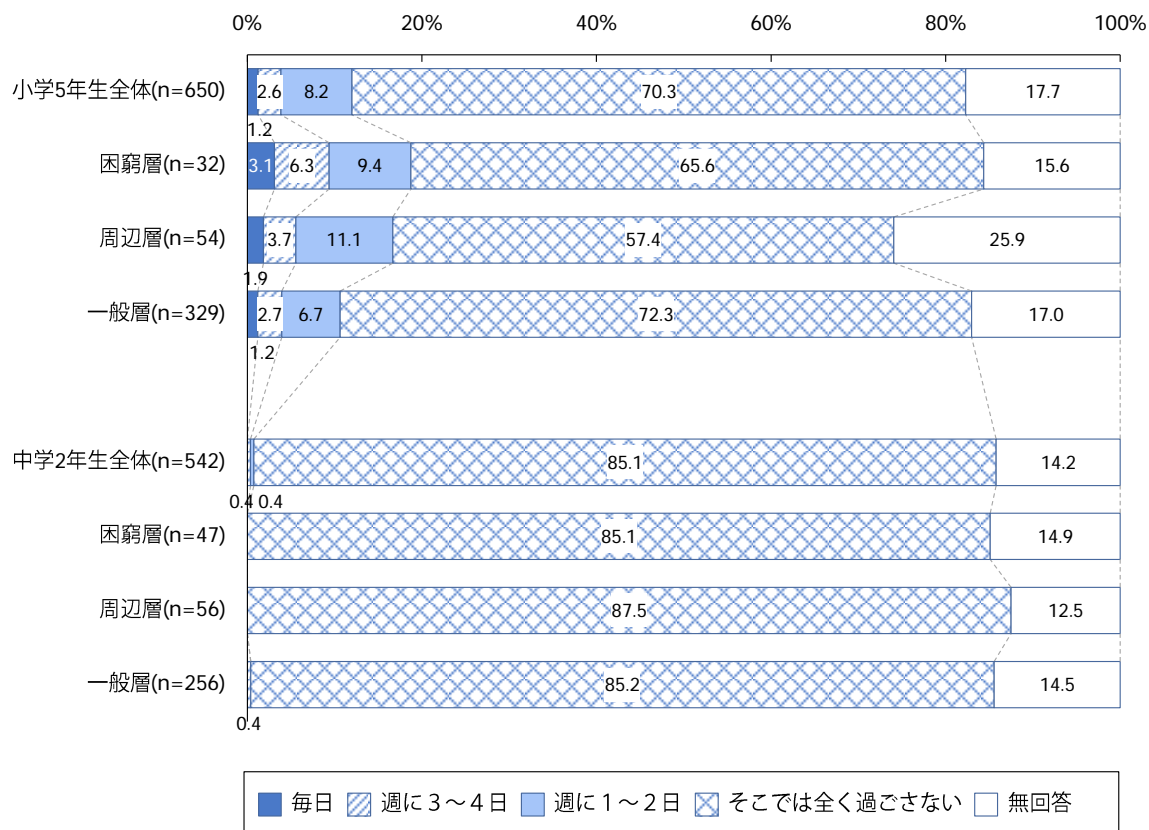


D 児童館（学童クラブふくむ）

平日の放課後を「児童館（学童クラブをふくむ）」で過ごす頻度について、「毎日」と「週に3～4日」を合わせた『ほぼ毎日』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で9.4%、周辺層で5.6%、一般層で3.9%、中学2年生の困窮層、周辺層とともに0.0%、一般層で0.4%となっている。

「そこでは全く過ごさない」は、中学2年生の各層で85%前後と非常に高くなっている。

問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/D 児童館（学童クラブをふくむ）

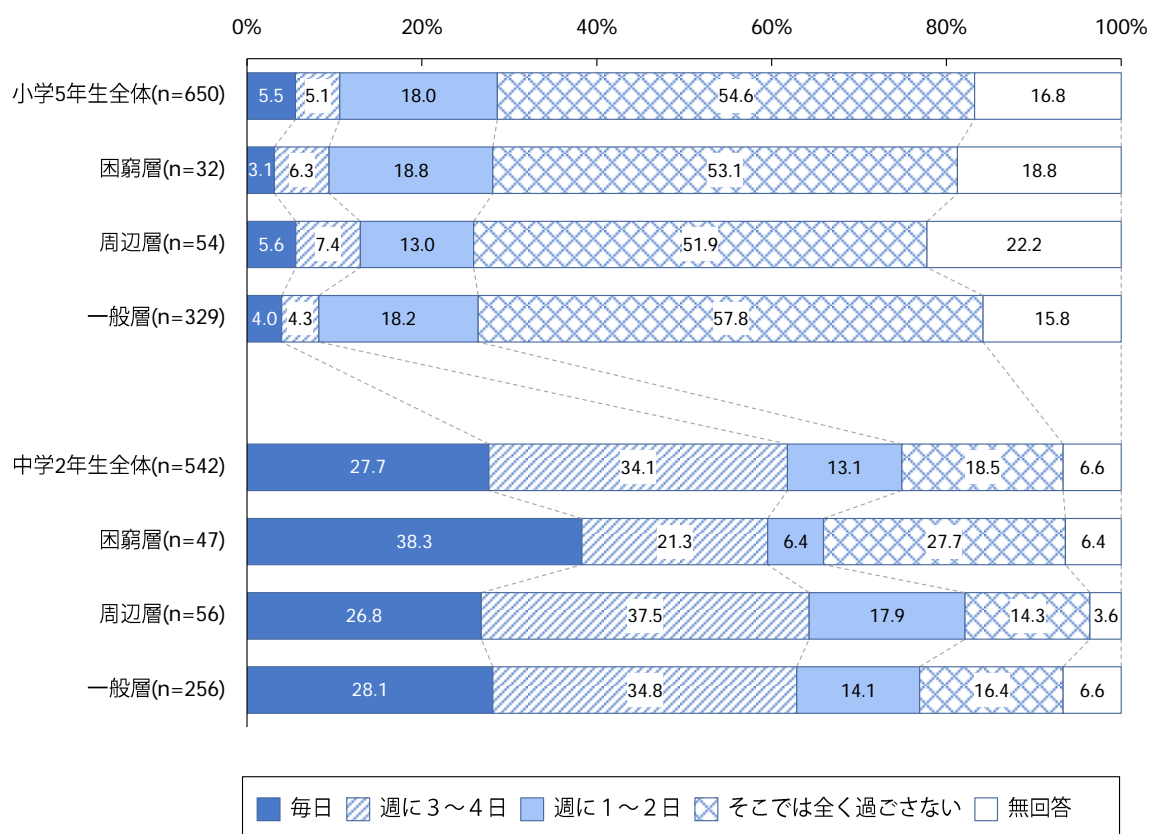


E 学校（クラブ活動、放課後子ども教室/部活など）

平日の放課後を「学校（クラブ活動、放課後子ども教室/部活など）」で過ごす頻度について、「そこでは全く過ごさない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で53.1%、周辺層で51.9%、一般層で57.8%と高くなっている。

「毎日」と「週に3～4日」を合わせた『ほぼ毎日』と回答した割合は、中学2年生の困窮層で59.6%、周辺層64.3%、一般層で62.9%と高くなっている。

問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/E 学校（クラブ活動、放課後子ども教室/部活など）

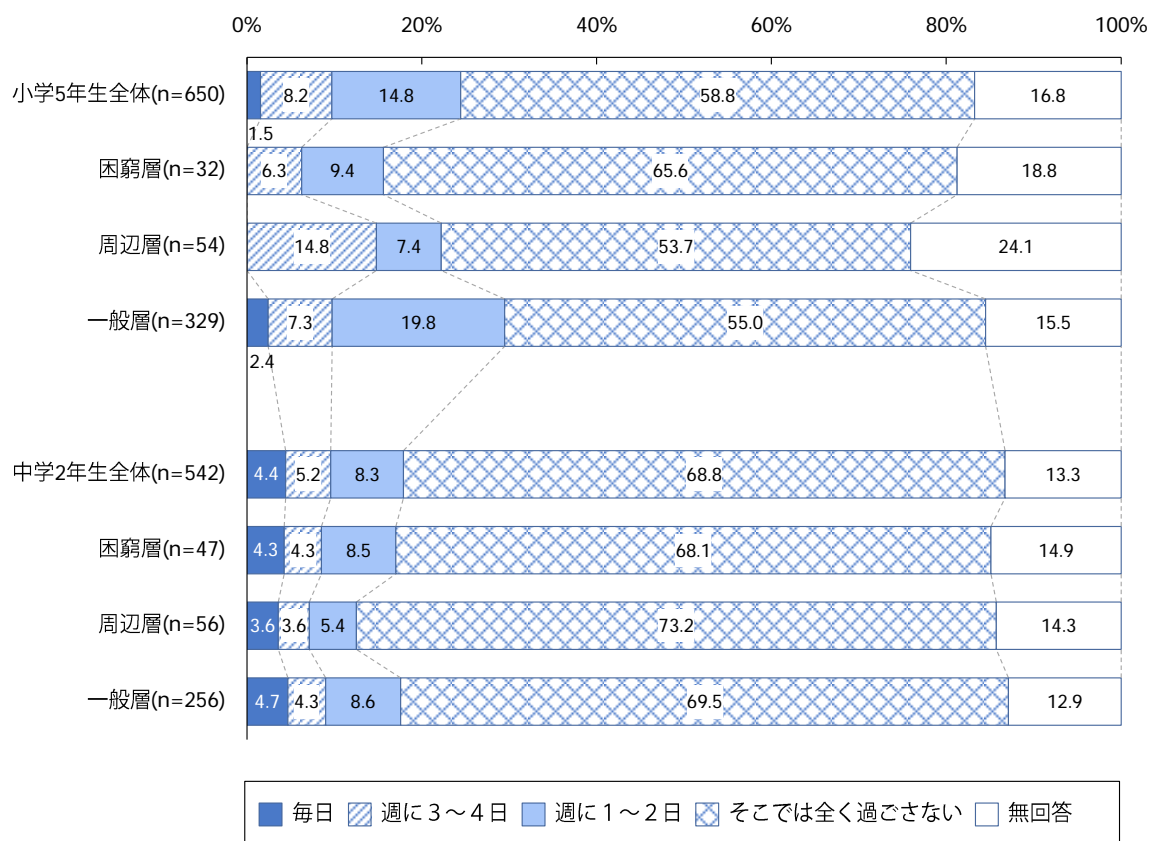


F スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）

平日の放課後を「スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）」で過ごす頻度について、「毎日」と「週に3～4日」を合わせた『ほぼ毎日』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で6.3%、周辺層で14.8%、一般層で9.7%、中学2年生の困窮層で8.6%、周辺層7.2%、一般層で9.0%となっており、小学5年生の周辺層で高くなっている。

「そこでは全く過ごさない」は、小学生5年生は各層とも約55%から65%前後、中学2年生の各層で70%前後と高くなっている。

問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/F スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）

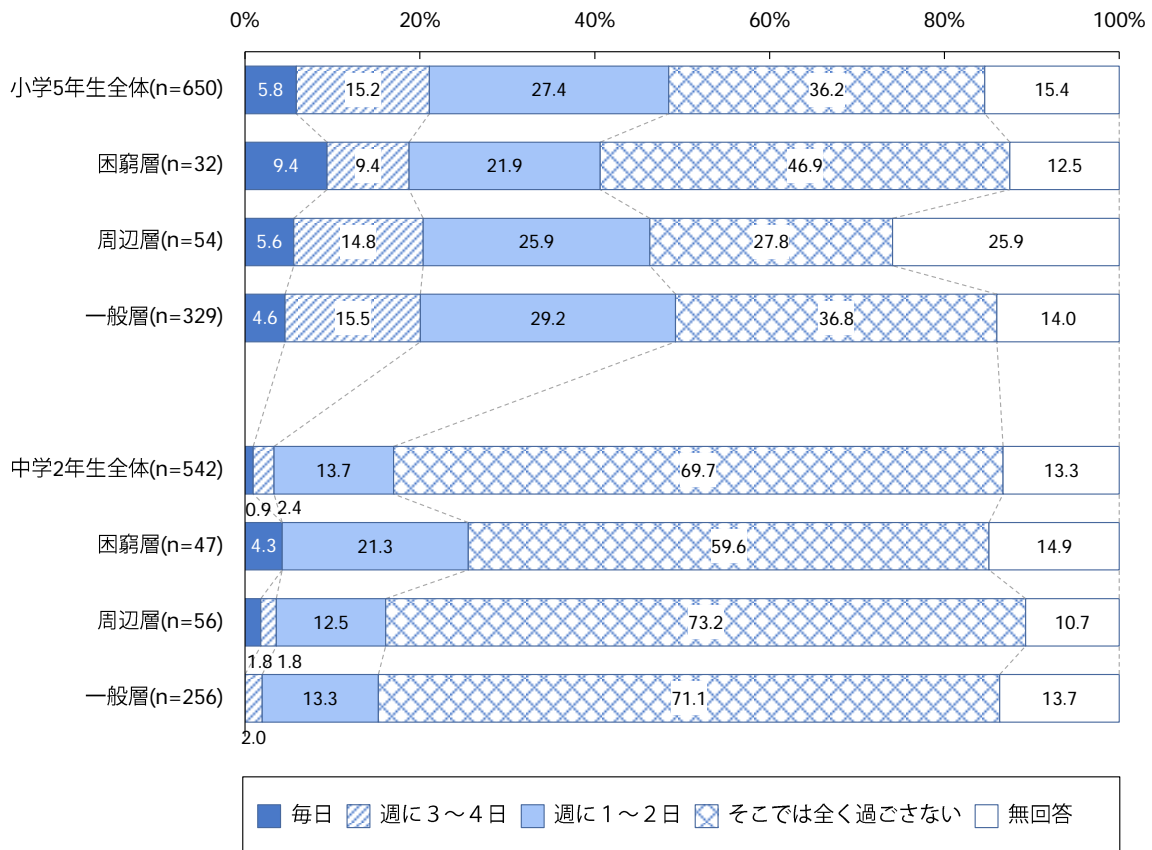


G 公園

平日の放課後を「公園」で過ごす頻度について、「週に1～2日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で21.9%、周辺層で25.9%、一般層で29.2%、中学2年生の困窮層で21.3%、周辺層12.5%、一般層で13.3%となっており、小学5年生の各層で高くなっている。

「そこでは全く過ごさない」は、中学2年生の各層で約60%から75%前後と高くなっている。

問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/G 公園

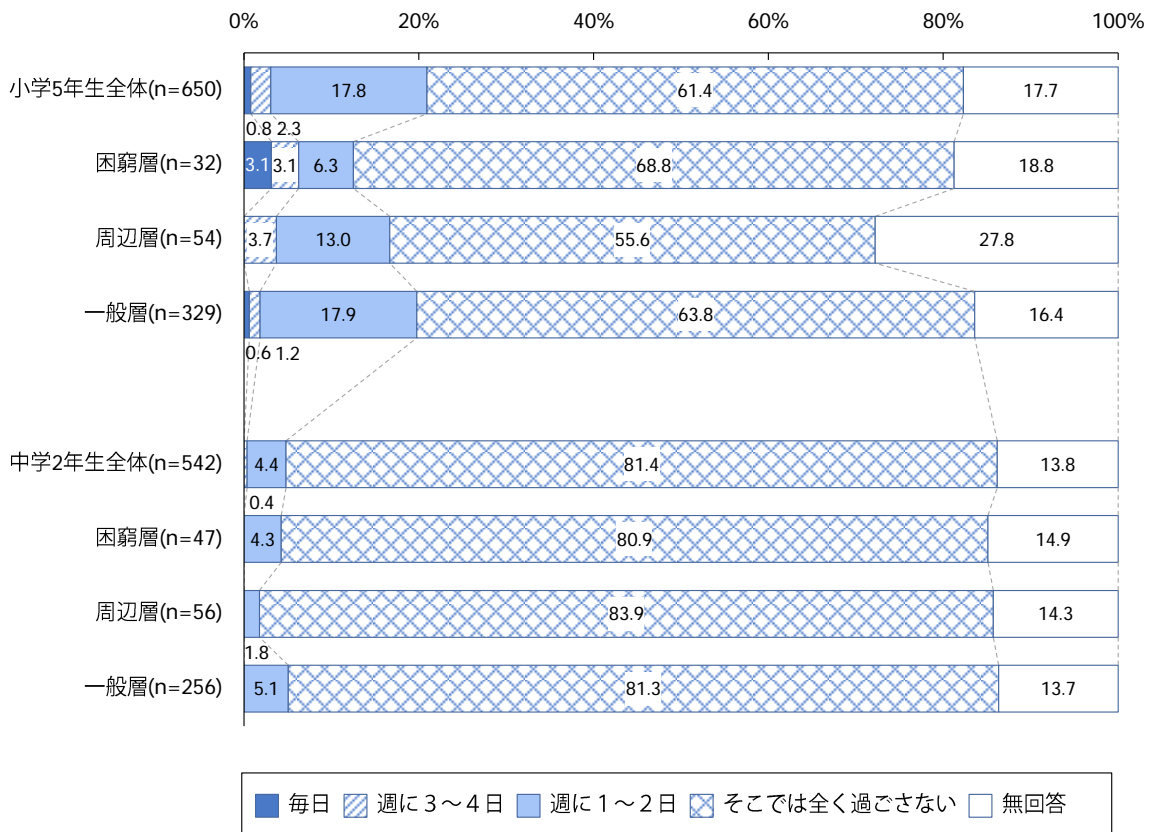


H 図書館

平日の放課後を「図書館」で過ごす頻度について、「週に1～2日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で6.3%、周辺層で13.0%、一般層で17.9%、中学2年生の困窮層で4.3%、周辺層1.8%、一般層で5.1%となっており、小学5年生の周辺層、一般層で高くなっている。

「そこでは全く過ごさない」は、中学2年生の各層で約8割と高くなっている。

問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/H 図書館

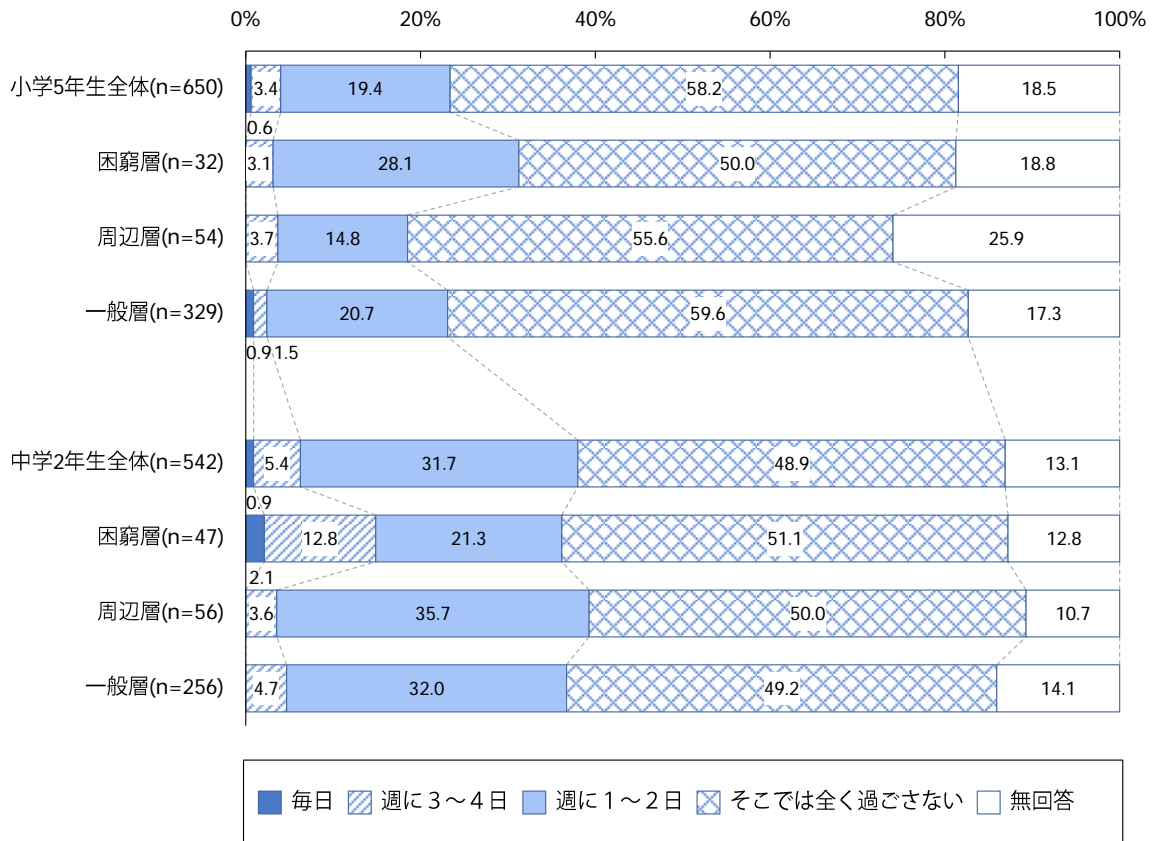


Ⅰ 商店街やショッピングモール

平日の放課後を「商店街やショッピングモール」で過ごす頻度について、「週に1～2日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で28.1%、周辺層で14.8%、一般層で20.7%、中学2年生の困窮層で21.3%、周辺層35.7%、一般層で32.0%となっている。

「毎日」は、小学5年生の一般層で0.9%、中学2年生の困窮層で2.1%と少ないながらも存在している。

問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/Ⅰ 商店街やショッピングモール

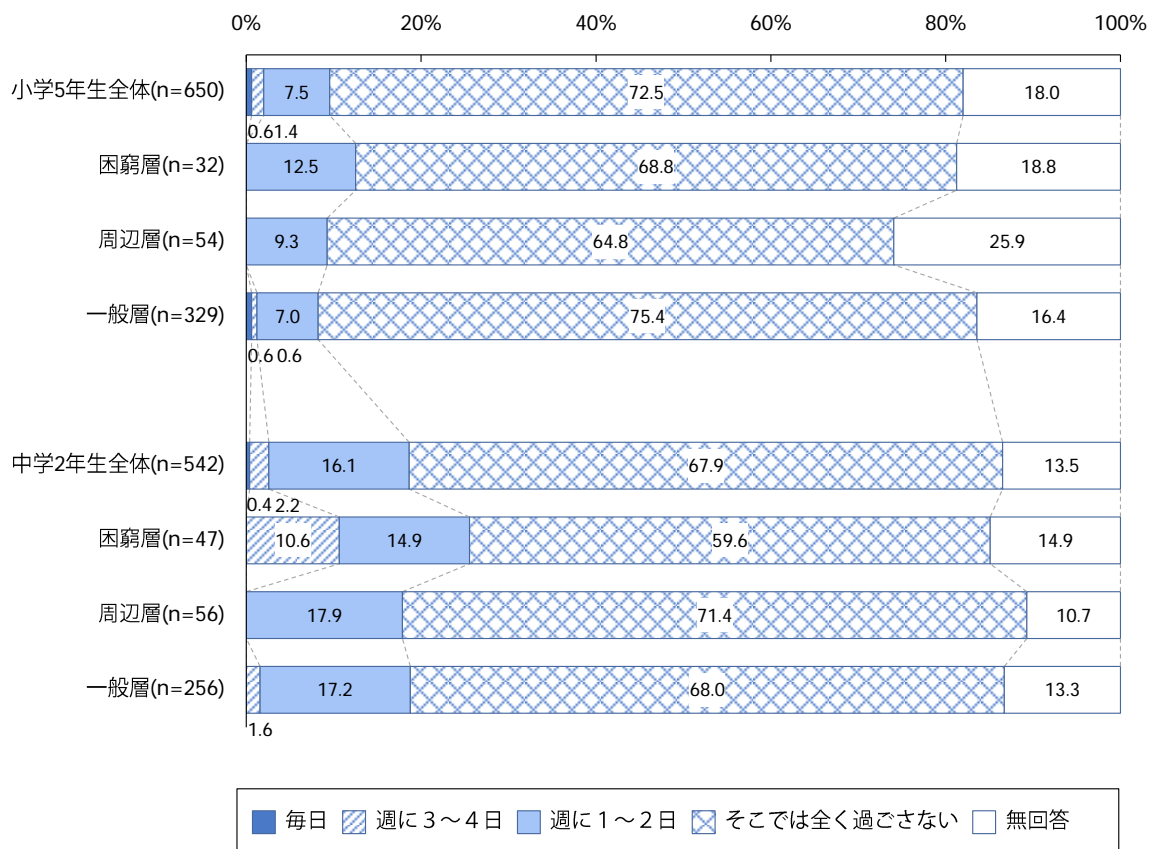


Ｊ ゲームセンター

平日の放課後を「ゲームセンター」で過ごす頻度について、「週に1～2日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で12.5%、周辺層で9.3%、一般層で7.0%、中学2年生の困窮層で14.9%、周辺層17.9%、一般層で17.2%となっており、中学2年生の各層で高くなっている。

「週に3～4日」は、中学2年生の困窮層で10.6%と高くなっている。

問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/Ｊ ゲームセンター

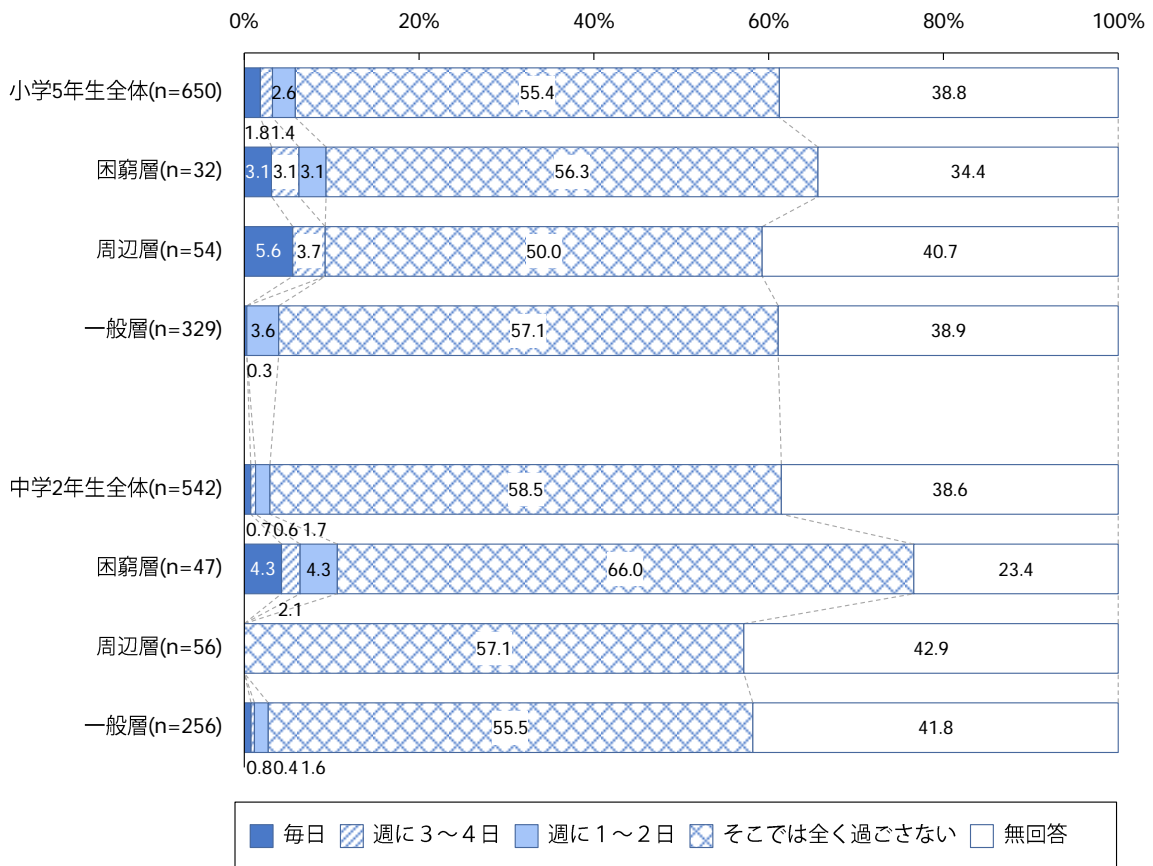


K その他

平日の放課後を「その他」で過ごす頻度について、「そこでは全く過ごさない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で56.3%、周辺層で50.0%、一般層で57.1%、中学2年生の困窮層で66.0%、周辺層57.1%、一般層で55.5%となっている。

小学5年生の各層で40%前後、中学2年生の各層で25%～40%前後が「無回答」となっている。

問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/K その他



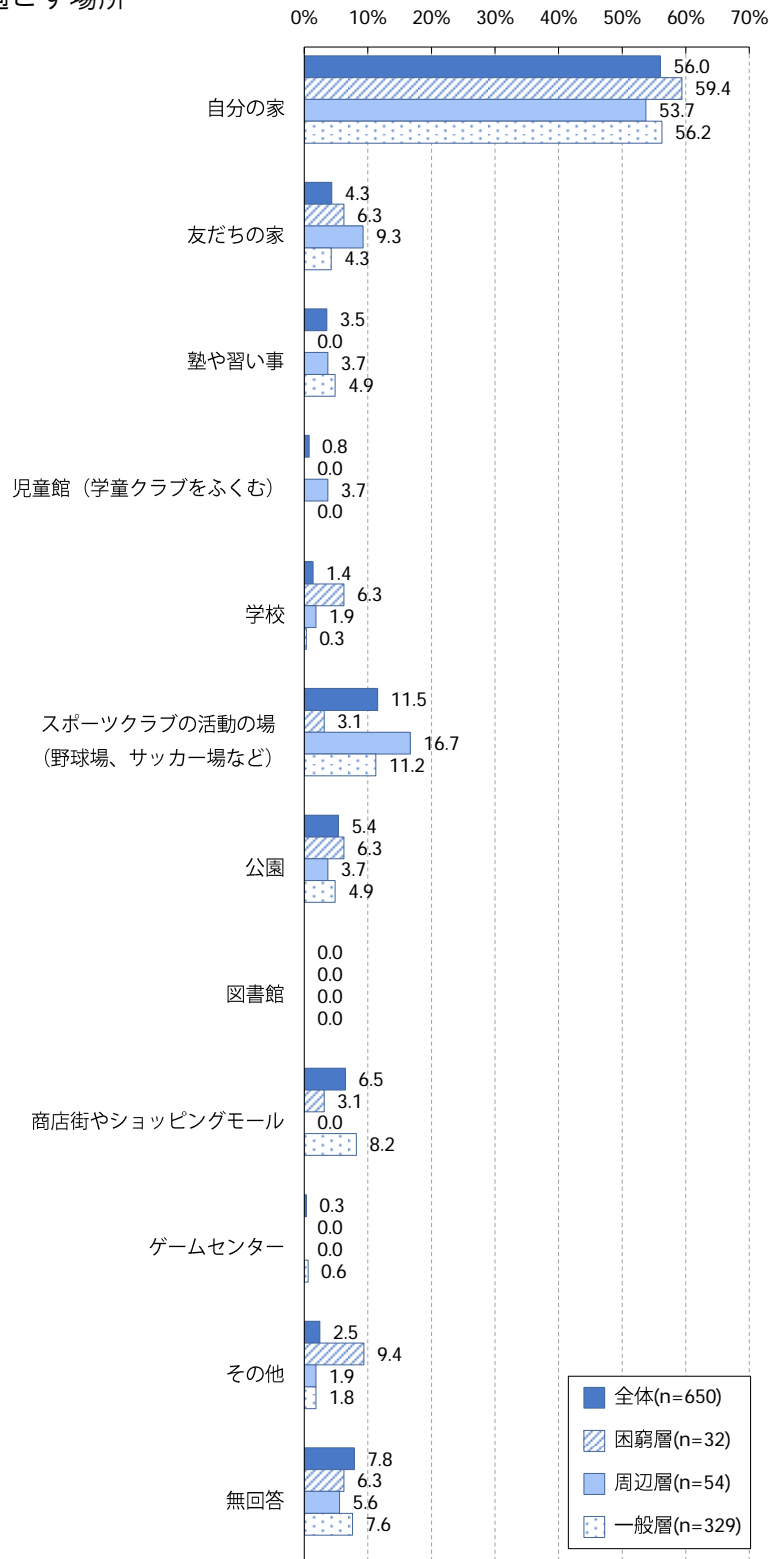
(2) 休日の過ごし方

小学5年生の休日に過ごす場所では、全体で「自分の家」が56.0%と最も高く、次いで「スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）」が11.5%となっている。

「塾や習い事」では、困窮層で0.0%と周辺層、一般層に比べてやや低く、一方、「学校」では6.3%とやや高くなっている。

問 12 休日に過ごす場所

小学5年生



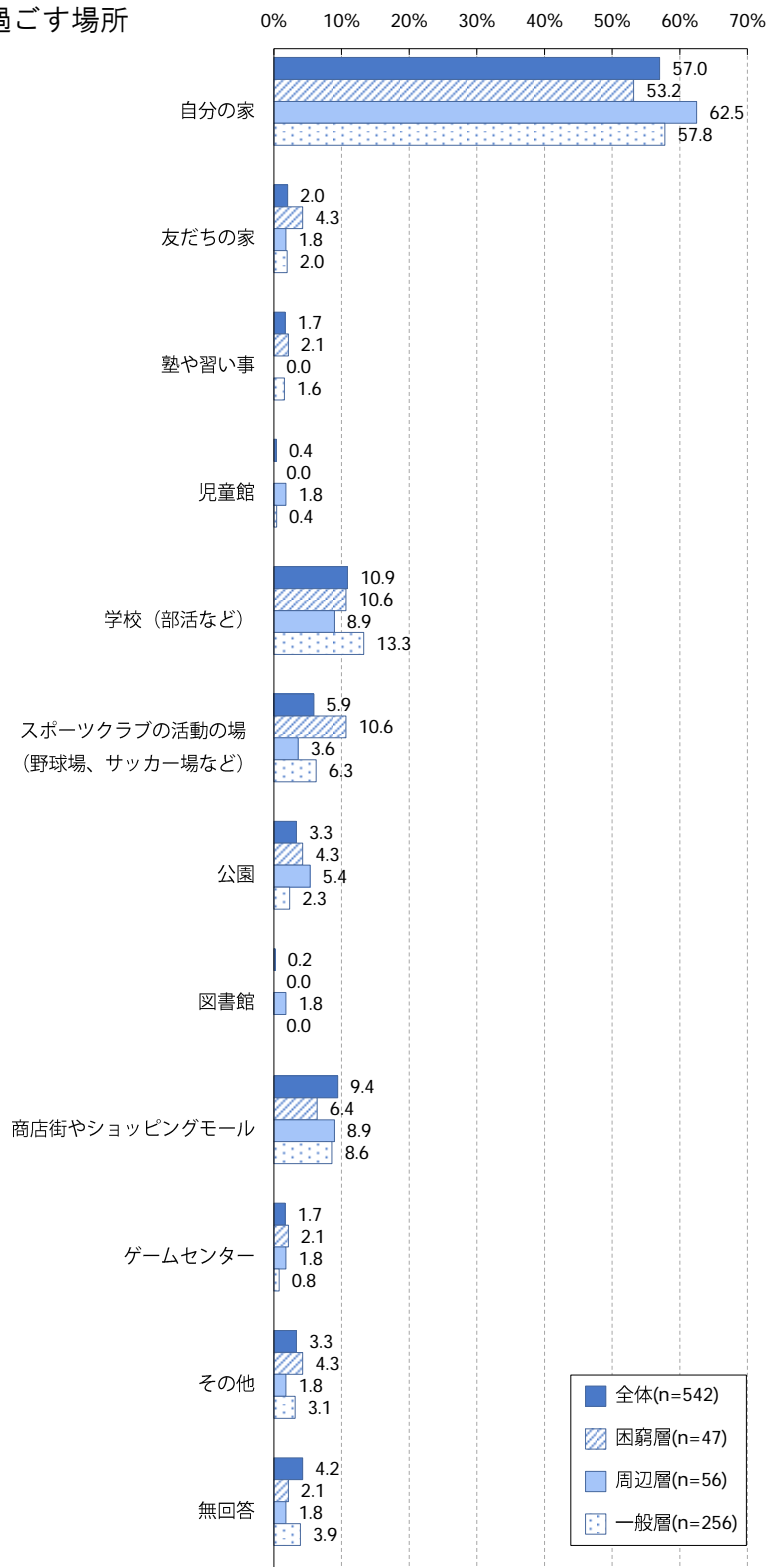
中学2年生の休日に過ごす場所では、全体で「自分の家」が57.0%と最も高く、次いで「学校（部活など）」が10.9%となっている。

「スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）」では、困窮層で10.6%と周辺層、一般層に比べてやや高くなっている。

「商店街やショッピングモール」では、全体で9.4%（困窮層6.4%、周辺層8.9%、一般層8.6%）存在している。

問 12 休日に過ごす場所

中学2年生

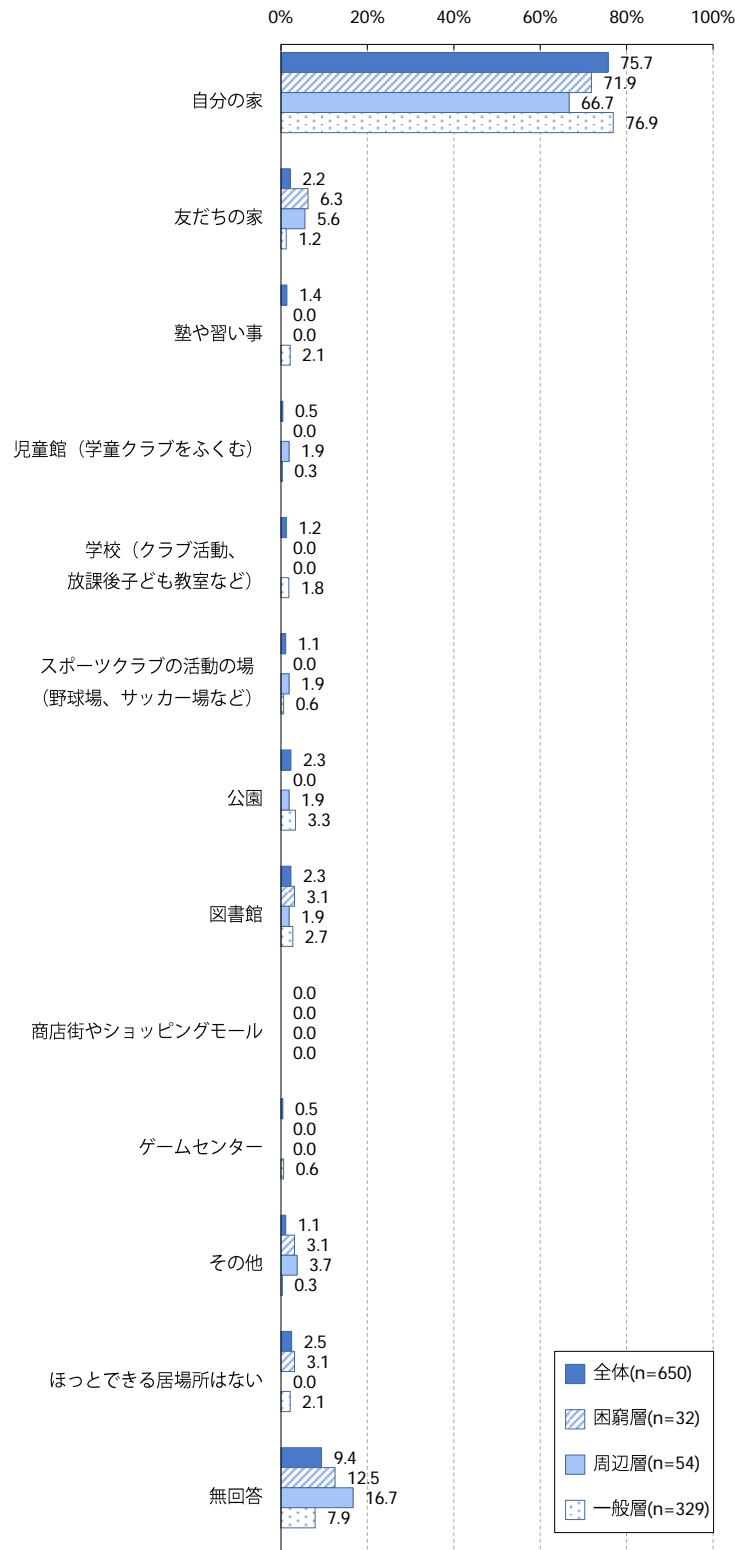


(3) 一番ほっとできる居場所

小学5年生の間8の場所の中で、一番ほっとできる居場所について、全体では「自分の家」が75.7%（困窮層71.9%、周辺層66.7%、一般層76.9%）で最も高くなっている。

問9 問8の場所の中で、一番ほっとできる居場所

小学5年生

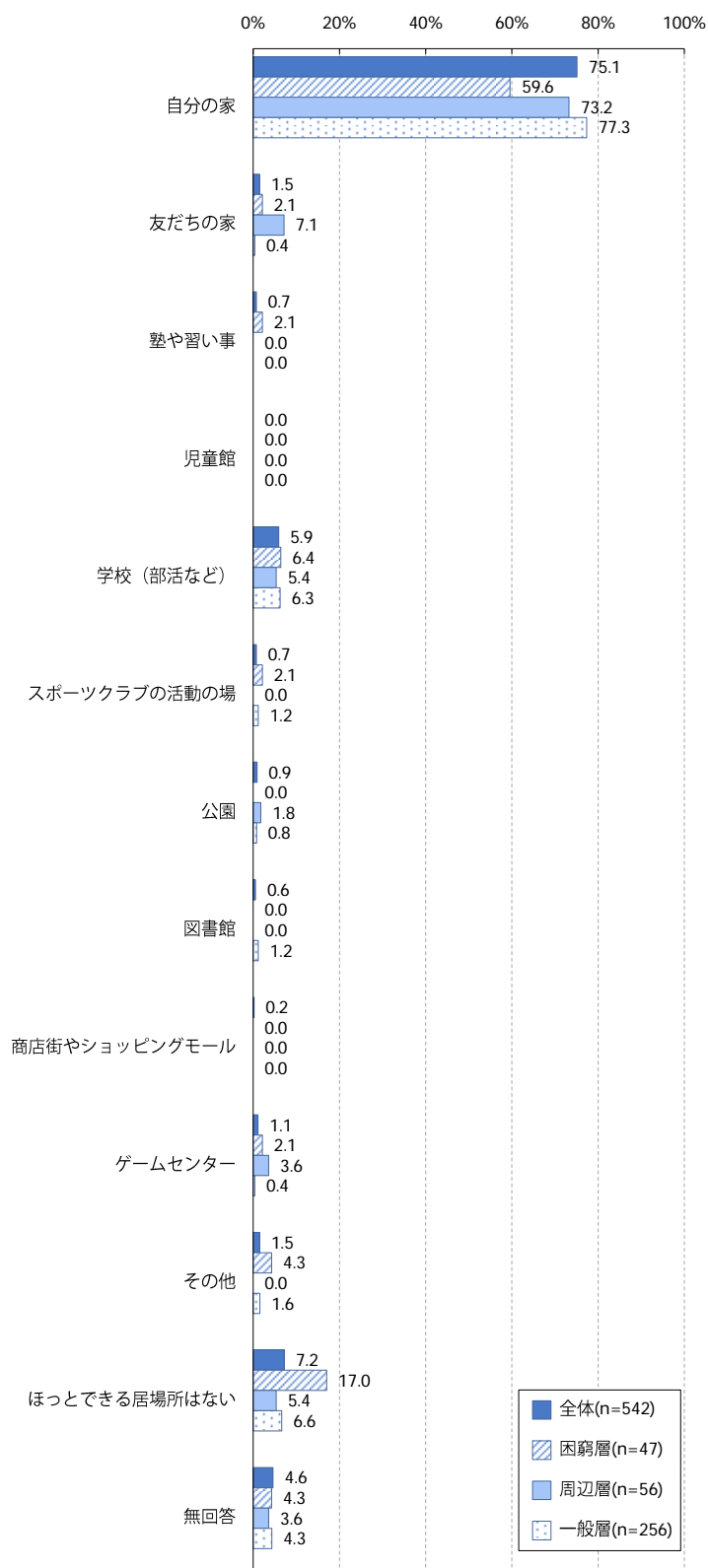


中学2年生の間8の場所の中で、一番ほっとできる居場所について、「自分の家」では困窮層で59.6%、周辺層で73.2%、一般層で77.3%となっており、困窮層で低くなっている。

「ほっとできる居場所はない」は、困窮層で17.0%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問9 問8の場所の中で、一番ほっとできる居場所

中学2年生

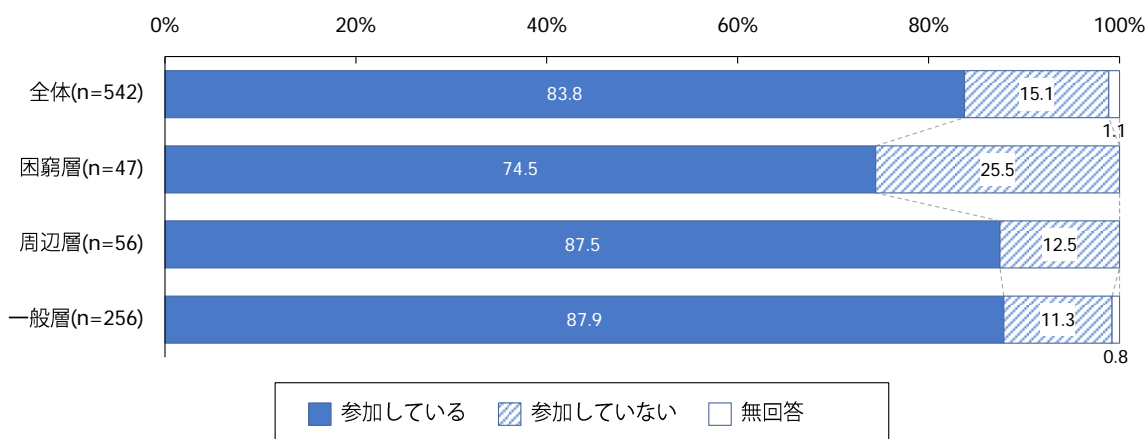


(4) 中学生のクラブ活動

中学2年生の学校のクラブ活動の参加状況について、「参加している」では困窮層で74.5%、周辺層で87.5%、一般層で87.9%となっており、困窮層で低くなっている。

「参加していない」では、困窮層で25.5%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

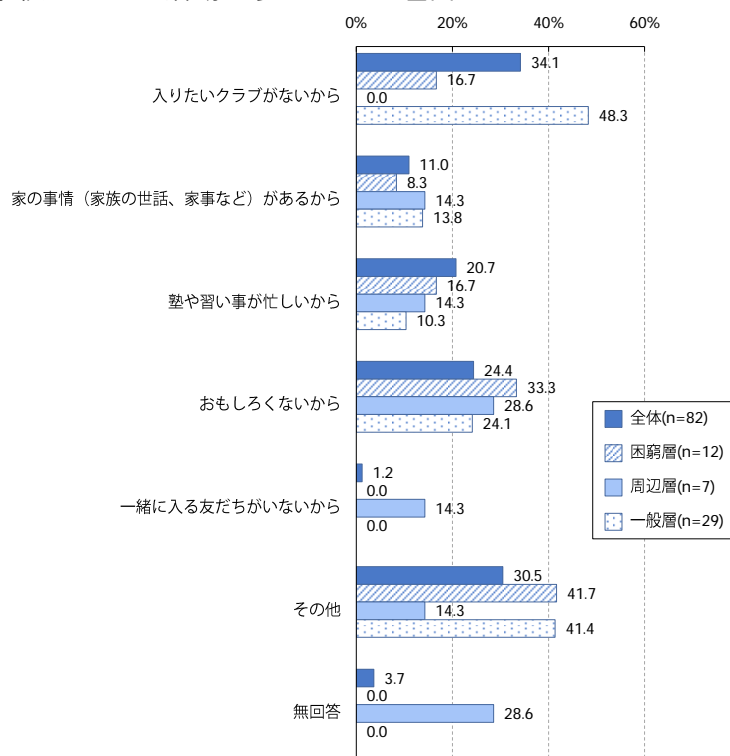
問10 学校のクラブ活動の参加状況



中学2年生の学校のクラブ活動に「参加していない」理由では、全体で「入りたいクラブがないから」が34.1%と最も高く、次いで「おもしろくないから」が24.4%、「塾や習い事が忙しいから」が20.7%となっている。

「入りたいクラブがないから」は、一般層で48.3%と困窮層、周辺層に比べて非常に高くなっている。また、「おもしろくないから」「塾や習い事が忙しいから」は、困窮層でそれぞれ33.3%、16.7%と周辺層、一般層に比べてやや高くなっている。

問10-1 学校のクラブ活動に参加しない理由

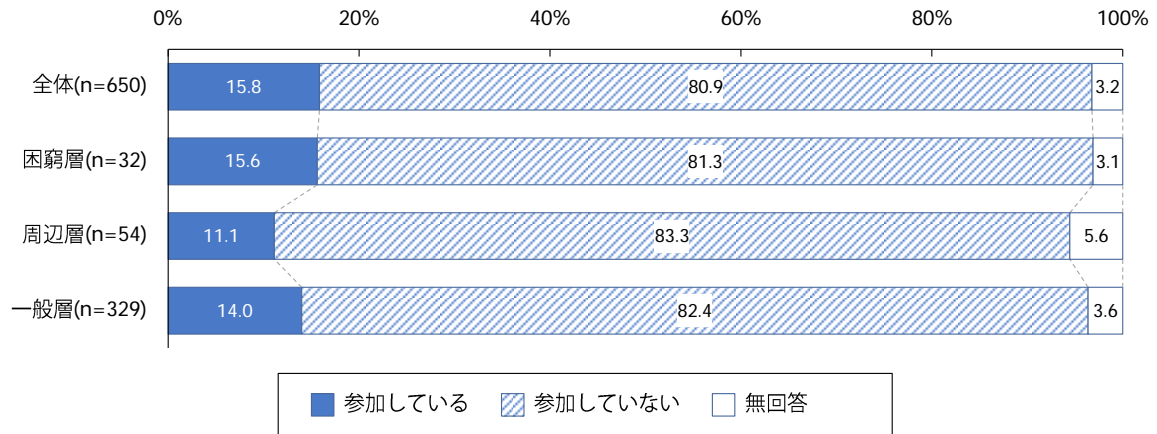


(5) 放課後子ども教室

小学5年生の放課後子ども教室の参加状況について、「参加している」では困窮層で15.6%、周辺層で11.1%、一般層で14.0%となっており、困窮層でやや高くなっている。

「参加していない」では、各層で約8割と高くなっている。

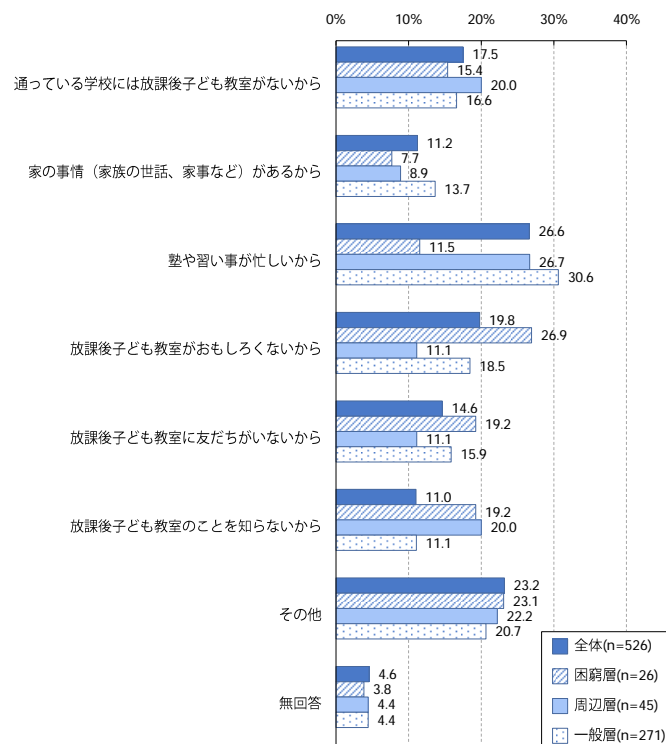
問10 放課後子ども教室の参加状況



小学5年生の放課後子ども教室に「参加していない」理由では、全体で「塾や習い事が忙しいから」が26.6%と最も高く、次いで「放課後子ども教室がおもしろくないから」が19.8%、「通っている学校には放課後子ども教室がないから」が17.5%となっている。

「放課後子ども教室がおもしろくないから」「放課後子ども教室に友だちがないから」は、困窮層でそれぞれ26.9%、19.2%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。一方、「塾や習い事が忙しいから」は、困窮層で11.5%と低くなっている。

問10-1 放課後子ども教室に参加しない理由

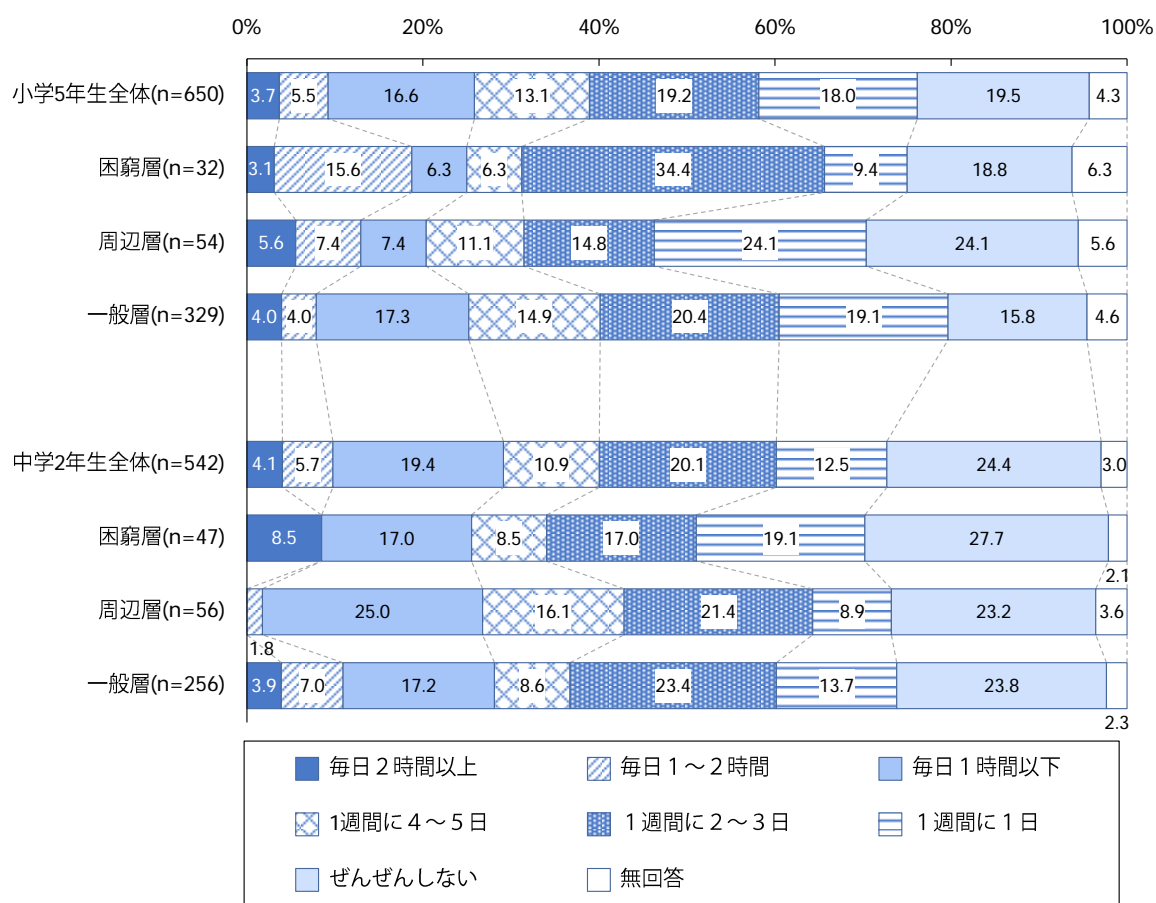


(6) 家事分担・家族の世話

家事をする頻度

家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）について、「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」を合わせた『毎日する』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で25.0%、周辺層で20.4%、一般層で25.3%、中学2年生の困窮層で25.5%、周辺層26.8%、一般層で28.1%となっており、大きな違いはみられないが、「毎日2時間以上」では、中学2年生の困窮層で8.5%と高くなっている。

問13 活動頻度/E 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）

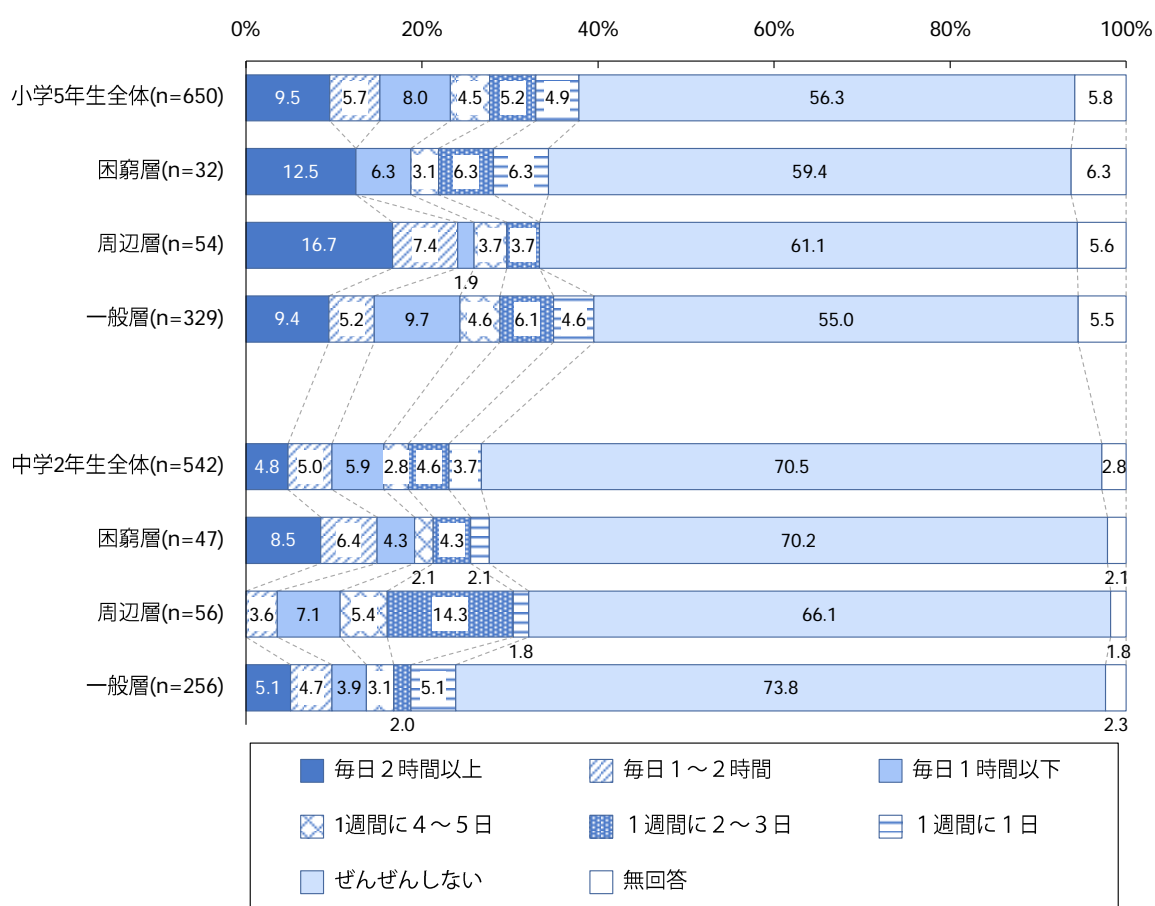


家族の世話をする頻度

兄弟姉妹の世話や祖父母の介護について、「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」を合わせた『毎日する』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で18.8%、周辺層で27.8%、一般層で24.3%、中学2年生の困窮層で19.2%、周辺層10.7%、一般層で13.7%となっており、小学5年生では周辺層、中学2年生では困窮層で高くなっている。

「ぜんぜんしない」は、小学5年生の各層で6割前後、中学2年生の各層で7割前後と高くなっている。

問13 活動頻度/F 兄弟姉妹の世話や祖父母の介護

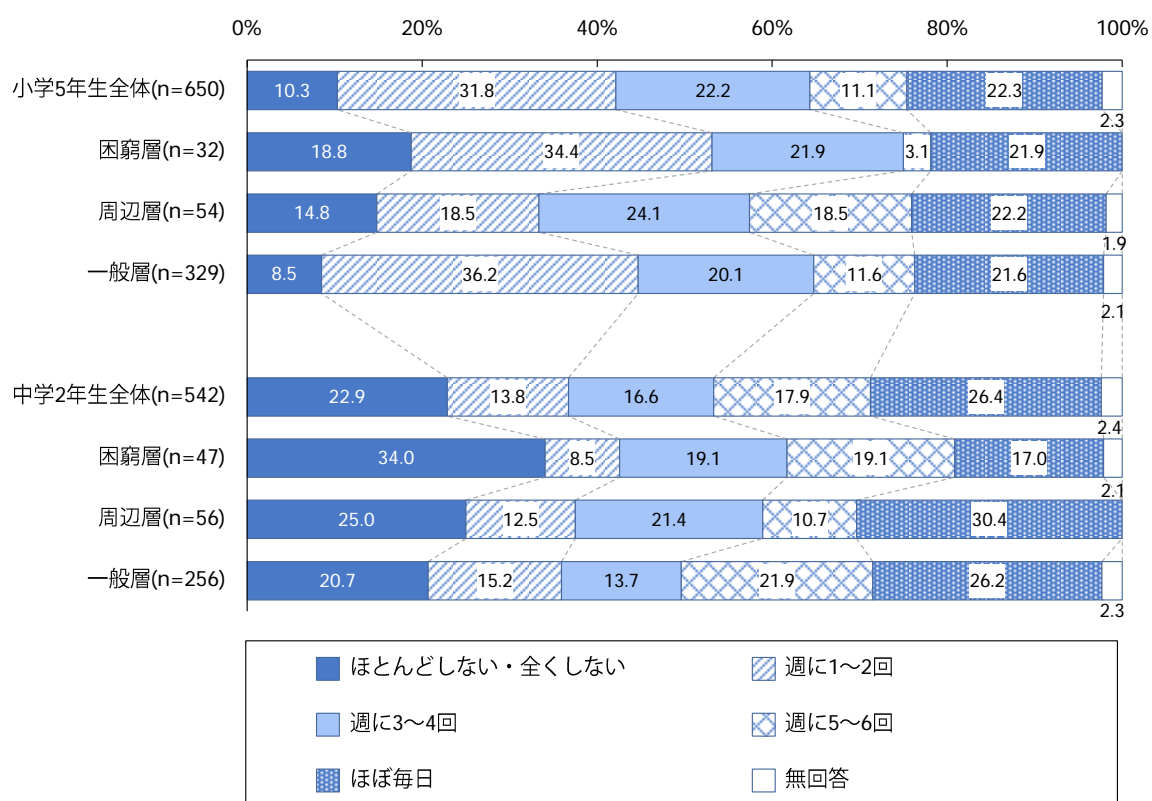


(7) 運動

30分以上からだを動かす遊びや習い事する頻度について、「ほぼ毎日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で21.9%、周辺層で22.2%、一般層で21.6%、中学2年生の困窮層で17.0%、周辺層30.4%、一般層で26.2%となっており、中学2年生では困窮層で低くなっている。

「ほとんどしない・全くしない」は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ18.8%、34.0%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 14 30分以上からだを動かす遊びや習い事する頻度

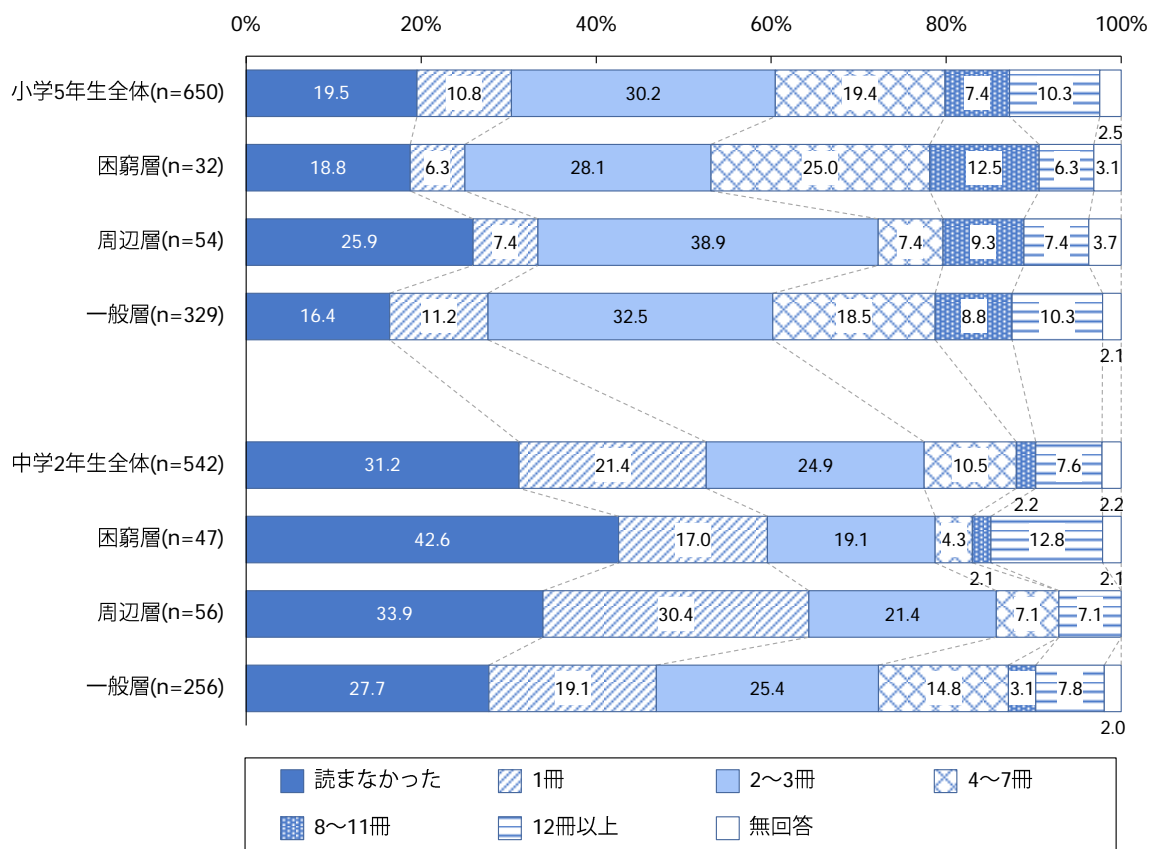


(8) 読書

1か月の間に読んだ本の冊数について、「読まなかった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で18.8%、周辺層で25.9%、一般層で16.4%、中学2年生の困窮層で42.6%、周辺層で33.9%、一般層で27.7%となっており、小学5年生では周辺層、中学2年生では困窮層で高くなっている。

「4～7冊」「8～11冊」「12冊以上」を合わせた『4～12冊以上』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で43.8%、周辺層で24.0%、一般層で37.6%、中学2年生の困窮層で19.3%、周辺層14.2%、一般層で25.7%となっており、小学5年生では困窮層、中学2年生では一般層で高くなっている。

問 15 1か月の間に読んだ本の冊数

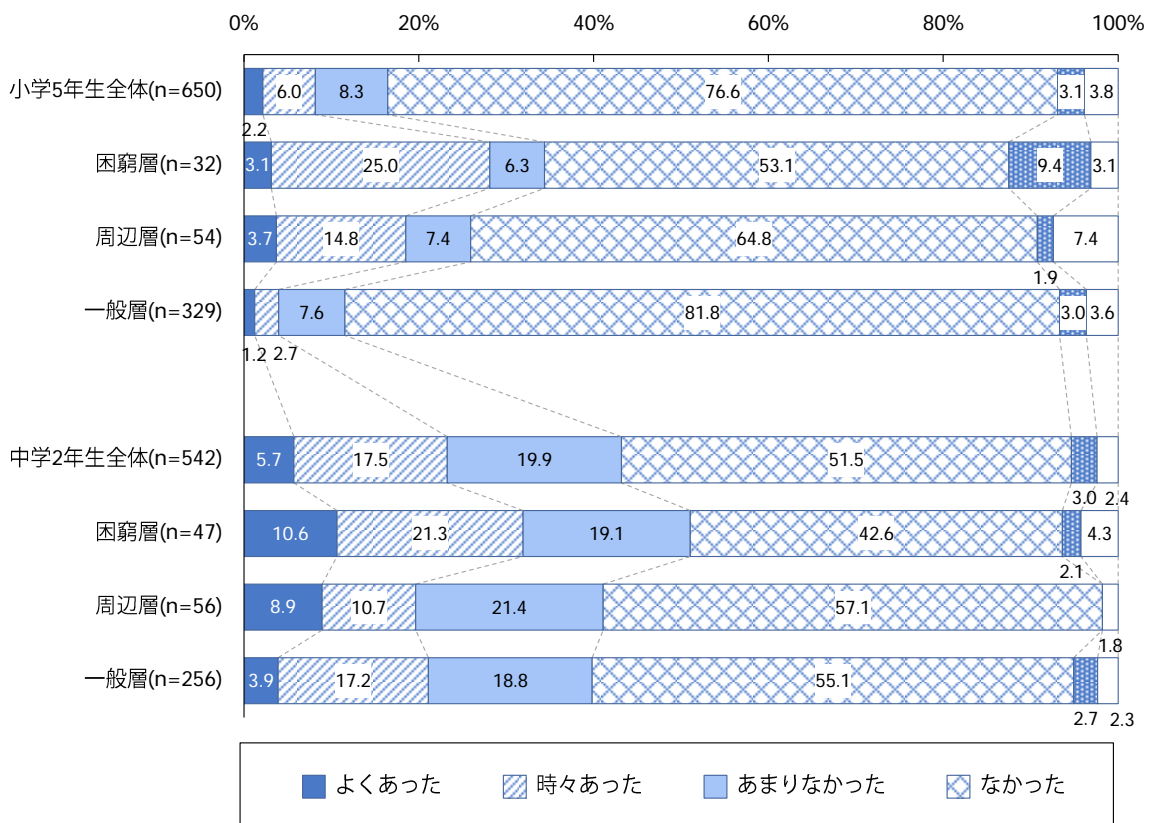


2 夕方以降の留守番と母親の就労時間

(1) 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験

夜遅くまで子どもだけで過ごした経験について、「よくあった」「時々あった」を合わせた『あった』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で28.1%、周辺層で18.5%、一般層で3.9%、中学2年生の困窮層で31.9%、周辺層で19.6%、一般層で21.1%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

問 34 経験/D 夜遅くまで子どもだけで過ごした



(2) 父母の平日日中以外の就労

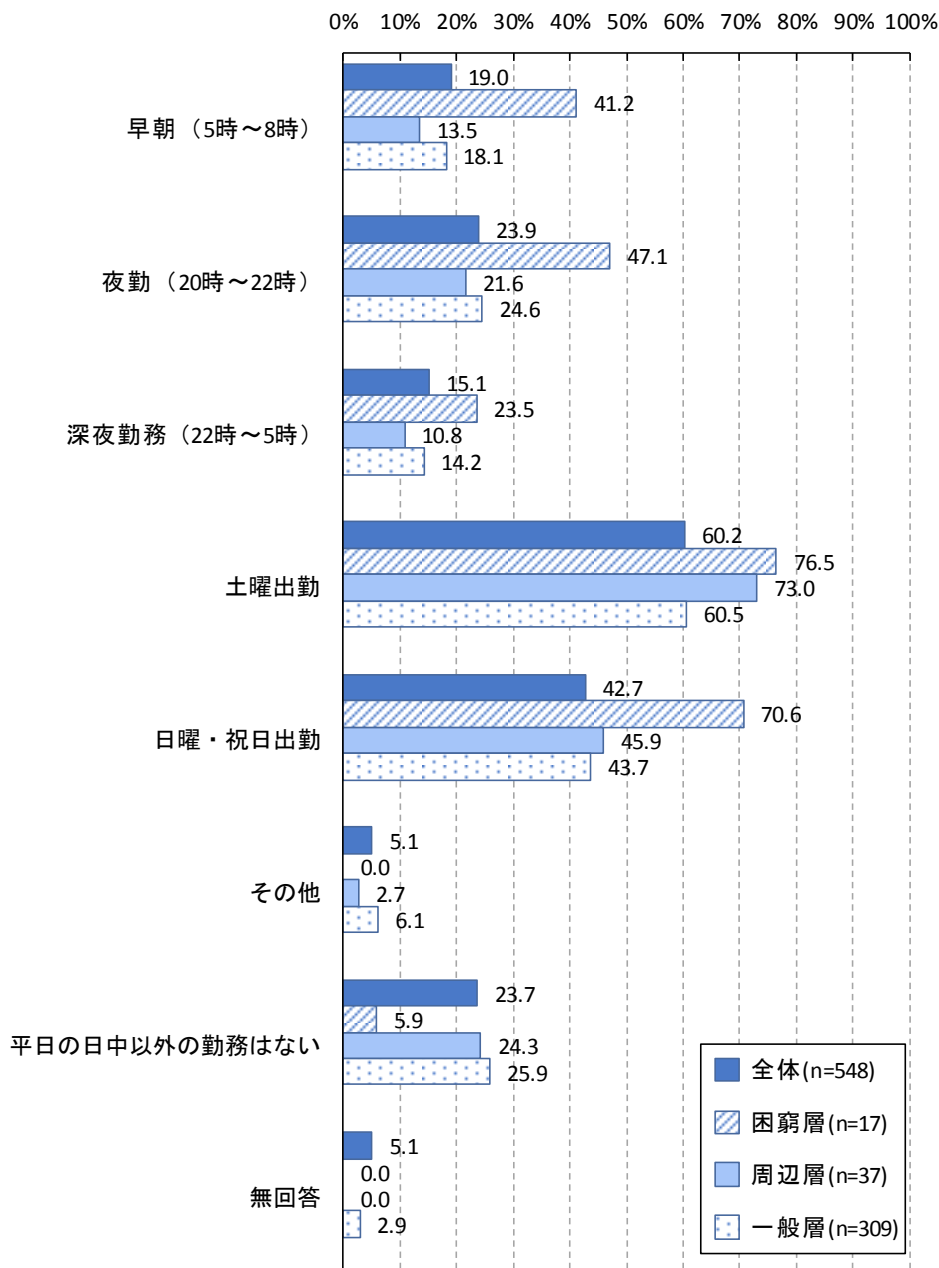
父親

小学5年生の父親の平日の日中以外の勤務形態について、「平日の日中以外の勤務はない」と回答した割合は、困窮層で5.9%、周辺層で24.3%、一般層で25.9%となっており、困窮層で低くなっている。

「早朝（5時～8時）」「夜勤（20時～22時）」「深夜勤務（22時～5時）」「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」は、困窮層でそれぞれ41.2%、47.1%、23.5%、76.5%、70.6%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 10-3 父親の平日の日中以外の勤務形態

小学5年生

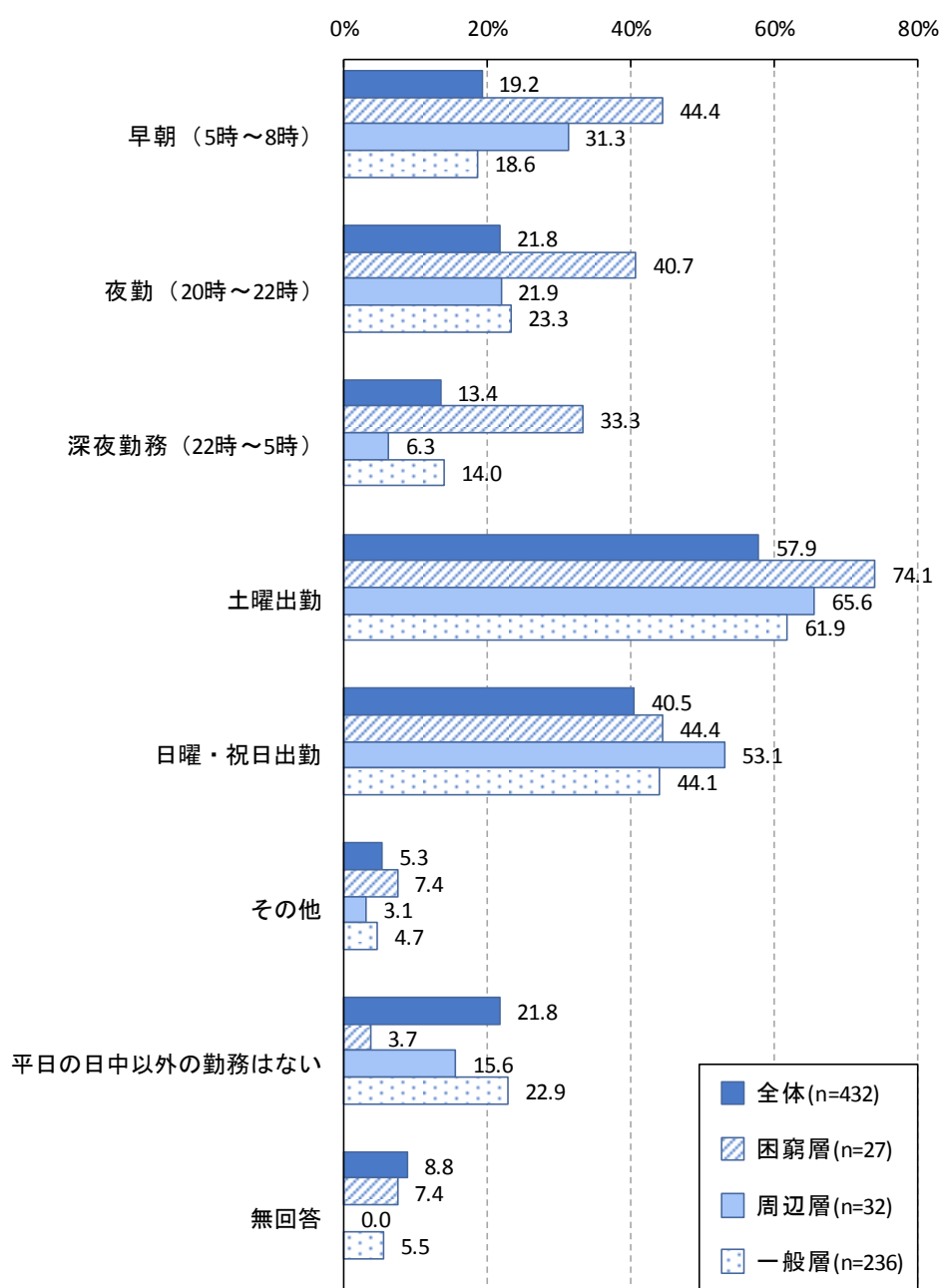


中学2年生の父親の平日の日中以外の勤務形態について、「平日の日中以外の勤務はない」と回答した割合は、困窮層で3.7%、周辺層で15.6%、一般層で22.9%となっており、困窮層で低くなっている。

「早朝（5時～8時）」「夜勤（20時～22時）」「深夜勤務（22時～5時）」「土曜出勤」は、困窮層でそれぞれ44.4%、40.7%、33.3%、74.1%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問10-3 父親の平日の日中以外の勤務形態

中学2年生



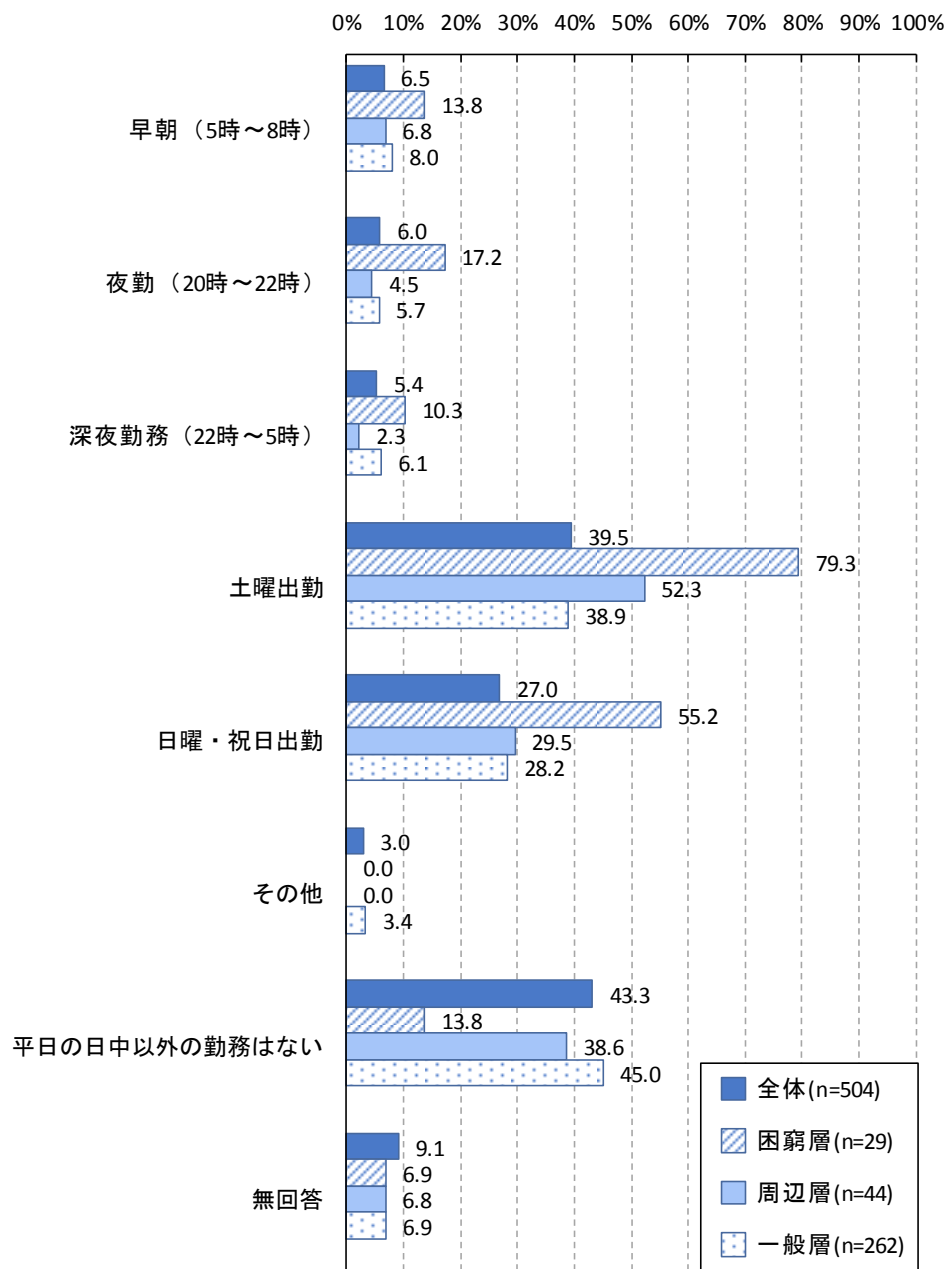
母親

小学5年生の母親の平日の日中以外の勤務形態について、「平日の日中以外の勤務はない」と回答した割合は、困窮層で13.8%、周辺層で38.6%、一般層で45.0%となっており、困窮層で低くなっている。

「早朝（5時～8時）」「夜勤（20時～22時）」「深夜勤務（22時～5時）」「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」は、困窮層でそれぞれ13.8%、17.2%、10.3%、79.3%、55.2%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 11-3 母親の平日の日中以外の勤務形態

小学5年生

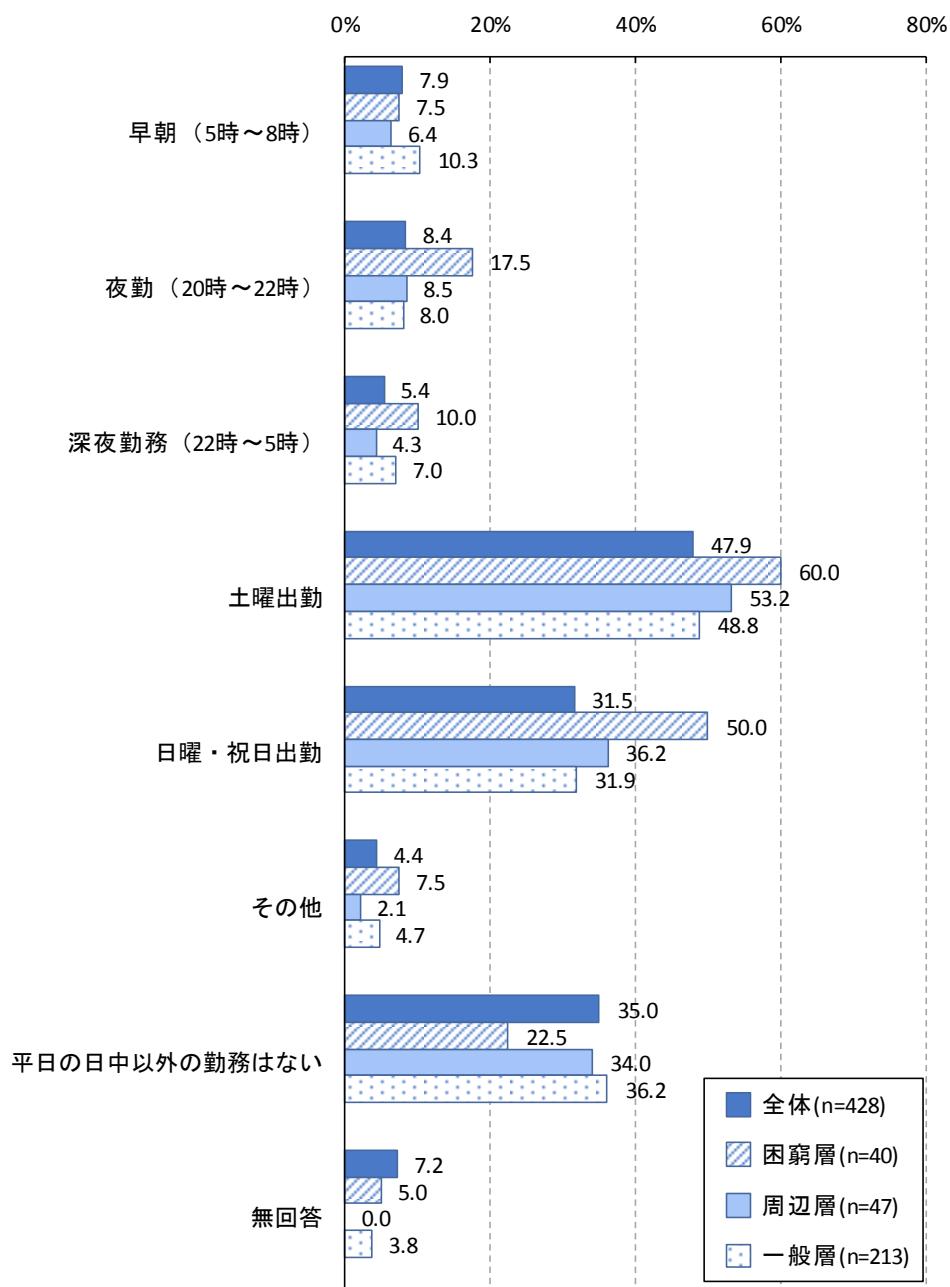


中学2年生の母親の平日の日中以外の勤務形態について、「平日の日中以外の勤務はない」と回答した割合は、困窮層で22.5%、周辺層で34.0%、一般層で36.2%となっており、困窮層で低くなっている。

「夜勤（20時～22時）」「深夜勤務（22時～5時）」「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」は、困窮層でそれぞれ17.5%、10.0%、60.0%、50.0%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 11-3 母親の平日の日中以外の勤務形態

中学2年生



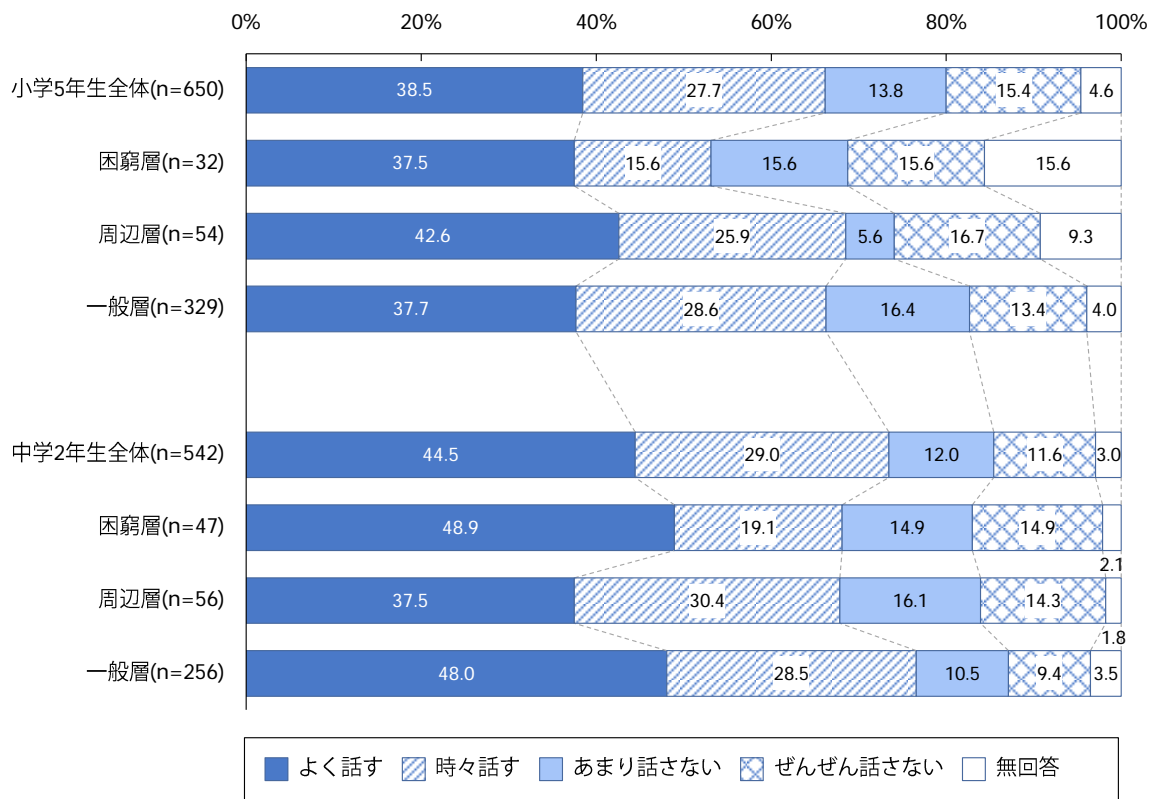
3 友人関係・孤立

(1) 友人との会話頻度

友だちとの会話の頻度について、「よく話す」「時々話す」を合わせた『話す』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で53.1%、周辺層で68.5%、一般層で66.3%、中学2年生の困窮層で68.0%、周辺層で67.9%、一般層で76.5%となっている。

「あまり話さない」「ぜんぜん話さない」を合わせた『話さない』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で31.2%、周辺層で22.3%、一般層で29.8%、中学2年生の困窮層で29.8%、周辺層で30.4%、一般層で19.9%となっている。

問 16 会話頻度/F 友だち

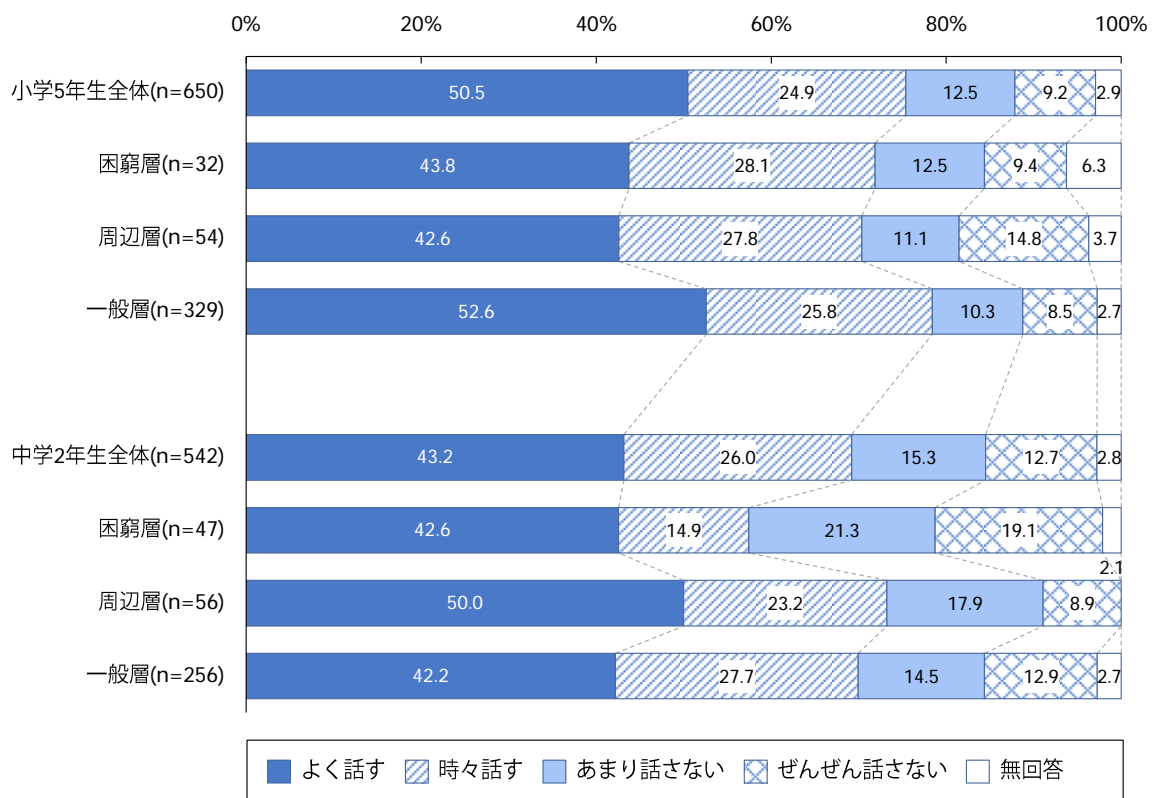


(2) 親との会話頻度

家族（親）との会話の頻度について、「よく話す」「時々話す」を合わせた『話す』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で71.9%、周辺層で70.4%、一般層で78.4%、中学2年生の困窮層で57.5%、周辺層で73.2%、一般層で69.9%となっており、中学2年生の困窮層で低くなっている。

「あまり話さない」「ぜんぜん話さない」を合わせた『話さない』と回答した割合は、中学2年生の困窮層で40.4%と高くなっている。

問 16 会話頻度/A 家族（親）



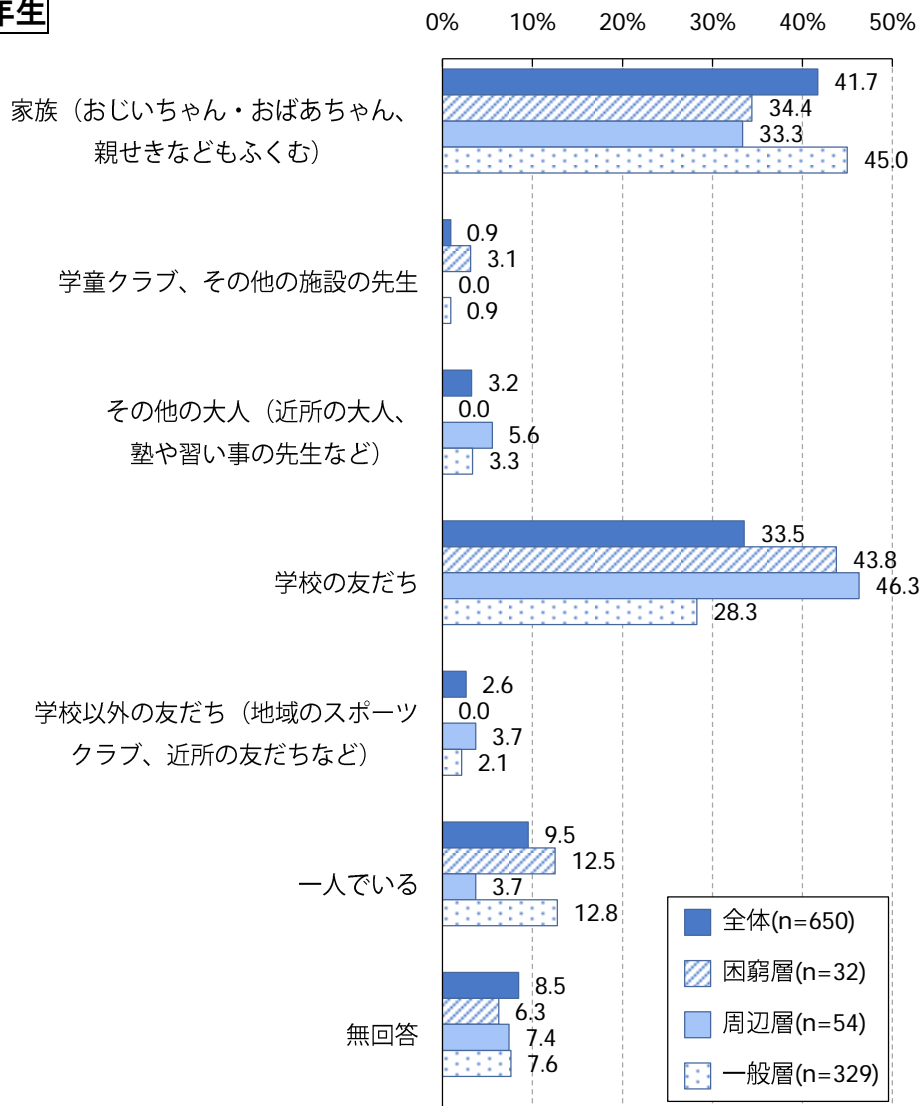
(3) 孤立感

小学5年生の平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人について、全体では「家族（おじいちゃん・おばあちゃん、親せきなどもふくむ）」が41.7%と最も高く、次いで「学校の友だち」が33.5%となっている。

「一人でのいる」では、困窮層で12.5%、周辺層で3.7%、一般層で12.8%となっている。

問7 平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人

小学5年生

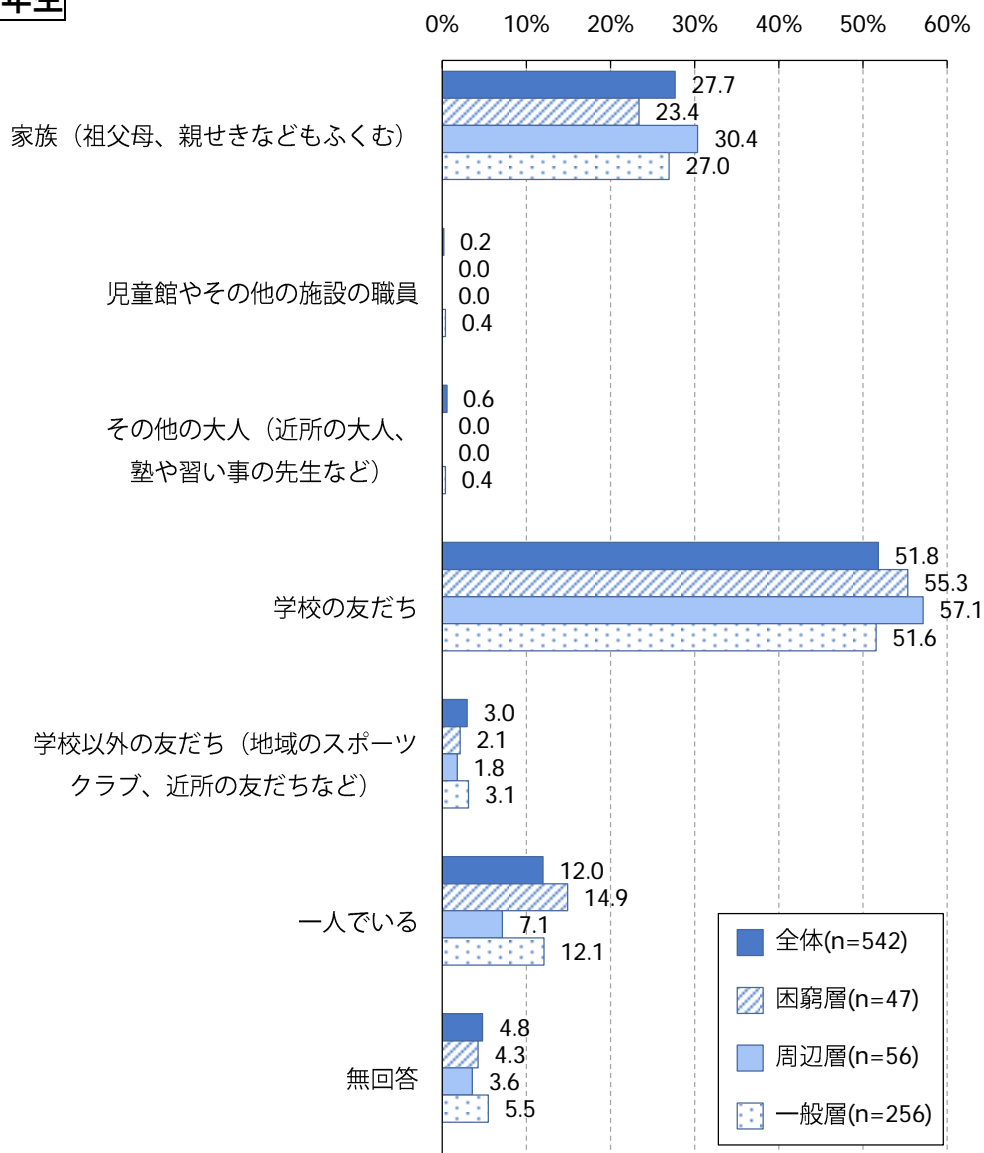


中学2年生の平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人について、全体では「学校の友だち」が51.8%と最も高く、次いで「家族（祖父母、親せきなどもふくむ）」が27.7%となっている。

「一人である」では、困窮層で14.9%、周辺層で7.1%、一般層で12.1%となっている。

問7 平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人

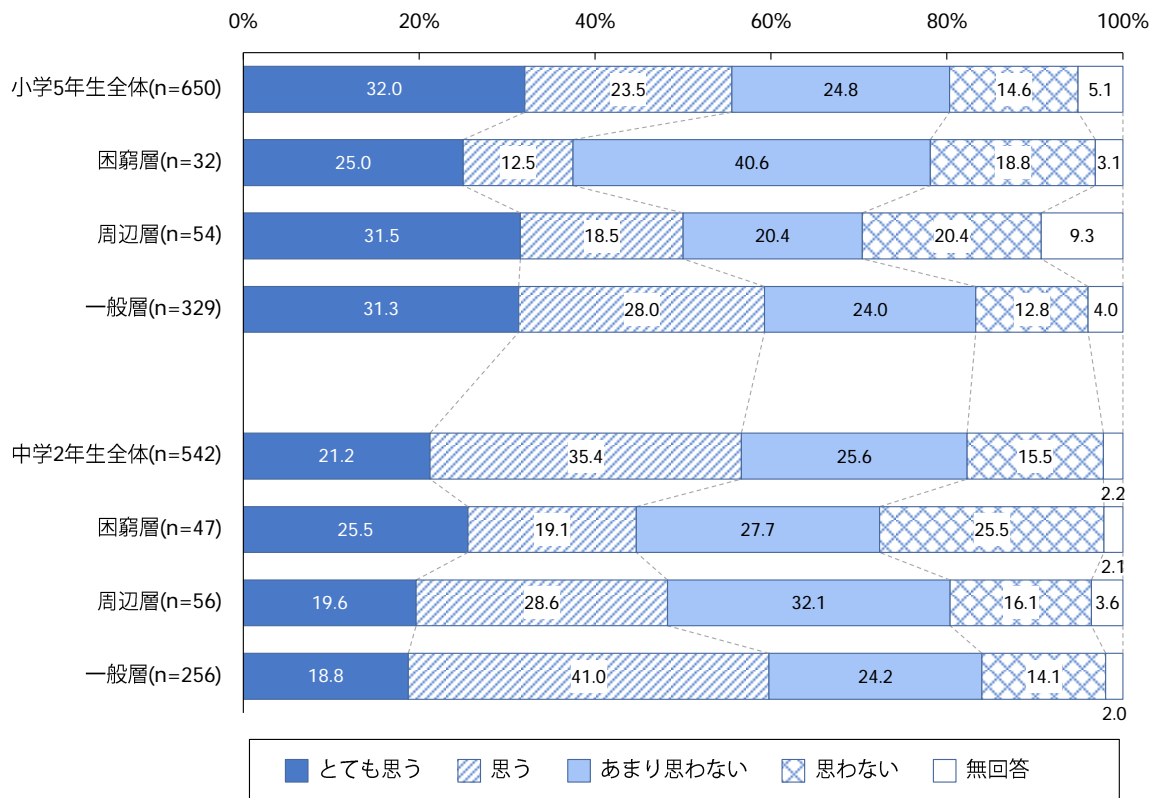
中学2年生



孤独を感じることはないかについて、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で37.5%、周辺層で50.0%、一般層で59.3%、中学2年生の困窮層で44.6%、周辺層で48.2%、一般層で59.8%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

「あまり思わない」「思わない」を合わせた『思わない』と回答した割合は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ59.4%、53.2%と高くなっている。

問 33 思いや気持ちについて/F 孤独を感じることはない

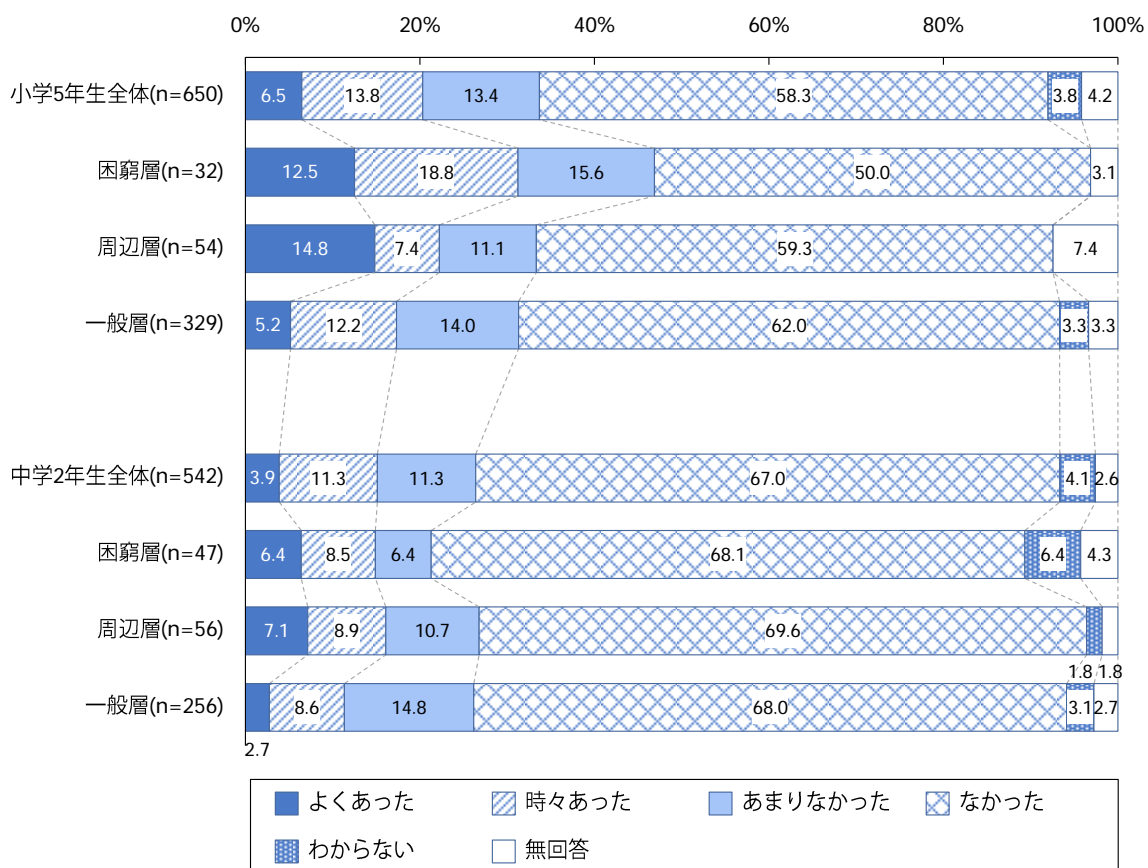


4 いじめ・不登校の悩み

(1) いじめられた経験

いじめられた経験について、「よくあった」「ときどきあった」を合わせた『あった』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で31.3%、周辺層で22.2%、一般層で17.4%、中学2年生の困窮層で14.9%、周辺層で16.0%、一般層で11.3%となっており、小学5年生の困窮層で高くなっている。

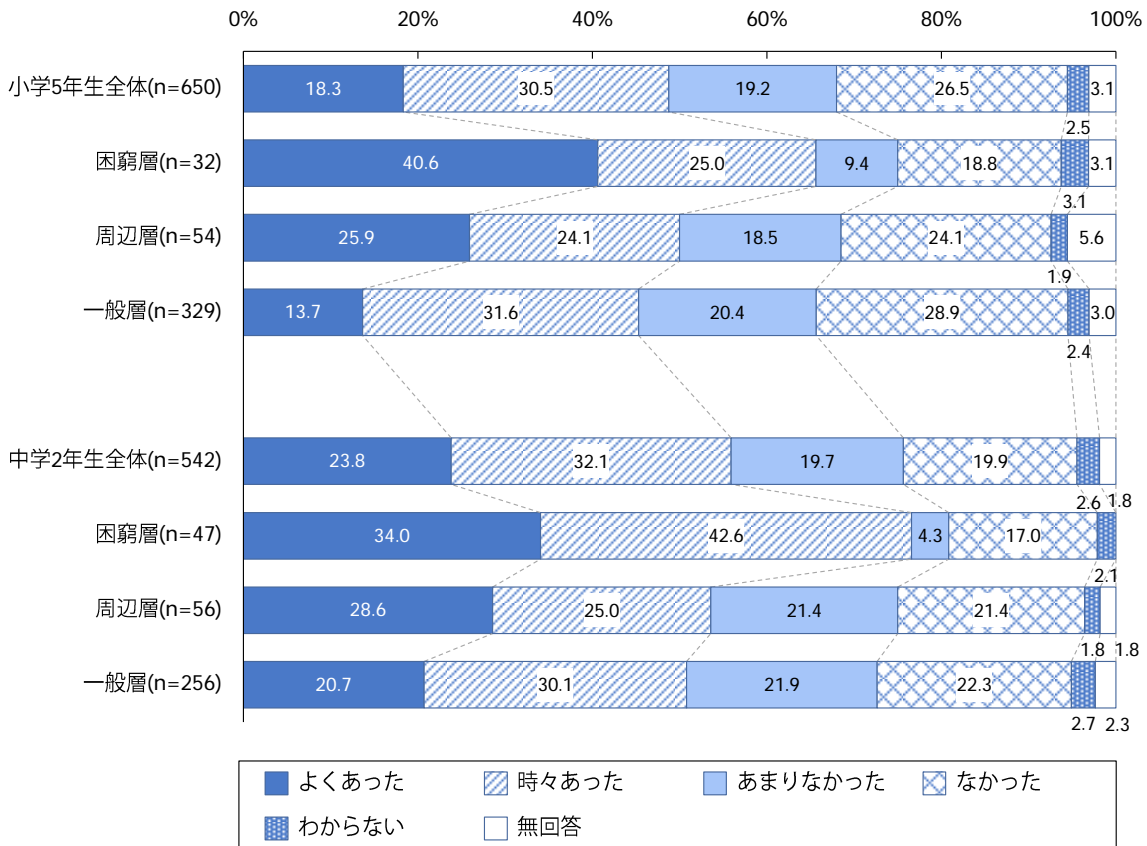
問 34 経験/C いじめられた



(2) 学校に行きたくないと思った経験

学校に行きたくないと思った経験について、「よくあった」「ときどきあった」を合わせた『あった』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で65.6%、周辺層で50.0%、一般層で45.3%、中学2年生の困窮層で76.6%、周辺層で53.6%、一般層で50.8%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で非常に高くなっている。

問 34 経験/A 学校に行きたくないと思った

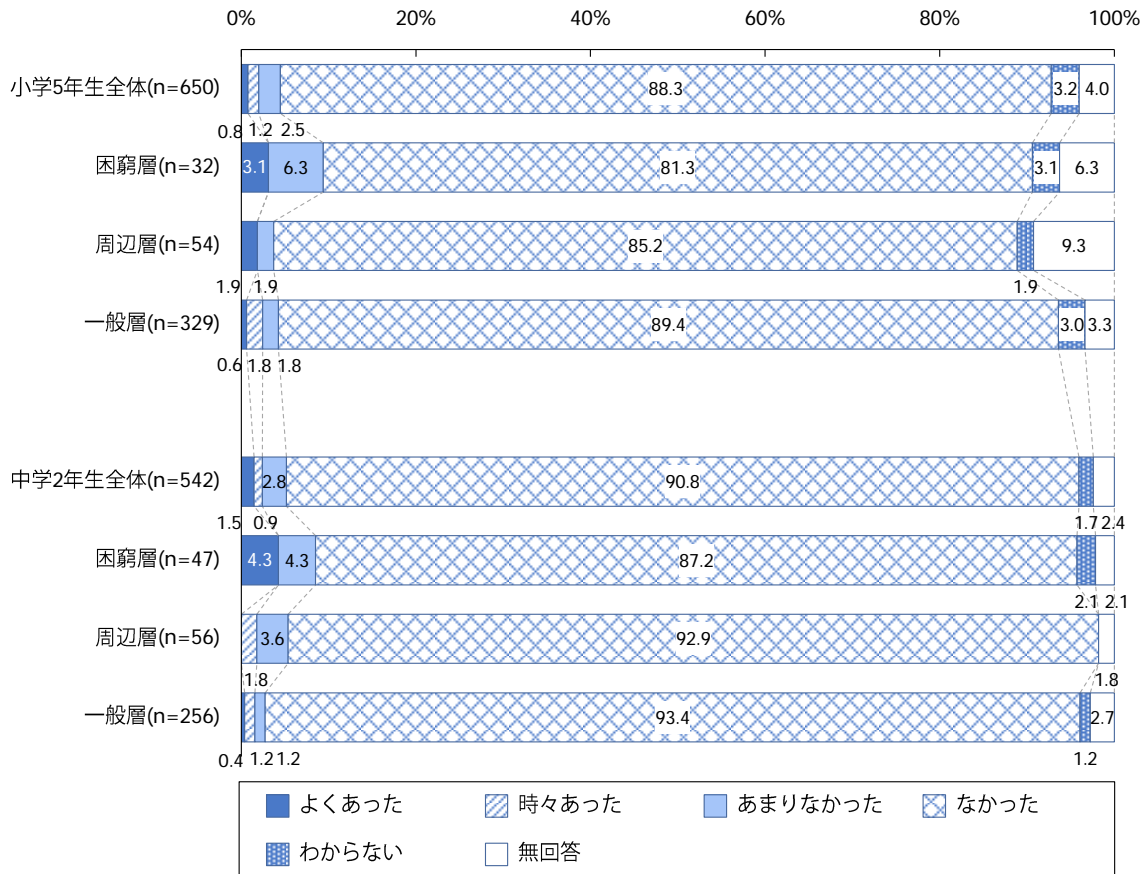


(3) 学校を休んだ経験

1か月以上学校を休んだ（病気のときをのぞく）経験について、「なかった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で81.3%、周辺層で85.2%、一般層で89.4%、中学2年生の困窮層で87.2%、周辺層で92.9%、一般層で93.4%と各層とも8割以上となっている。

「よくあった」は、小学5年生の困窮層で3.1%、中学2年生の困窮層で4.3%と周辺層、一般層に比べてやや高くなっている。

問 34 経験/B 1か月以上学校を休んだ（病気のときをのぞく）

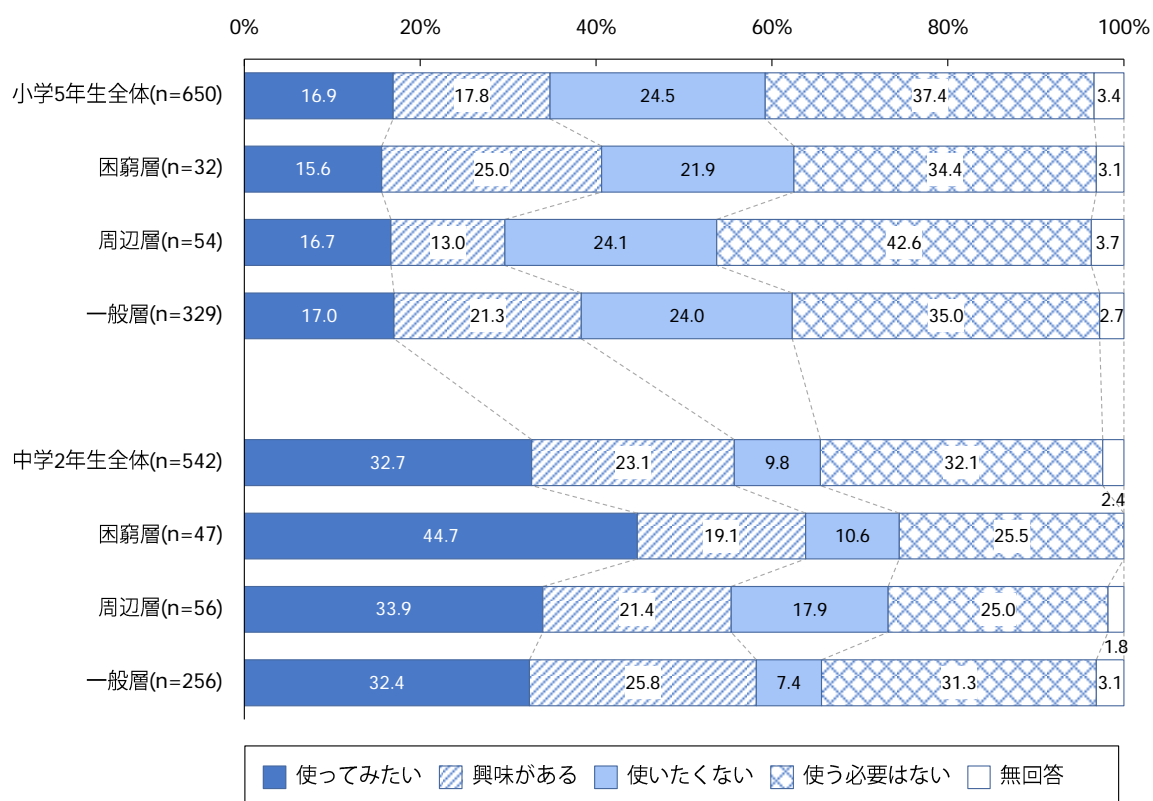


5 居場所支援・相談事業の利用意向

(1) (家以外で) 平日の放課後から夜にかけての居場所

(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所の利用希望について、「使ってみよう」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で15.6%、周辺層で16.7%、一般層で17.0%、中学2年生の困窮層で44.7%、周辺層で33.9%、一般層で32.4%となっており、中学2年生の困窮層で高くなっている。

問 35 利用希望/A (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所

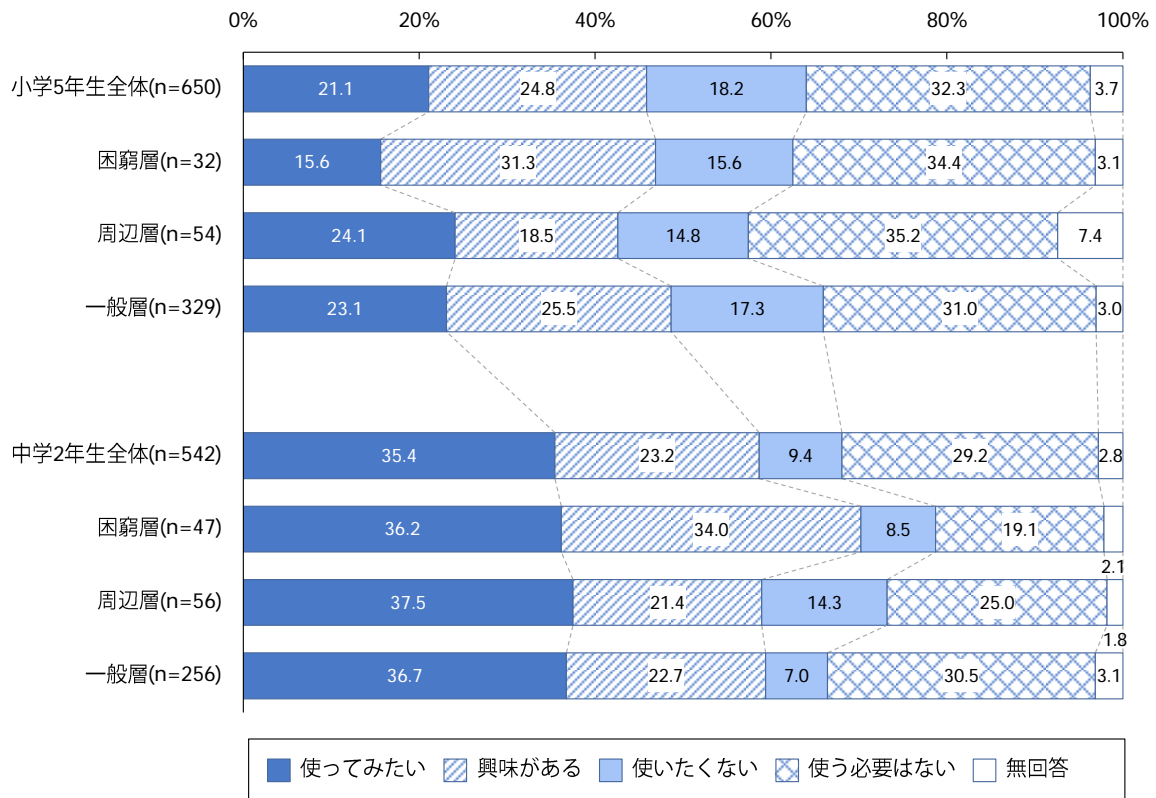


(2) 休日の居場所

(家以外で) 休日にいることができる場所の利用希望について、「使ってみたい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で15.6%、周辺層で24.1%、一般層で23.1%、中学2年生の困窮層で36.2%、周辺層で37.5%、一般層で36.7%となっており、小学5年生の困窮層で低くなっている。

「興味がある」では、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ31.3%、34.0%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

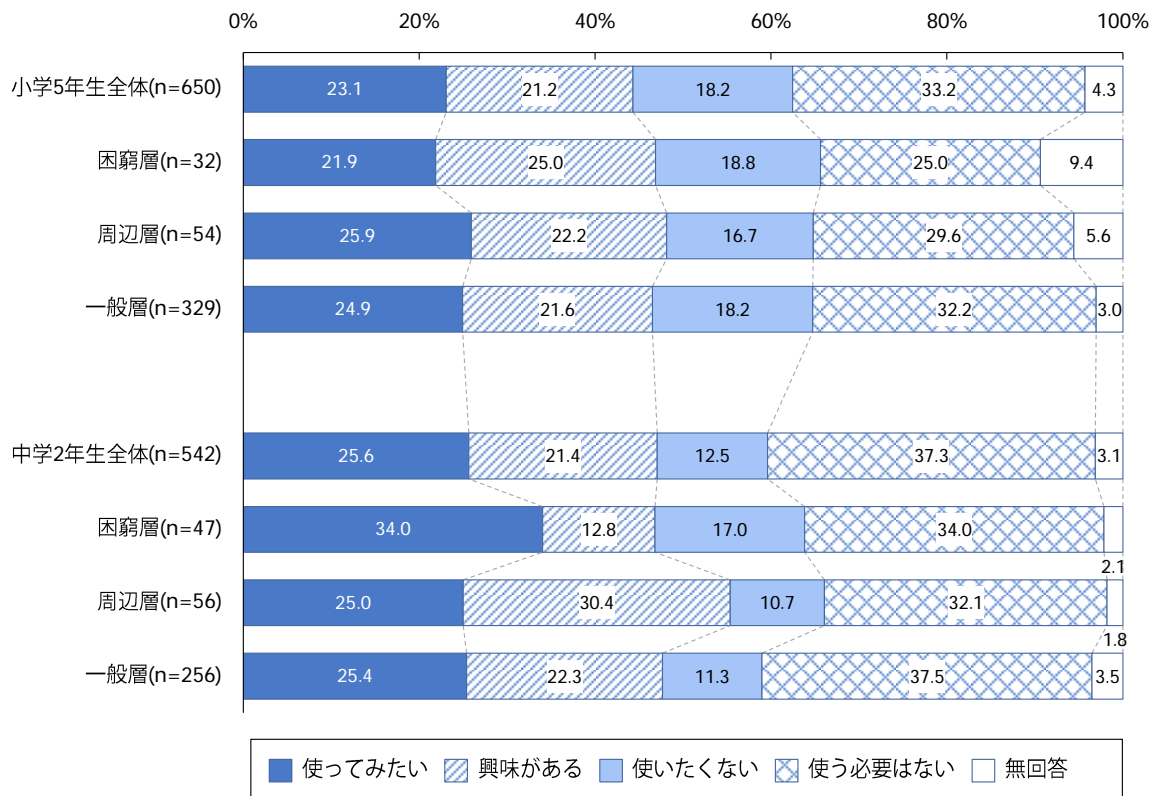
問 35 利用希望/B (家以外で) 休日にいることができる場所



(3) タごはんをみんなで食べることができる場所

家の人がないとき、タごはんをみんなで食べることができる場所の利用希望について、「使ってみたい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で21.9%、周辺層で25.9%、一般層で24.9%、中学2年生の困窮層で34.0%、周辺層で25.0%、一般層で25.4%となっており、中学2年生の困窮層で高くなっている。

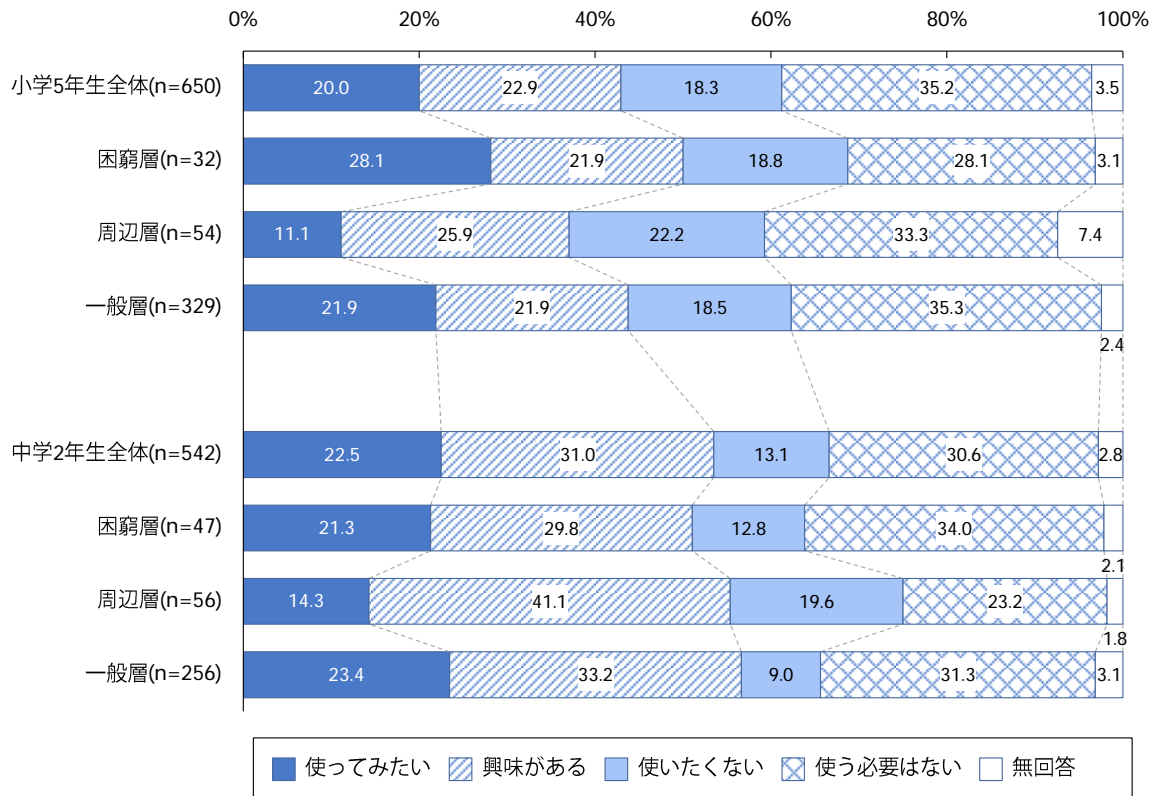
問 35 利用希望/C 家の人がないとき、タごはんをみんなで食べることができる場所



(4) (学校以外で) なんでも相談できる場所

(学校以外で) 何でも相談できる場所の利用希望について、「使ってみたい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で28.1%、周辺層で11.1%、一般層で21.9%、中学2年生の困窮層で21.3%、周辺層で14.3%、一般層で23.4%となっており、小学5年生の困窮層で高くなっている。

問 35 利用希望/F (学校以外で) なんでも相談できる場所



第5部 子どもの健康と自己肯定感

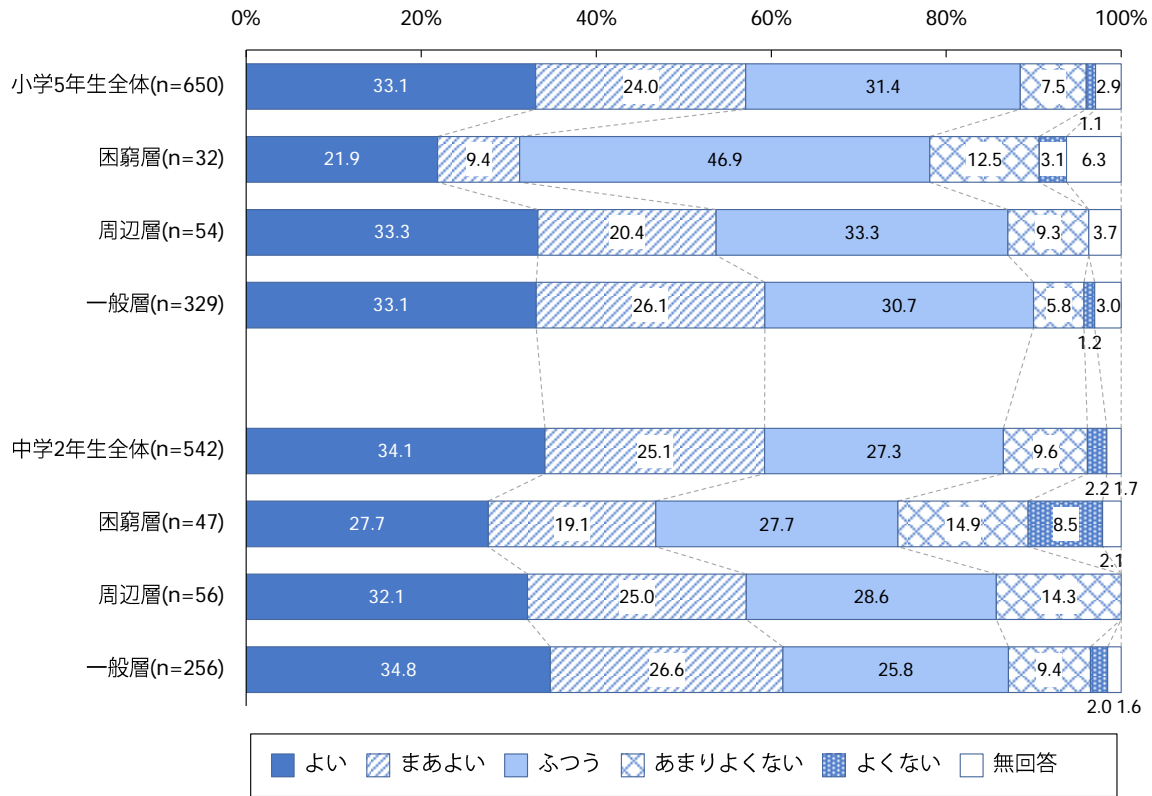
1 健康

(1) 健康状態

①子どもの主観的健康状態

子どもの主観的健康状態について、「よい」「まあよい」を合わせた『よい』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で31.3%、周辺層で53.7%、一般層で59.2%、中学2年生の困窮層で46.8%、周辺層で57.1%、一般層で61.4%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

問 21 健康状態

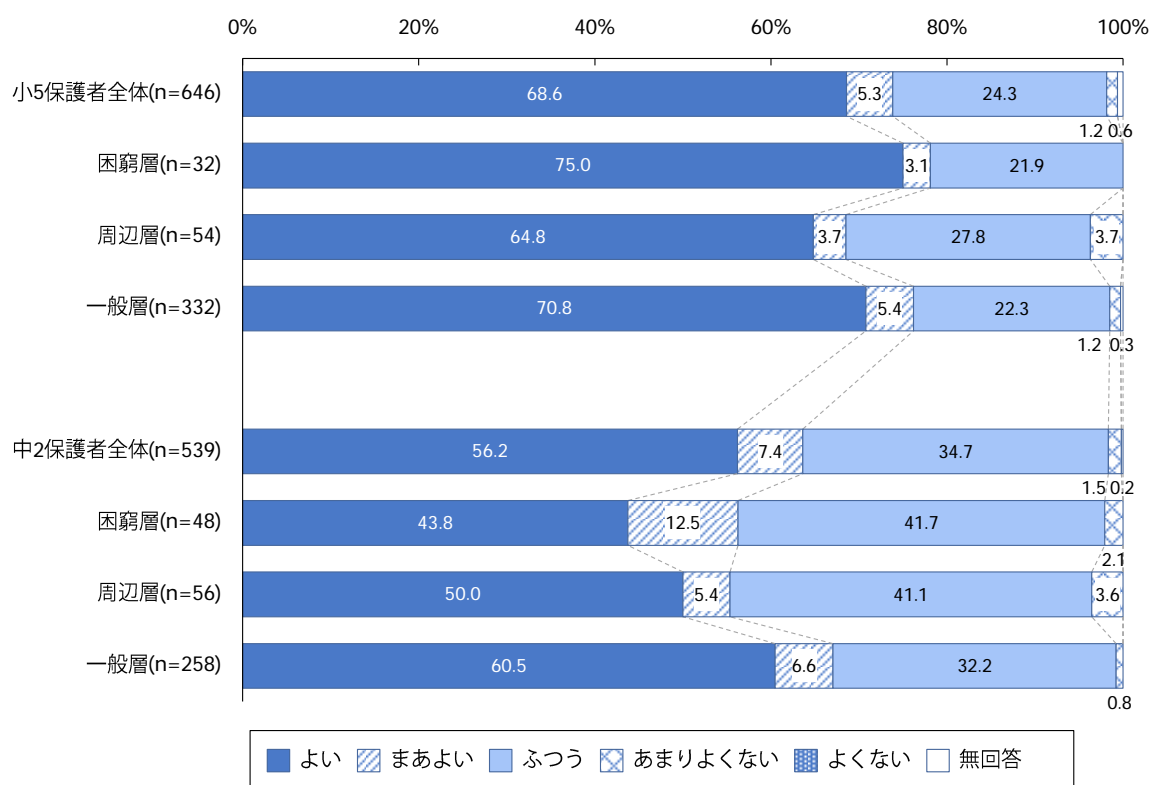


②保護者からみた子どもの健康状態

保護者からみた子どもの健康状態について、「よい」「まあよい」を合わせた『よい』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で78.1%、周辺層で68.5%、一般層で76.2%、中学2年生の困窮層で56.3%、周辺層で55.4%、一般層で67.1%となっており、小学5年生の困窮層で高くなっている。

前問の子どもの主観的健康状態と保護者からみた子どもの健康状態では、小学5年生で大きな差がみられる。

問 15-2 健康状態/子ども

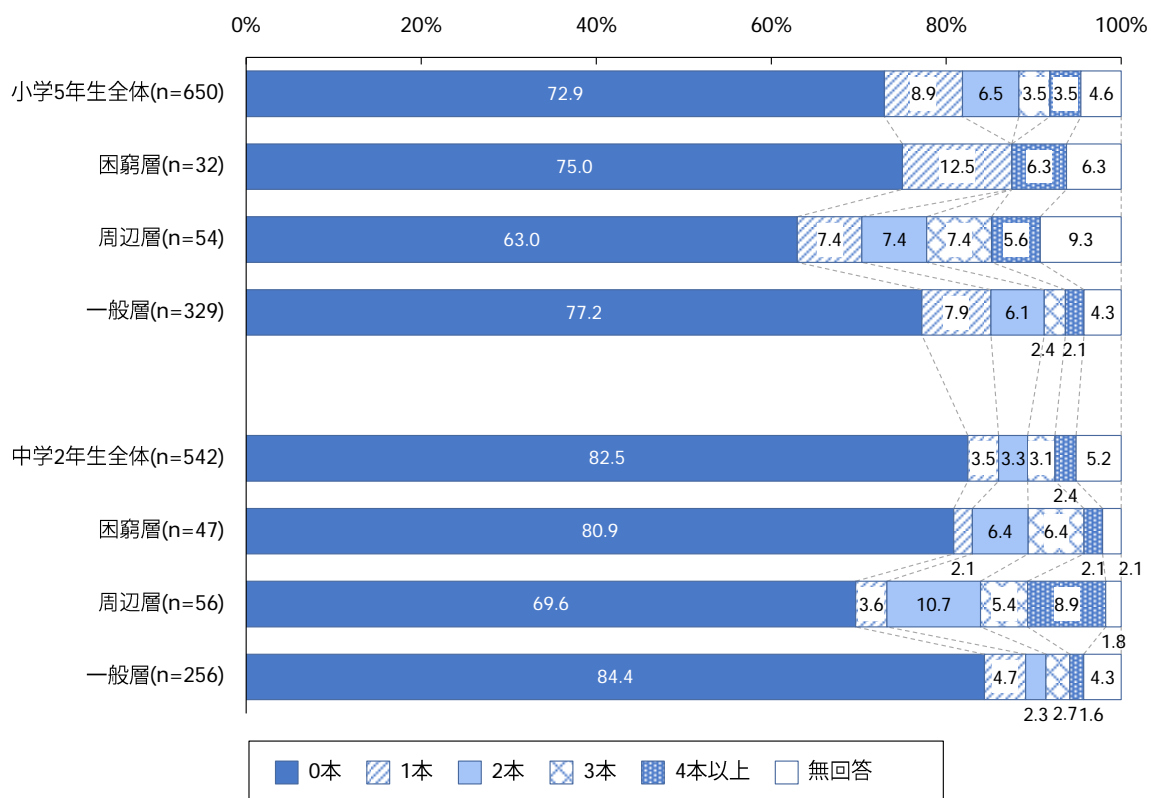


③むし歯の本数

むし歯の本数について、「0本」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で75.0%、周辺層で63.0%、一般層で77.2%、中学2年生の困窮層で80.9%、周辺層で69.6%、一般層で84.4%となっている。

「4本以上」では、小学5年生の困窮層、周辺層でそれぞれ6.3%、5.6%、中学2年生の周辺層で8.9%と高くなっている。

問 22 あなたは今、むし歯がおおよそ何本くらいありますか

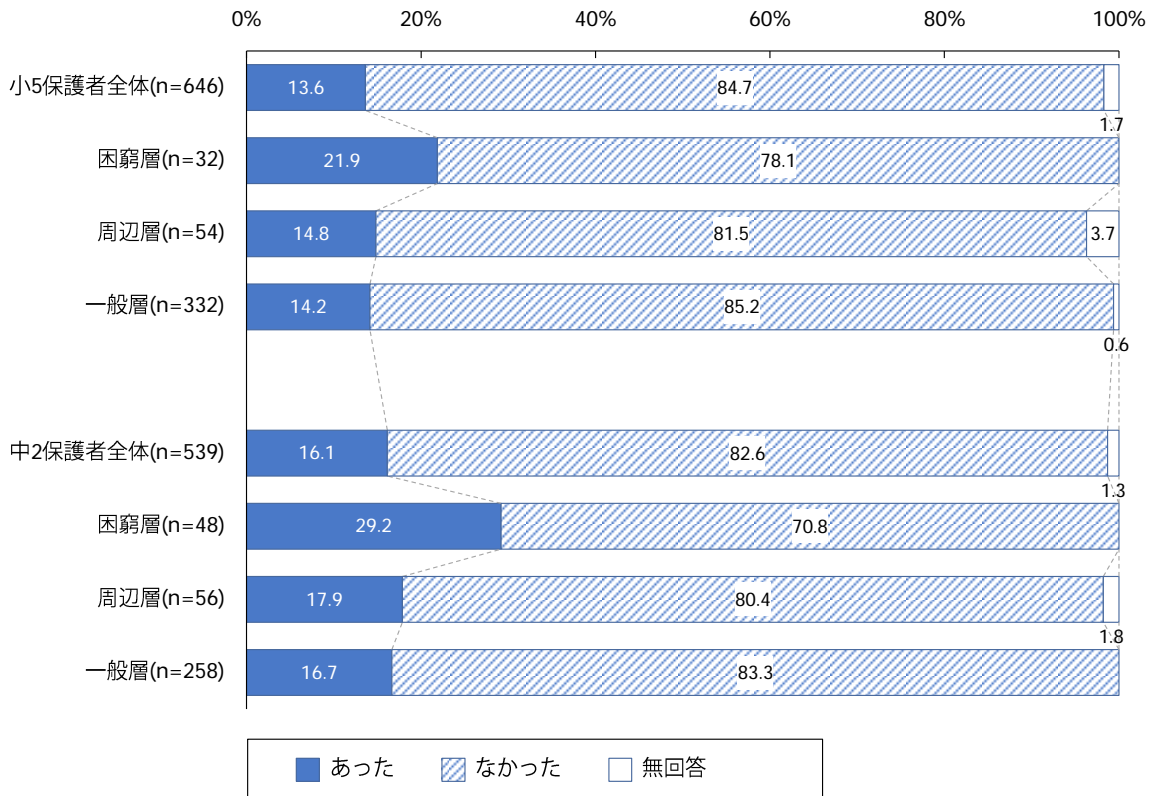


(2) 医療の受診抑制

① 受診抑制経験

過去1年間に子どもを医療機関で受診させなかった経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で21.9%、周辺層で14.8%、一般層で14.2%、中学2年生の困窮層で29.2%、周辺層で17.9%、一般層で16.7%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

問 16 過去1年間に子どもを医療機関で受診させなかった経験

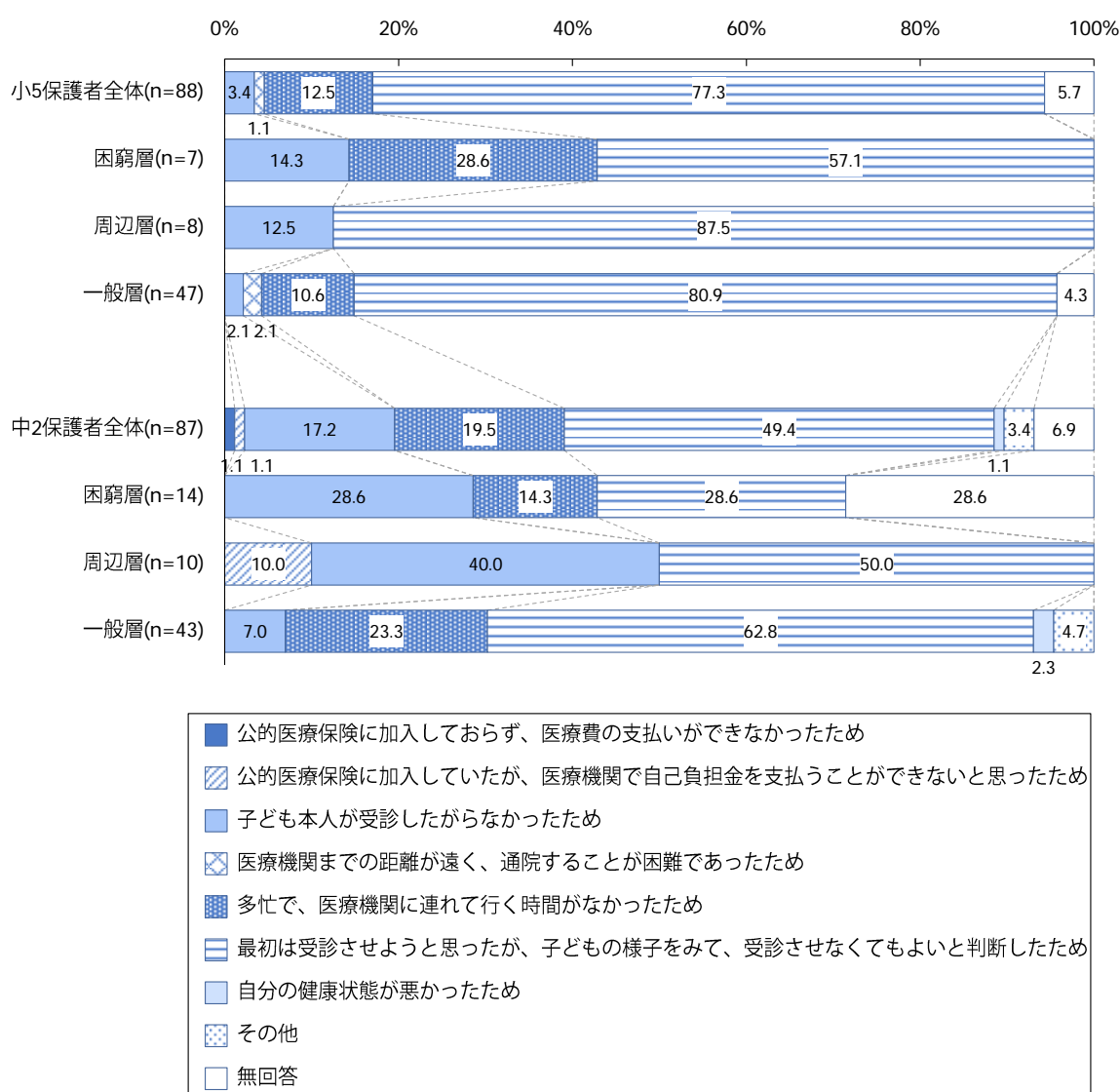


②受診抑制理由

過去1年間に子どもを医療機関で受診させなかった理由について、小学5年生全体では「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が77.3%と最も高く、次いで「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が12.5%となっている。

中学2年生全体では「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が49.4%と最も高く、次いで「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が19.5%、「子ども本人が受診しなかったため」が17.2%となっている。

問16-1 子どもを医療機関で受診させなかった理由

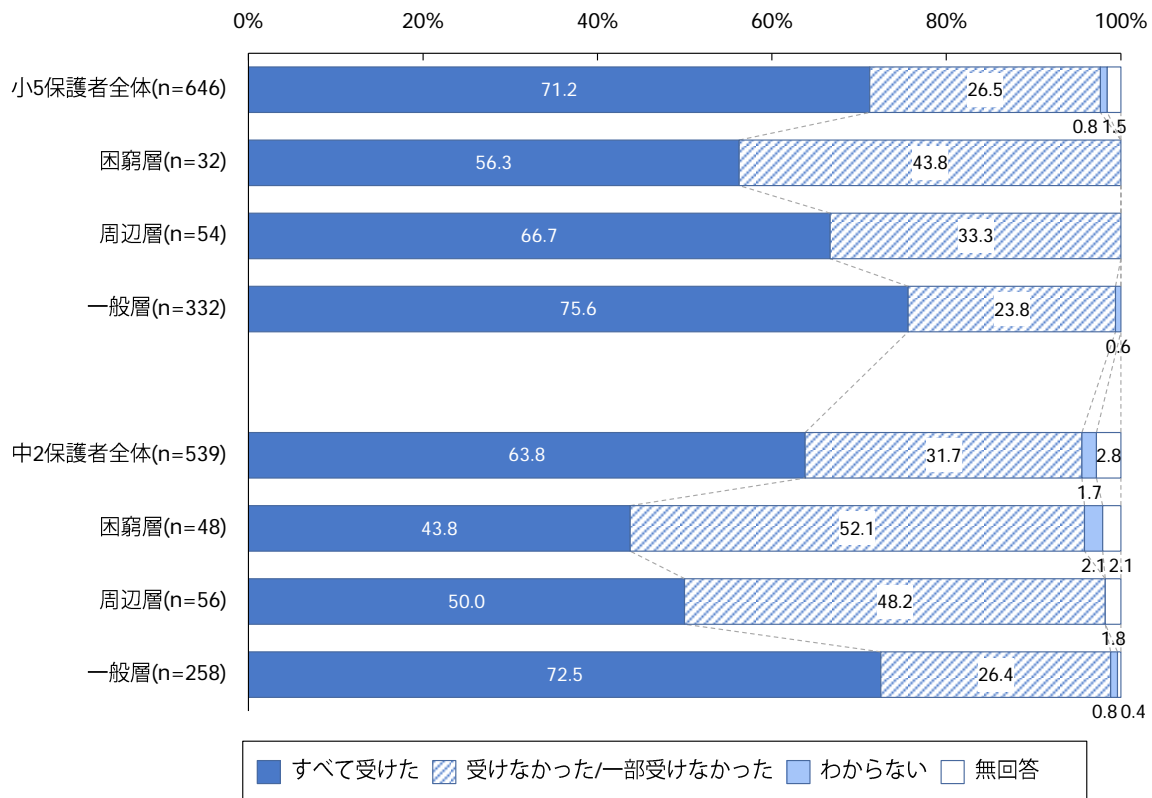


(3) 予防接種の未接種状況

A 定期予防接種

定期予防接種について、「すべて受けた」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で56.3%、周辺層で66.7%、一般層で75.6%、中学2年生の困窮層で43.8%、周辺層で50.0%、一般層で72.5%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

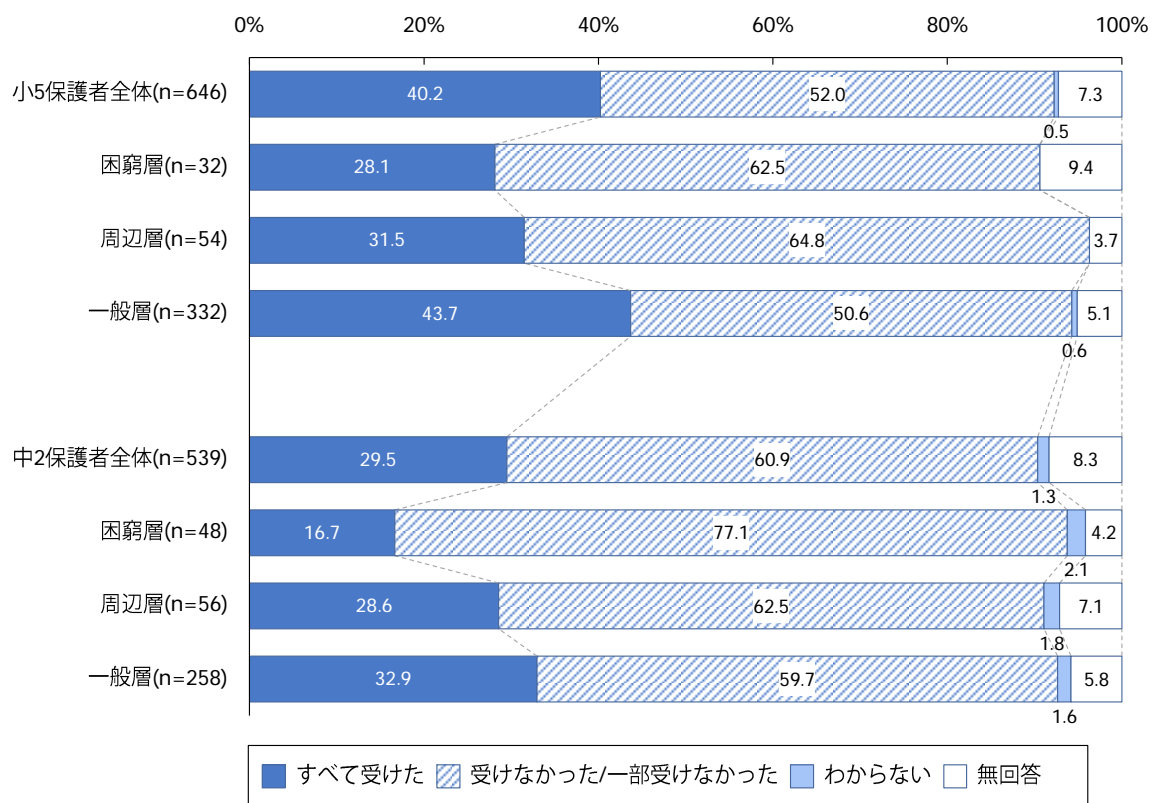
問 17 予防接種の受診状況/A 定期予防接種



B 任意接種（インフルエンザ）

任意接種（インフルエンザ）について、「すべて受けた」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で28.1%、周辺層で31.5%、一般層で43.7%、中学2年生の困窮層で16.7%、周辺層で28.6%、一般層で32.9%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

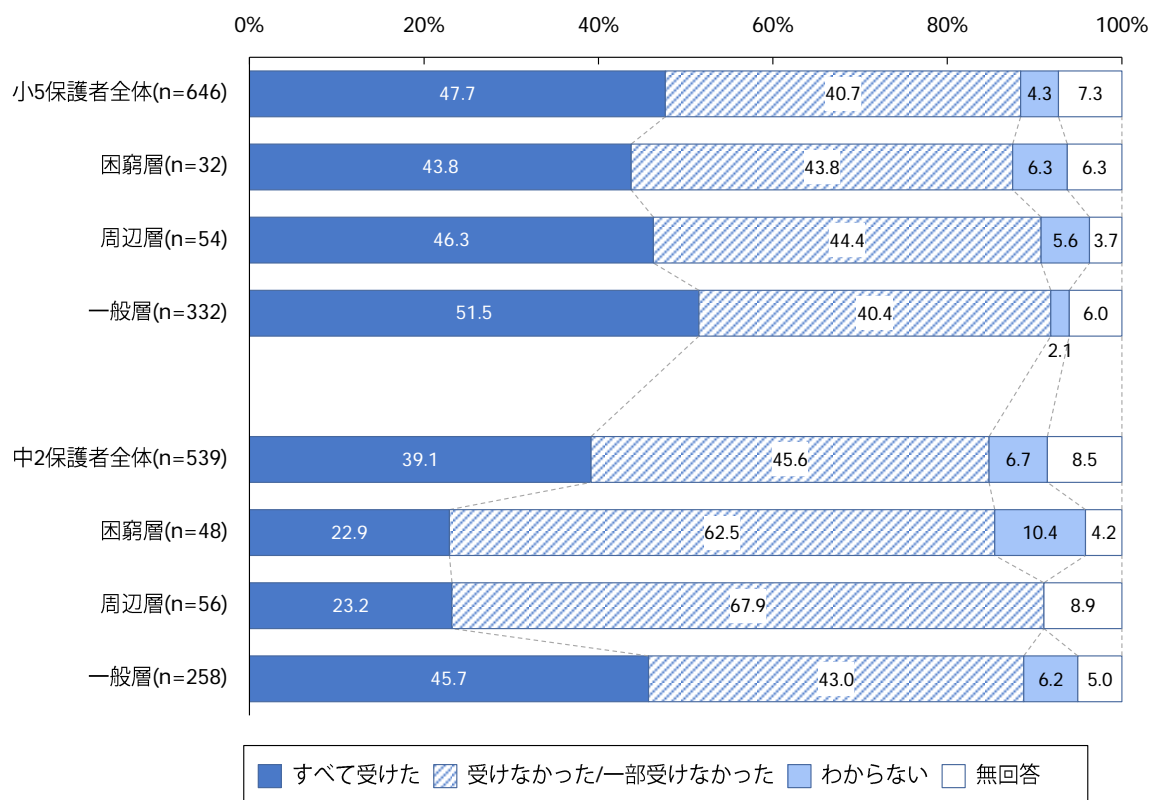
問 17 予防接種の受診状況/B 任意接種（インフルエンザ）



C 任意接種（おたふくかぜ）

任意接種（おたふくかぜ）について、「すべて受けた」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で43.8%、周辺層で46.3%、一般層で51.5%、中学2年生の困窮層で22.9%、周辺層で23.2%、一般層で45.7%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でやや低くなっている。

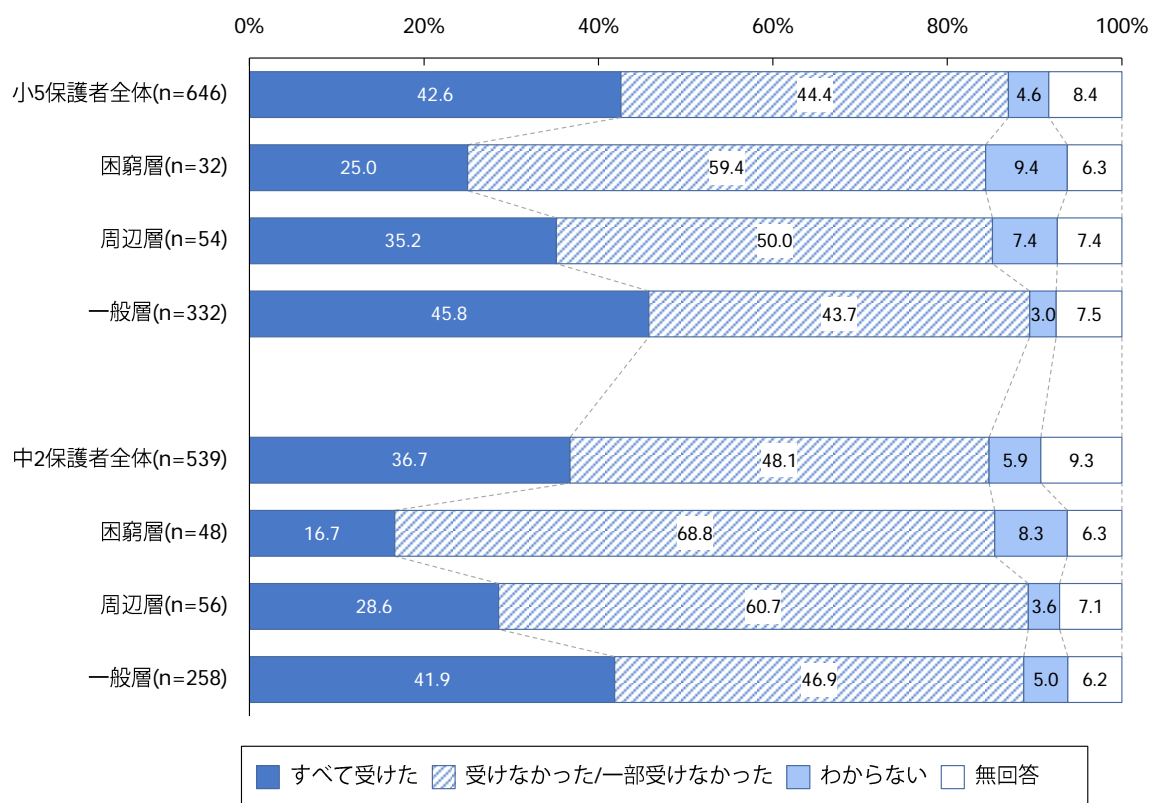
問 17 予防接種の受診状況/C 任意接種（おたふくかぜ）



D 任意接種（水ぼうそう）

任意接種（水ぼうそう）について、「すべて受けた」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で25.0%、周辺層で35.2%、一般層で45.8%、中学2年生の困窮層で16.7%、周辺層で28.6%、一般層で41.9%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

問 17 予防接種の受診状況/D 任意接種（水ぼうそう）



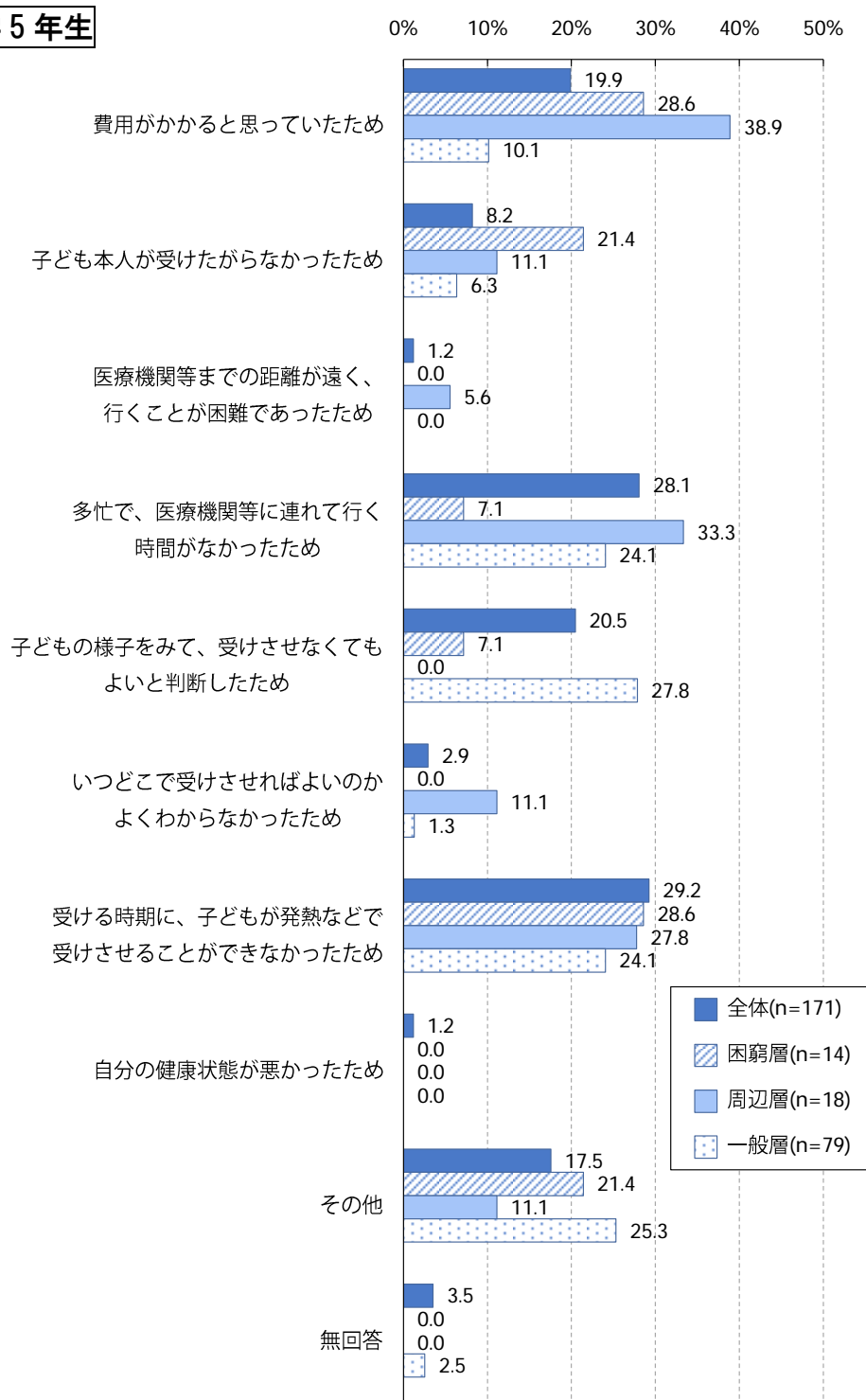
未接種の理由

小学5年生の定期予防接種を受けないことがあった理由について、全体では「受ける時期に、子どもが発熱などで受けさせることができなかったため」が29.2%と最も高く、次いで「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」が28.1%、「子どもの様子を見て、受けさせなくてもよいと判断したため」が20.5%となっている。

「費用がかかると思っていたため」では、困窮層で28.6%、周辺層で38.9%と一般層に比べて高くなっている。

問 17-1 定期予防接種を受けないことがあった理由

小学5年生

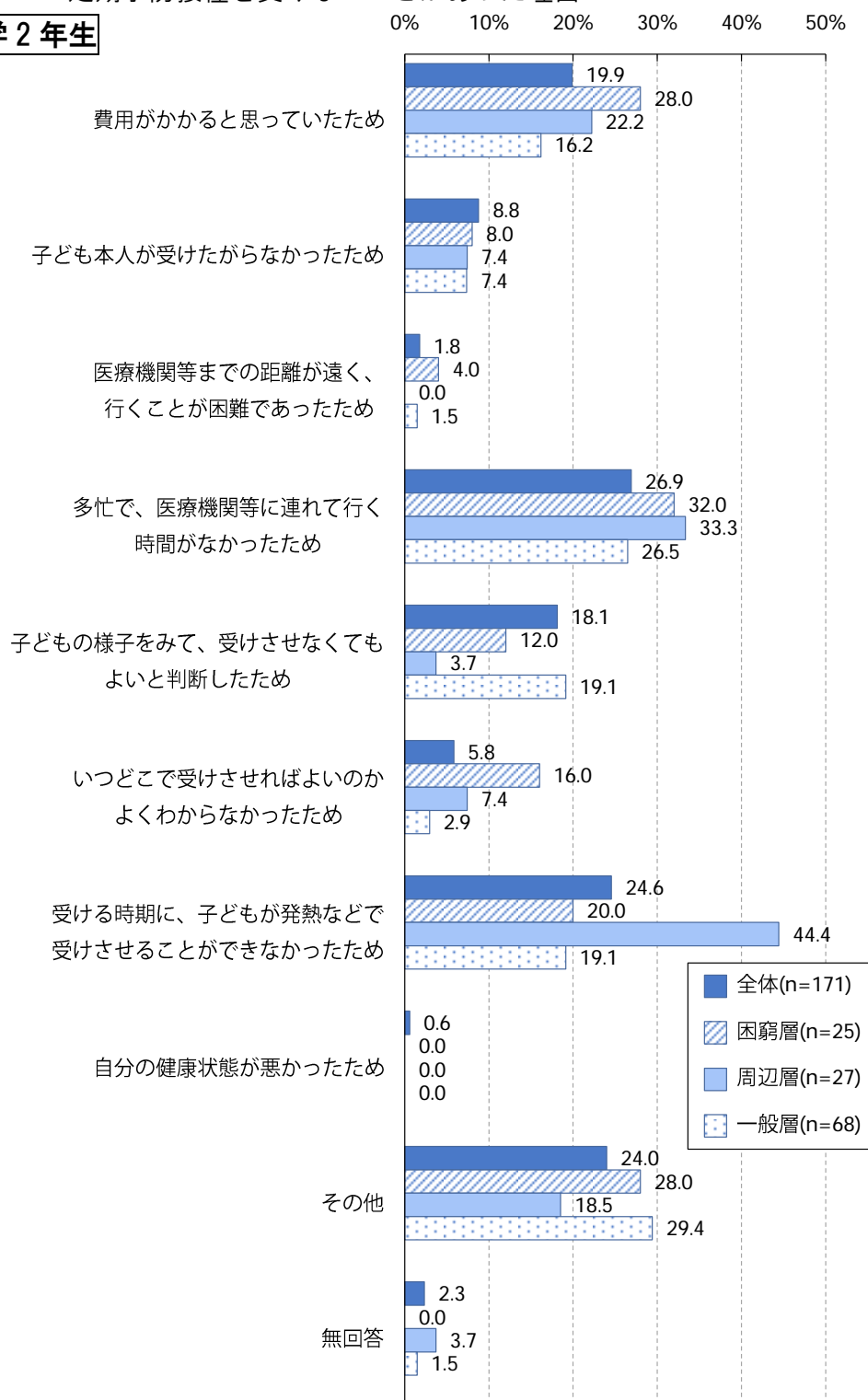


中学2年生の定期予防接種を受けないことがあった理由について、全体では「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」が26.9%と最も高く、次いで「受ける時期に、子どもが発熱などで受けさせることができなかったため」が24.6%、「費用がかかると思っていたため」が19.9%となっている。

「費用がかかると思っていたため」では、困窮層で28.0%と、周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 17-1 定期予防接種を受けないことがあった理由

中学2年生



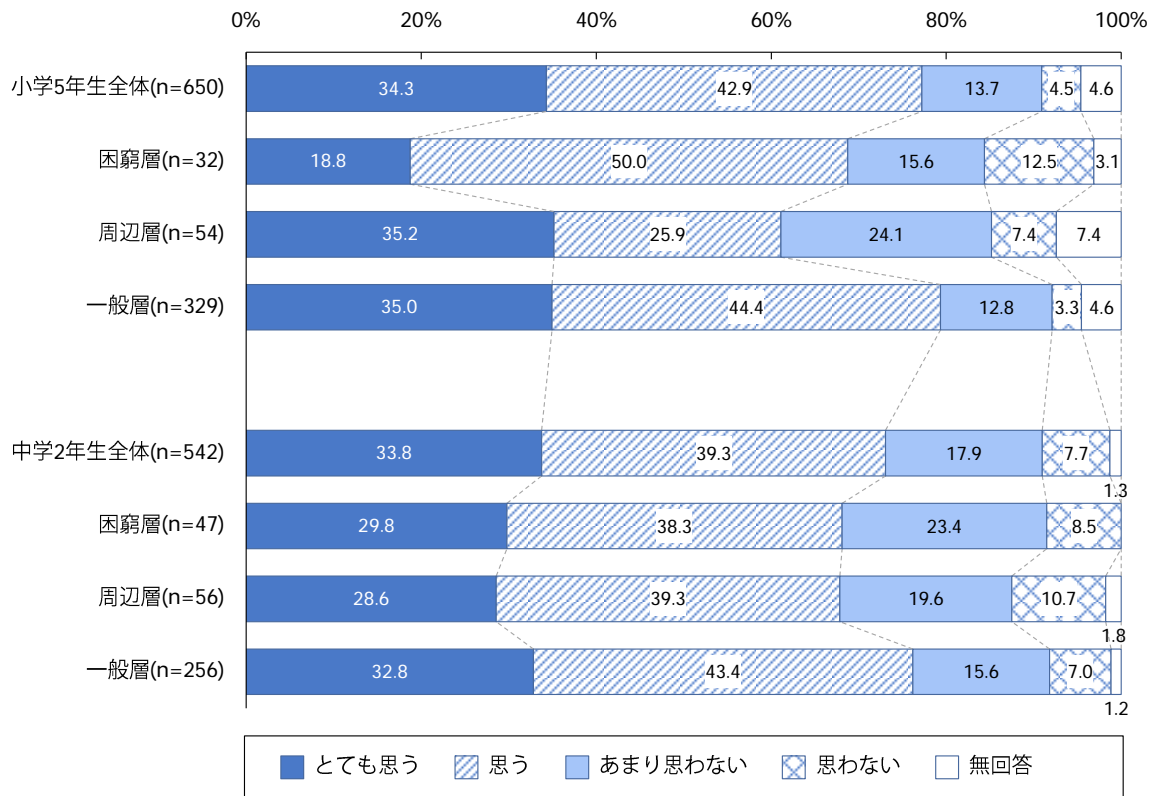
2 自己肯定感

(1) 自己肯定感

A がんばれば、むくわれると思う

がんばれば、むくわれると思うかについて、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で68.8%、周辺層で61.1%、一般層で79.4%、中学2年生の困窮層で68.1%、周辺層で67.9%、一般層で76.2%となっており、小学5年生、中学2年生ともに一般層で高くなっている。

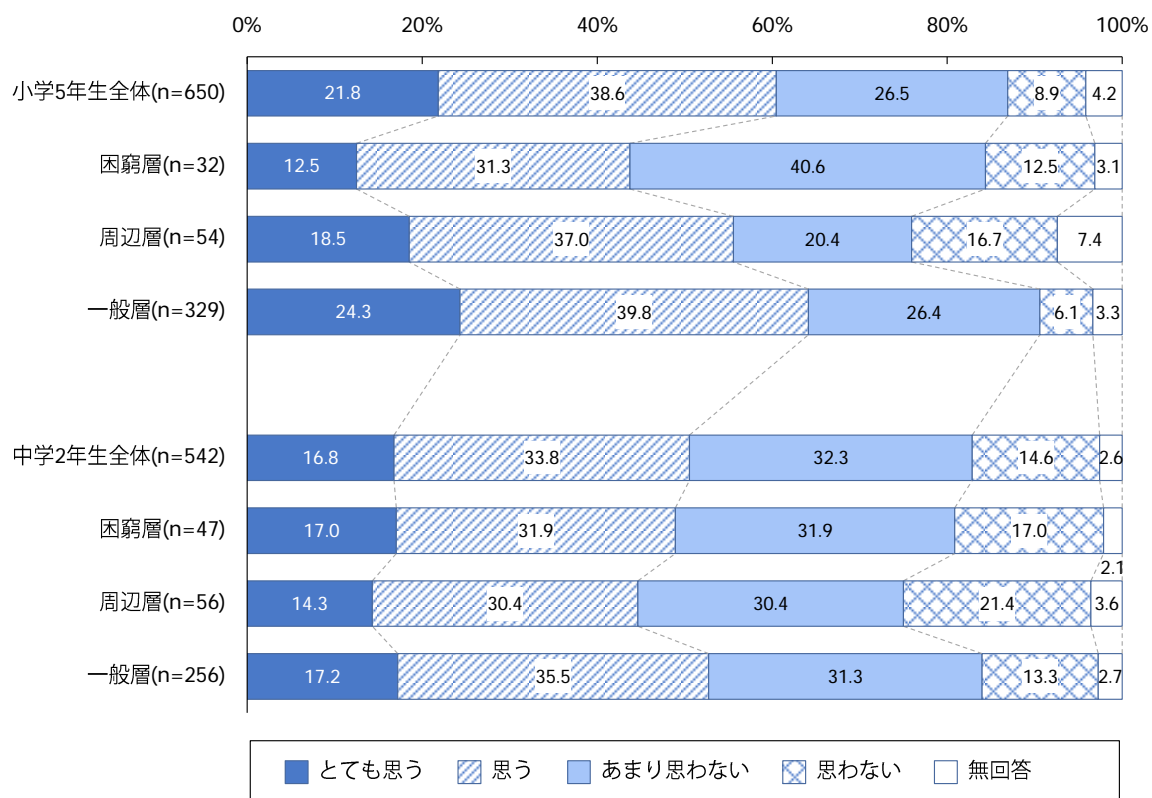
問 33 思いや気持ちについて/A がんばれば、むくわれると思う



B 自分は価値のある人間だと思う

自分は価値のある人間だと思うかについて、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で43.8%、周辺層で55.5%、一般層で64.1%、中学2年生の困窮層で48.9%、周辺層で44.7%、一般層で52.7%となっており、小学5年生、中学2年生ともに一般層で高くなっている。また、小学5年生の困窮層で低くなっている。

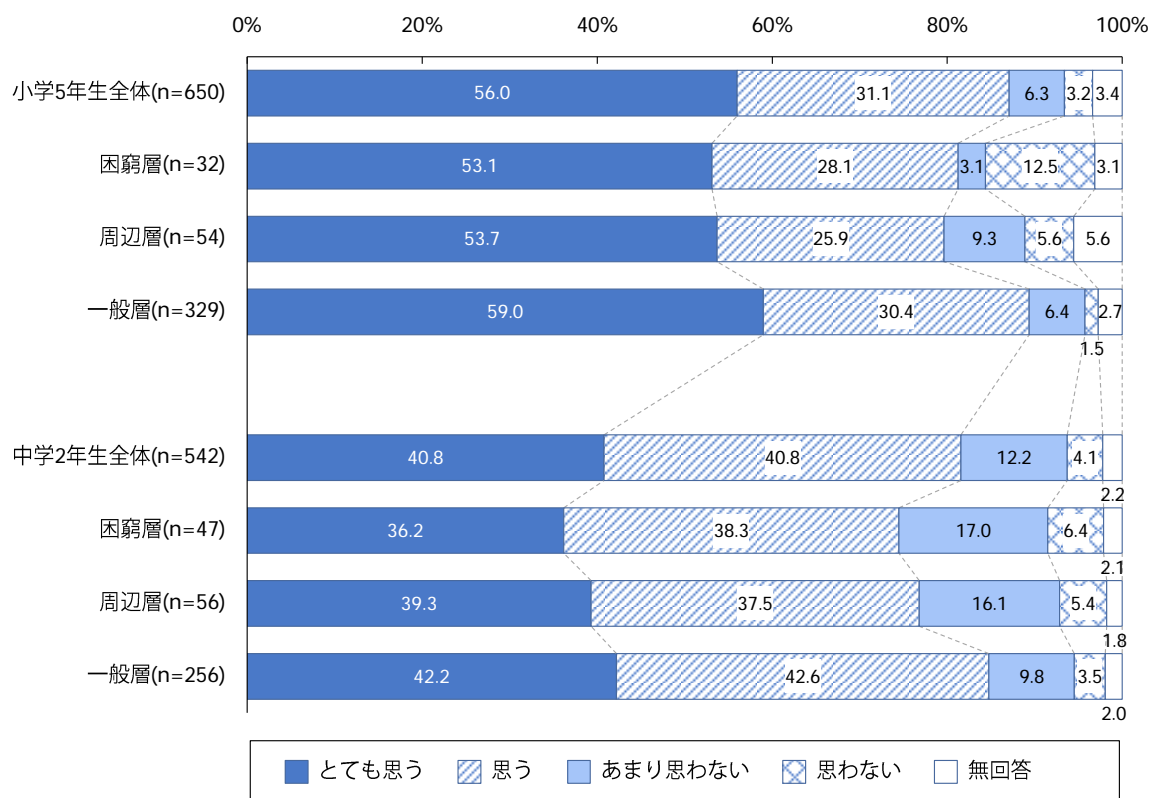
問 33 思いや気持ちについて/B 自分は価値のある人間だと思う



C 自分は家族に大事にされていると思う

自分は家族に大事にされていると思うかについて、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で81.2%、周辺層で79.6%、一般層で89.4%、中学2年生の困窮層で74.5%、周辺層で76.8%、一般層で84.8%となっており、小学5年生、中学2年生ともに一般層で高くなっている。

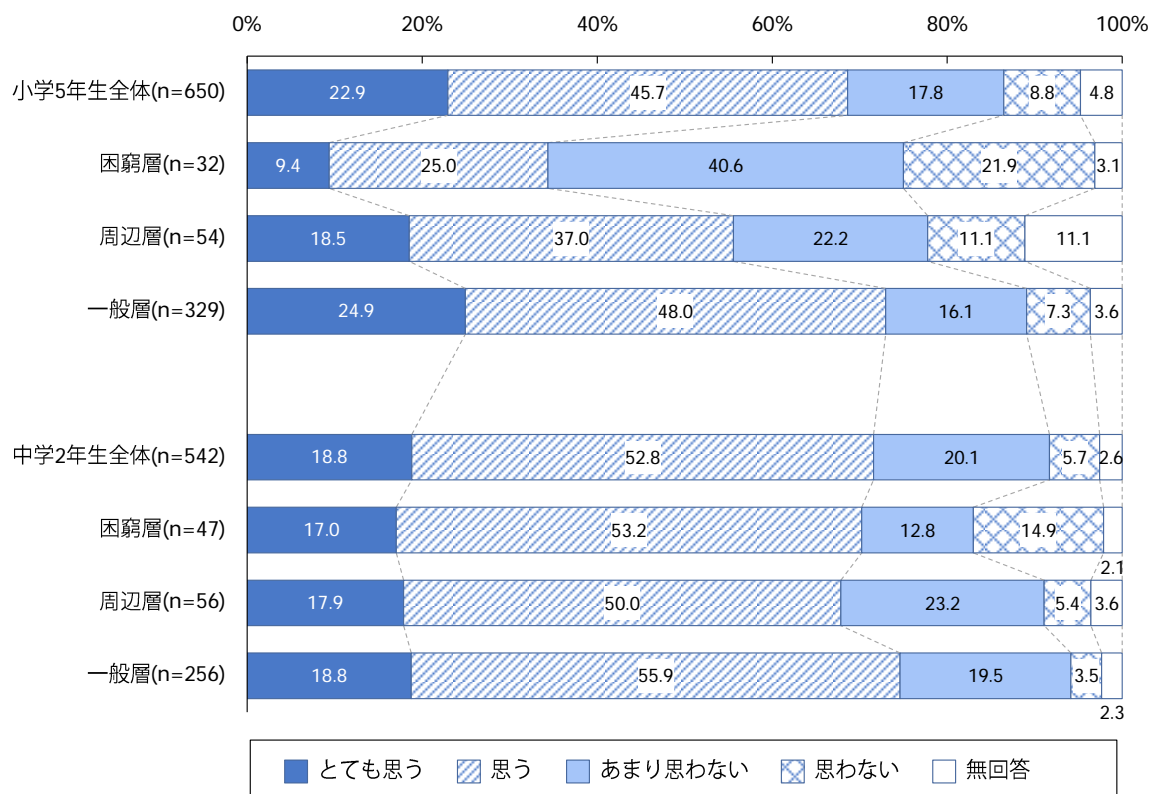
問 33 思いや気持ちについて/C 自分は家族に大事にされていると思う



D 自分は友だちに好かれていると思う

自分は友だちに好かれていると思うかについて、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で34.4%、周辺層で55.5%、一般層で72.9%、中学2年生の困窮層で70.2%、周辺層で67.9%、一般層で74.7%となっており、小学5年生、中学2年生ともに一般層で高くなっている。また、小学5年生の困窮層で非常に低くなっている。

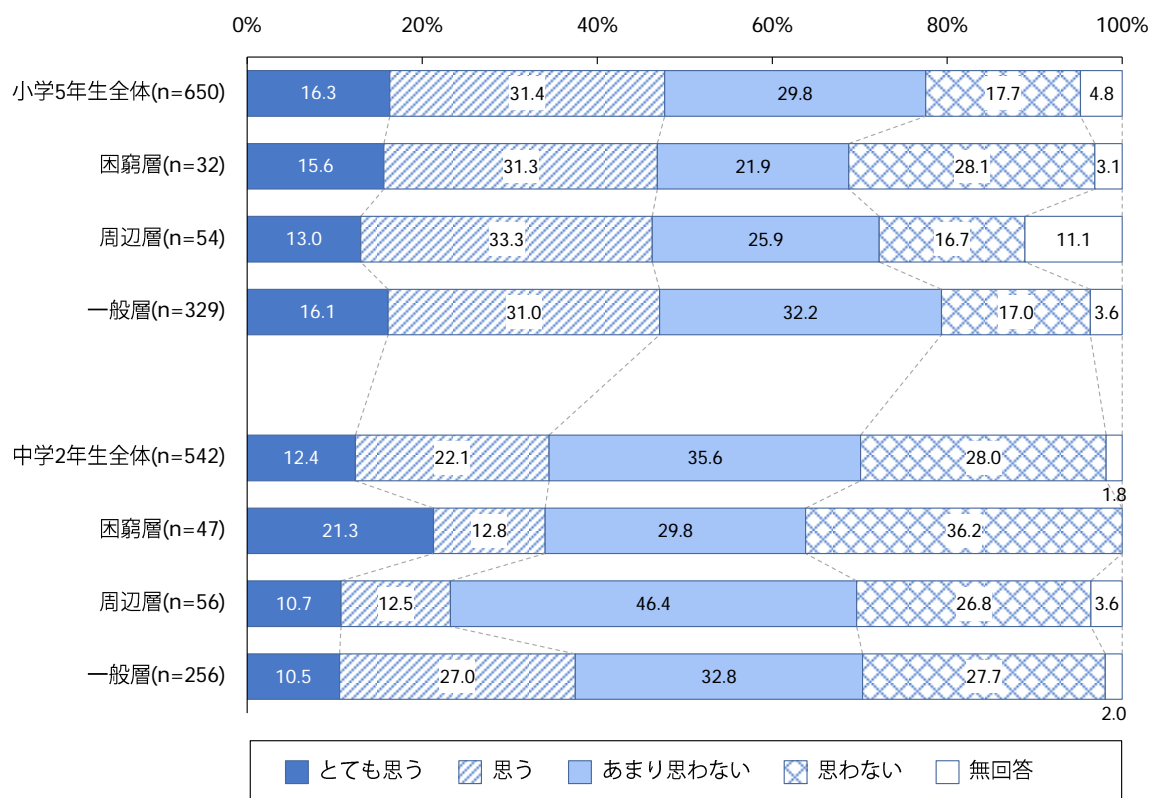
問 33 思いや気持ちについて/D 自分は友だちに好かれていると思う



E 不安に感じることはないと思う

不安に感じることはないと思うかについて、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で46.9%、周辺層で46.3%、一般層で47.1%、中学2年生の困窮層で34.1%、周辺層で23.2%、一般層で37.5%となっており、中学2年生の周辺層で低くなっている。

問 33 思いや気持ちについて/E 不安に感じることはないと思う

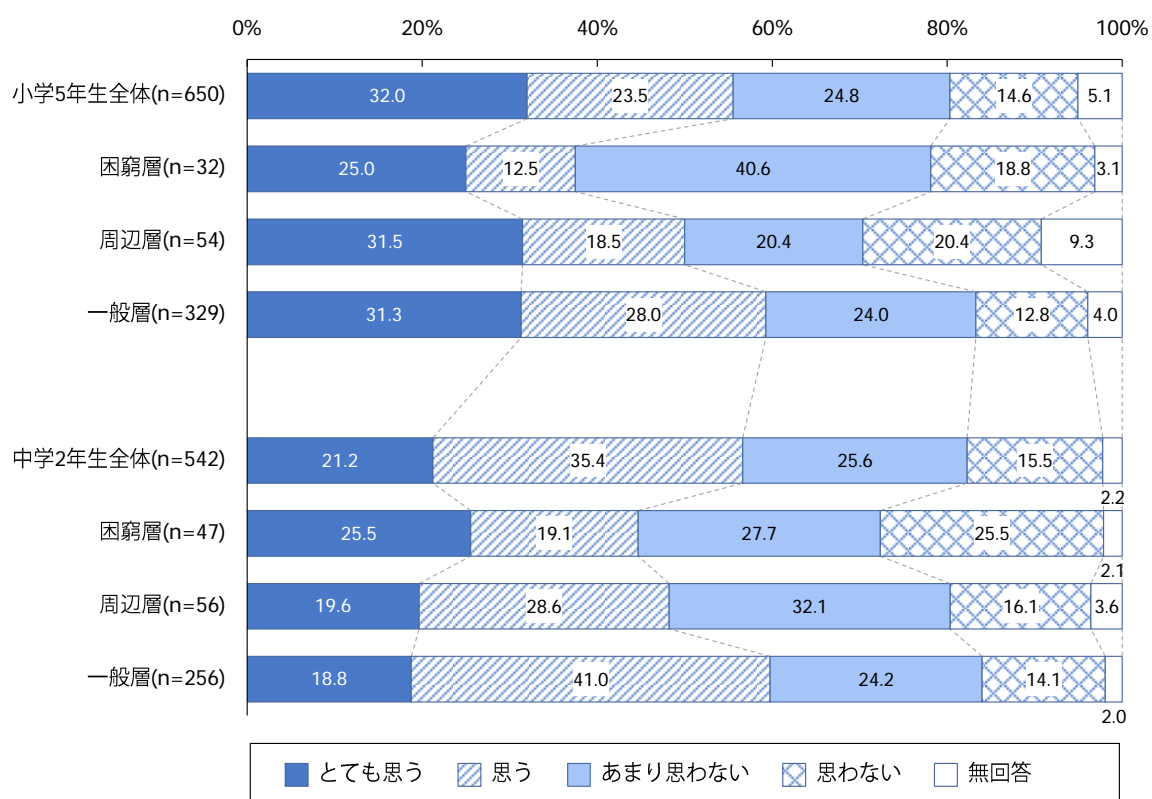


F 孤独を感じることはない（再掲）

孤独を感じることはないかについて、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で37.5%、周辺層で50.0%、一般層で59.3%、中学2年生の困窮層で44.6%、周辺層で48.2%、一般層で59.8%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

「あまり思わない」「思わない」を合わせた『思わない』と回答した割合は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ59.4%、53.2%と高くなっている。

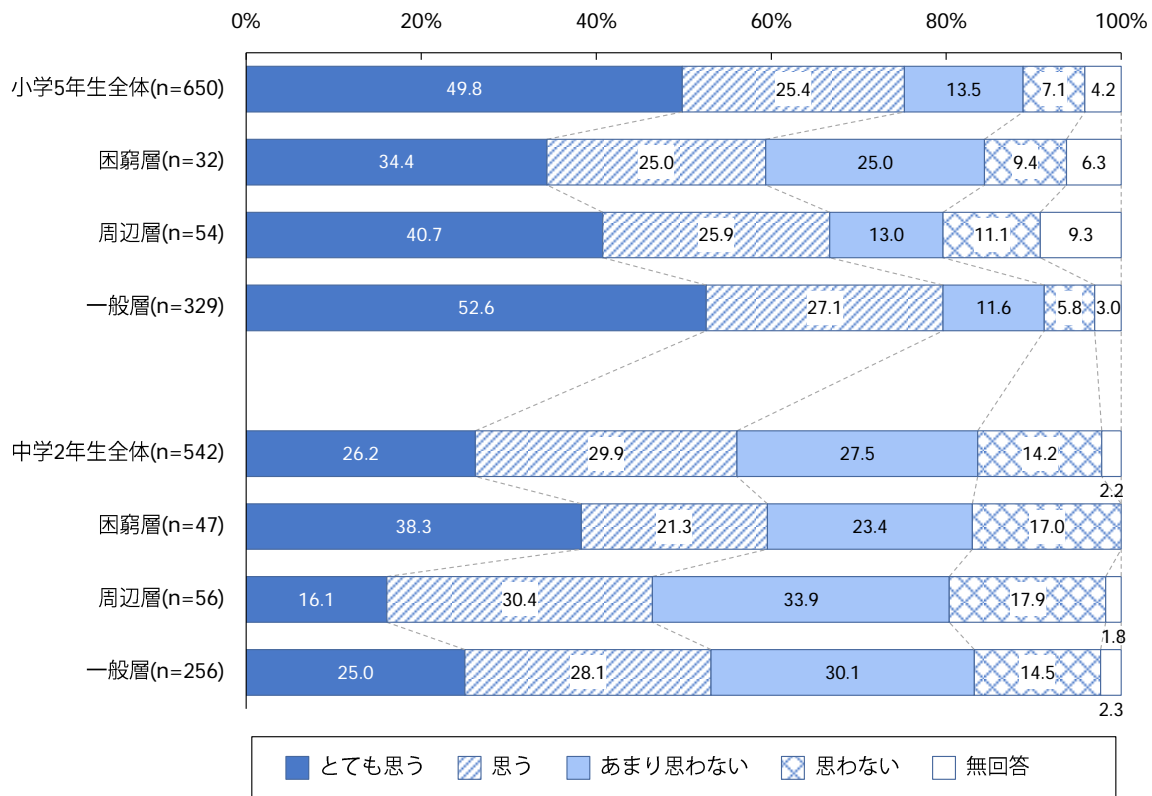
問 33 思いや気持ちについて/F 孤独を感じることはない



G 自分の将来が楽しみだ

自分の将来が楽しみだと思うかについて、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で59.4%、周辺層で66.6%、一般層で79.7%、中学2年生の困窮層で59.6%、周辺層で46.5%、一般層で53.1%となっており、小学5年生の困窮層で低く、中学2年生の困窮層で高くなっている。

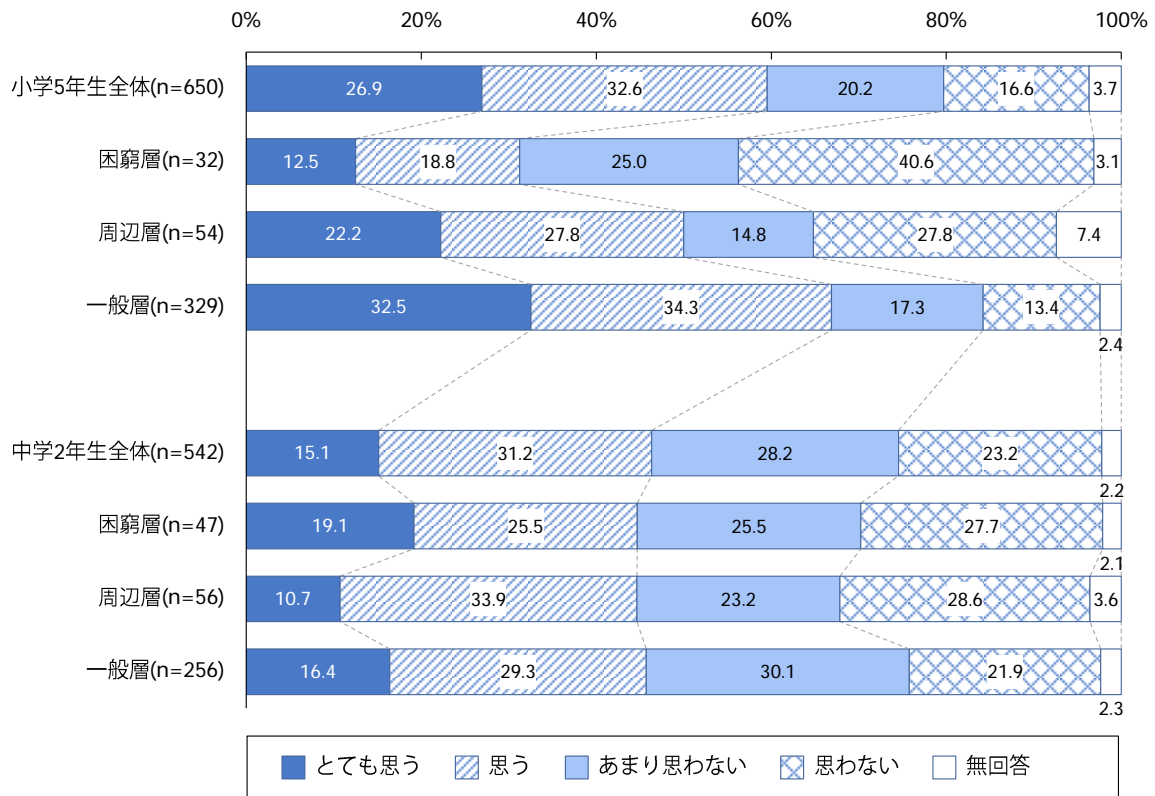
問 33 思いや気持ちについて/G 自分の将来が楽しみだ



H 自分のことが好きだ

自分のことが好きだと思うかについて、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で31.3%、周辺層で50.0%、一般層で66.8%、中学2年生の困窮層、周辺層でともに44.6%、一般層で45.7%となっており、小学5年生の困窮層で非常に低くなっている。

問 33 思いや気持ちについて/H 自分のことが好きだ



第6部 保護者の状況

1 保護者の就労状況

(1) 父母の就労状況

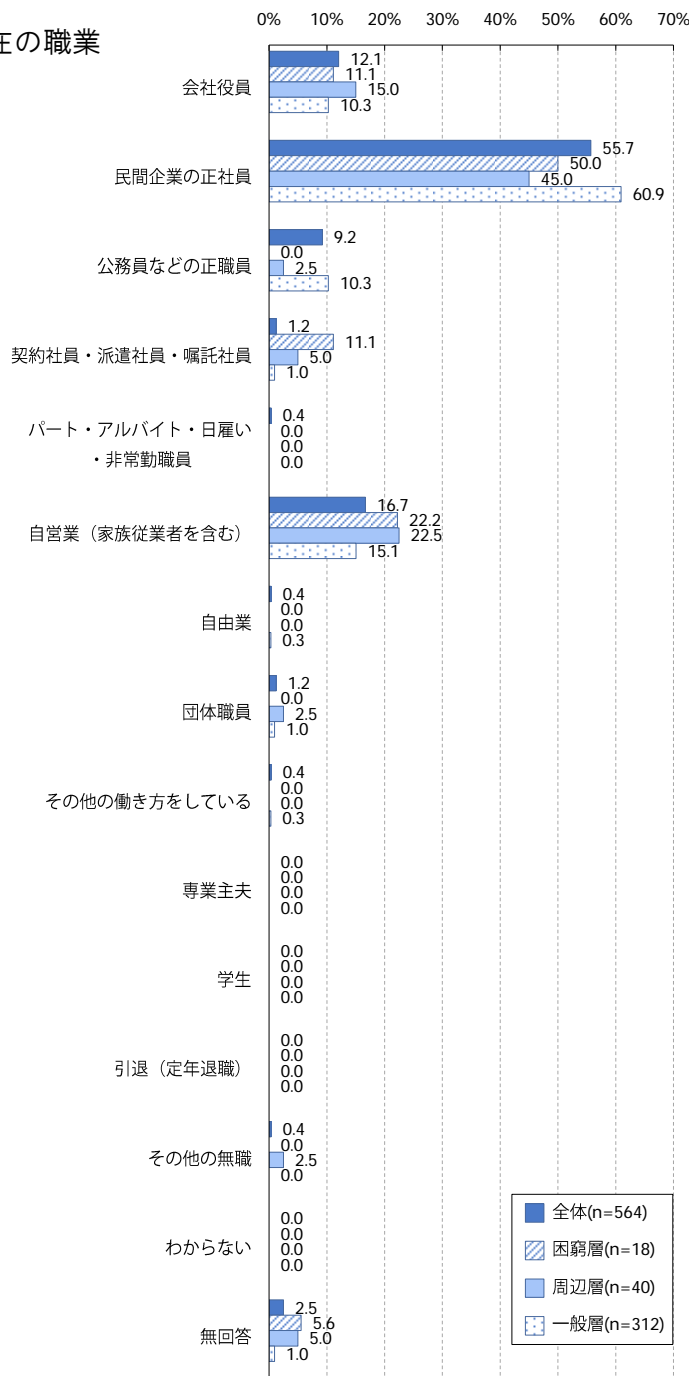
① 父親

小学5年生の父親の現在の職業について、全体では「民間企業の正社員」が55.7%と最も高く、次いで「自営業（家族従業者を含む）」が16.7%、「会社役員」が12.1%となっている。

「公務員などの正職員」では、一般層で10.3%と、困窮層、周辺層に比べて高くなっている。

問10 父親の現在の職業

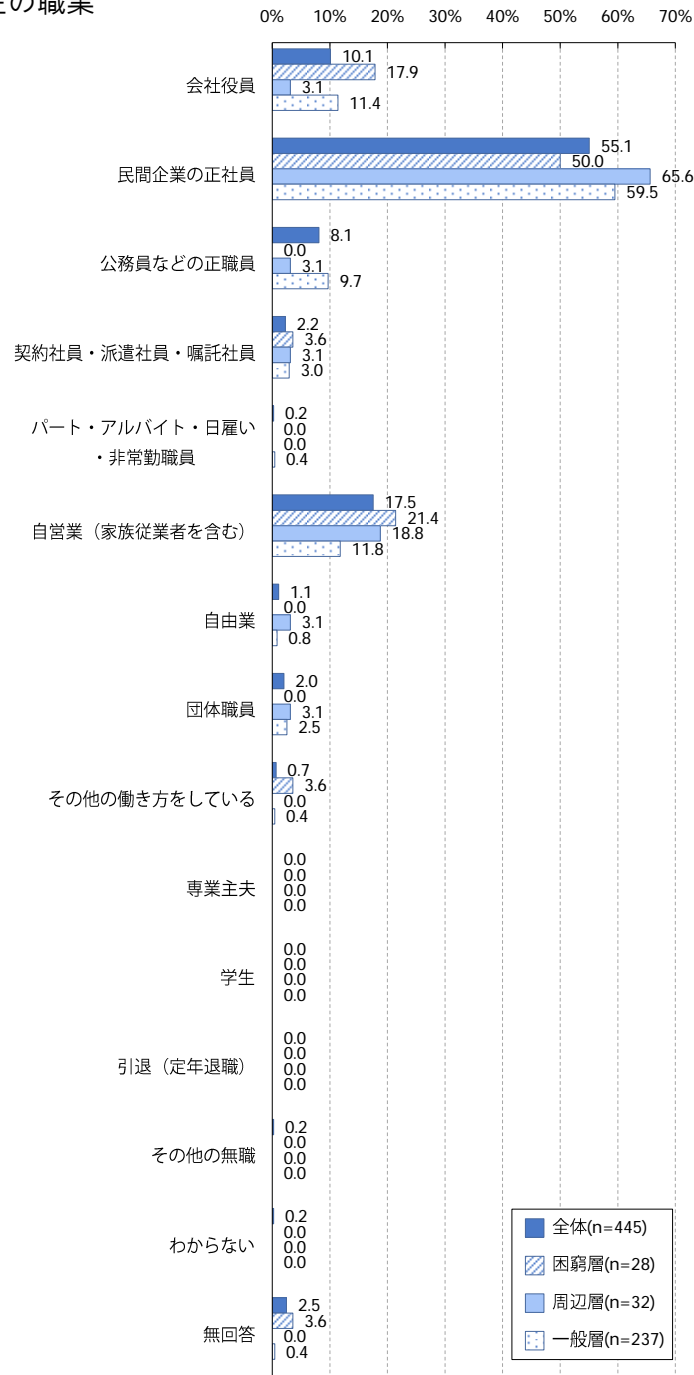
小学5年生



中学2年生の父親の現在の職業について、全体では「民間企業の正社員」が55.1%と最も高く、次いで「自営業（家族従業者を含む）」が17.5%、「会社役員」が10.1%となっている。「公務員などの正職員」では、一般層で9.7%と、困窮層、周辺層に比べて高くなっている。

問 10 父親の現在の職業

中学2年生



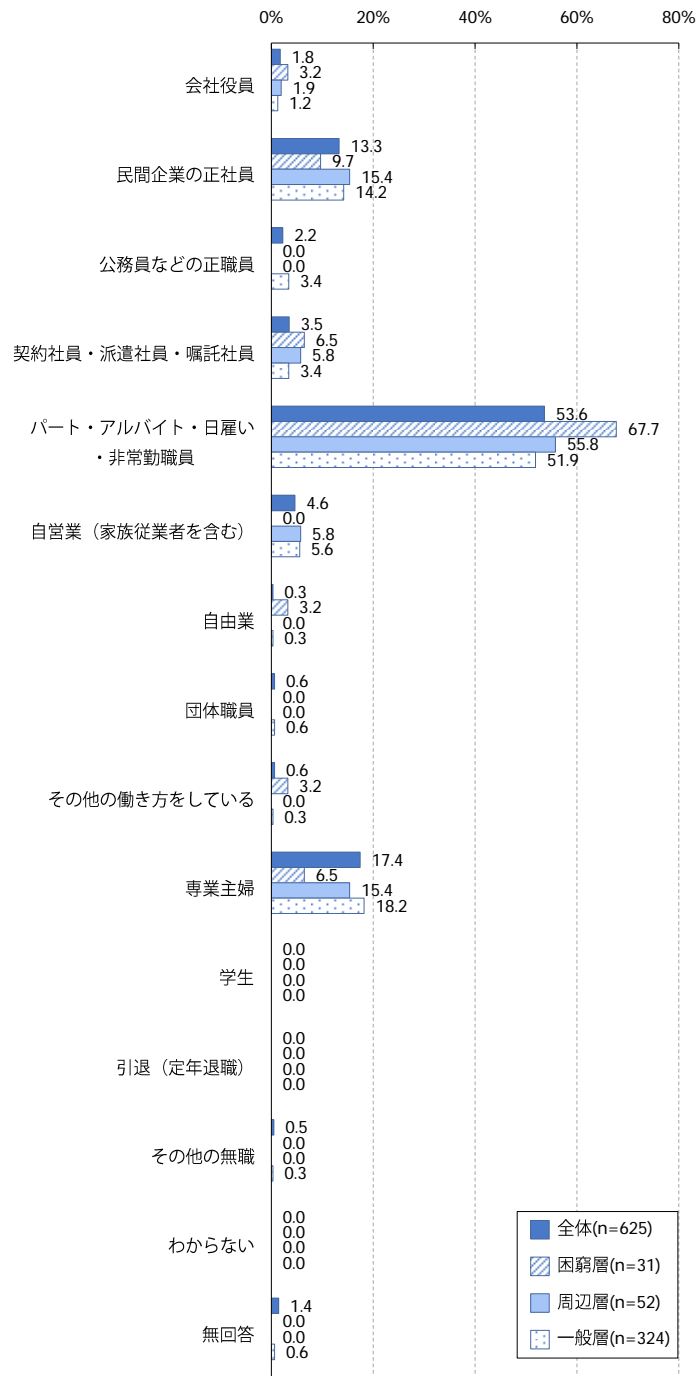
②母親

小学5年生の母親の現在の職業について、全体では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が53.6%と最も高く、次いで「専業主婦」が17.4%、「民間企業の正社員」が13.3%となっている。

「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」は、困窮層で67.7%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 11 母親の現在の職業

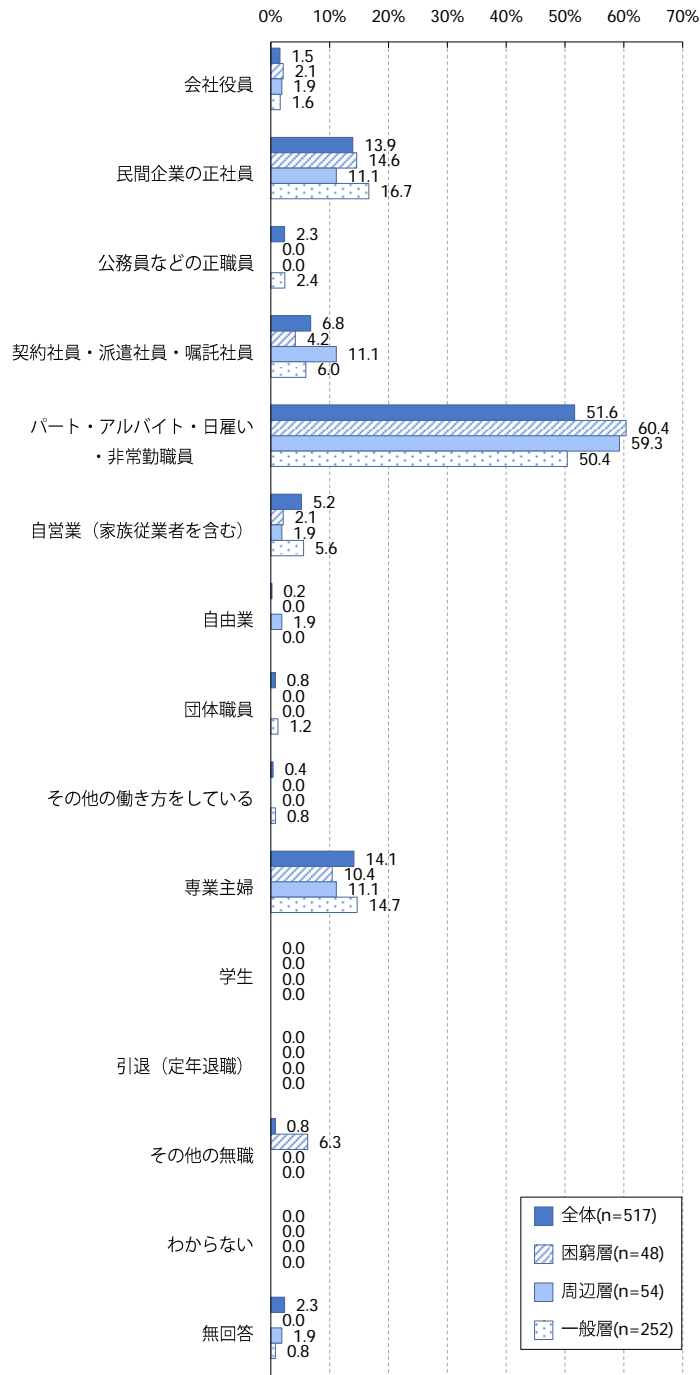
小学5年生



中学2年生の母親の現在の職業について、全体では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が51.6%と最も高く、次いで「専業主婦」が14.1%、「民間企業の正社員」が13.9%となっている。

問 11 母親の現在の職業

中学2年生

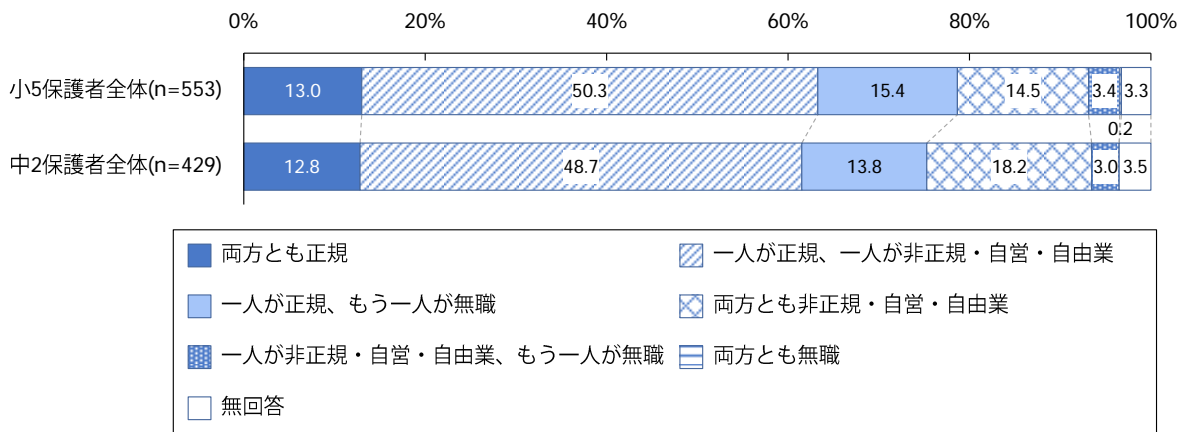


(2) 共働きの状況

ふたり親世帯で、保護者がどのように働いているか（共働きかどうかなど）が世帯の経済面や子どもとの生活に与える影響は大きい。ふたり親世帯の保護者の就労状況では、小学5年生で13.0%、中学2年生で12.8%が「両方とも正規」で働いている。

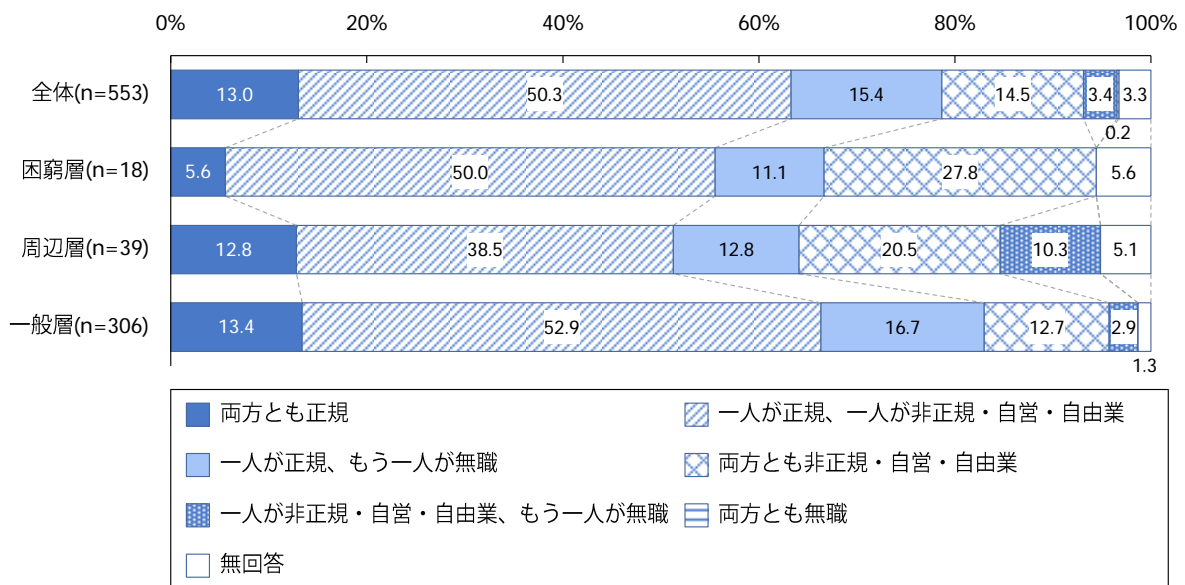
「両方とも非正規・自営・自由業」は、小学5年生で14.5%、中学2年生で18.2%、「一人が非正規・自営・自由業、もう一人が無職」は、小学5年生で3.4%、中学2年生で3.0%となっている。

全体



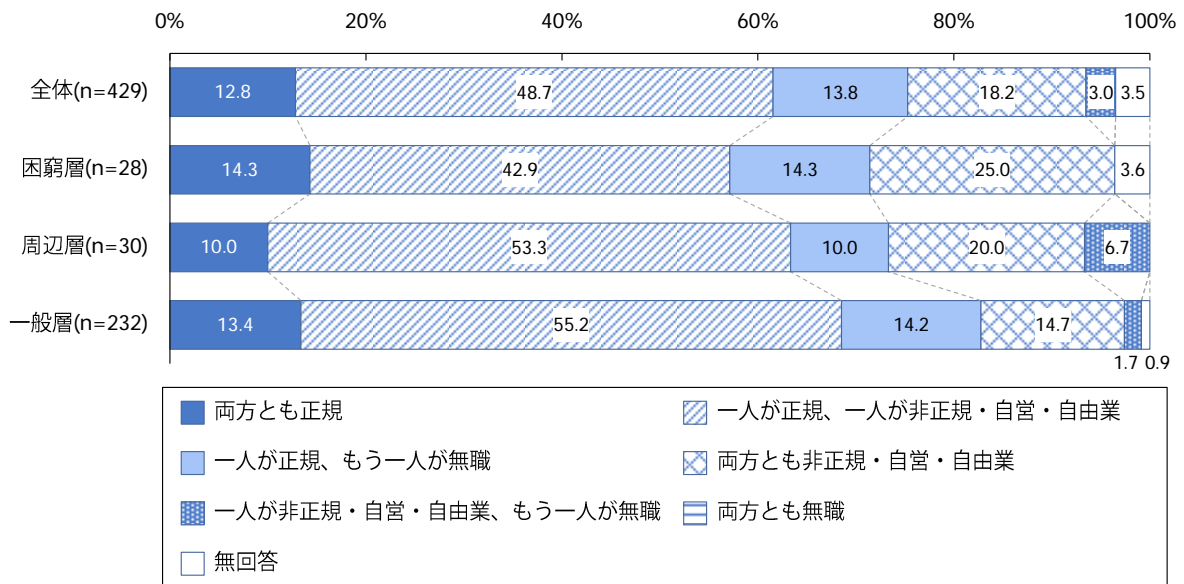
小学5年生の、ふたり親世帯の共働きの状況を生活困難度別にみると、「両方とも正規」は困窮層で5.6%、周辺層で12.8%、一般層で13.4%となっている。「両方とも非正規・自営・自由業」は、困窮層で27.8%、周辺層で20.5%、一般層で12.7%となっており、生活困難度との相関がみられる。

小学5年生



中学2年生の、ふたり親世帯の共働きの状況を生活困難度別にみると、「両方とも正規」は困窮層で14.3%、周辺層で10.0%、一般層で13.4%となっている。「両方とも非正規・自営・自由業」は、困窮層で25.0%、周辺層で20.0%、一般層で14.7%となっている。「両方とも非正規・自営・自由業」の家庭において、生活困難度との明確な相関がみられる。

中学2年生

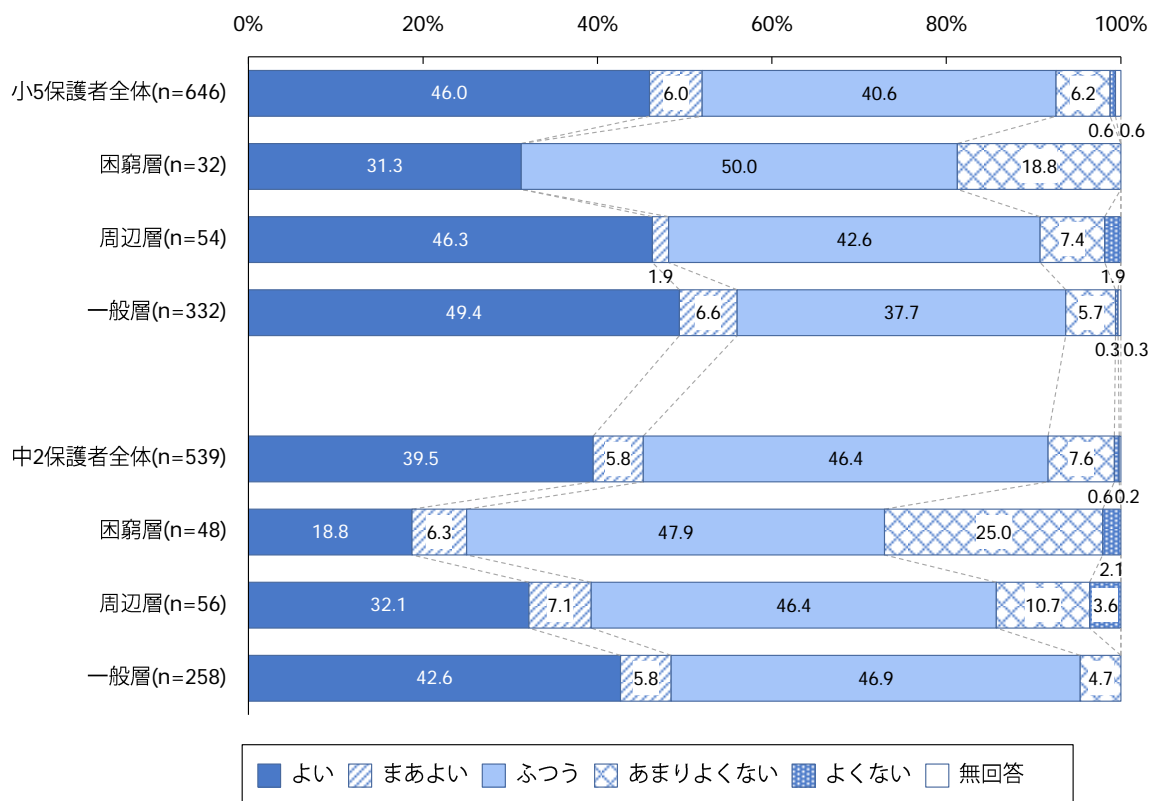


2 保護者の健康状態と精神的ストレス

(1) 保護者の健康状態

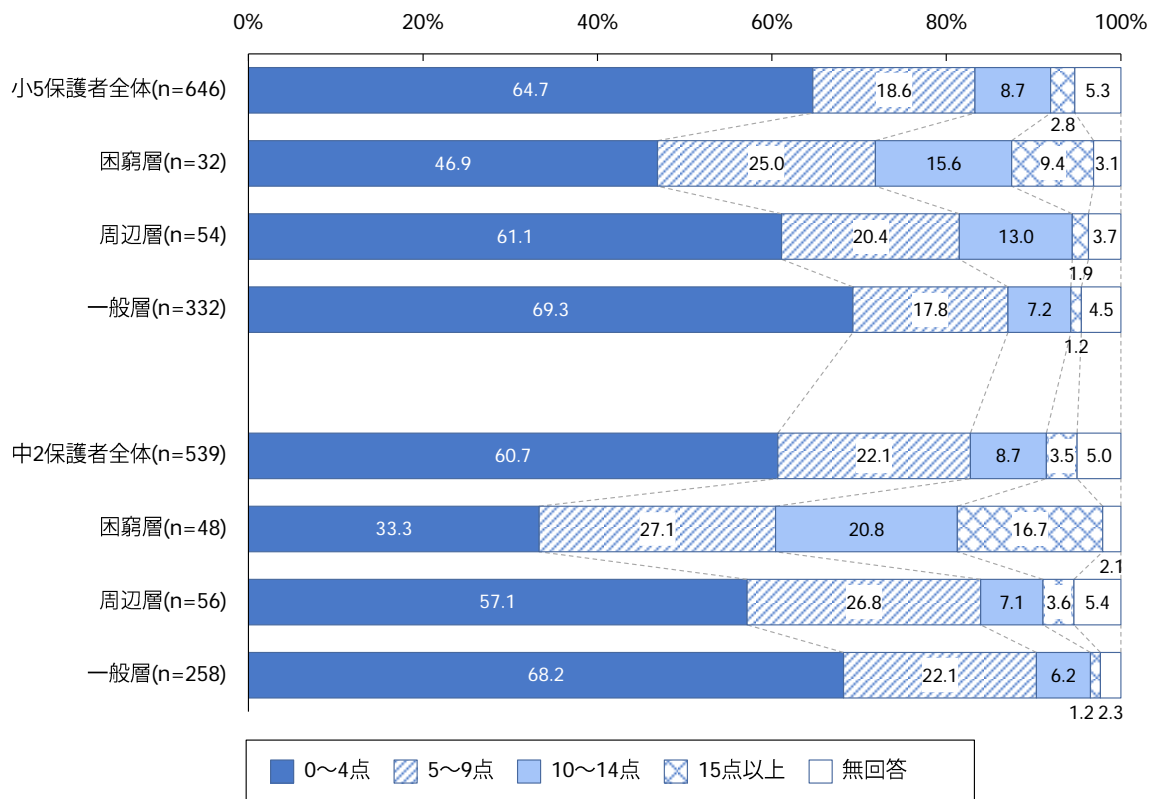
保護者の健康状態について、「よい」「まあよい」を合わせた『よい』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で31.3%、周辺層で48.2%、一般層で56.0%、中学2年生の困窮層で25.1%、周辺層で39.2%、一般層で48.4%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で非常に低くなっている。

問 15-1 健康状態/保護者



(2) 保護者の抑うつ傾向

一般的にうつ傾向を表す指標として普及している K6 指標※を用いて保護者（回答者）の抑うつ傾向を計った結果、「0～4 点」は、小学 5 年生の保護者の困窮層で 46.9%、周辺層で 61.1%、一般層で 69.3%、中学 2 年生の保護者の困窮層で 33.3%、周辺層で 57.1%、一般層で 68.2%と小学 5 年生・中学 2 年生の保護者ともに困窮層で低くなっている。



※K 6は米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。過去 30 日の間で心の状況（6 項目）を指数化する。合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があると考えられている。

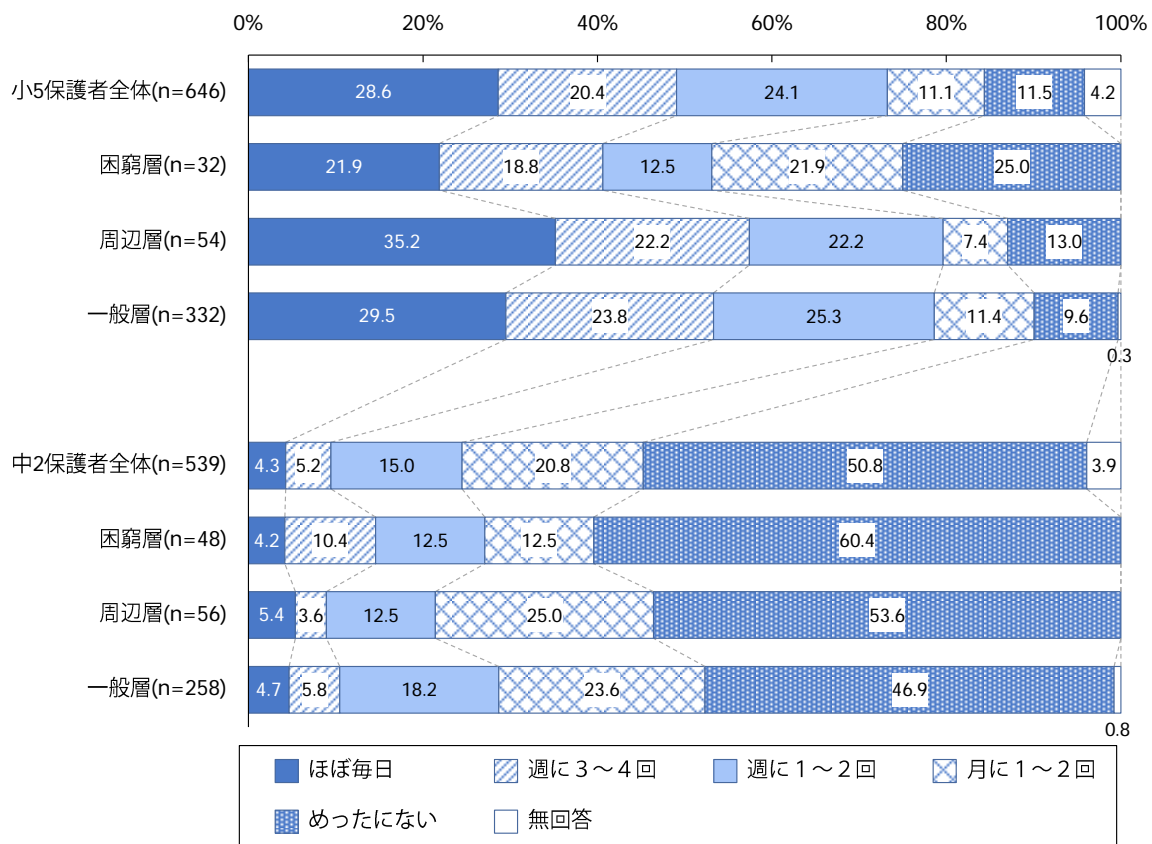
3 親子の時間

(1) 親子での過ごし方

A お子さんの勉強をみる

子どもの勉強をみることについて、「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で40.7%、周辺層で57.4%、一般層で53.3%、中学2年生の困窮層で14.6%、周辺層で9.0%、一般層で10.5%となっており、小学5年生の困窮層で低くなっている。また、全体的に小学5年生で高くなっている。

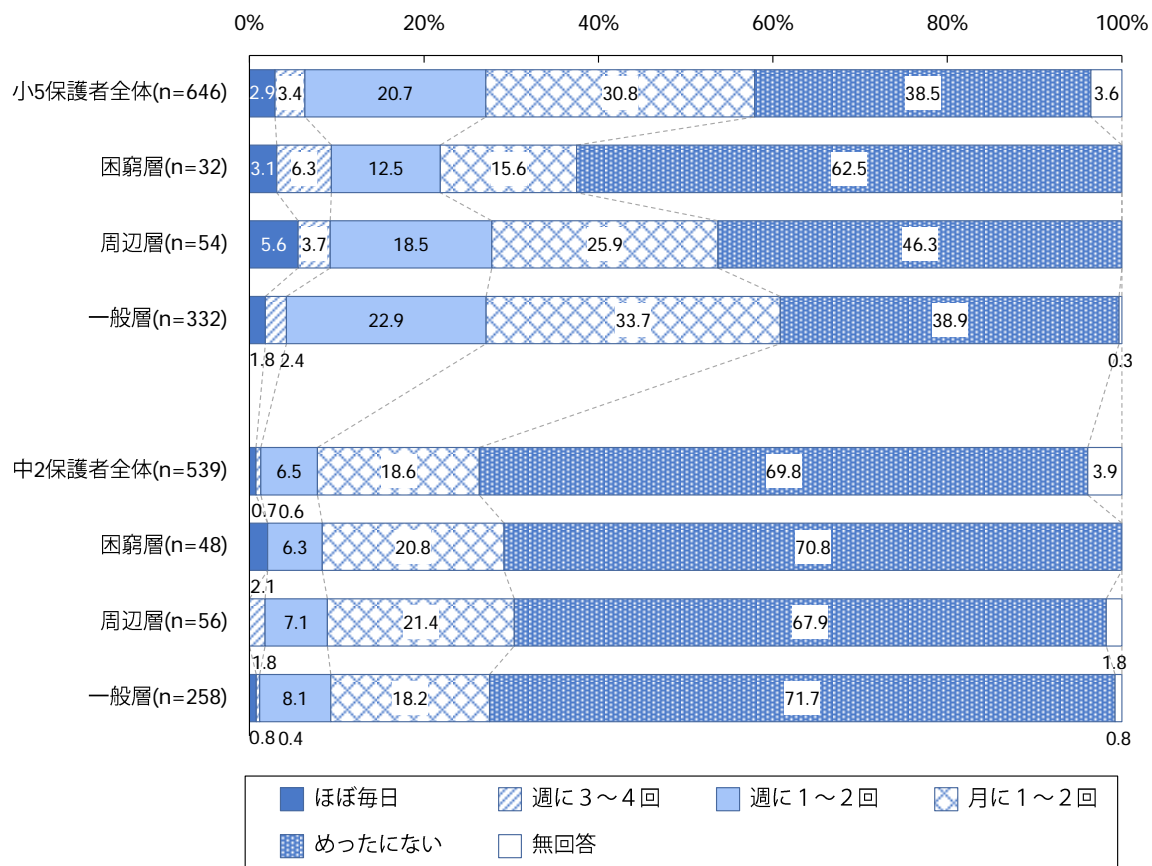
問 24 子どもと関わる頻度/A お子さんの勉強をみる



B お子さんとからだを動かして遊ぶ（キャッチボールなど）

子どもとからだを動かして遊ぶ（キャッチボールなど）ことについて、「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で9.4%、周辺層で9.3%、一般層で4.2%、中学2年生の困窮層で2.1%、周辺層で1.8%、一般層で1.2%となっている。

問 24 子どもと関わる頻度/B お子さんとからだを動かして遊ぶ（キャッチボールなど）

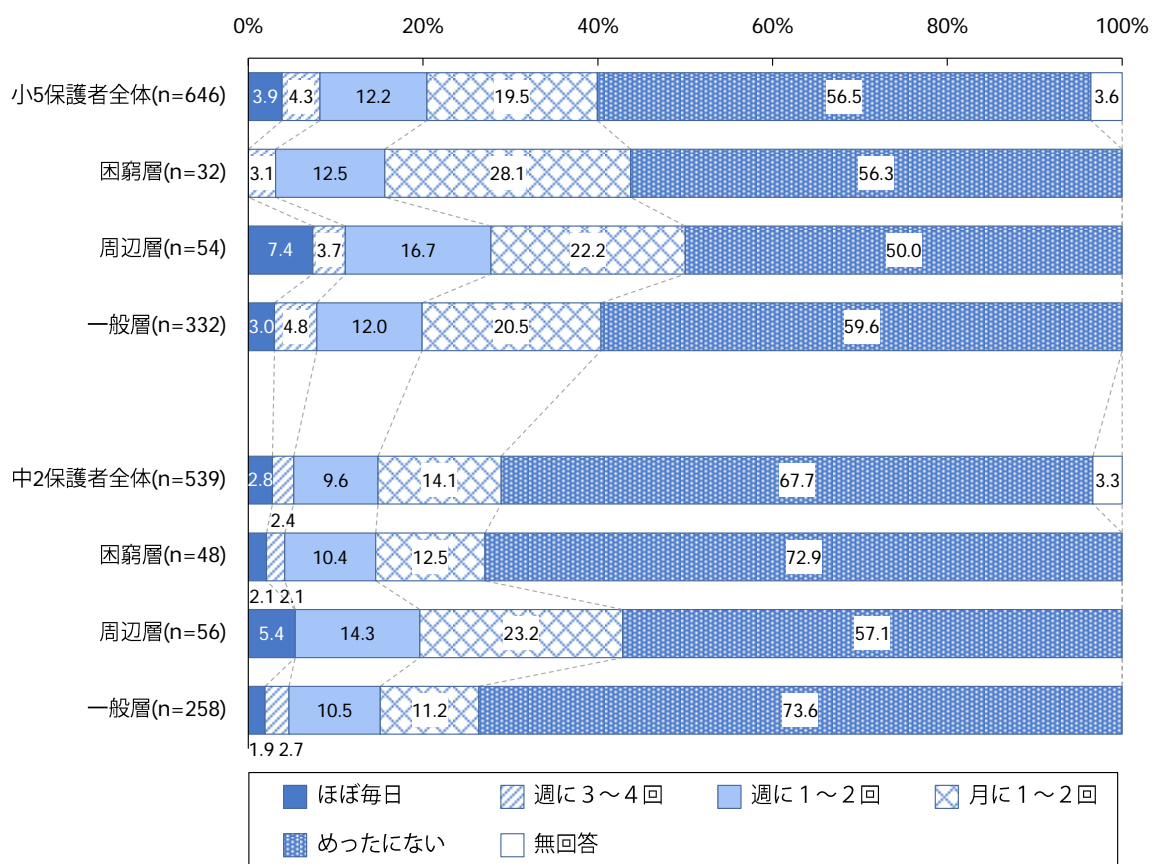


C お子さんとコンピュータゲームで遊ぶ（テレビゲーム・パソコンゲーム・携帯ゲームなど）

子どもとコンピュータゲームで遊ぶ（テレビゲーム・パソコンゲーム・携帯ゲームなど）ことについて、「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で3.1%、周辺層で11.1%、一般層で7.8%、中学2年生の困窮層で4.2%、周辺層で5.4%、一般層で4.6%となっている。

中学2年生では、「めったにしない」は全体で67.7%と高くなっている。

問 24 子どもと関わる頻度/C お子さんとコンピュータゲームで遊ぶ（テレビゲーム・パソコンゲーム・携帯ゲームなど）

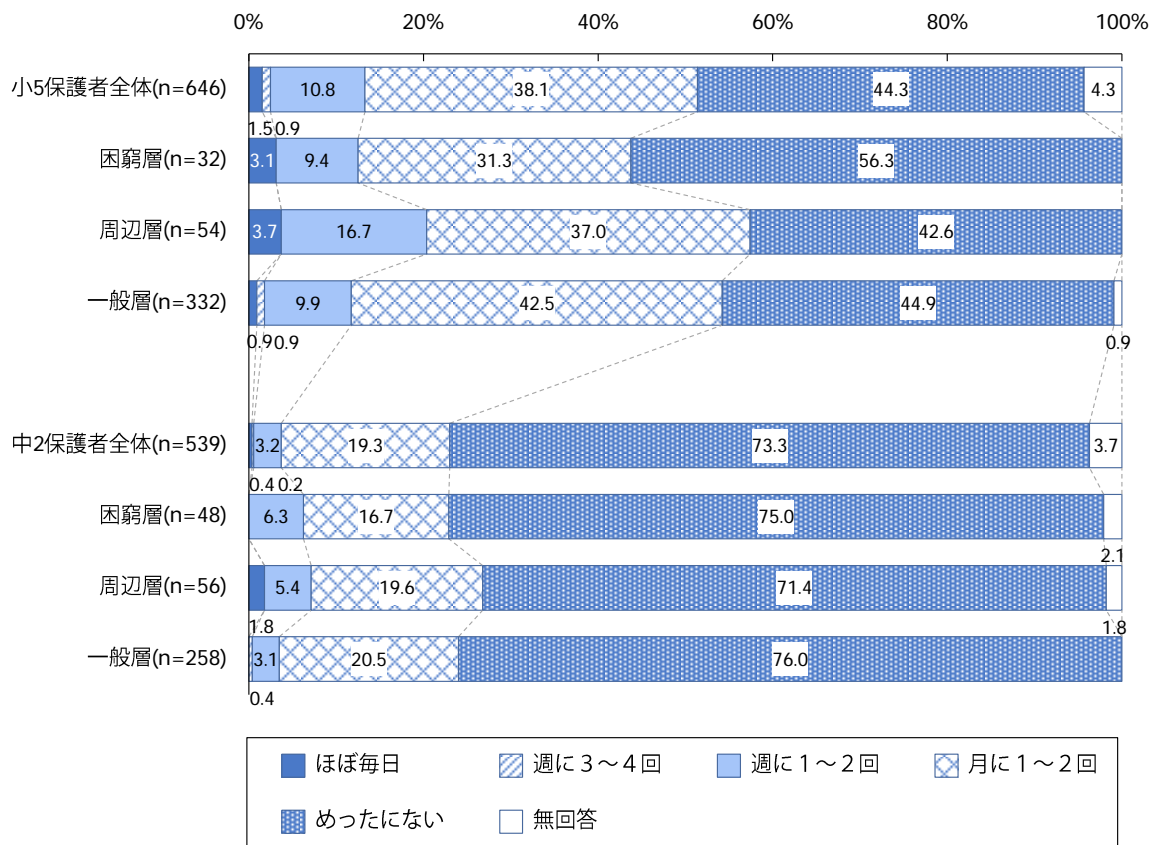


D お子さんとカードゲームなどで遊ぶ（トランプ・ボードゲーム・将棋など）

子どもとカードゲームなどで遊ぶ（トランプ・ボードゲーム・将棋など）ことについて、「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で3.1%、周辺層で3.7%、一般層で1.8%、中学2年生の困窮層で0.0%、周辺層で1.8%、一般層で0.4%となっている。

中学2年生では、「めったにしない」は全体で73.3%と高くなっている。

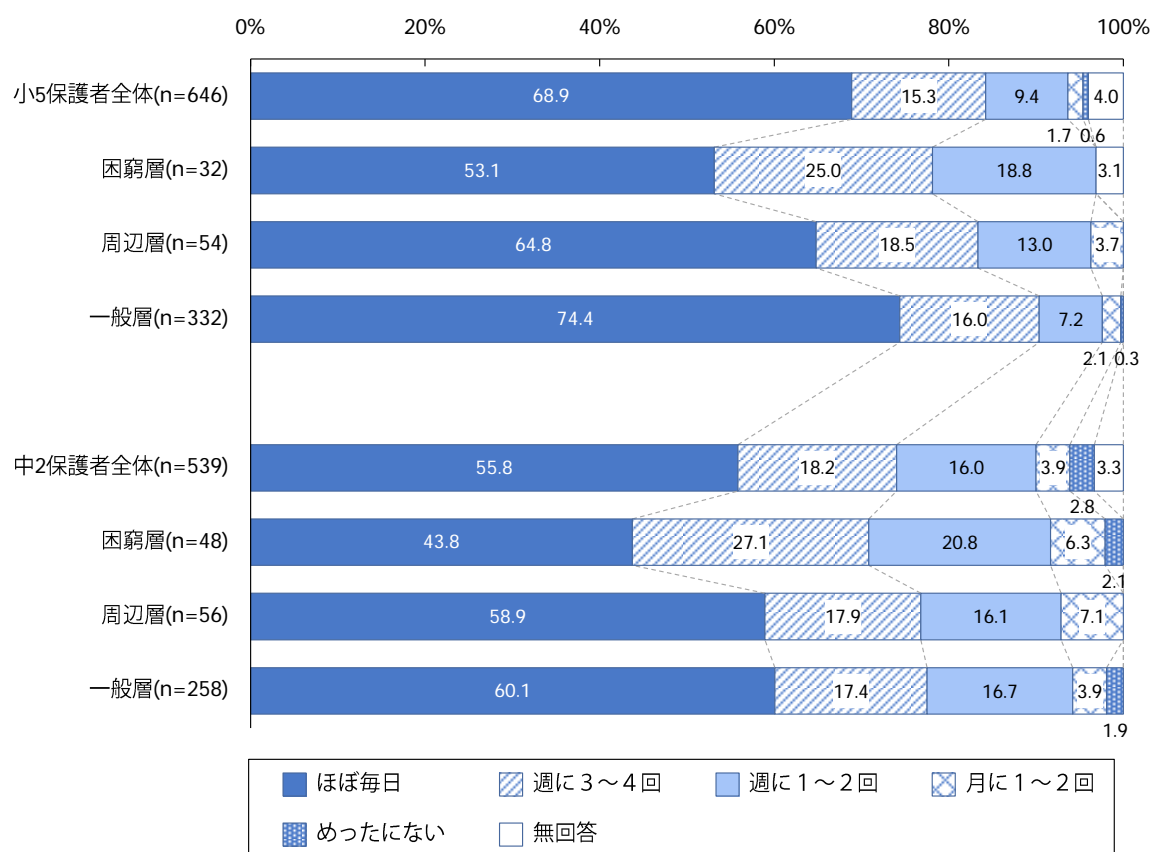
問 24 子どもと関わる頻度/D お子さんとカードゲームなどで遊ぶ（トランプ・ボードゲーム・将棋など）



E お子さんと学校生活の話をする

子どもと学校生活の話をするについて、「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で78.1%、周辺層で83.3%、一般層で90.4%、中学2年生の困窮層で70.9%、周辺層で76.8%、一般層で77.5%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

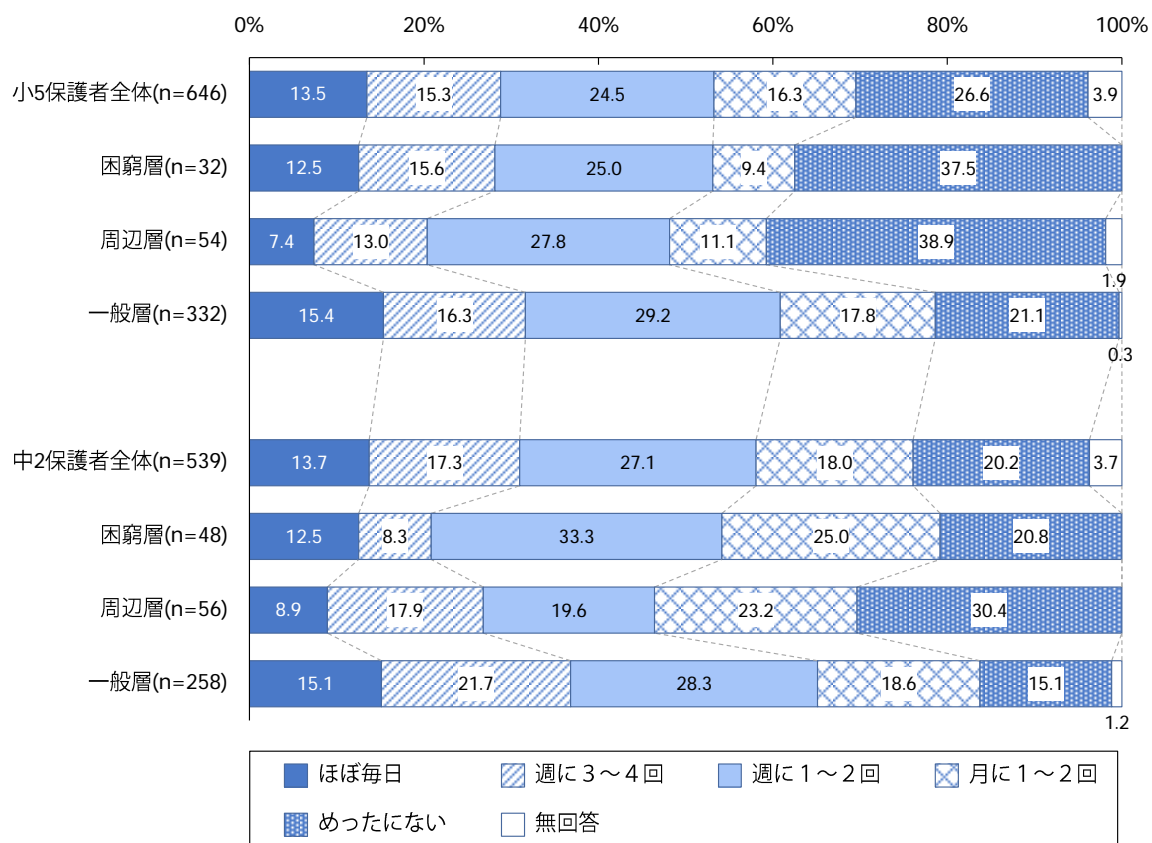
問 24 子どもと関わる頻度/E お子さんと学校生活の話をする



F お子さんと政治経済・社会問題などのニュースの話をする

子どもと政治経済・社会問題などのニュースの話をすることについて、「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で28.1%、周辺層で20.4%、一般層で31.7%、中学2年生の困窮層で20.8%、周辺層で26.8%、一般層で36.8%となっており、小学5年生の周辺層と中学2年生の困窮層で低くなっている。

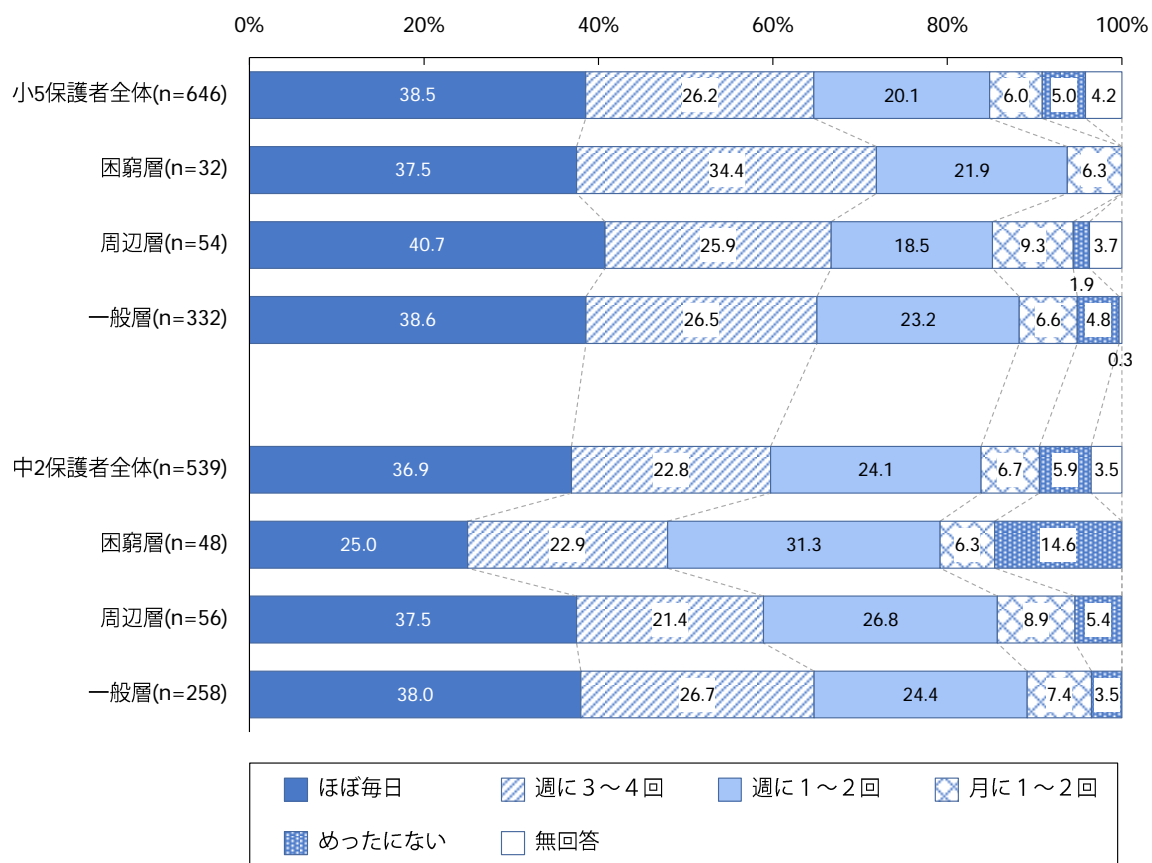
問 24 子どもに関わる頻度/F お子さんと政治経済・社会問題などのニュースの話をする



G お子さんとテレビ番組（ニュースを除く）の話をする

子どもとテレビ番組（ニュースを除く）の話をすることについて、「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で71.9%、周辺層で66.6%、一般層で65.1%、中学2年生の困窮層で47.9%、周辺層で58.9%、一般層で64.7%となっており、小学5年生の困窮層で高く、中学2年生の困窮層で低くなっている。

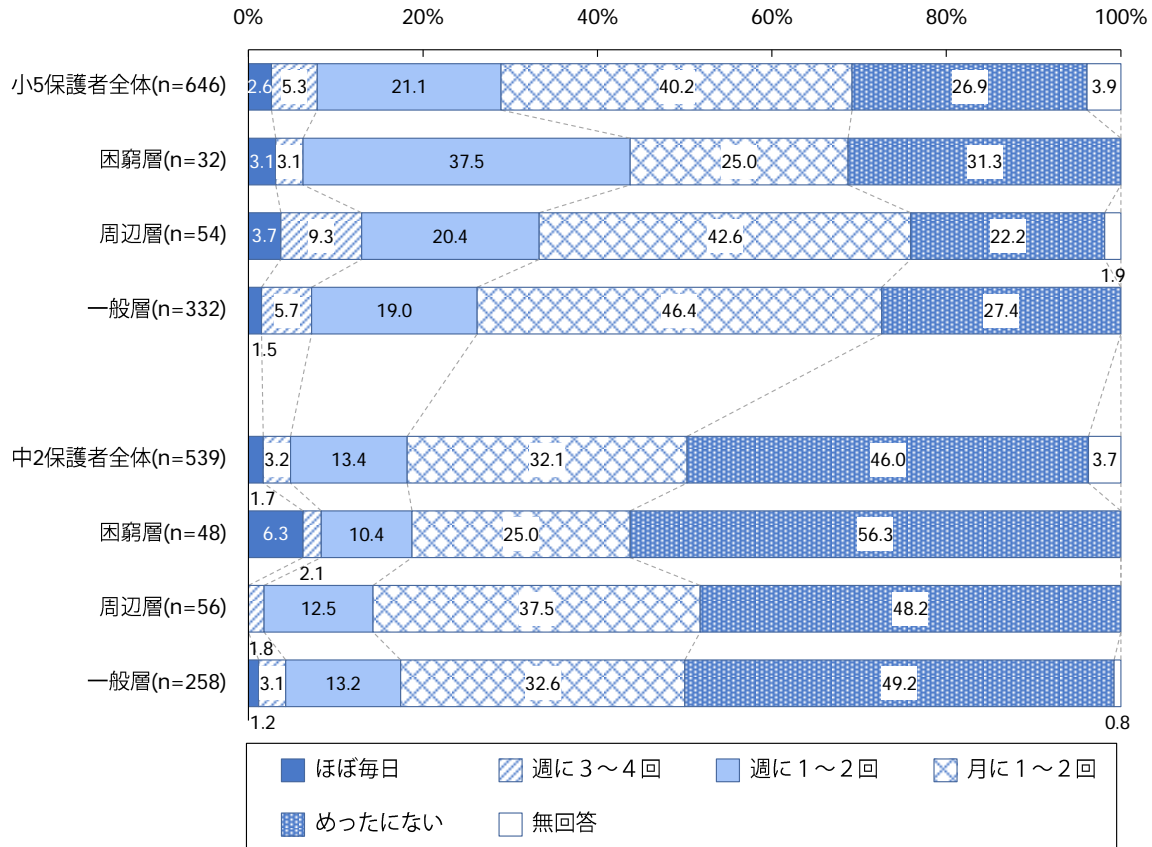
問 24 子どもと関わる頻度/G お子さんとテレビ番組（ニュースを除く）の話をする



H お子さんと一緒に料理をする

子どもと一緒に料理をすることについて、「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で6.2%、周辺層で13.0%、一般層で7.2%、中学2年生の困窮層で8.4%、周辺層で1.8%、一般層で4.3%となっている。

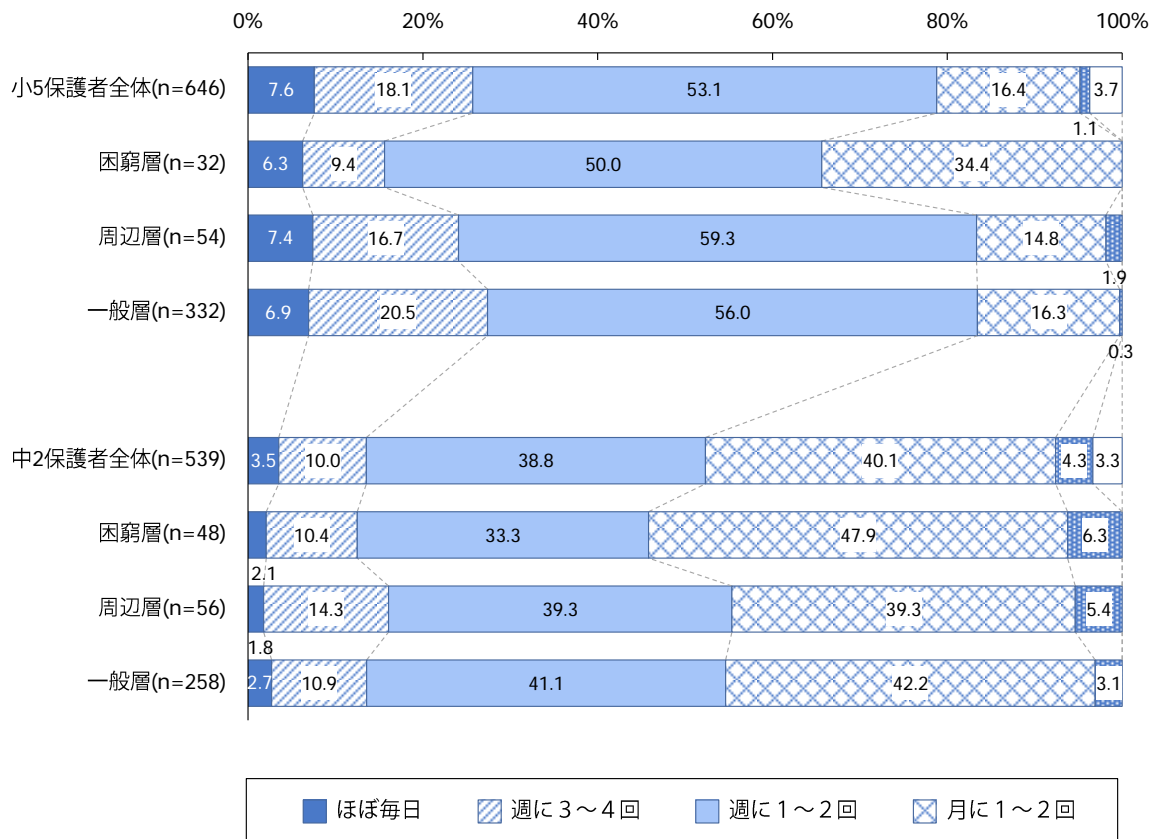
問 24 子どもと関わる頻度/H お子さんと一緒に料理をする



Ⅰ お子さんと一緒に外出をする

子どもと一緒に外出をすることについて、「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で15.7%、周辺層で24.1%、一般層で27.4%、中学2年生の困窮層で12.5%、周辺層で16.1%、一般層で13.6%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

問 24 子どもに関わる頻度/Ⅰ お子さんと一緒に外出をする

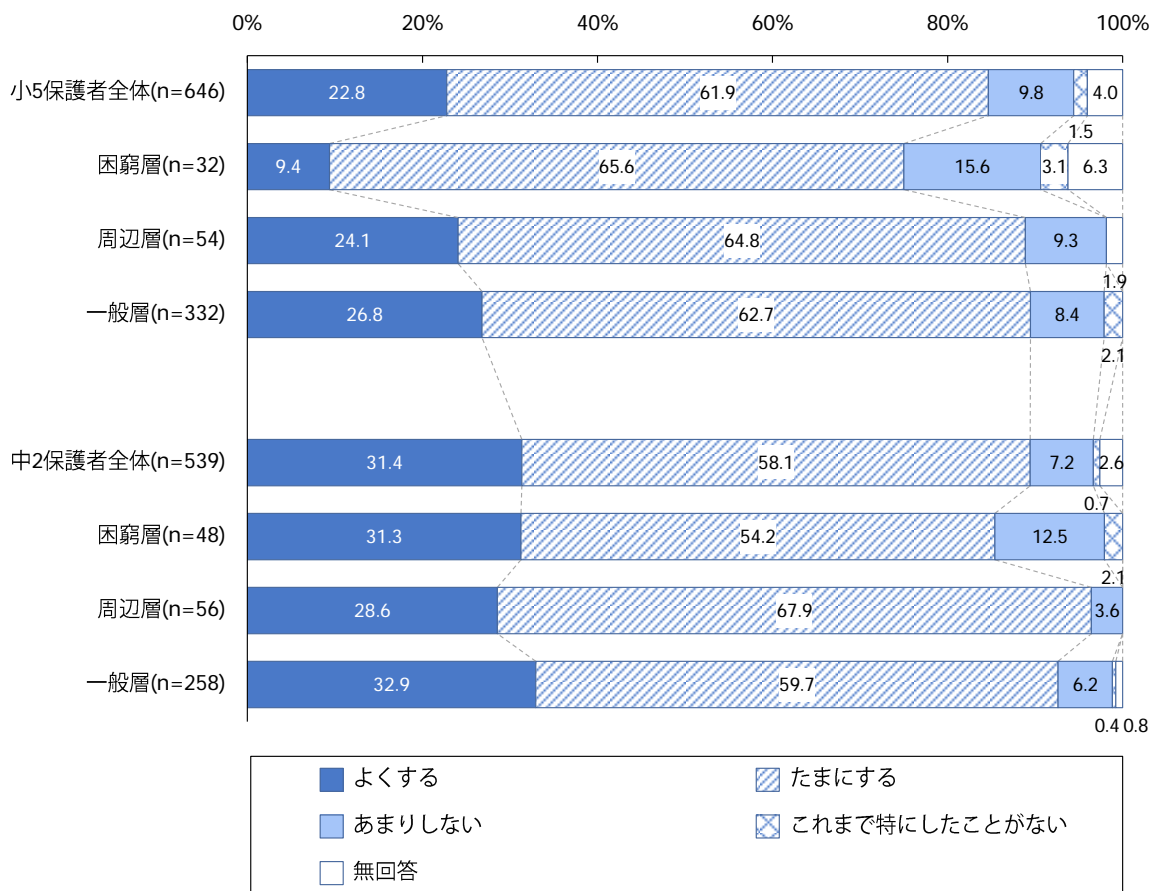


(2) 将来についての会話

子どもと将来について、一緒に考えたり話したりする頻度について、「よくする」「たまにする」を合わせた『する』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で75.0%、周辺層で88.9%、一般層で89.5%、中学2年生の困窮層で85.5%、周辺層で96.5%、一般層で92.6%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

「あまりしない」「これまで特にしたことがない」を合わせた『しない』と回答した割合は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ18.7%、14.6%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

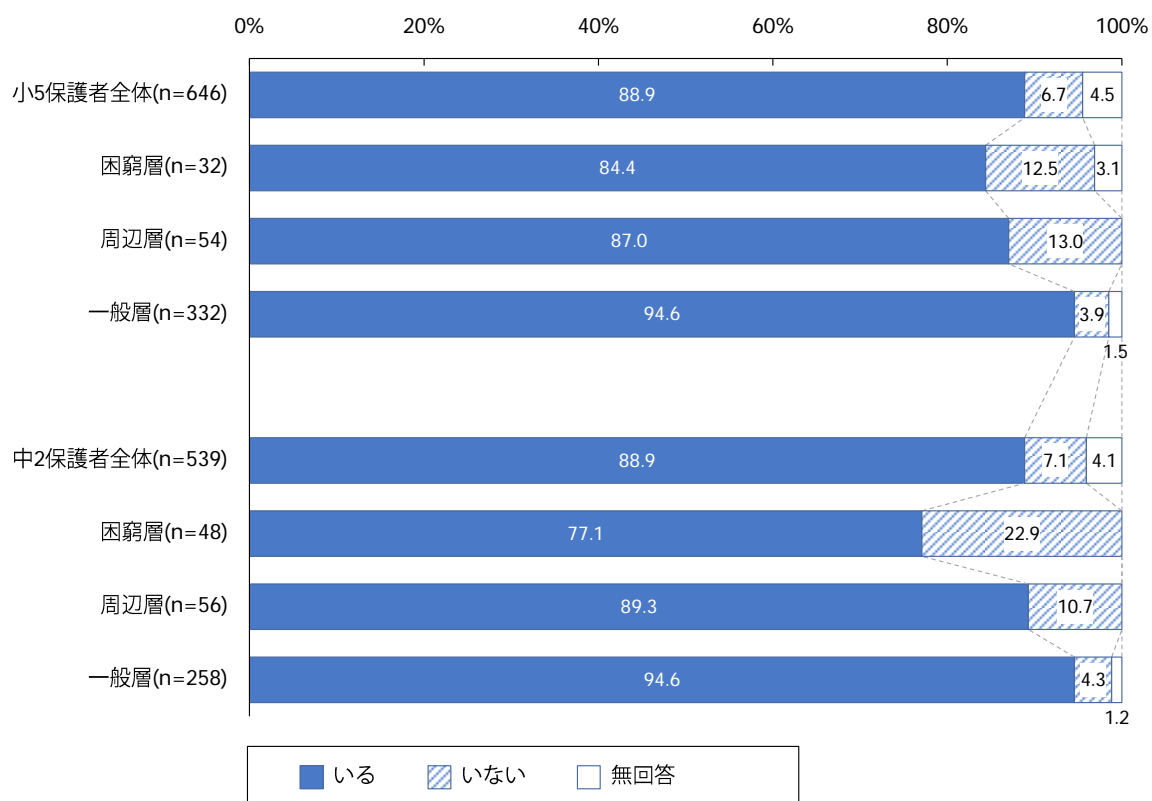
問 26 子どもと将来について、一緒に考えたり話したりする頻度



4 相談相手

困ったときや悩みがあるときの相談相手の有無について、「いる」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で84.4%、周辺層で87.0%、一般層で94.6%、中学2年生の困窮層で77.1%、周辺層で89.3%、一般層で94.6%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

問 44 困ったときや悩みがあるときの相談相手の有無



第7部 制度・サービスの利用

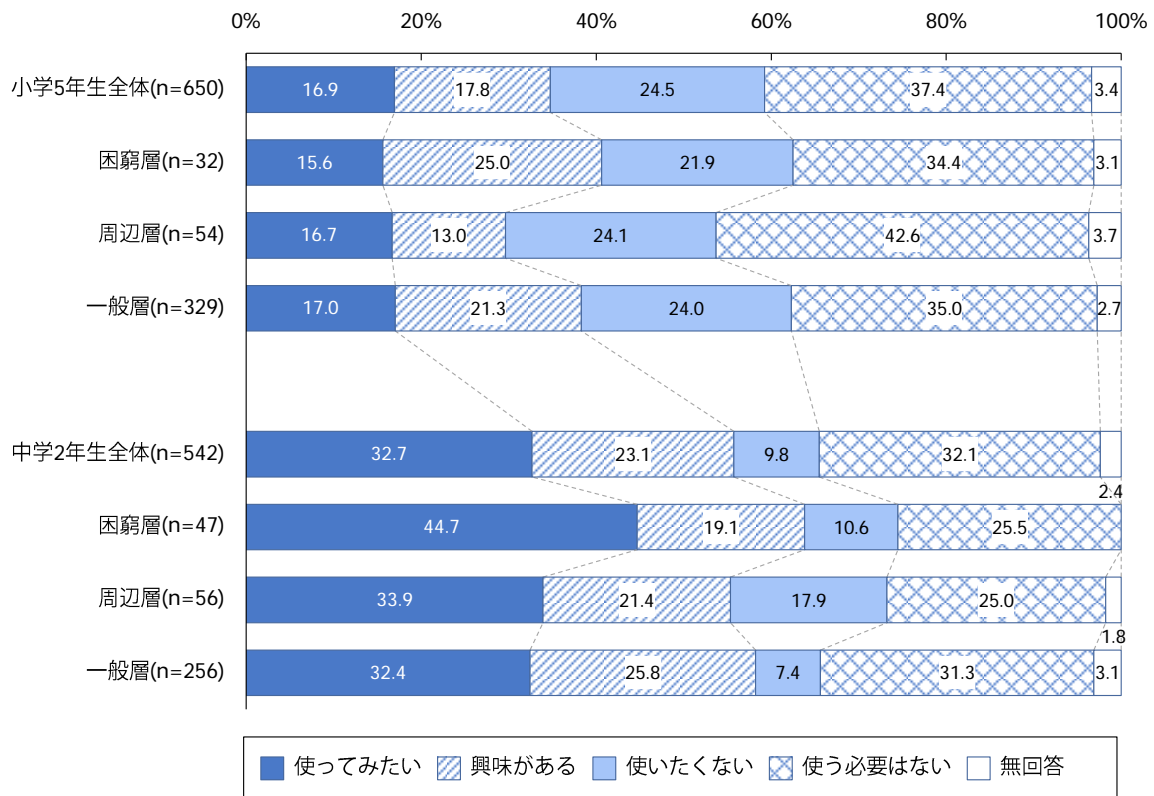
1 子ども本人の支援サービス利用意向

(1) 子ども本人のサービス利用意向

A (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所 (再掲)

(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所の利用希望について、「使ってみたい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で15.6%、周辺層で16.7%、一般層で17.0%、中学2年生の困窮層で44.7%、周辺層で33.9%、一般層で32.4%となっており、中学2年生の困窮層で高くなっている。

問 35 利用希望/A (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所

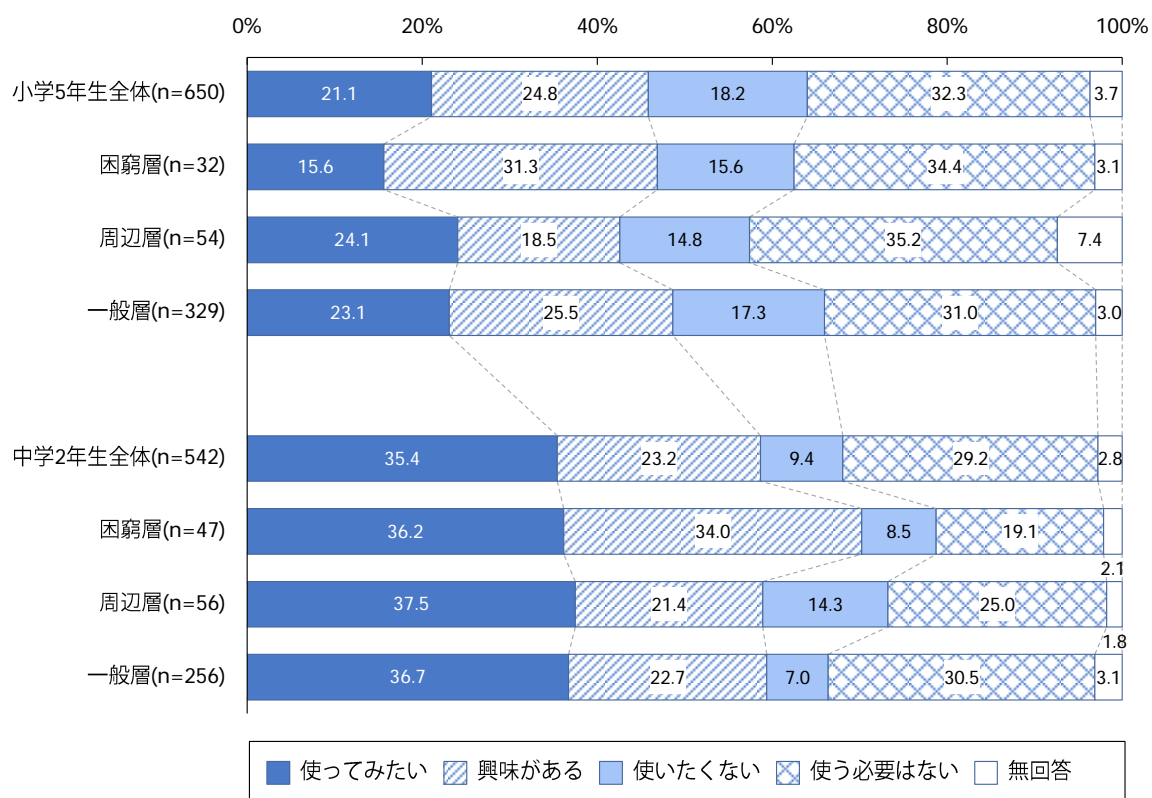


B (家以外で) 休日にいることができる場所 (再掲)

(家以外で) 休日にいることができる場所の利用希望について、「使ってみたい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で15.6%、周辺層で24.1%、一般層で23.1%、中学2年生の困窮層で36.2%、周辺層で37.5%、一般層で36.7%となっており、小学5年生の困窮層で低くなっている。

「興味がある」では、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ31.3%、34.0%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

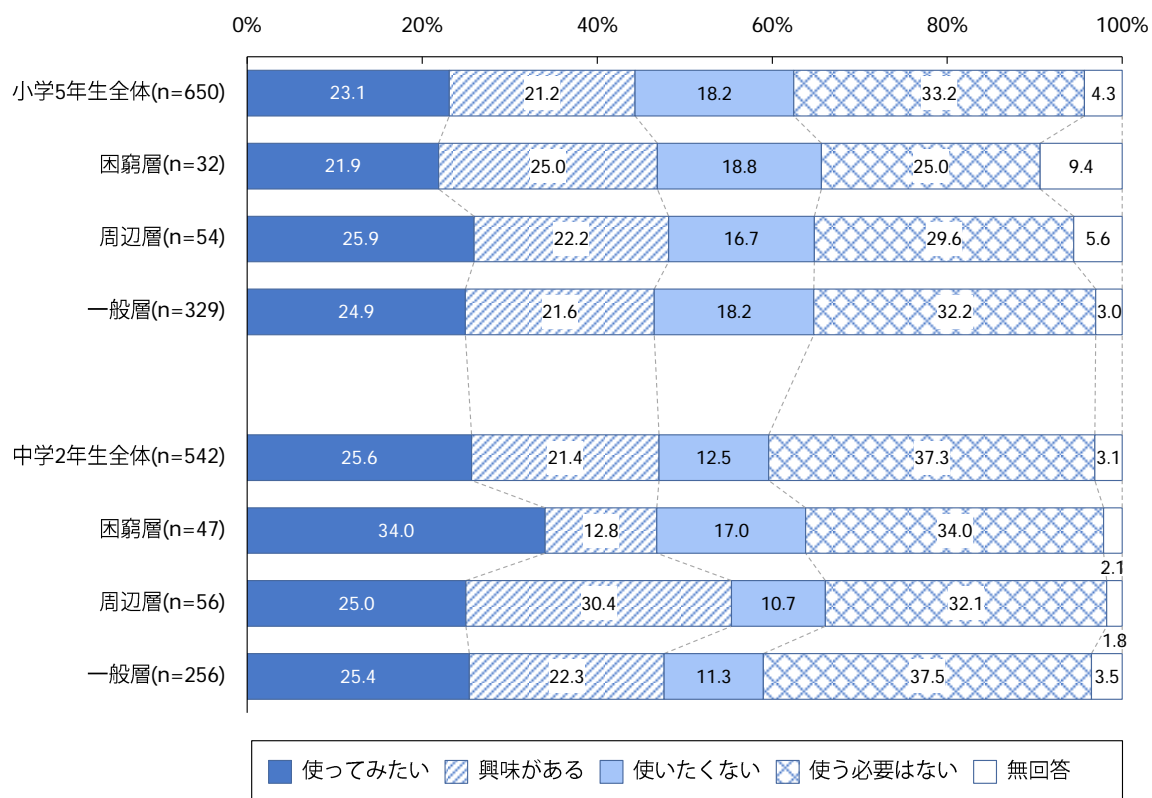
問 35 利用希望/B (家以外で) 休日にいることができる場所



C 家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所（再掲）

家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所の利用希望について、「使ってみたい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で21.9%、周辺層で25.9%、一般層で24.9%、中学2年生の困窮層で34.0%、周辺層で25.0%、一般層で25.4%となっており、中学2年生の困窮層で高くなっている。

問 35 利用希望/C 家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所

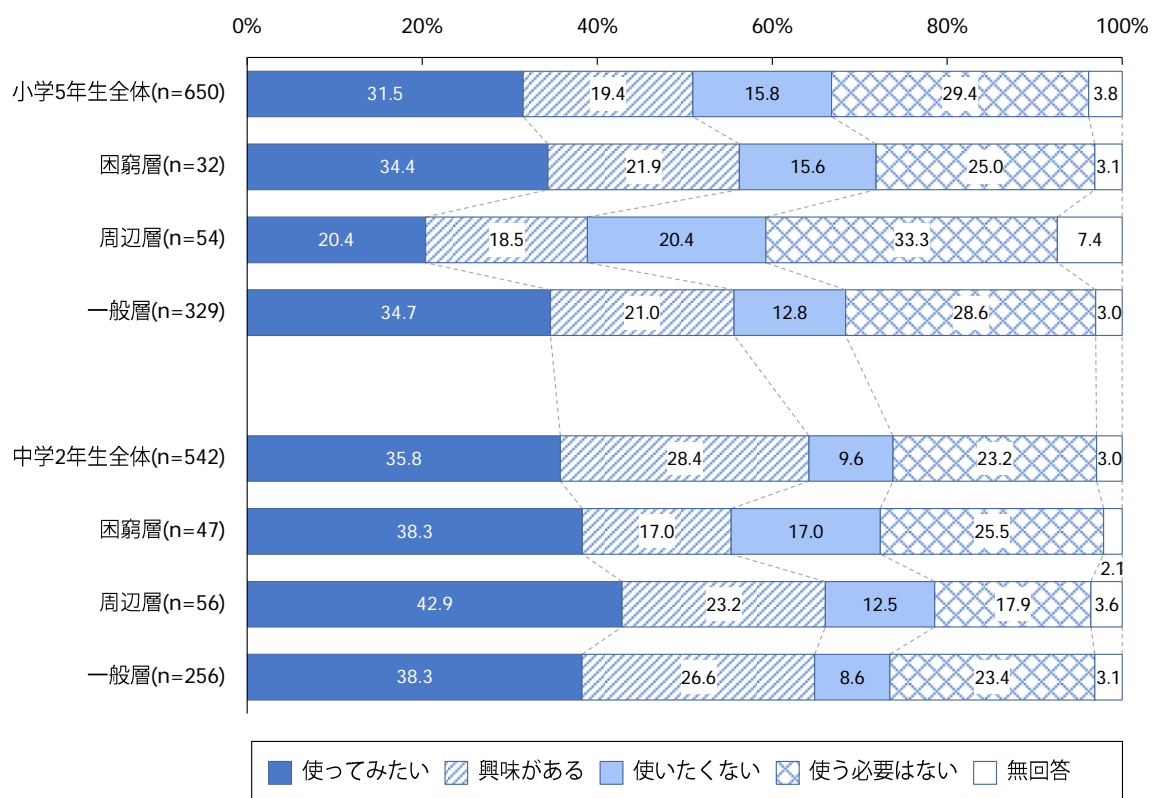


D 家で勉強できないとき、静かに勉強できる場所（再掲）

家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所について、「使ってみたい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で34.4%、周辺層で20.4%、一般層で34.7%、中学2年生の困窮層で38.3%、周辺層で42.9%、一般層で38.3%となっており、小学5年生の周辺層で低くなっている。

「興味がある」、「使う必要はない」は、小学5年生、中学2年生の各層とも約2~3割となっている。

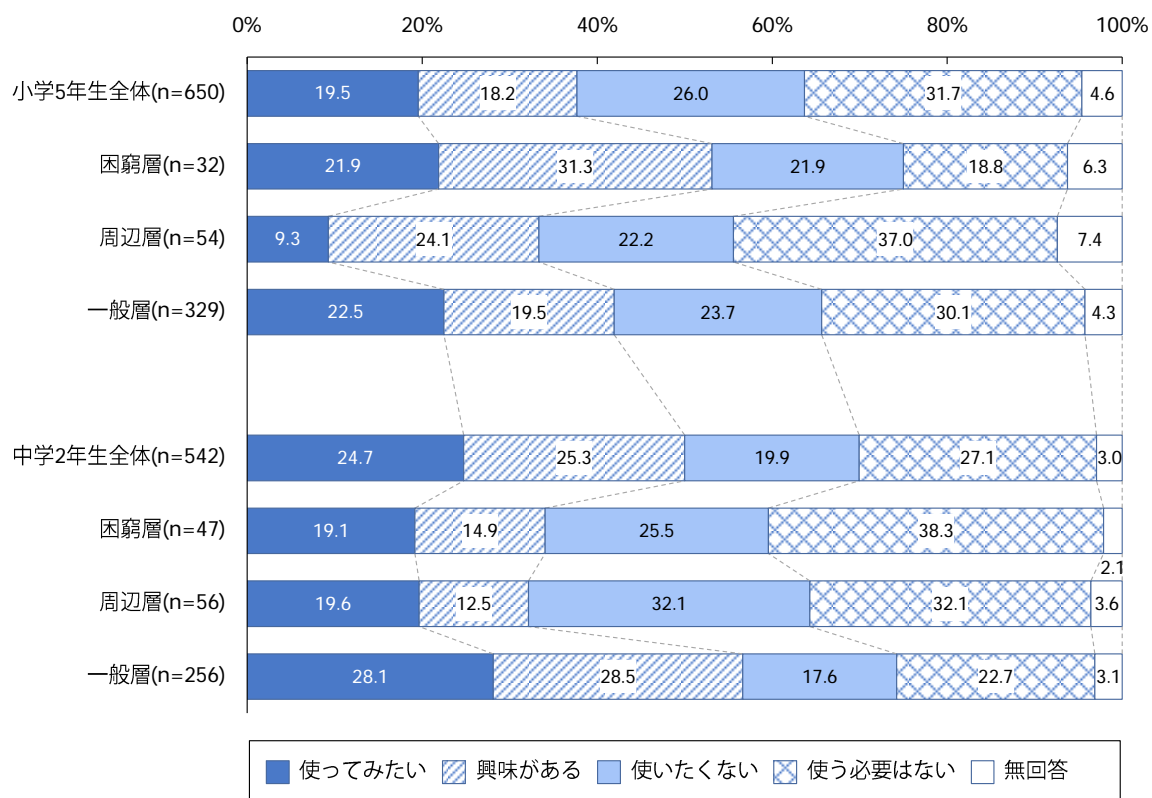
問 35 利用希望/D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所



E 大学生のボランティアが勉強を無料でみてる場所（再掲）

大学生ボランティアが、勉強を無料でみてる場所について、「使ってみたい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で21.9%、周辺層で9.3%、一般層で22.5%、中学2年生の困窮層で19.1%、周辺層で19.6%、一般層で28.1%となっており、小学5年生の周辺層で低くなっている。また、小学5年生、中学2年生ともに一般層で高くなっている。

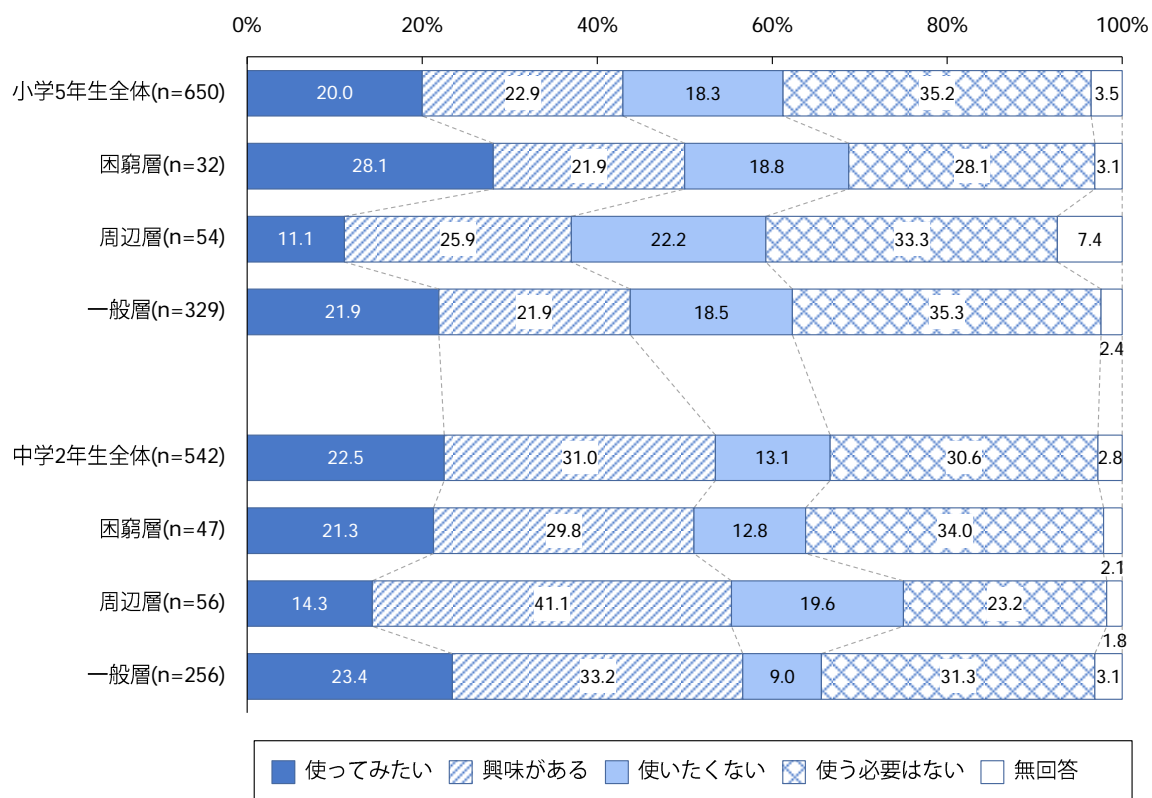
問 35 利用希望/E 大学生ボランティアが、勉強を無料でみてる場所



F (学校以外で) 何でも相談できる場所 (再掲)

(学校以外で) 何でも相談できる場所の利用希望について、「使ってみたい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で28.1%、周辺層で11.1%、一般層で21.9%、中学2年生の困窮層で21.3%、周辺層で14.3%、一般層で23.4%となっており、小学5年生の困窮層で高くなっている。

問 35 利用希望/F (学校以外で) 何でも相談できる場所



2 情報の受け取り方法

(1) 情報の受け取り方法

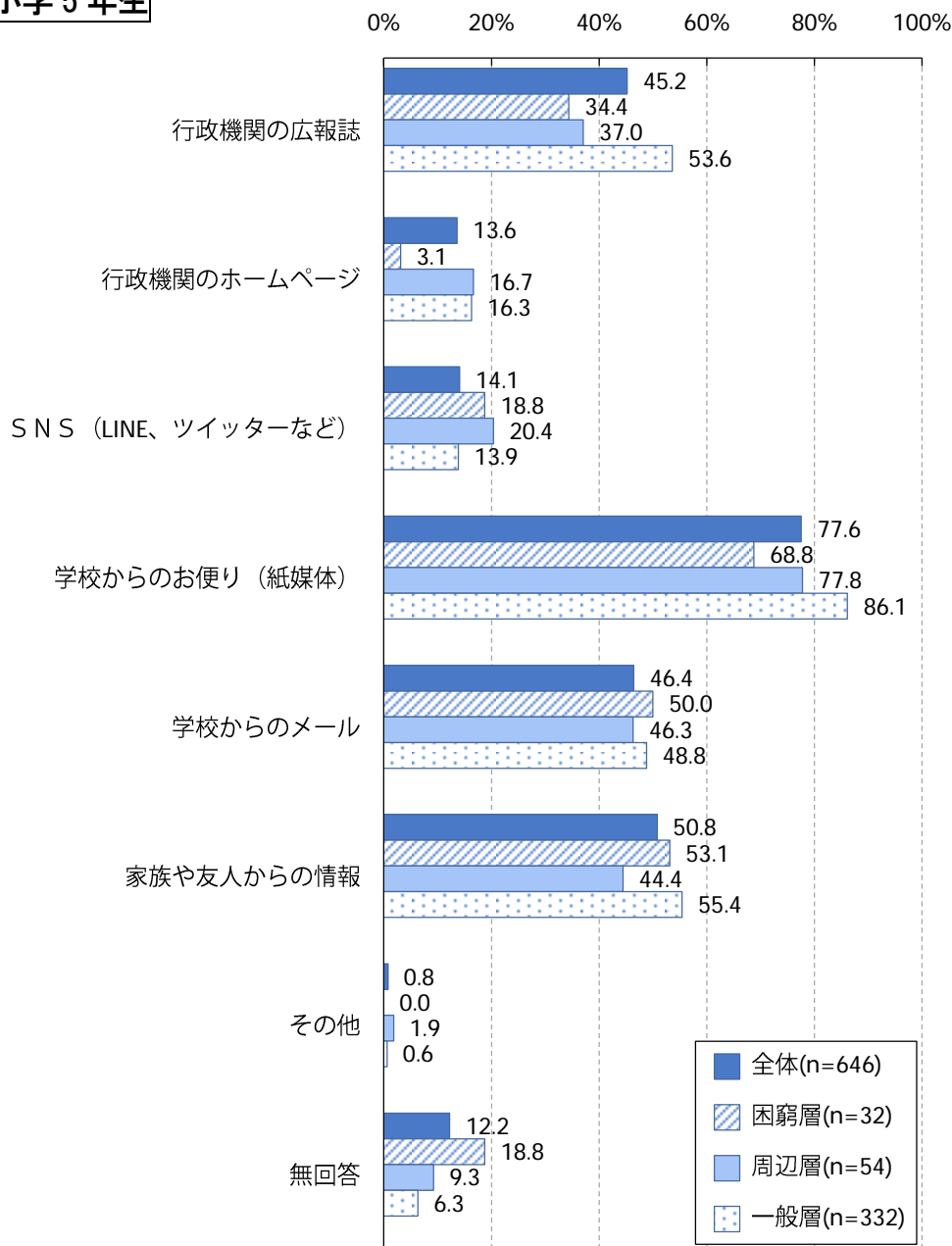
現在の受け取り方法

小学5年生の子どもに関する施策等の情報の現在の受け取り方法について、全体では「学校からのお便り（紙媒体）」が77.6%と最も高く、次いで「家族や友人からの情報」が50.8%、「学校からのメール」が46.4%、「行政機関の広報誌」が45.2%となっている。

「学校からのお便り（紙媒体）」「行政機関の広報誌」は、困窮層でそれぞれ68.8%、34.4%と周辺層、一般層に比べて低くなっている。

問 41 子どもに関する施策等の情報/A現在の受け取り方法

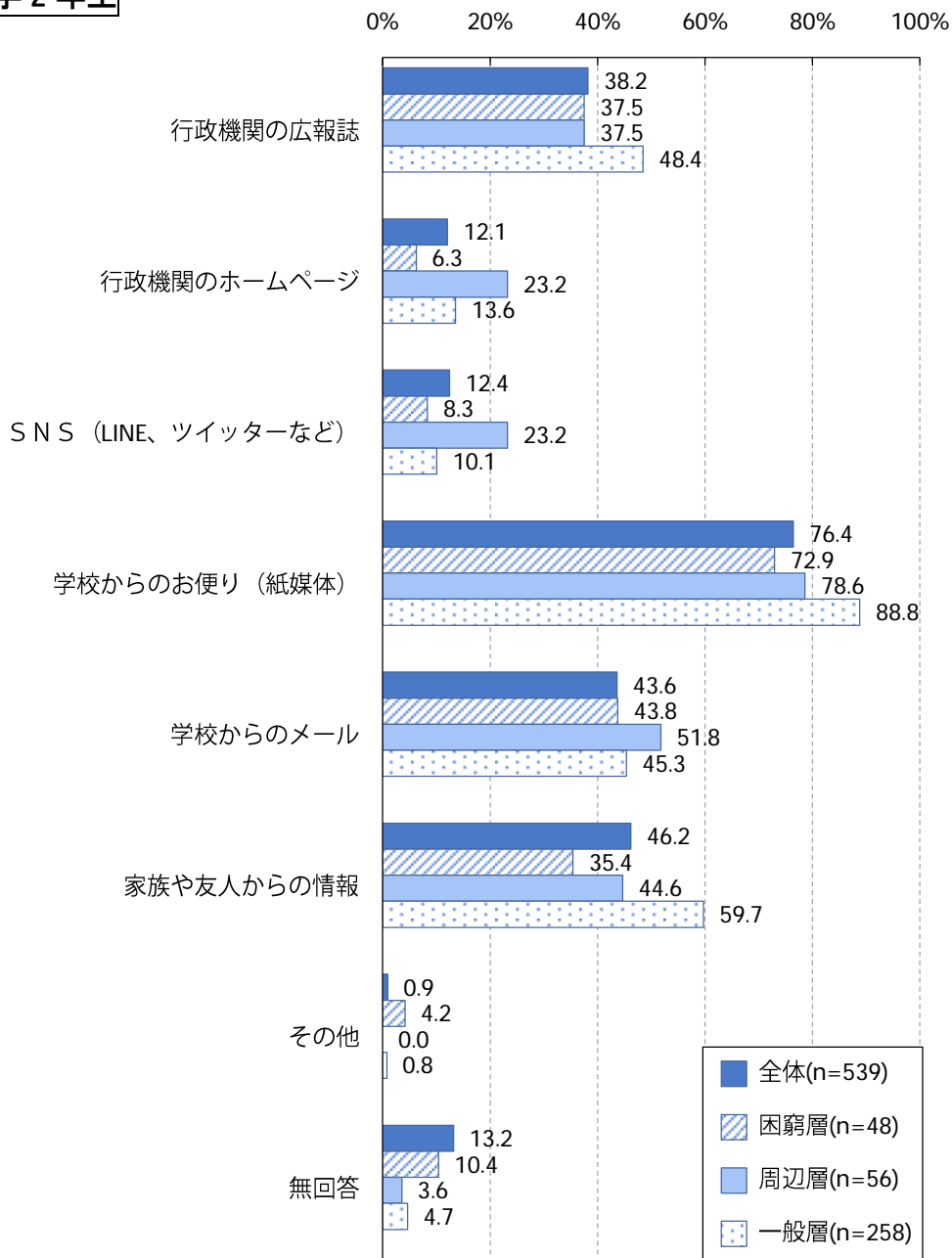
小学5年生



中学2年生の子どもに関する施策等の情報の現在の受け取り方法について、全体では「学校からのお便り（紙媒体）」が76.4%と最も高く、次いで「家族や友人からの情報」が46.2%、「学校からのメール」が43.6%、「行政機関の広報誌」が38.2%となっており、「学校からのお便り（紙媒体）」「家族や友人からの情報」は、困窮層でそれぞれ72.9%、35.4%と周辺層、一般層に比べて低くなっている。

問 41 子どもに関する施策等の情報/A現在の受け取り方法

中学2年生



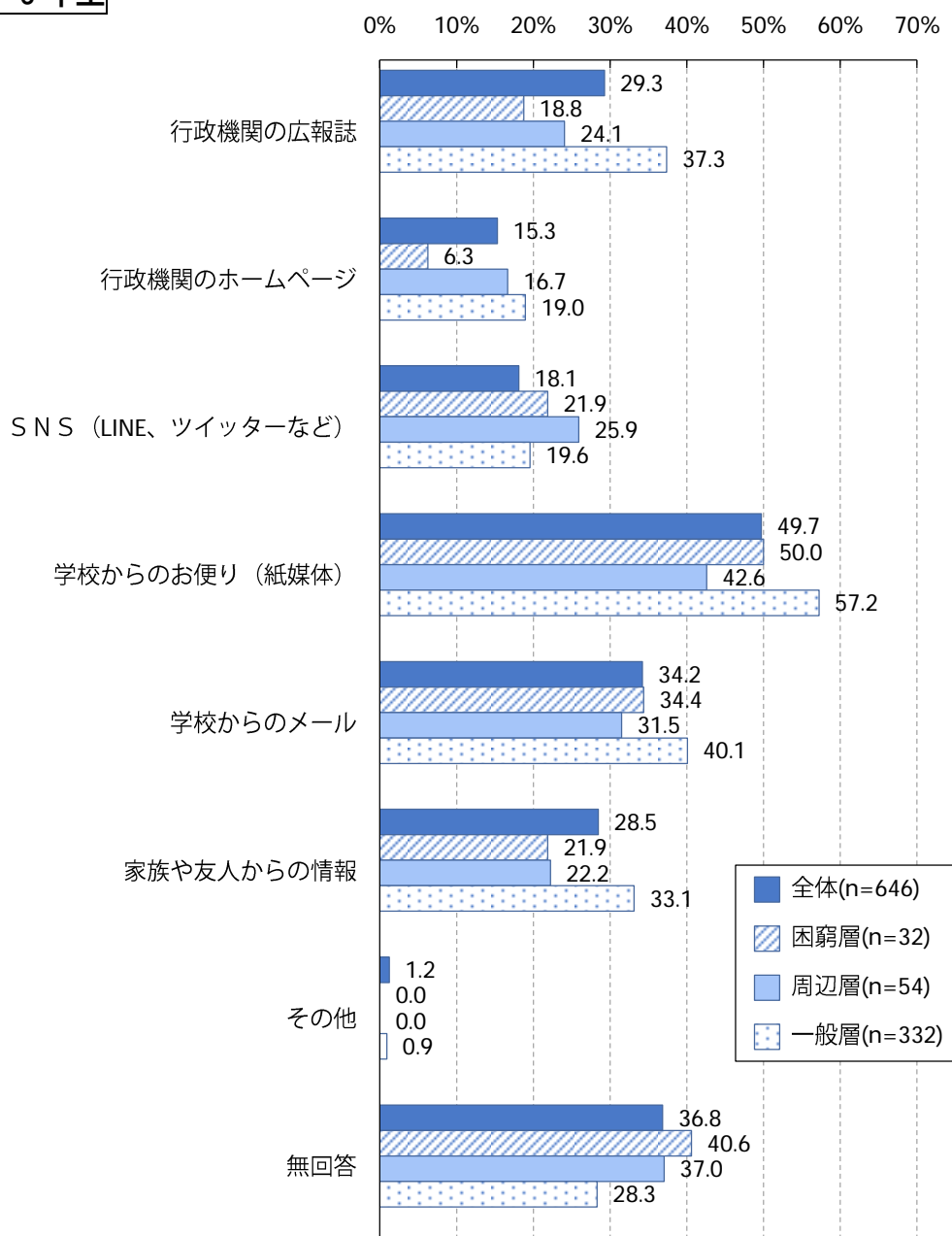
今後、受け取りたい方法

小学5年生の子どもに関する施策等の情報の今後、受け取りたい方法について、全体では「学校からのお便り（紙媒体）」が49.7%と最も高く、次いで「学校からのメール」が34.2%、「行政機関の広報誌」が29.3%、「家族や友人からの情報」が28.5%となっている。

「行政機関の広報誌」「行政機関のホームページ」は、困窮層でそれぞれ18.8%、6.3%と周辺層、一般層に比べて低くなっている。

問 41 子どもに関する施策等の情報/B 今後、受け取りたい方法

小学5年生

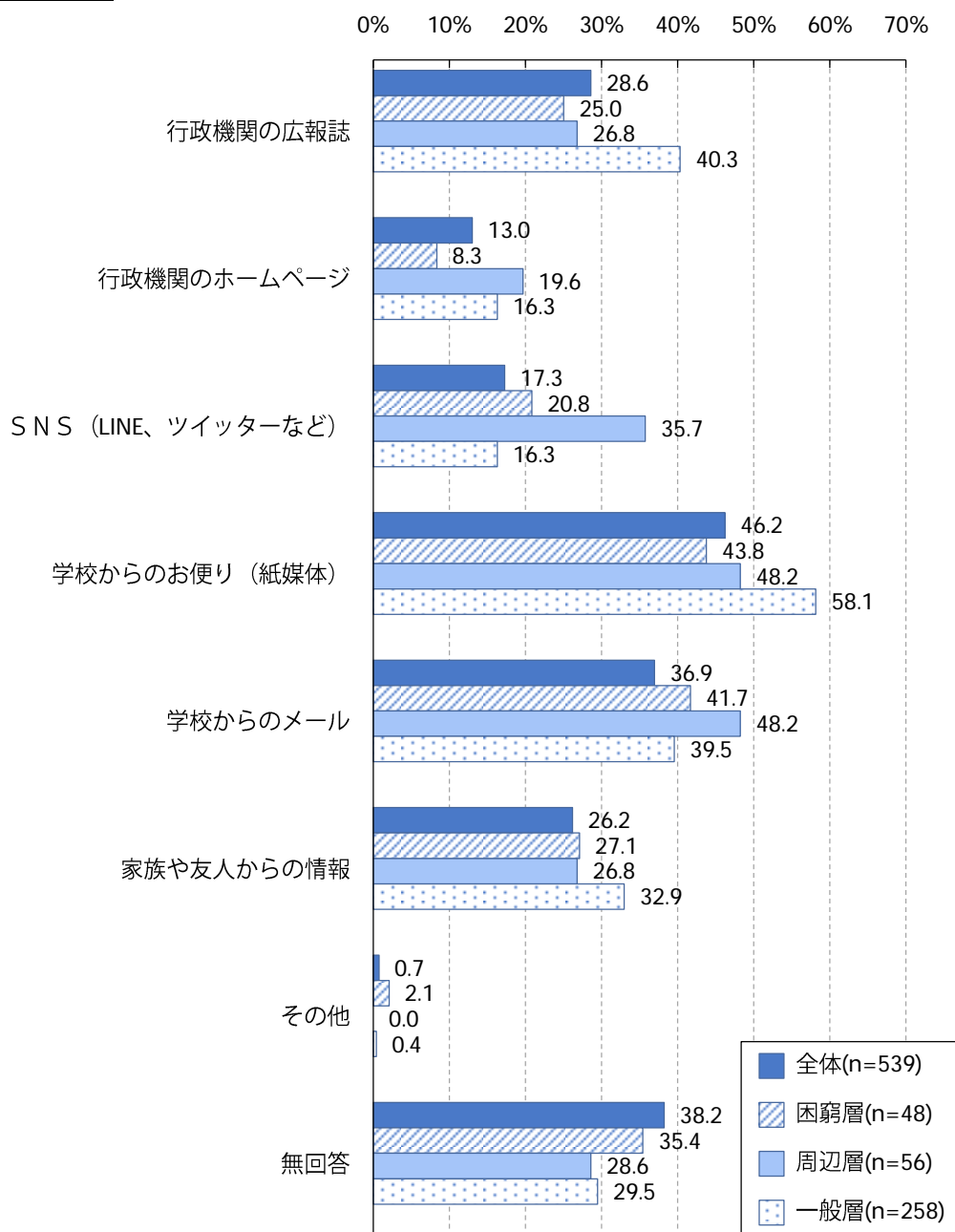


中学2年生の子どもに関する施策等の情報の今後、受け取りたい方法について、全体では「学校からのお便り（紙媒体）」が46.2%と最も高く、次いで「学校からのメール」が36.9%、「行政機関の広報誌」が28.6%、「家族や友人からの情報」が26.2%となっている。

「学校からのお便り（紙媒体）」「行政機関の広報誌」「行政機関のホームページ」は、困窮層でそれぞれ43.8%、25.0%、8.3%と周辺層、一般層に比べて低くなっている。

問 41 子どもに関する施策等の情報/B今後、受け取りたい方法

中学2年生



3 支援サービスの利用状況・認知状況・利用意向

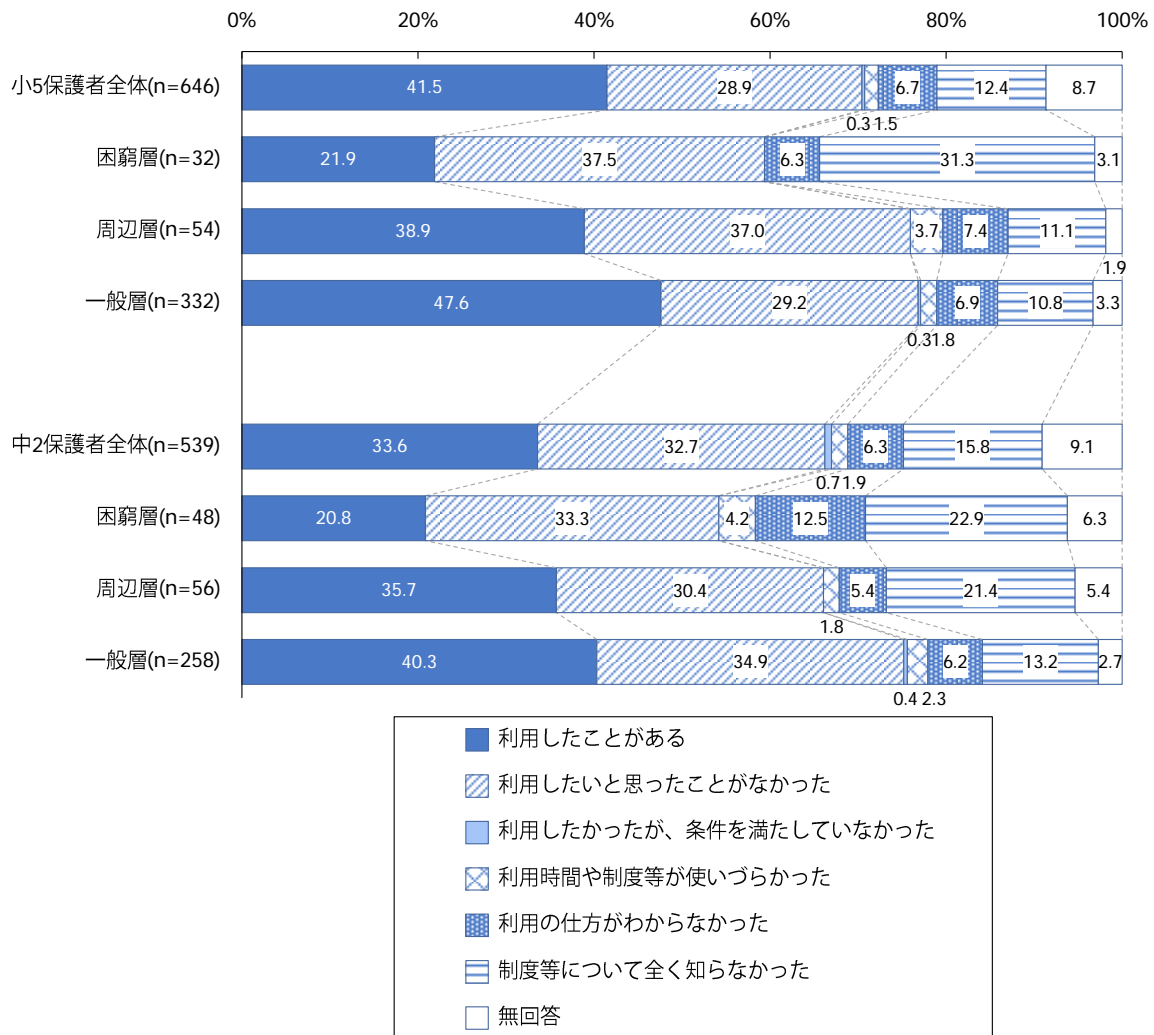
(1) 支援サービスの利用状況

A 子育てひろば

子育てひろばの利用状況について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で21.9%、周辺層で38.9%、一般層で47.6%、中学2年生の困窮層で20.8%、周辺層で35.7%、一般層で40.3%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で低くなっている。

「制度等について全く知らなかった」は、小学5年生の困窮層で31.3%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。また「利用の仕方がわからなかった」は、中学2年生の困窮層で12.5%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 42 支援制度等の利用状況/A 子育てひろば

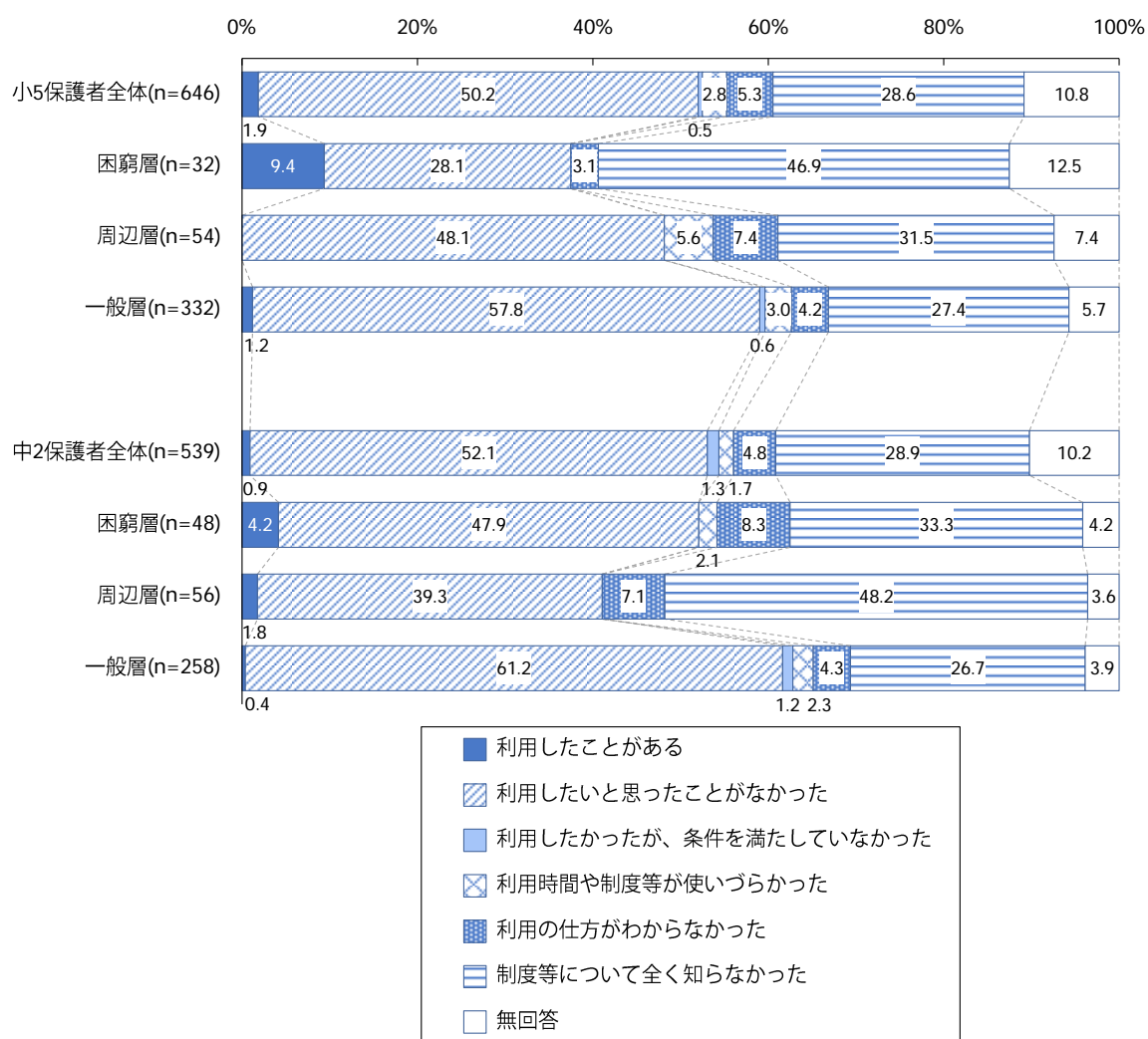


B 子育て短期支援事業（ショートステイ）

子育て短期支援事業（ショートステイ）の利用状況について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で9.4%、周辺層で0.0%、一般層で1.2%、中学2年生の困窮層で4.2%、周辺層で1.8%、一般層で0.4%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

「制度等について全く知らなかった」は、小学5年生の困窮層で46.9%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。また、中学2年生の周辺層で48.2%と困窮層、一般層に比べて高くなっている。

問 42 支援制度等の利用状況/B 子育て短期支援事業（ショートステイ）

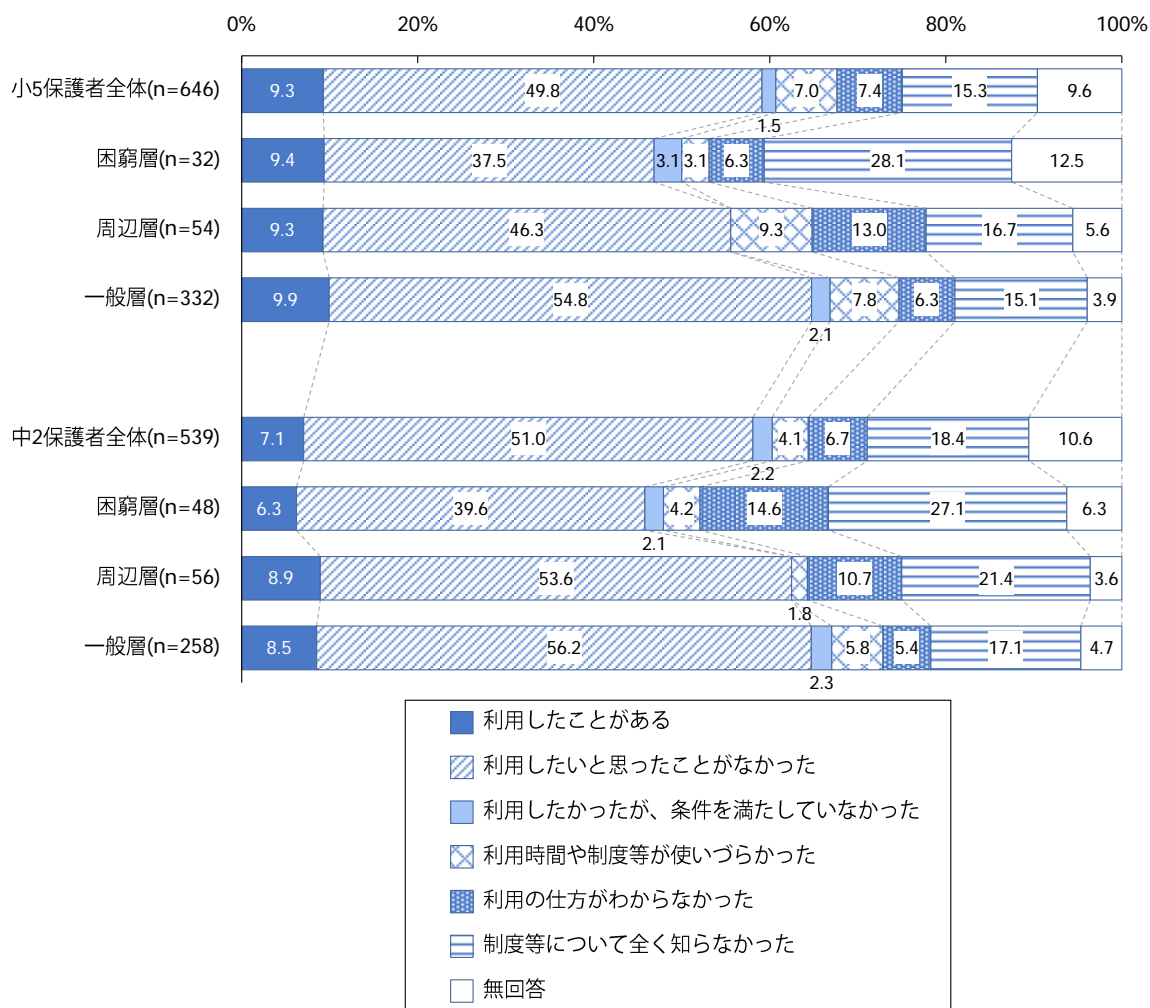


C ファミリー・サポート・センター

ファミリー・サポート・センターの利用状況について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で9.4%、周辺層で9.3%、一般層で9.9%、中学2年生の困窮層で6.3%、周辺層で8.9%、一般層で8.5%となっている。

「制度等について全く知らなかった」は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ28.1%、27.1%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 42 支援制度等の利用状況/C ファミリー・サポート・センター

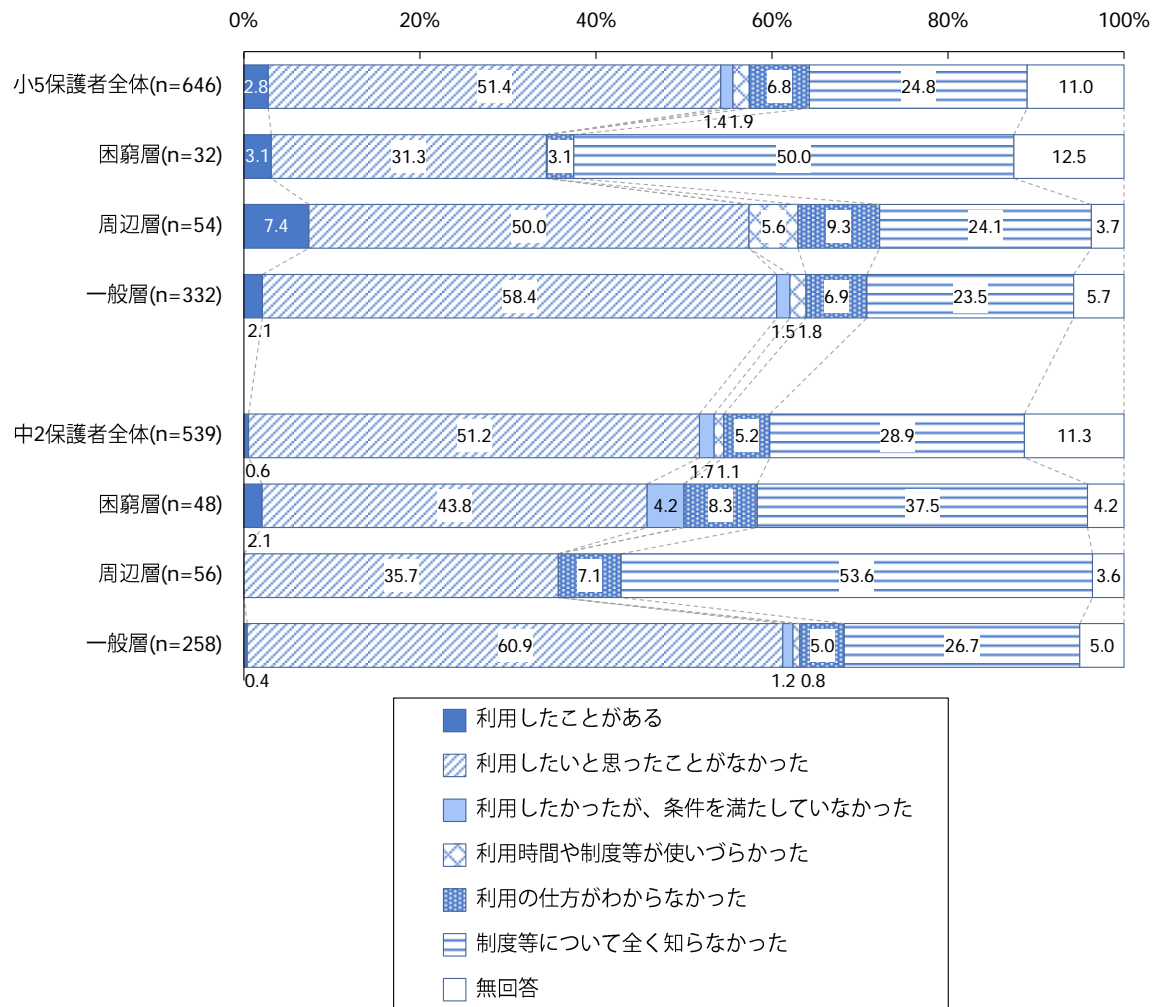


D 子ども食堂（子どもカフェ）

子ども食堂（子どもカフェ）の利用状況について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で3.1%、周辺層で7.4%、一般層で2.1%、中学2年生の困窮層で2.1%、周辺層で0.0%、一般層で0.4%となっている。

「制度等について全く知らなかった」は、小学5年生の困窮層で50.0%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。また、中学2年生の周辺層で53.6%と困窮層、一般層に比べて高くなっている。

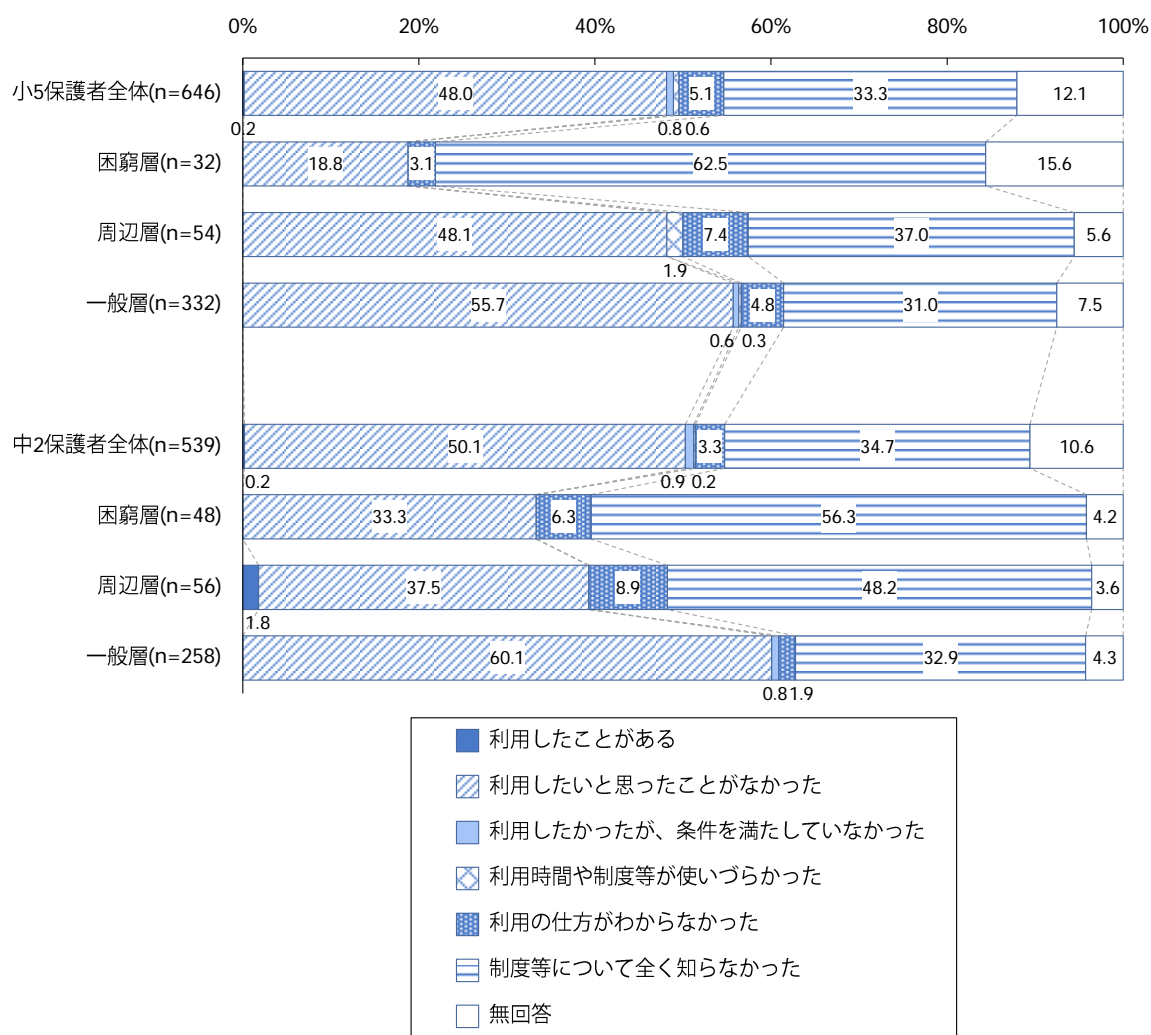
問 42 支援制度等の利用状況/D 子ども食堂（子どもカフェ）



E フードバンクによる食料支援

フードバンクによる食料支援について、「制度等について全く知らなかった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で62.5%、周辺層で37.0%、一般層で31.0%、中学2年生の困窮層で56.3%、周辺層で48.2%、一般層で32.9%となっており、小学5年生は困窮層で非常に高くなっている。また、中学2年生でも困窮層で高くなっている。

問 42 支援制度等の利用状況/E フードバンクによる食料支援



F 小学高学年も利用できる児童館や学童クラブ／中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所

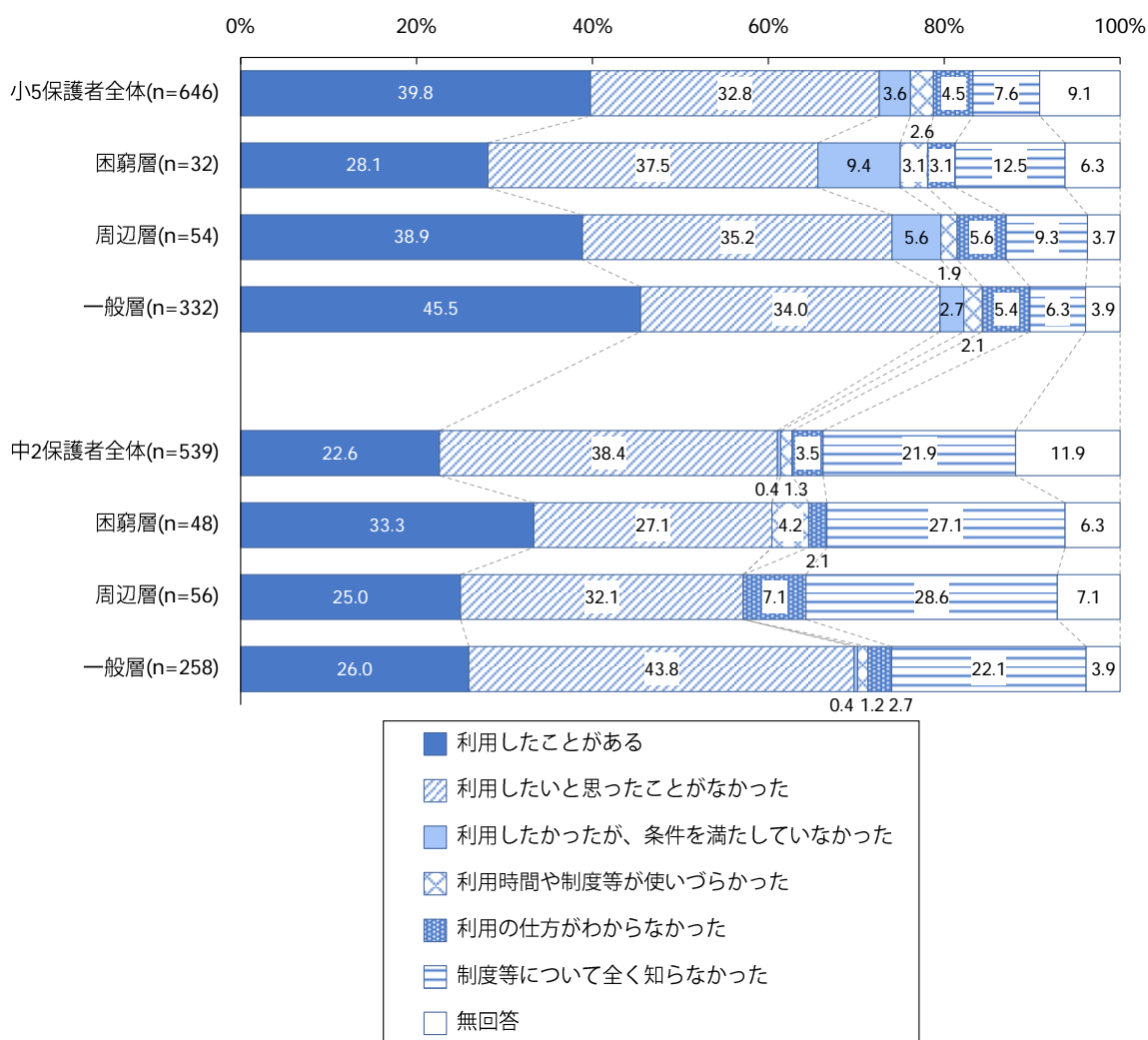
小学5年生の小学高学年も利用できる児童館や学童クラブについて、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮層で28.1%、周辺層で38.9%、一般層で45.5%となっており、困窮層で低くなっている。

「利用したかったが、条件を満たしていなかった」「制度等について全く知らなかった」は、困窮層でそれぞれ9.4%、12.5%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

中学2年生の中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所について、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮層で33.3%、周辺層で25.0%、一般層で26.0%となっており、困窮層で高くなっている。

「利用時間や制度等が使いづらかった」は、困窮層で4.2%と周辺層、一般層に比べてやや高くなっている。

問42 支援制度等の利用状況/F 小学高学年も利用できる児童館や学童クラブ／中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所

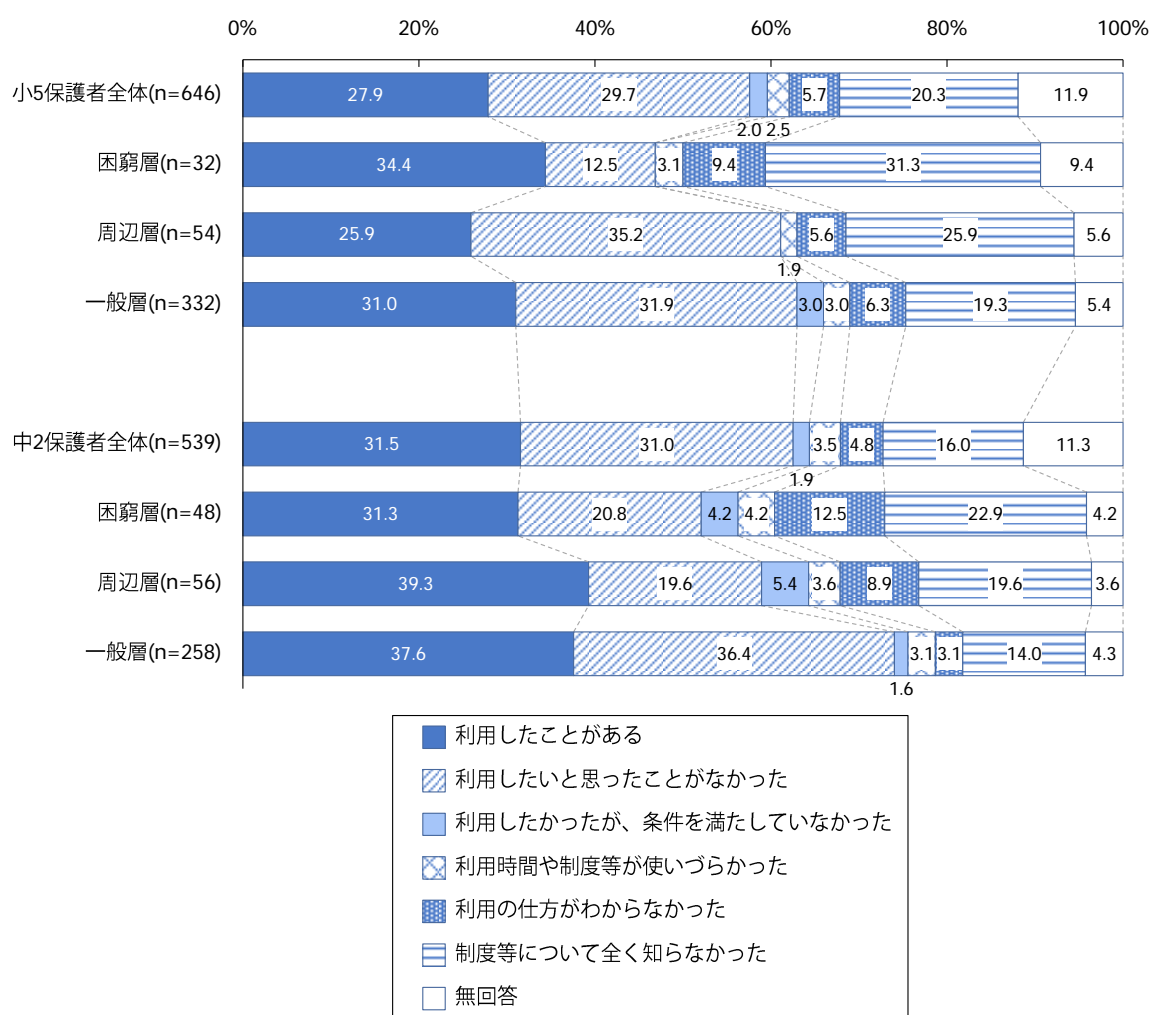


G 学校以外が実施する学習支援

学校が実施する補講（学習支援）について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で34.4%、周辺層で25.9%、一般層で31.0%、中学2年生の困窮層で31.3%、周辺層で39.3%、一般層で37.6%となっている。

「制度等について全く知らなかった」は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ31.3%、22.9%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。また、「利用の仕方がわからなかった」は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ9.4%、12.5%と周辺層、一般層に比べてやや高くなっている。

問 42 支援制度等の利用状況/G 学校が実施する補講（学習支援）

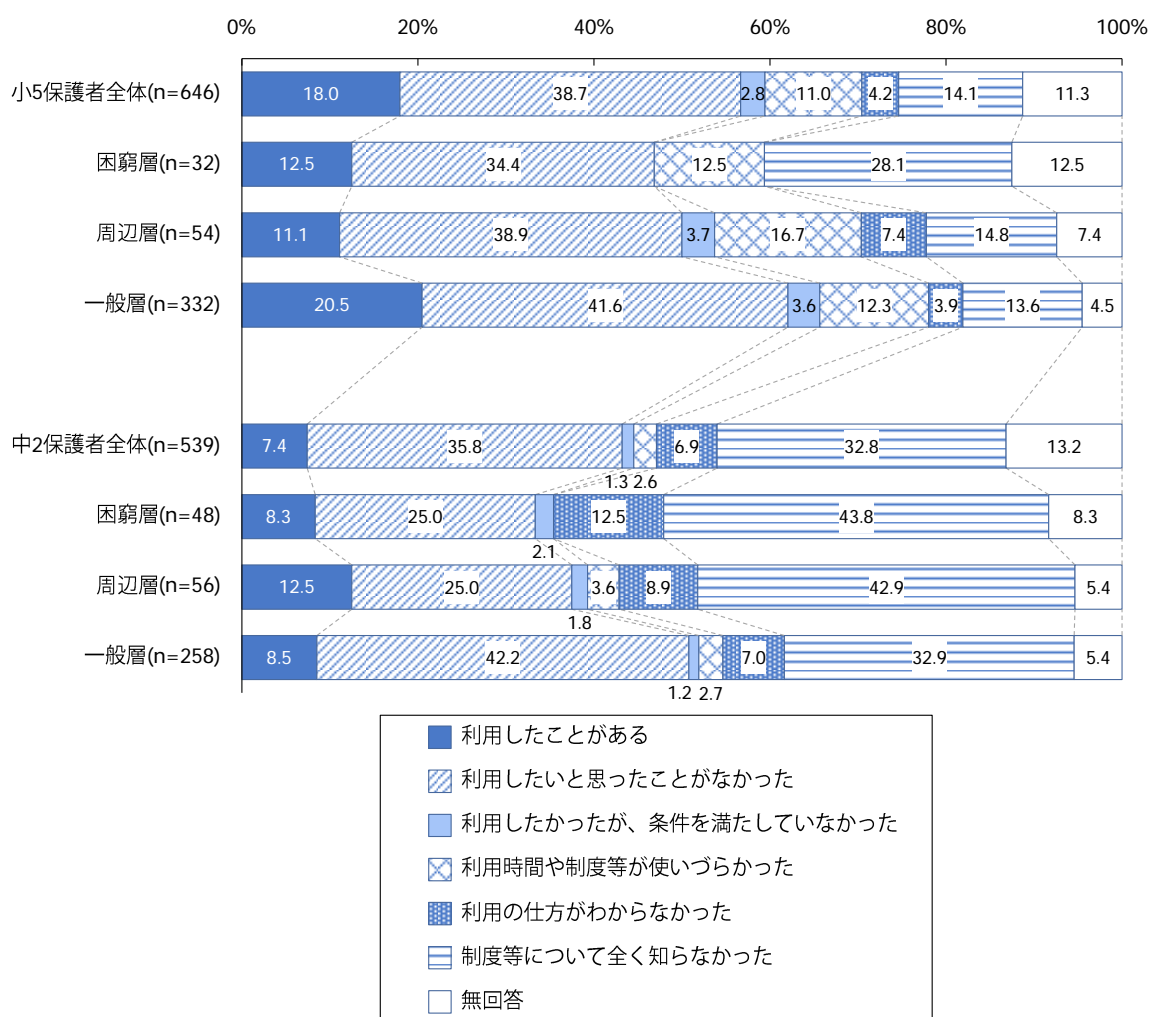


H 学校以外が実施する学習支援

学校以外が実施する学習支援について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で12.5%、周辺層で11.1%、一般層で20.5%、中学2年生の困窮層で8.3%、周辺層で12.5%、一般層で8.5%となっている。

「制度等について全く知らなかった」は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ28.1%、43.8%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。また、「利用時間や制度等が使いづらかった」は、小学5年生の周辺層で16.7%と困窮層、一般層に比べてやや高くなっている。「利用の仕方がわからなかった」は、中学2年生の困窮層で12.5%と周辺層、一般層に比べてやや高くなっている。

問 42 支援制度等の利用状況/H 学校以外が実施する学習支援



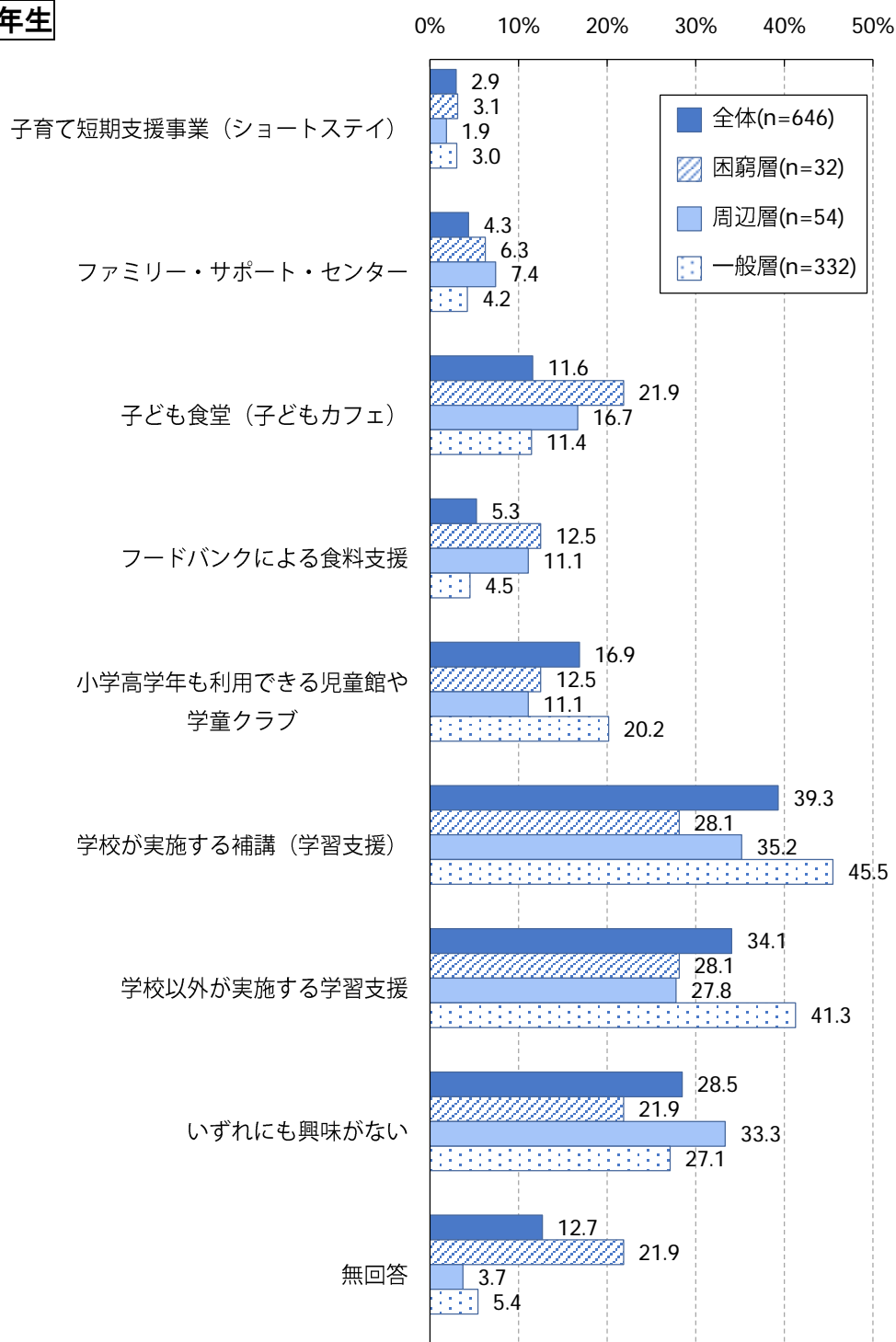
(3) 保護者の支援サービス利用意向

小学5年生の現在、利用することに興味がある支援制度等について、全体では「学校が実施する補講（学習支援）」が39.3%と最も高く、次いで「学校以外が実施する学習支援」が34.1%、「いずれにも興味がない」が28.5%となっており、「学校が実施する補講（学習支援）」「学校以外が実施する学習支援」は、一般層で困窮層、周辺層に比べて高くなっている。

「子ども食堂（子どもカフェ）」は、困窮層で21.9%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 42-1 現在、利用することに興味がある支援制度等

小学5年生

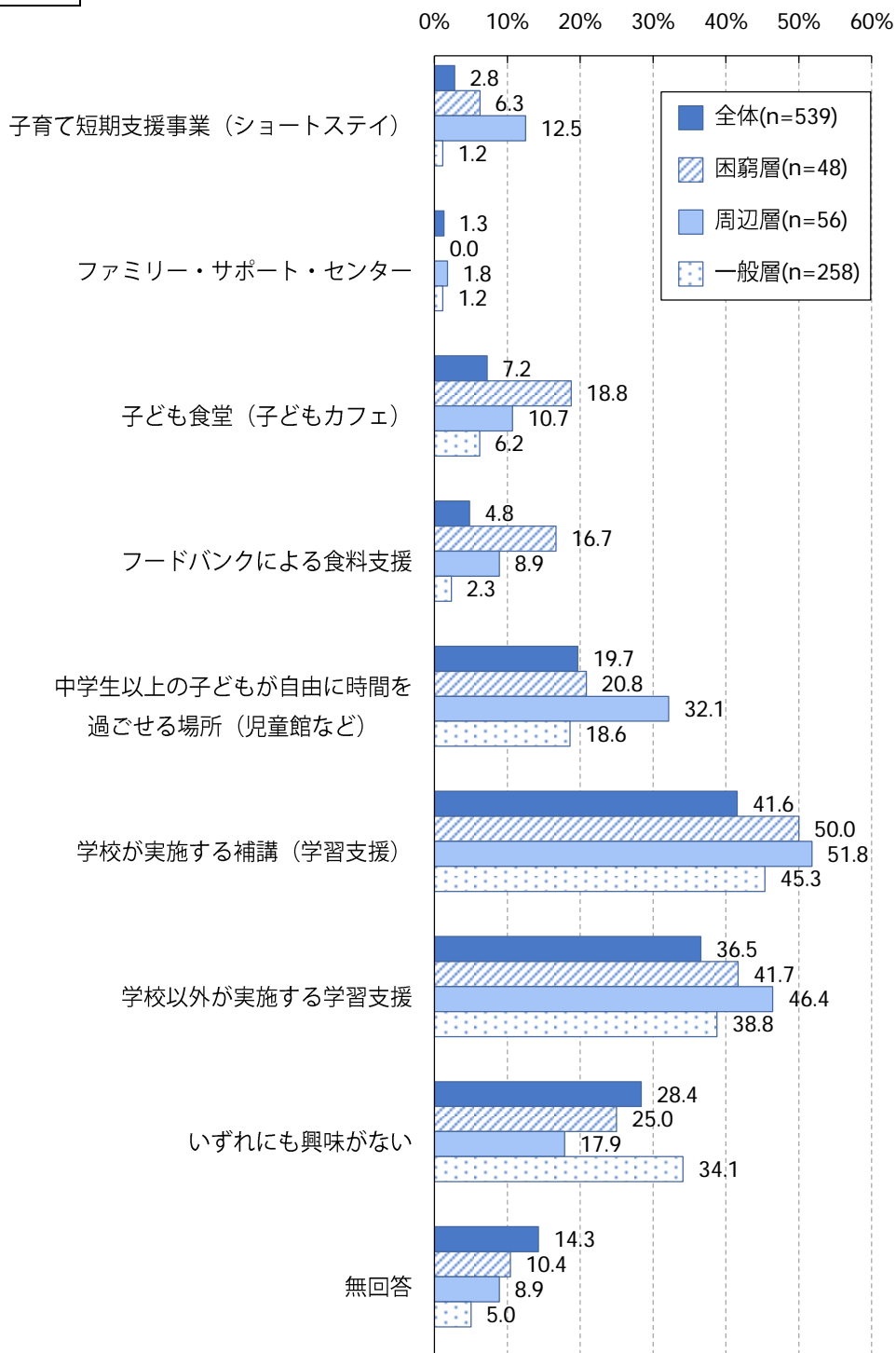


中学2年生の現在、利用することに興味がある支援制度等について、全体では「学校が実施する補講（学習支援）」が41.6%と最も高く、次いで「学校以外が実施する学習支援」が36.5%、「いずれにも興味がない」が28.4%、「中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所（児童館など）」が19.7%となっている。

「子ども食堂（子どもカフェ）」「フードバンクによる食料支援」は、困窮層でそれぞれ18.8%、16.7%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。

問 42-1 現在、利用することに興味がある支援制度等

中学2年生



4 相談窓口の利用状況・認知状況

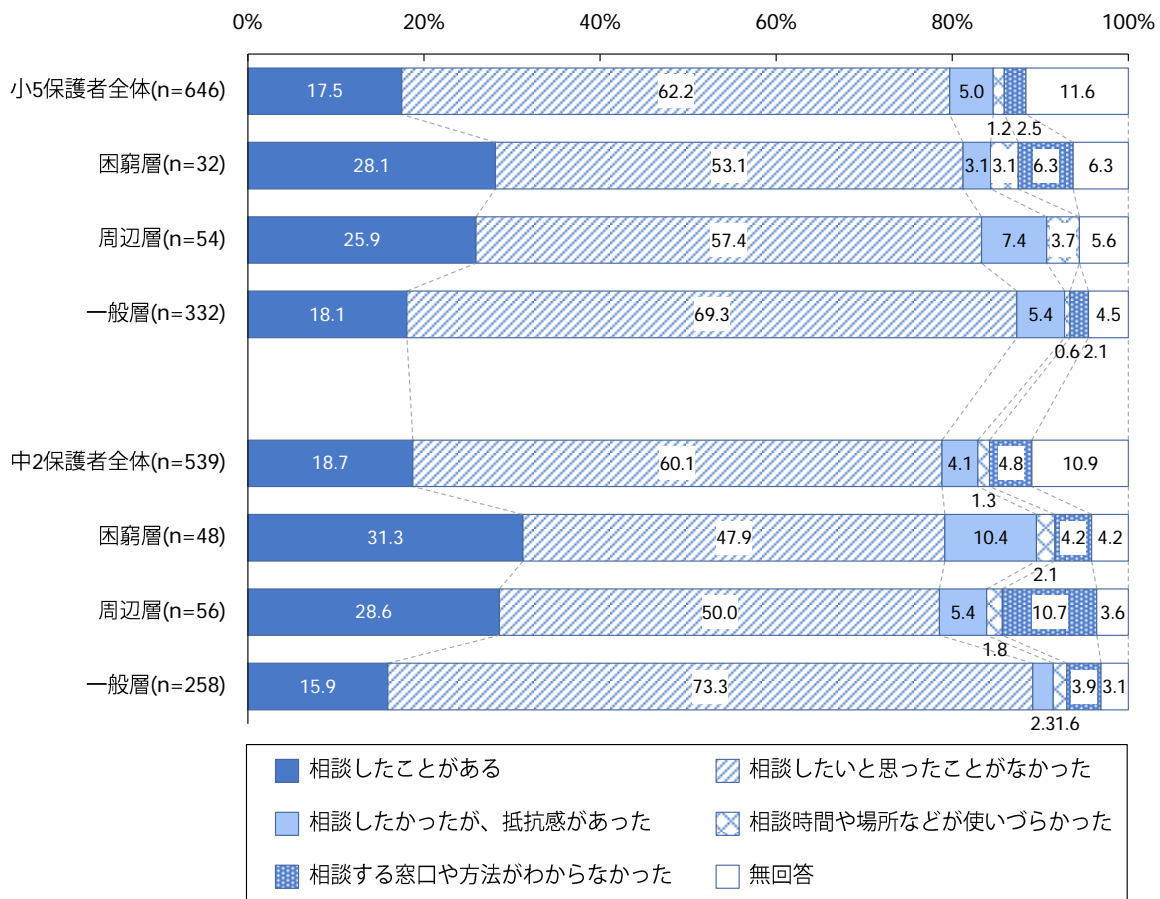
(1) 相談窓口の利用状況

A 市役所の窓口

市役所の窓口の相談状況について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で28.1%、周辺層で25.9%、一般層で18.1%、中学2年生の困窮層で31.3%、周辺層で28.6%、一般層で15.9%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でやや高くなっている。

「相談しなかったが、抵抗感があった」は、中学2年生の困窮層で10.4%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。また、「相談する窓口や方法がわからなかった」は、中学2年生の周辺層で10.7%と困窮層、一般層に比べて高くなっている。

問 45 公的機関への相談状況/A 市役所の窓口

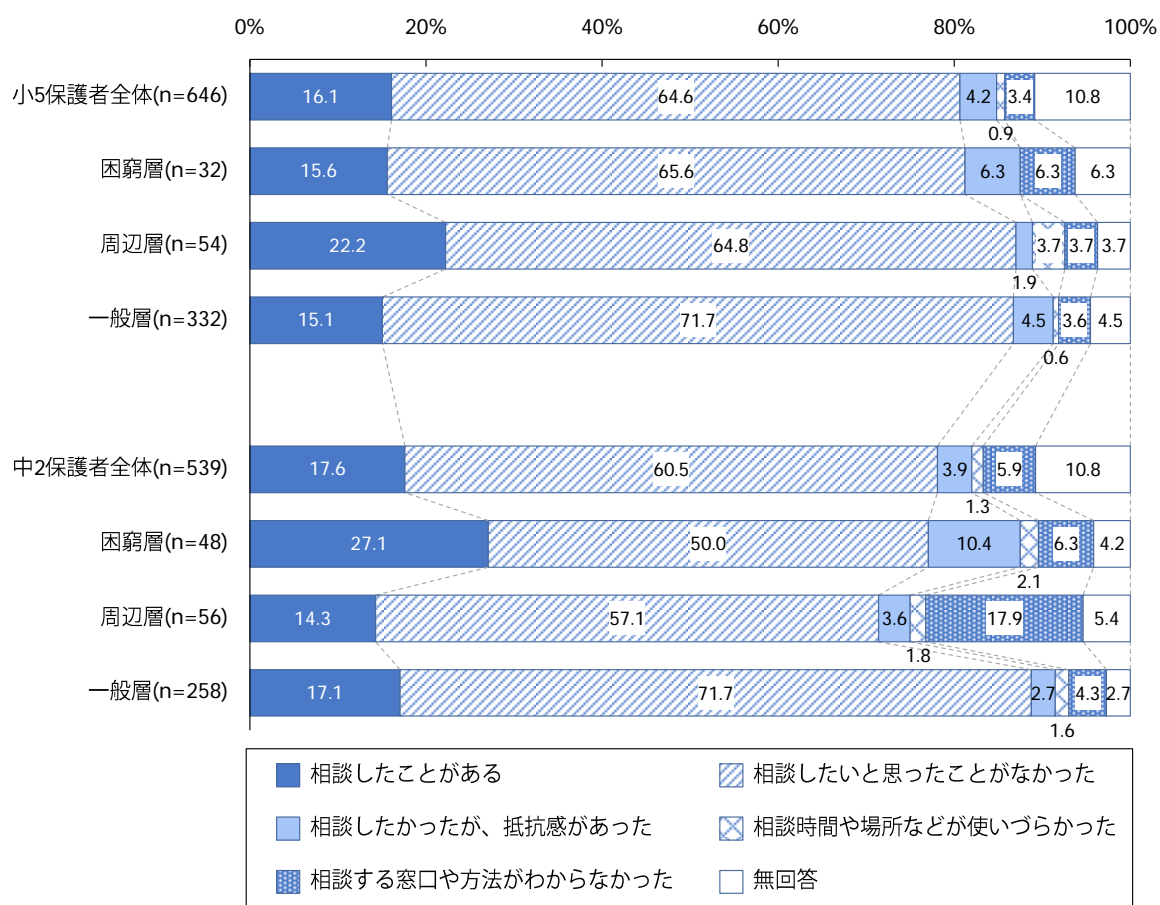


B 子ども家庭支援センター

子ども家庭支援センターについて、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で15.6%、周辺層で22.2%、一般層で15.1%、中学2年生の困窮層で27.1%、周辺層で14.3%、一般層で17.1%となっており、中学2年生は困窮層で高くなっている。

「相談したかったが、抵抗感があった」は、中学2年生の困窮層で10.4%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。また、「相談する窓口や方法がわからなかった」は、中学2年生の周辺層で17.9%と困窮層、一般層に比べて高くなっている。

問 45 公的機関への相談状況/B 子ども家庭支援センター

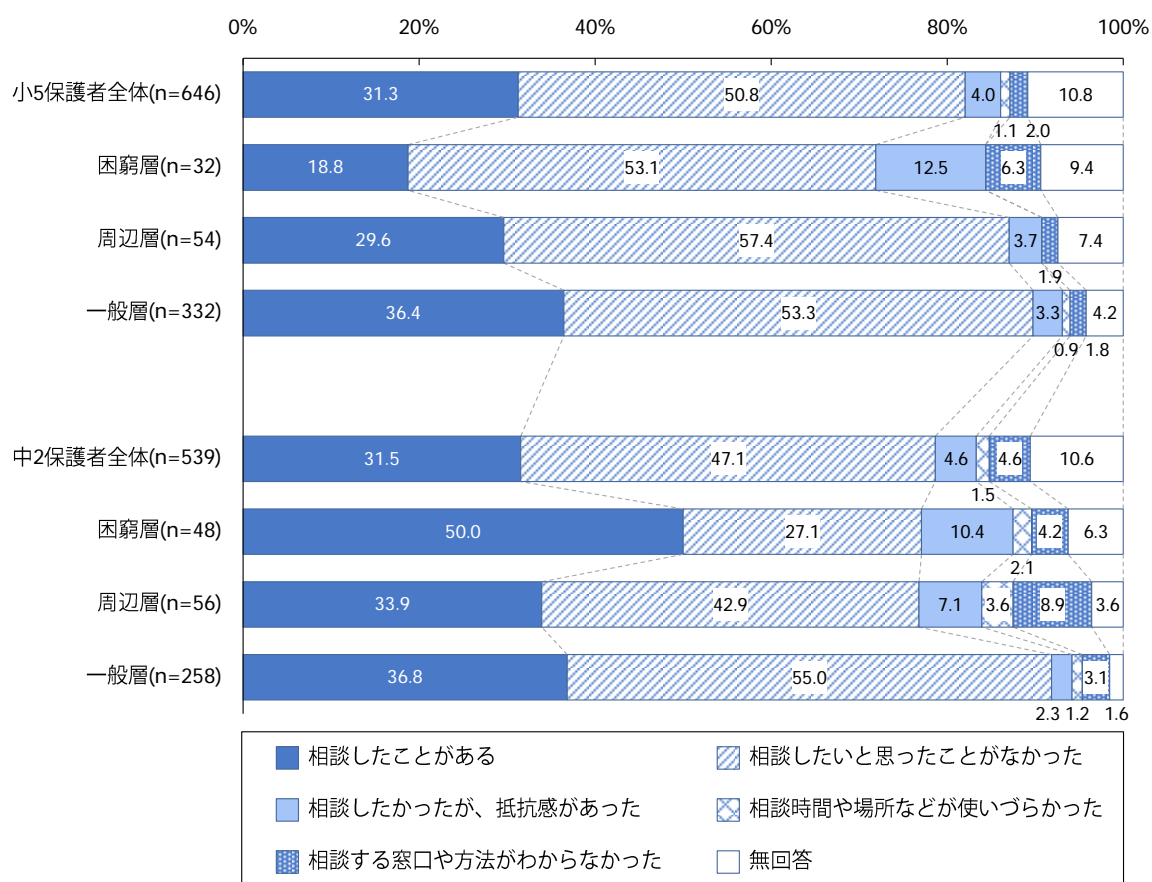


C 学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど

学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなどについて、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で18.8%、周辺層で29.6%、一般層で36.4%、中学2年生の困窮層で50.0%、周辺層で33.9%、一般層で36.8%となっており、中学2年生は、困窮層で50%を超え、高くなっている。

「相談したかったが、抵抗感があった」は、小学5年生の困窮層で12.5%、中学2年生の困窮層で10.4%と周辺層、一般層よりも高くなっている。また、「相談する窓口や方法がわからなかった」は、中学2年生の周辺層で8.9%と困窮層、一般層に比べて高くなっている。

問 45 公的機関への相談状況/C 学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど

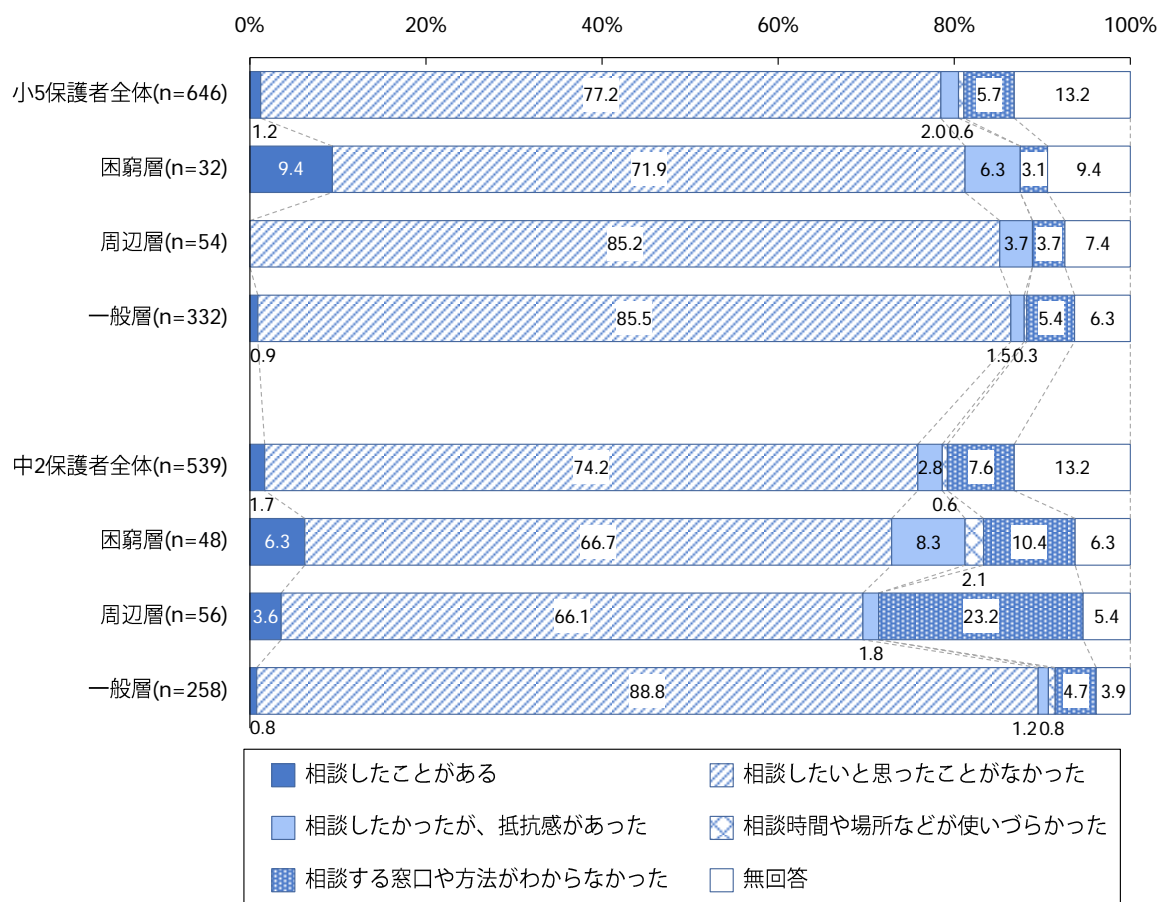


D 民生委員・児童委員

民生委員・児童委員について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で9.4%、周辺層で0.0%、一般層で0.9%、中学2年生の困窮層で6.3%、周辺層で3.6%、一般層で0.8%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

「相談したかったが、抵抗感があった」は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ6.3%、8.3%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。また、「相談する窓口や方法がわからなかった」は、中学2年生の周辺層で23.2%と困窮層、一般層に比べて高くなっている。

問 45 公的機関への相談状況/D 民生委員・児童委員

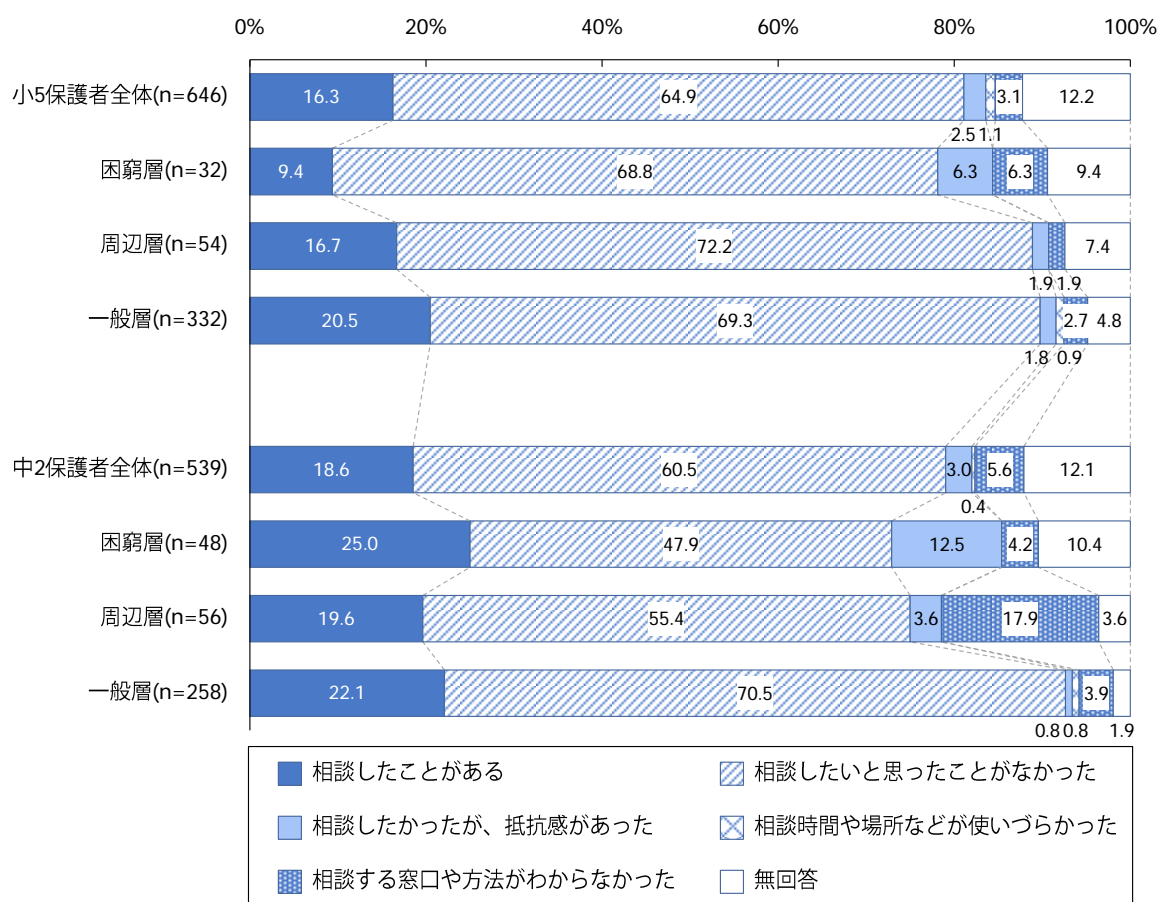


E 保健所・保健相談センター

保健所・保健相談センターについて、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で9.4%、周辺層で16.7%、一般層で20.5%、中学2年生の困窮層で25.0%、周辺層で19.6%、一般層で22.1%となっており、中学2年生は困窮層で高くなっている。

「相談したかったが、抵抗感があった」は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層でそれぞれ6.3%、12.5%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。また、「相談する窓口や方法がわからなかった」は、中学2年生の周辺層で17.9%と困窮層、一般層に比べて高くなっている。

問 45 公的機関への相談状況/E 保健所・保健相談センター

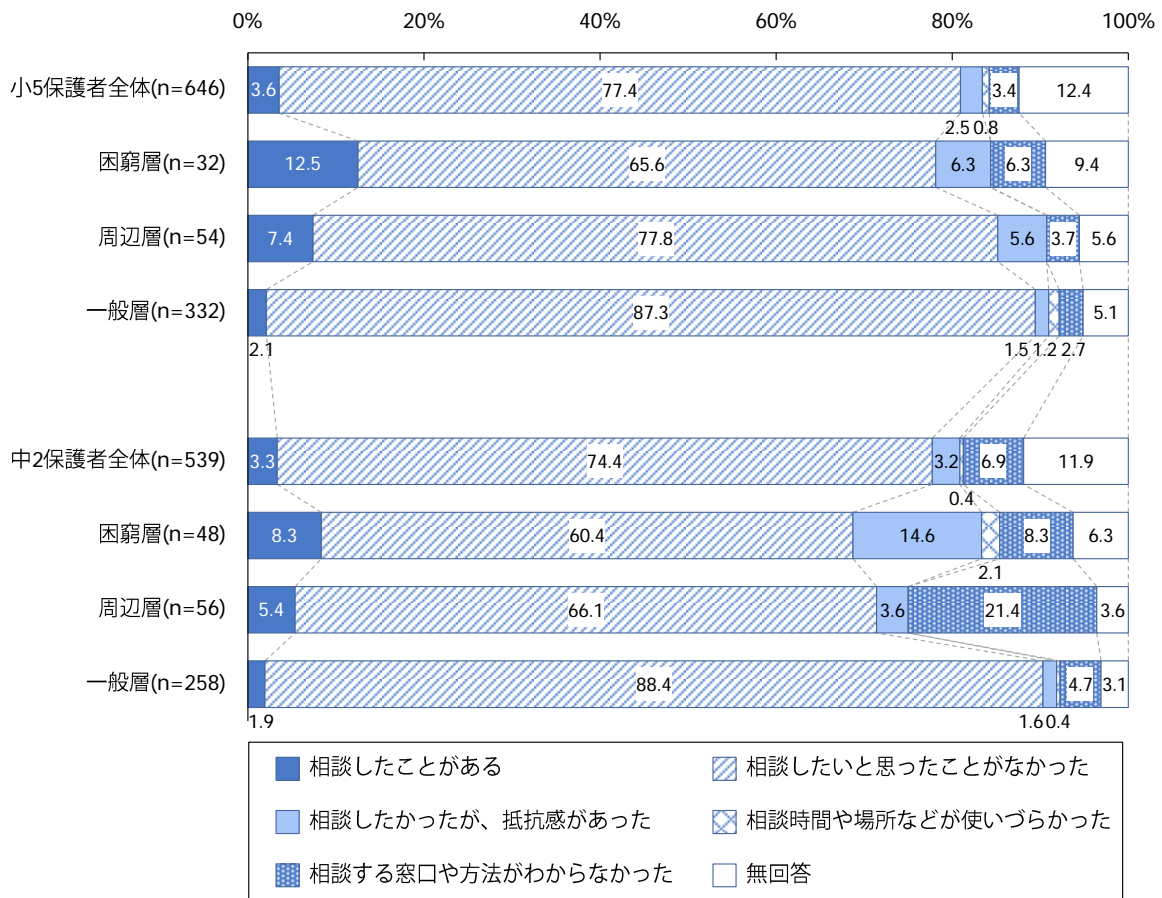


F 児童相談所

児童相談所について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で12.5%、周辺層で7.4%、一般層で2.1%、中学2年生の困窮層で8.3%、周辺層で5.4%、一般層で1.9%となっており、小学5年生、中学2年生ともに困窮層で高くなっている。

「相談しなかったが、抵抗感があった」は、中学2年生の困窮層で14.6%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。また、「相談する窓口や方法がわからなかった」は、中学2年生の周辺層で21.4%と困窮層、一般層に比べて高くなっている。

問 45 公的機関への相談状況/F 児童相談所

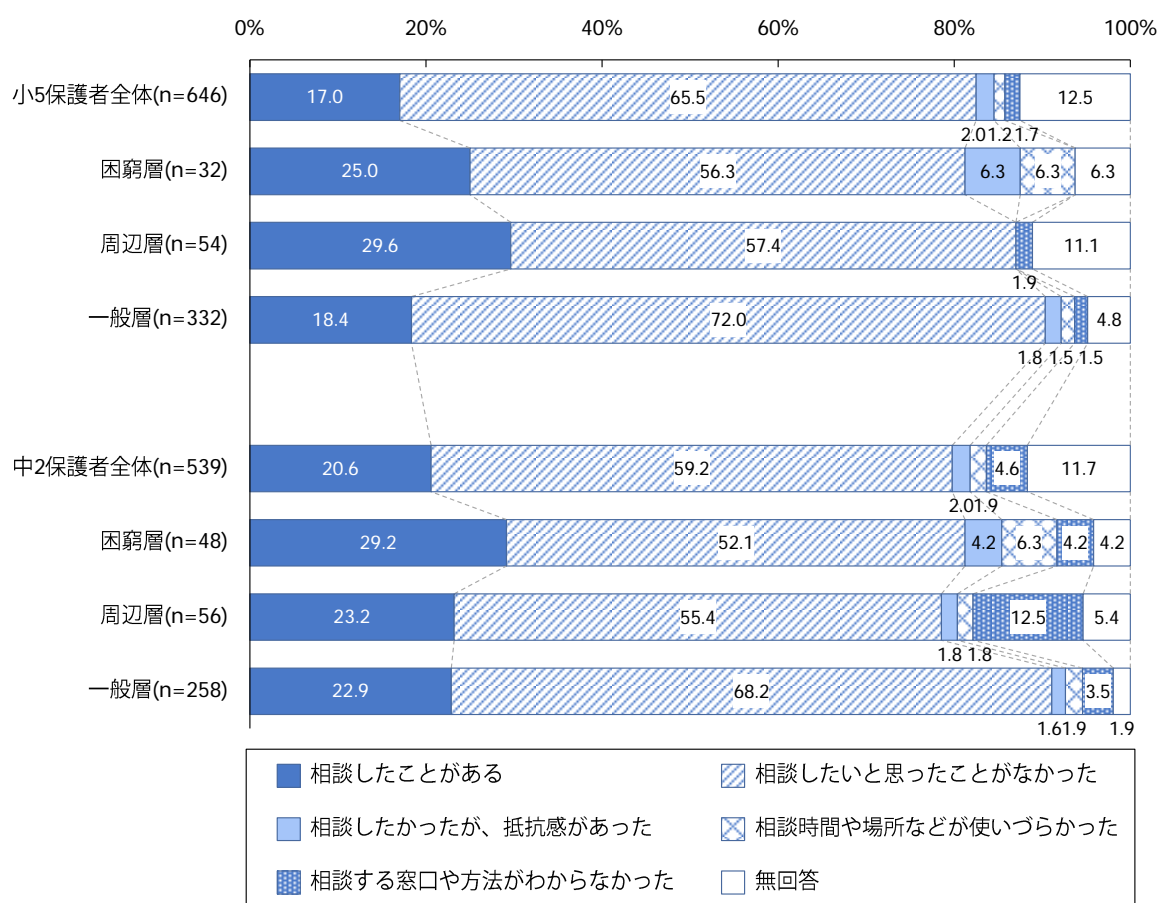


G ハローワーク

ハローワークについて、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で25.0%、周辺層で29.6%、一般層で18.4%、中学2年生の困窮層で29.2%、周辺層で23.2%、一般層で22.9%となっており、中学2年生は困窮層で高くなっている。

「相談時間や場所などが使いづらかった」は、小学5年生、中学2年生ともに困窮層とともに6.3%と周辺層、一般層に比べて高くなっている。また、「相談する窓口や方法がわからなかった」は、中学2年生の周辺層で12.5%と困窮層、一般層に比べて高くなっている。

問 45 公的機関への相談状況/G ハローワーク

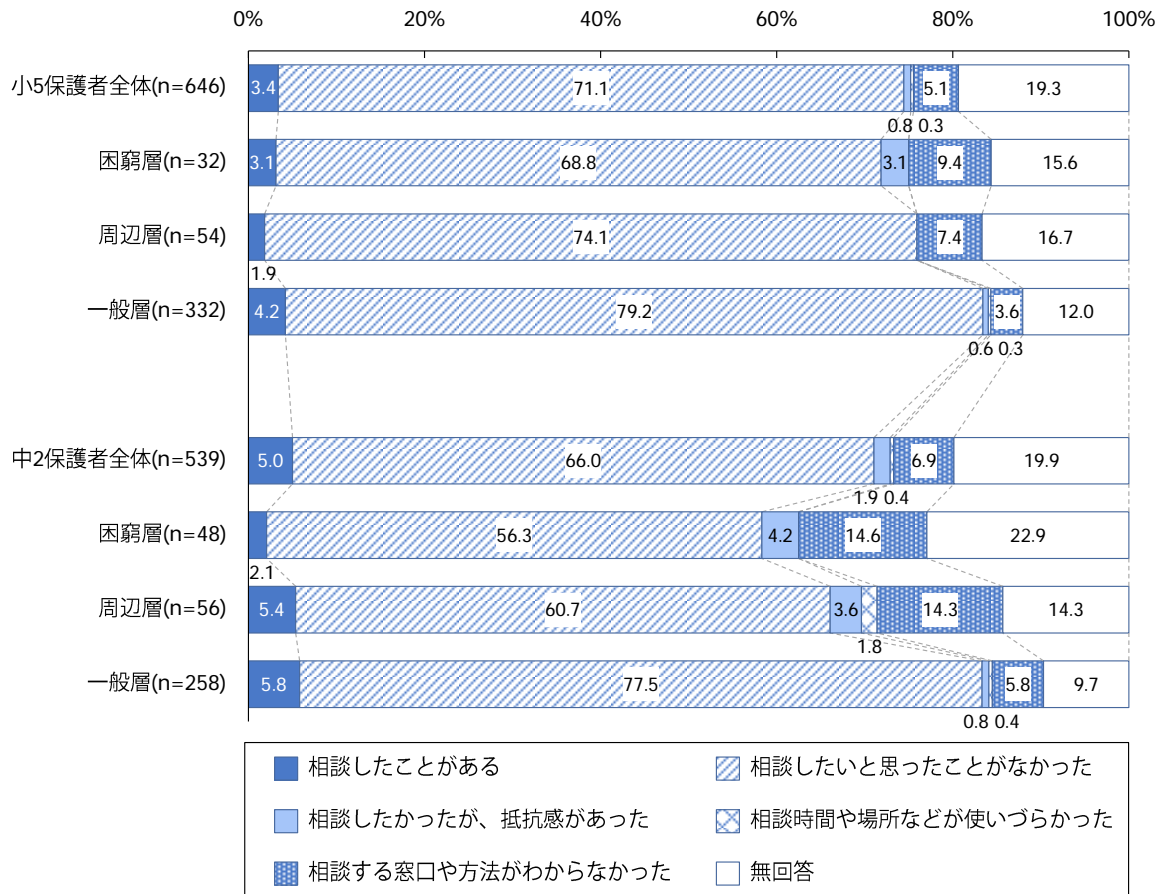


H 上記以外の公的機関

上記以外の公的機関について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で3.1%、周辺層で1.9%、一般層で4.2%、中学2年生の困窮層で2.1%、周辺層で5.4%、一般層で5.8%となっている。

「相談する窓口や方法がわからなかった」は、中学2年生の困窮層、周辺層でそれぞれ14.6%、14.3%と一般層に比べて高くなっている。

問 45 公的機関への相談状況/H 上記以外の公的機関



第8部 主な意見

問 46 今、困っていることや悩みごと（保護者自由意見）

1 小学5年生の保護者

暮らし向き・生活困難

- 低所得な家庭だと十分な教育ができないことで差を激しく感じる。
- 子どもに対する教育資金がかかりすぎて貯蓄ができない。3人以上子どもがいる人への政策がもっとあるとよいと思う。大学まで全ての子どもを通わせるのは大変である。
- 子どもたちの教育費(基本的には大学まで)の確保と自分たちの老後費用の確保がきちんとできるか不安。
- 小中学生の教育費よりも今後の高校や大学の学費の支払いに大きな不安を抱えている。実際、私立高校へ通う兄弟がいると、やはり家族への負担は大きくなり、弟への影響は大きなもの。習わせたいこともさせてあげられず、行かせてあげたい学校も行かせてあげられない状況。
- 母子家庭で、両親がそろっている家の水準まで上げて、普通の暮らしをさせてあげたいが、国保などの税金が滞ることが悩み。

教育・学習

- 母子家庭なので習い事など時間もお金もなく通えない。無料で近くにあったらありがたい。手当は中学を卒業するまでなのでその後を考えると不安である。せめて18歳までにしてほしい。今は大学まで通うのが普通なので、大学も無料になってくれるとありがたい。
- 塾に通いたいが、仕事の帰りが遅く低学年を塾に通わせることが難しいので、公民館などでシルバー人材の方や時間のある高齢者、又は一般の方でも学習教室を開いていただけると助かる。明るいうちであれば子どもだけでも通えるので、勉強させてもらえるととてもありがたい。
- 家計が苦しいので、子どもの学習塾等の費用を「受験生チャレンジ支援貸付金」を利用したかったが、収入要件が会社員と自営業ではかなり違い、私は自営業なので利用ができなくて困っている。会社員と自営業を同等の条件にしてほしい。

子育て・子どもとの関わり

- 私の身に何かあったら（病気など）、子どもたちがまだ小学生なので心配。子どもたちが成人するまでは何としてでも働いて育てていかなくてはというプレッシャーがある。
- 仕事と家庭の両立が難しく子どもの相手ができないことが多く、さみしい思いをさせてるのではないかと。祖母と子どもの過ごす時間はあるが母親と子どもで遊ぶ時間や会話をする時間が少ない。私自身、勉強が苦手なので教えることができない。
- 父親の帰りが遅く、ワンオペ育児になりがち。反抗期の子どもたちをどうしつければよいのか？ 父親の目がないので、暴力、暴言をふるってしまいがち。

地域環境・住環境

- 子どもが遊ぶ場所が少ない。昔と違って、夏は暑すぎて外遊びは心配なのでもう少し室内で遊べる場所がほしい。
- 個人情報を守るためと連絡網がなくなって数年たつが、何かのトラブルがあつてすぐに連絡をとりたい時、相手の家も電話もわからず、泣き寝入りすることがある。共働きが多いので保護者会に来る人も少なく、連絡先がわからないのが困る。
- 図書館の規模が小さいため読みたい本がいつも置いてないし、遠くて使いづらい。
- 子どもたちが気持ちよくボール遊び(サッカー、野球)ができるように、大きな公園には、周りにネットや柵などをつけてほしい。ボール遊びが禁じられている所が多すぎてかわいそう。このままだと自然とゲーム遊びが増えてきてしまう。

学校・行政

- うちの小学校にはなぜか放課後にボランティアの方が子どもを見守ってくださる「放課後教室」のようなものがなく、不安なまま子どもに家で留守番をさせることもあり不便を感じることもある。
- 学童クラブが小学6年生まで申請できるようになっても結局入れない、また、入ることはできても同学年の子がほとんどいないのでやめてしまう場合が多い。夏休みなど限定的でもいいので高学年でも利用しやすい制度があるとよい。
- 学校の行事や参観日が多く、仕事の都合で行ってやれないことも多々あり子どもに申し訳ないと感じている。自分が子どもの頃より専業主婦は減っているはずなのに学校が母親に期待することが多い。

健康・障害

- 発達障害の子どもがいるので短期入所施設を武蔵村山市につくってほしい。総合センターにもあるが、小・中学生は利用できないので宿泊の練習もできず困っている。
- 現在、武蔵村山市には、難聴をもつ子どものための第9小学校内「きこえとことばの教室」はあるものの、中学校における「難聴」のための学級がない。「難聴」の生徒のための支援学級のある中学校をおいてほしい。

仕事・所得・経済

- パートではなく正社員で働きたいと思っているが、なかなか見つからない。
- 自分自身が不規則な生活をしている。
- 生活のためや子どもに習い事をやらせてあげるためパートで働きに出たいが、行事などで平日に学校へ行くことや、子どもの帰宅時間のことを考えると、外へ働きに出ていくことが難しい。

2 中学2年生の保護者

暮らし向き・生活困難

- 中学、高校、大学と、お金がかかるので、児童手当などは中学までではなく、高校、大学までの制度としてもよいと思う。保育園、幼稚園を無償化でなく、高校の都立、私立の無償化、または、補助金などを望む。
- 高校に行くためにお金がないので困っている。
- 収入がある程度あるとのことで、上の子の都立高校も無料にはならなかったが、家を購入してからの生活は一変し、全てがギリギリの生活になって今後の進学資金が心配。
- 中3の子どもの夏期講習代に受験生チャレンジ支援貸付の申請をしたかったが、収入が多いからと申請できなかった。収入は基準を上回っている、住宅ローンや生命保険、塾費用等で生活にゆとりは全くない。
- 夫婦共に働いているが生活にはゆとりもない。部活費、移動費など、子どもたちの今どきのつき合い方には、お金ばかりかかる。今の時代、お金がないと子どももつき合いができない。

教育・学習

- 受験生になった時に塾の費用が高くて通わせることができるか不安。都立に行けなかった際に高校に行かないという選択はないので、私立になってしまった時など考えると不安。大学にも行かせてあげたい。
- (金銭的に) 塾に行かせられないが、高校受験についての情報を集めるためには塾に行った方がよいと聞くことが多い。学校だけでも情報は十分に集められるのか心配。
- 中学生の息子が勉強についていけないと悩んでいるが塾に通わせる金銭的余裕がない。親の指導にも限界がある。学校で先生に聞いてくるように言っても嫌がる。校外で学べる所があればと考えているが方法がわからない。

子育て・子どもとの関わり

- 思春期なので、反抗期の子どもとの接し方、しかり方が悩み。同じことをくり返して、反省しているのかどうか理解ができない。その時をやり過ごせばよいという態度で、考え方を正してほしいのに伝わっていないことに腹が立つ。
- 子どもが部屋にこもりっきりで、会話が全然ない。携帯電話を使いすぎる。
- 子どもがゲームばかりして困っている。親の言うことを聞かない。姿勢が悪い。
- 中学生になるとスマートフォンを持っている子どもが多く、持っていないと友だちになれない。友だちとLINE交換をするために、スマホを買って持たせることになった。初めは様子を見てと思っていたが、部活の連絡までLINEで連絡なので、中学はスマホ必須のようなもの。ゲームができるので、子どもはオンラインゲーム三昧になってしまう。

健康・障害

- 小学1年生の子どもが、今後特別支援学級に行くようになった時の学校への送り迎えが難しい。
- インフルエンザの予防注射の補助金制度を実施してほしい。

3 小学5年生

学校・勉強・学習環境

- グラウンドを作ってほしいです。【小5男子】
- 学校にエレベーターを作ってほしい。1か月に1回学校行かなくてもいい日を作ってほしい。遊園地を近所に作ってほしい。【小5女子】
- 無料の家庭教師。【小5女子】
- 勉強を教えてくれるところがほしいです。25mの室内プールを造ってほしいです。ボール遊びができる広い公園をもっと造ってほしいです。【小5男子】
- 給食で、フルーツやお肉などをもっと出してほしい。学校の遊具をなくさないで増やしてください。【小5女子】

環境・まち・施設

- 電車がほしい！バトミントクラブがほしい！テニスのかべうちなどがほしい！犬のほごしせつがほしい！【小5女子】
- 武蔵村山市にテーマパークのような所がないので増やしてほしいです。【小5女子】
- 都民の日のような村山の日という休みを作ってほしい。大きな図書かんを1つでもいいから作ってほしい。【小5女子】
- 野球ができるように公園にネットを張ってほしい。【小5NA】
- 交通パトロールを増やしてほしい。【小5男子】

保護者・家族・家庭

- 自分の家族と、1日ずーっといられる時が、今の私には必要かなと心の中でいつも思う。【小5女子】
- 大きな家をください。【小5男子】
- お母さんがときどき休日になくなることが多いから、それを見守ってくれる人。(理由、こわいから)【小5女子】
- 親が夜、家にいないときにめんどうを見てくれる人。夏休みの宿題を見てくれる人。【小5女子】

経験・体験

- 学校の授業でボランティア活動をしたい!【小5女子】
- 外国との交流を増やしてほしい。【小5男子】

4 中学2年生

学校・勉強・学習環境

- ゆうふくではない家庭でも通える塾。【中2男子】
- もう少しゆっくり教えてほしい。すすむのが早くてよくわかりません。【中2女子】
- 自習スペースを各学校に配置してほしい。【中2女子】
- 家で勉強できないとき、無料で教えてくれる人。【中2女子】
- 市の中で行ったテストで、自分がどのくらいの位置にいるのかわかるようにしてほしい。【中2女子】
- 武蔵村山市で、一番大きく、本がたくさん置いてあり、自習もできるスペースのある図書館があるとうれしい。【中2女子】

環境・まち・施設

- 公園でゆっくり遊べる所がほしい。【中2女子】
- 学生たちが勉強をしたり話せるファミレスみたいな建物を作ってほしいです。【中2女子】
- 中学生がもっと遊べる場所を作ってください。【中2女子】
- 運動できる所を増やしてほしい。(テニスコート)【中2男子】
- 野球をできる公園がほしいです。【中2男子】
- 駅を作れば、人ももっと来やすいと思うし、文化祭などももっと盛り上がると思う。【中2女子】
- 街灯を増やしてほしい。モノレールをくるようにしてほしい。バスの時間を増やしてほしい。学校の運動会を秋にしてほしい。【中2女子】
- ネットワーク設備の整った無料で使える施設。【中2NA】

社会・世の中・大人

- 色々な国の文化をとりいれられるようにしてもらいたい。【中2男子】
- ポイ捨てをなくしてほしい。【中2男子】

市・行政

- 安全な市になってほしい。【中2女子】
- 武蔵村山市のことをもっと内外にアピールしてほしい。【中2男子】
- お年寄りの方や中年の方が楽しめる場所を少し増やしてほしい。大人と子どもと一緒に楽しめる場所を少し増やしてほしい。保育園を増やしてほしい(待機児童が多いから)。【中2女子】
- もっとボランティアの宣伝をした方がいいと思う。【中2女子】

第9部 ヒアリング調査結果

市内に事務所を有して子ども関係の事業を展開するNPO法人、5団体にヒアリングを行った。

1 調査の目的

「生活実態調査」(アンケート)は、市内の子どもとその家庭の生活実態、求められるものなどを把握することを目的として行った統計的調査である。これに対し、ヒアリング調査は、アンケートによる量的な調査だけでは把握が難しいニーズや、市の子どもをとりまく状況について、子ども関係の事業を行っている支援者の側から直接話を聞くことにより把握する、質的な調査として行ったものである。

2 対象団体

	名 称	代表者名	活動内容
1	むさしむらやま子ども劇場	佐藤哲子	他団体や行政と協働しながら、優れた舞台芸術の鑑賞や芸術文化体験活動を行う。
2	いつひよファミリー・育はぐ	齋藤志保	あらゆる子育て支援に関する事業を行うことで次世代の育成を推進し、子供と大人が心豊かに暮らせる地域を創造する。
3	子育て未来ネットこどもと	原田妙子	子ども食堂や体験学習会を開催し、子育てしやすい街づくりを目指している。
4	クローバー	岩瀬香世	障害児のため居場所を提供し、社会生活のルールやマナーを学ぶ機会を提供するほか、保護者の相談にも応じている。
5	学校サポートセンター	木村武夫	小・中・高の各段階において学習支援を行うほか、学校が実施するキャリア教育も支援する。

3 ヒアリング結果

(1) むさしむらやま子ども劇場

ヒアリング日時：1月11日（金）13：00

■ 設立の背景、活動のねらいなど

1993年、立川子ども劇場から独立し設立。子どもたちと一緒に、プロによる本物の舞台芸術を鑑賞する活動を武蔵村山市で始めた。NPO法（特定非営利活動促進法、1998年施行）と前後して、より地域に開かれた活動へと広げ、年齢、学区を越えて子どもたちが関わり合いながら遊びやワークショップを作る機会創出の活動を行ってきた。

ひきこもり、虐待、不登校、いじめなどが大きな社会問題となる中、子どもたちが心豊かに育つためには人とのつながりやコミュニケーションの場としての地域社会が大切と考え、行政、教育機関、地域の諸団体との協働で地域の子育てに関わっていく活動を拡大しようと2004年に法人格を取得。

■ 活動内容

子どもの立場、視点に立つことを重視して活動。

市や他団体のイベントへの参加（デエダラまつり、FOODグランプリ等）。放課後子ども教室へのプロのこま回し芸人の派遣（「こまのたけちゃんとおそぼう」）、これは好評で長く継続している。むさし村山ストリートダンス協会を設立し、市内のダンス関連団体と共に各種イベントへ参加、ご当地キャラ「ムラッパ」を生み、市のPRのため市外イベントへも参加。

イベントによる収益を、活動のルーツである舞台鑑賞の機会づくりに還元する。「ボランティア・市民活動センター」の指定管理者として他団体との協働も進めている。

■ 支援が必要と思われる子どもたちについて

舞台芸術鑑賞やイベント活動の現場というよりは、それを離れたところで、支援が必要ではないかと思われる事象を多く見聞きする。公園で寝ている、ネグレクトの疑いなど。以前行っていた「子どもキャンプ」の活動では、費用（2泊3日で約1万円）が払えないから参加できないという子もいた。キャンプなどでは、寝起きを共にすることで子どもたちの抱える問題が見えてくることもある。

団体の活動というより、その周辺での個人的な接点から感じられた子どもたちの抱える問題は「両親の離婚」「ひとり親家庭」「親の育児放棄」「虐待」「いじめ」「不登校」「家庭内暴力」「非行につながりかねない問題行動」など多岐にわたる。

■ 他機関との連携・連絡等

活動を通じ、JA、自治会の祭り実行委員会、他の NPO 団体など、他機関や団体との関わりは多い。

■子どもと親について思うこと

「貧困でものが食べられない」ということではなく、お金だけ渡されて手をかけてもらえないという子どもがいるように思う。親が忙しいのかもしれないが、お出かけのイベントに持参するお弁当が、コンビニのサンドイッチそのままといった例も。

たとえ買ったものでも、切って器に詰めかえて持たせるといったほんのひと手間をかけない。子育てに手をかけようとしない親が増えているようにも思える。

■今後の方向性など

舞台芸術の鑑賞という当初活動から比べ、かなりの分野的広がりが出ているので、「子ども劇場」という名称について再検討した時期もあったが、子どもたちを主人公とするあらゆるステージ（劇場）・社会をつくっていくという趣旨でこの名称で活動を続けている。子どもの「今」を見つめ、人々がふれあう生の機会をもっと作っていききたい。

行政に対しては、市民の活動についてもっと情報を把握し、理解をし、信頼してくれることを求めたい。

(2) いつひよファミリー・育はぐ（はぐはぐ）

ヒアリング日時：1月11日（金）14：30

■設立の背景、活動のねらいなど

県外から武蔵村山市に転入してきた。子どもができたが、子育て期に育児ノイローゼになり、周囲に知り合いもいなかったことから孤立状態となる辛い経験をした。自分の他にも同じような状態にある人がいるだろうと考え、保育に関わる資格を（夫婦とも）多く持っていることから、子育て中の親を応援する活動を始めた。

市子ども家庭支援センターと連携しての子育て支援活動を行っている。子育て中の保護者の交流の場づくり、様々な遊びを通じた親子同士の交流、クリスマス会などのイベント。特に親子アタッチメント形成（愛着形成）に重点を置いている。

活動開始当初の参加者は10人程度。今は毎回多くの参加者がある。参加者の増加については口コミでの広がりが感じられる。会員15人程度とボランティアの有志で活動を行っている。元参加者でリトミックのできる人が今では指導・運営側として協力してくれるなど。会員には保育士などとともに子育てに興味・関心を持っている人が多い。

■支援が必要と思われる子どもたちについて

子育てで辛い思いをしているお母さんは、集まりが終わってからもその場に残るなど、話をしたいのだなと感じることがある。子どもについては、着ているもの、髪の様子、極端に保育士に甘えて来るなどの事象から課題を感じることもある。そういった時はさりげなくこちらから言葉をかけて話を聞く。

居場所、特にお母さんの居場所が求められていると思う。さらに、単に場所だけではなく心を開いて相談できる「人」がもっと大事。つまり、「話せる人」と「話せる場所」が必要だと強く感じる。

■他機関との連携・連絡等

保護者（母親）とのやりとりの中で、具体的な支援が必要と感じられる時は子ども家庭支援センターに連絡をとり、つなげていくようにしている。

活動面では、市の委託による「児童館親子ひろば事業」の運営を通じ、児童館との関わりは深い。また、「むさしむらやま子ども劇場」には様々な場面でお世話になっている。

■子どもと親について思うこと

子どもについてもさることながら、特に母親について感じるところが多くある。お母さんたちを取り巻く状況も変わってきているのではないかと思う。忙しさから気持ちに余裕がない、スマホなどにより情報はどんどん入って来ても、気持ちの面で本当のよりどころをもてないでいるお母さんもいるように思われる。

■今後の方向性など

拠点となる（サービスを行える、またはスタッフが常駐できる）場所がほしい。赤ちゃんからお年寄りまでが「お互いさま」のお付き合いができる地域ができ、地域の人が楽しく子育てできるようになるとよいと思っている。

行政に対しては、市民の目線を大切にしてほしいと思う。子育てで孤立している母親などに、わかりやすく、まずは相談できるワンストップの窓口のようなものがあるとよいと思う。

(3) 子育て未来ネットこどもと

ヒアリング日時：1月22日（火）10：30

■ 設立の背景、活動のねらいなど

2014年に活動（みんなのおうち事業）を開始。2015年に都のNPO認証を受け法人化。「みんなのおうち」（市の子どもカフェ事業）、「わくわくタイム」（市の絵本読み聞かせ事業）、「子ども食堂」が活動の3本柱。

活動開始の拠点となった一軒家は、たまたま空き家の状態だったものを地域のつながりから借りることができ、庭や駐車場などを整備して使えるようにしたもの。

近年の「みんなのおうち」利用者は月間延べ約200名、年間で延べ約2,400名（親子）。幼稚園や保育園に行くようになった子は利用から卒業し、新しく生まれた子や下の子が来るようになる、という循環で、今後も同程度の利用者規模で続く見込み。

みんなのおうちでは、月に何回かのイベントがある。それを目指してくる親子もいるし、イベントの無い日にのんびりと過ごしていく親子もいる。イベントは3つのタイプを行っている。(1)子ども主体＝子ども自身が遊ぶもの (2)親子でいっしょに遊ぶもの (3)親（主に母親）が子育てについて学べるもの（ノロウィルス対策講座、など）。

■ 支援が必要と思われる子どもたちについて

団体の活動開始の前の個人的な経験だが、近所にいつもお腹をすかして、服もいつも同じ5歳くらいの子どもがいた。育児放棄が疑われたので児童相談所に相談した。

子ども食堂事業では、8人兄妹の長兄の子どもが来たことがある。兄妹は異父で、家庭内も不和があるよう。勉強を教えてくれる人もいない。親は仕事をしているが、さすがに子どもが多くて生活が苦しいことが想像できる。なにより子どもに手をかけていないことがうかがえた。

子ども食堂に来る親子では、経済的に逼迫しているということではなく、育児ストレスから家で食事をするとつい子どもに怒ってしまうので、みんなと一緒に食べたい、というお母さんもいた。

しかし、明らかに他者の支援が必要と思われる子どもは今のところいないため、他団体へのつなぎや通報・連絡等を行っていない。

■ 子どもと親、地域、学校について思うこと

活動以外にも含めて、食事を十分にとれていない、服装や髪が衛生的でない、教育や学習に手をかけてもらえない、といった子どもはいるように思う。そういった子どもや家庭に対しては、訪問により状況を把握すること、学校での支援、あとは収入面で親の就労支援などが必要ではないかと感じる。学校は救いになる場所。子どもが相談や話をしやすい人（先生など）が学校にいることは、子どもにとって大きな救いになるはず。

スタッフの半分は子どもと一緒に訪れて、お手伝いをしてくれながら子どもと過ごす。半分は子育てが一段落して自分の時間を使って手伝ってくれる。皆、好きでやってくれて

おり、人的な面で困ったことはない。好きでやっているというのは、ある意味「おせっかい」好きと言えるのかも知れないが、子どもに限らず他者のことを気にかける、声をかけるといのはとても大事だろう。みんなのおうちにずっと居ついている子どもが、学校には行かない子どもだとわかった時も、話をしてみるととても良い子だとわかった。

経済的な貧困というより心の面で豊かになれない、寂しい子どもや親などについては、心を開いてもらえる、うちとけてお話できるようになるということが何よりの支援につながるのではないか。

■他機関との連携・連絡等

とりたてて、他機関等との連携による活動はない。ボランティアセンター主催のNPO ネットには参加していない。

しかし、学校を含めた「地域の力」については、武蔵村山市には非常に力強いものがあるように思う。

近所の学校（大南7小）で学級園（野菜づくり）をやっている。そこでできた野菜を子ども食堂のために持ってきてくれる（学校の栄養教諭とのつながりができている）。学校でできた味噌、餅つき行事で使った「あん」や「きなこ」を分けてくれる。校長先生が野菜を届けてくれて調理を手伝ってくれることもある。

付近の農家の方々も、様々な協力をしてくれる。野菜を持ってくる、近所の人家具やおもちゃを寄付してくれるなど。子ども食堂の調理スタッフに栄養士4名がいるが、みな身近な地域の方のボランティア。仕組みや制度ということではなく、気持ちの上でのつながりを多く感じる。

行政（市役所）とのやりとりもよくある（子育て支援課ほか各部署）。おもちゃを譲りたい人がいるとわかるとこちらを紹介してくれるなど、気にかけてくれている。

市の防災担当部署から、賞味期限が近くなった備蓄のアルファ米を分けてもらったことがあり、よい機会なので試食や使い方のリハーサルを兼ねた「防災講座」を行った。市の人も来てくれた。皆とてもよい経験ができたと喜んでくれた。武蔵村山市は優秀だと思う。市の職員も身近に感じる。

■今後の方向性など

今、参加している親子は両親ともに日本人の子どもだけ。市には親が外国人という子どもも増えていると思う。感触だが、母親が外国籍のケースでは、母親同士が地域での交流やつながりを持たない状況があるのではないかと思う。そういった外国人の子ども（親）にとって、居場所がないのだとすれば、そういった場所へと活動の幅を広げてみるというのは興味があるところ。

子ども同士はきっとすぐに仲良く遊べるのではないか。むしろ親が交流できるきっかけづくりに寄与できるとよいとは思っていることがある。

（4）クローバー

■ 設立の背景、活動のねらいなど

2014年2月に設立。障害のある子どもの保護者有志により、障害のある子どもたちの居場所として放課後等デイサービスクローバーと立ち上げた。障害のある子どもの親が中心となっていることは、活動において利用者目線に立つことができることから強みだと思う。

市内に相談支援がなかったことから、相談支援事業（相談支援センター クローバー）も実施。移動支援事業（移動支援センター ふたば）、地域生活支援事業（地域活動センター のはな）も行う。子どもたちが安心して楽しく過ごせる場所、地域の皆が自由に語り合い、つながりを持てる場所をつくらうとしている。

放課後等デイサービスについて利用希望が増加の傾向にあるが、受け入れ可能な人数を超えており、待機・保留となっている。

■ 支援が必要と思われる子どもたちについて

現在の放課後等デイサービス利用者は保護者がみなしっかりしており、貧困等の生活困難を抱える家庭は見当たらない。以前、学校介助員をやっていた（理事長）ころの経験では、朝食を食べてこない子どもは多くいた。学校の先生が個人の範囲でさりげなく（ちょっとしたお菓子やおせんべいをあげるなど）助けるといった場面はあった。

過去の事例として、利用者の子どもで見るからに耳の病気と思われる子どもがいたとき、母親にそのことを伝えても病院につれていくなど動こうとしなかったことがある母親に直接ではなく、周囲（その子の習い事の先生）から話をしてもらった。症状が悪化してからの受診となってしまい、何か他により対応方法がなかったらどうかとスタッフ間で話をしたことがある。

支援が必要と思われる子どもや保護者、家庭に対しては、学校での専門家による支援や学校以外での学習機会の提供が必要と思われる。親同士が話や交流できる場所・機会の提供、また、親子参加のレクリエーションなど余暇活動。

■ 子どもと親について思うこと

支援が必要な子どもについても、放課後等デイサービスのみならず、あらゆる福祉のサービスを全て使うということでは、肝心の子どもと向き合う時間がなくなってしまうのではないか。保護者自身が子どもと向き合おうとする、子どもとの時間をつくらうとする努力をもう少し積極的にしてもよいのにと感じることはある。

昔は仕事を持っていない母親も多かったが、今は違う。仕事はしていても、あるいは仕事に出ている分、地域においては横のつながりが希薄になっているのではないか。親の考え方も変化しており、ネットでのつながりや、友人も気の合う数人でいい、というように、あまり広く他者との交流を望まない例もあるように思う。こういったことから、子どもへの支援と同時に、親への支援の重要性を感じる。

支援の必要な子どもがいた場合、その親をどうやって支えていけるのかと考える必要もあるが、それは公的支援のみでは難しいだろうと思う。地域での支え合いができるとうい。

今後の高齢化社会を考えても地域での支え合いはますます重要になると思うが、それを作り出すのはなかなか大変なことでもあろう。

■他機関との連携・連絡等

子ども家庭支援センター、教育相談と連携。ボランティアセンターが主催する NPO ネットの会合などを通じ、各 NPO 団体（今回のヒアリング対象の中では「学校サポートセンター」を除くすべて）との交流がある。子どもの貧困問題に特化しての連携は特にならない。NPO ネットでも特別にそれが取り上げられることはあまりない。

■今後の方向性など

障害児が 18 歳以上になって平日は仕事をしている場合でも、休日などに過ごせる場所、いわば大人版の放課後デイサービスのような活動ができればと思う。小・中・高と、子どもたちを見ており、その先まで見ていけるとよい。ただ、それには公的事業ばかりではなく地域の人々の力が必要と感じる。

行政に対しては、障害というものについて市民にもっと理解してもらえるような広報や啓発の充実を望みたい。また、福祉（サービス）と学校（先生）の連携が非常に重要であるにも関わらず、学校の現場の中にはまだまだ障害児福祉についての理解が足りていないと感じることもある。

「地域活動センター のはな」を、もっと地域の方に活用してもらえるとよい。「いつひよファミリー・育はぐ」さんには、活動場所として公民館がとれなかったときなどは使ってもらってよいと話している。

(5) 学校サポートセンター

ヒアリング日時：1月11日（金）16:00

■ 設立の背景、活動のねらいなど

全国の学校から要請を受け、キャリア教育旅行企画・運営活動（小・中・高校）や総合的な学習サポート活動を行う団体である。NPO 法人の登録地は武蔵村山市であるが、武蔵村山市の子どもや学校を対象とするものではない。

キャリア教育における子どもたちの企業訪問などを行いたいと思っても、地方の学校ではそもそも企業が少ない、事業分野も偏っており、BtoB の現場を見る機会などはほとんど得られない。そういった学校への支援を行っている。仕事の現場を見たい子どもたち（そういう機会を作りたい学校）と、見学を受け入れてくれる企業との橋渡し役である。

企業訪問のプログラムは、あくまで学校側からの要請によって開始する。子どもとの接点は限られた現場にとどまり、保護者との接点は基本的にない。

■ 子どもと親について思うこと

企業訪問に随行することもあり、移動中などに子どもと世間話をするような機会はある。その中で貧困とは限らないが困難な家庭環境を窺わせる子どもがいると感じることはある。

武蔵村山市ということではなく、最近の子ども全般について、親の就労の状況や仕事観のようなものが子どもに与えている影響の大きさを感じざるを得ない。

将来の自分の仕事について親と話をすることがない、親もその話を特にしないというような環境。親を見て感じることや、自分の成績などから、将来の自分や仕事をうすうす決めてしまっている。仕事に対する期待や夢など持っていない、といった子どももいるように思う。

私見だが、昔は、仕事について「面白い仕事」「やりがいのある仕事」といった価値観を持っていた子どもも多かったが、今、会話の中では仕事選びについて「待遇」「お金」といった言葉が出てくることが多いように感じる。

団体としては、子どもたちが将来への安心感や展望を持てるような支援をできるとよいと思って活動している。正直、学校や行政にはこういった支援は難しいことだろうと思う。

武蔵村山市 生活実態調査 報告書

発行年月：平成 31 年 3 月

発行：武蔵村山市 健康福祉部 地域福祉課
〒208-8501
東京都武蔵村山市本町一丁目 1 番地の 1

電話：042-565-1111 内線 155・156